



IBM Systems - iSeries

i5/OS コマンド

RMVDEVDMNE (装置ドメイン項目除去) での開始～

バージョン 5 リリース 4





IBM Systems - iSeries

i5/OS コマンド

RMVDEVDMNE (装置ドメイン項目除去) での開始～

バージョン 5 リリース 4

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、423 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、i5/OS (プロダクト番号 5722-SS1) のバージョン 5、リリース 4、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： IBM Systems - iSeries
i5/OS Commands
Starting with RMVDEVDMNE (Remove Device Domain Entry)
Version 5 Release 4

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2006.2

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2006. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2006

目次

装置ドメイン項目の除去 (RMVDEVDMNE) 1

パラメーター	1
クラスター (CLUSTER)	1
装置ドメイン (DEVDMN)	2
ノードID (NODE)	2
例	2
エラー・メッセージ	2

ディレクトリーの除去 (RMVDIR) 3

パラメーター	4
ディレクトリー (DIR)	4
リンクの除去 (RMVLNK)	4
例	5
エラー・メッセージ	5

ディレクトリー項目除去 (RMVDIRE) 7

パラメーター	7
ユーザー識別コード (USRID)	7
ユーザー記述 (USRD)	8
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	8
例	9
エラー・メッセージ	9

ディレクトリー・シャドー・システムの除去 (RMVDIRSHD) 11

パラメーター	11
システム名 (SYSNAME)	11
データの除去 (RMVDTA)	11
例	12
エラー・メッセージ	12

DLO権限の除去 (RMVDLOAUT) 13

パラメーター	13
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	13
フォルダー (FLR)	14
ユーザー・プロファイル (USER)	14
権限リスト (AUTL)	14
文書アクセス・コード (ACC)	14
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	15
例	15
エラー・メッセージ	15

配布リスト項目除去 (RMVDSTLE) 17

パラメーター	17
リスト識別コード (LSTID)	17
ユーザー識別コード (USRID)	18
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	18
例	19
エラー・メッセージ	19

配布待ち行列の除去 (RMVDSTQ) 21

パラメーター	21
配布待ち行列 (DSTQ)	22
例	22
エラー・メッセージ	22

配布経路の除去 (RMVDSTRTE) 25

パラメーター	25
システム名 (SYSNAME)	25
例	26
エラー・メッセージ	26

2次システム名の除去 (RMVDSTSYSN) 27

パラメーター	27
2次システム名 (SYSNAME)	27
例	27
エラー・メッセージ	28

構成項目除去 (RMVEMLCFGE) 29

パラメーター	29
構成項目 (EMLCFGE)	29
例	29
エラー・メッセージ	29

環境変数の除去 (RMVENVVAR) 31

パラメーター	31
環境変数 (ENVVAR)	31
レベル (LEVEL)	31
例	32
エラー・メッセージ	32

EWCバーコード項目の除去 (RMVEWCBCDE) 33

パラメーター	33
バーコード・グループ (BCDGRP)	33
初期設定ソース・メンバー (INZMBR)	33
初期設定ソース・ファイル (INZFILE)	33
例	34
エラー・メッセージ	34

EWC PTC項目の除去 (RMVEWCPTCE) 35

パラメーター	35
PTCグループ (PTCGRP)	35
初期設定ソース・メンバー (INZMBR)	35
初期設定ソース・ファイル (INZFILE)	35
例	36
エラー・メッセージ	36

出口プログラムの除去 (RMVEXITPGM) 37

パラメーター	37
--------	----

出口点 (EXITPNT)	37
出口点形式 (FORMAT)	37
プログラム番号 (PGMNBR)	37
例	38
エラー・メッセージ	38

フォント・テーブル項目の除去 (RMVFNTTBLE) 39

パラメーター	40
フォント・テーブル (FNTTBL)	40
印刷装置からホスト・フォントへ (PHFCS)	41
印刷装置からホスト・コード・ページ (PHCP)	43
ホストから印刷装置フォントへ (HPFCS)	43
ホストから印刷装置コード・ページ (HPCP)	44
印刷装置相互間フォント (PPFCS)	44
例	45
エラー・メッセージ	45

フィルター処置項目の除去 (RMVFTRACNE) 47

パラメーター	47
フィルター (FILTER)	47
グループ (GROUP)	47
例	48
エラー・メッセージ	48

フィルター選択項目の除去 (RMVFTRSLTE) 49

パラメーター	49
フィルター (FILTER)	49
順序番号 (SEQNBR)	49
例	50
エラー・メッセージ	50

ICF装置項目除去 (RMVICFDEVE) 51

パラメーター	51
ICF通信ファイル (FILE)	51
プログラム装置 (PGMDEV)	52
例	52
エラー・メッセージ	52

イメージ・カタログ項目の除去 (RMVIMGCLGE) 53

パラメーター	53
イメージ・カタログ (IMGCLG)	53
イメージ・カタログ索引 (IMGCLGIDX)	54
イメージ・カタログ・ボリューム (VOL)	54
イメージ・ファイルの保持 (KEEP)	54
例	54
エラー・メッセージ	55

IP OVER SNA インターフェースの除去 (RMVIPSIFC) 57

パラメーター	57
IPアドレス (INTNETADR)	57

例	58
エラー・メッセージ	58

IP OVER SNA ロケーションの除去 (RMVIPSLOC) 59

パラメーター	59
リモート宛先 (RMTDEST)	59
サブネット・マスク (SUBNETMASK)	59
例	60
エラー・メッセージ	60

IP OVER SNA経路の除去 (RMVIPS RTE) 61

パラメーター	61
経路宛先 (RTEDEST)	61
サブネット・マスク (SUBNETMASK)	61
ネクスト・ホップ (NEXTHOP)	62
例	62
エラー・メッセージ	62

ジョブ待ち行列項目除去 (RMVJOBQE) 63

パラメーター	63
サブシステム記述 (SBSD)	63
ジョブ待行列 (JOBQ)	64
例	64
エラー・メッセージ	64

ジョブ・スケジュール項目除去 (RMVJOBSCDE) 67

パラメーター	67
ジョブ名 (JOB)	67
項目番号 (ENTRYNBR)	68
例	68
エラー・メッセージ	68

ジャーナル処理済み変更除去 (RMVJRNCHG) 71

パラメーター	72
ジャーナル (JRN)	74
ジャーナル・ファイル識別 (FILE)	74
オブジェクト (OBJ)	75
ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)	76
大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)	77
大きい終了順序番号 (TOENTLRG)	78
完全に修飾されたジョブ名 (TOJOB)	79
コミットメント境界 (CMTBDY)	79
オプション (オプション)	80
オブジェクト・エラー・オプション (OBJERROPT)	80
出力 (OUTPUT)	81
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	81
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	81
出力情報のタイプ (DETAIL)	82
開始順序番号 (FROMENT)	82
終了順序番号 (TOENT)	83
例	84
エラー・メッセージ	84

LANアダプター情報の除去 (RMVLANADPI)	89
パラメーター	89
アダプター (ADPTNAME)	89
アダプターアドレス (ADPTADR)	89
例	89
エラー・メッセージ	90
LANアダプターの除去 (RMVLANADPT)	91
パラメーター	91
回線記述 (LINE)	91
アダプター (ADPTNAME)	91
アダプターアドレス (ADPTADR)	92
例	92
エラー・メッセージ	92
ライブラリー・リスト項目除去 (RMVLIBLE)	95
パラメーター	95
ライブラリー (LIB)	95
例	95
エラー・メッセージ	95
ライセンス・キー情報の除去 (RMVLICKEY)	97
パラメーター	97
ライセンス・キー入力 (LICKEYINP)	97
プロダクト識別コード (PRDID)	98
ライセンス条件 (LICTRM)	98
機能 (FEATURE)	98
システム製造番号 (SERIAL)	98
ライセンス・キー・ファイル (LICKEYFILE)	99
ライセンス・キー・メンバー (LICKEYMBR)	100
例	100
エラー・メッセージ	100
リンクの除去 (RMVLNK)	101
パラメーター	102
オブジェクト・リンク (OBLNK)	102
例	103
エラー・メッセージ	103
メンバー除去 (RMVM)	105
パラメーター	105
データベース・ファイル (FILE)	105
メンバー (MBR)	106
例	106
エラー・メッセージ	106
マウントFSの除去 (RMVMFS)	109
パラメーター	109
ファイル・システムのタイプ (TYPE)	109
マウントされたディレクトリー (MNTOVRDIR)	110
マウント・ファイル・システム (MFS)	110
例	110

エラー・メッセージ	111
メッセージ除去 (RMVMSG)	113
パラメーター	113
呼出スタック項目メッセージ待行列 (PGMQ)	114
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	116
メッセージ・キー (MSGKEY)	116
消去 (CLEAR)	116
未処理例外の除去 (RMVEXCP)	117
省略時応答の拒否 (RJTDFTRPY)	117
例	117
エラー・メッセージ	118
メッセージ記述除去 (RMVMSGD)	121
パラメーター	121
メッセージ識別コード (MSGID)	121
メッセージ・ファイル (MSGF)	121
例	122
エラー・メッセージ	122
通称の除去 (RMVNCK)	123
パラメーター	123
通称 (NCK)	123
例	124
エラー・メッセージ	124
ネットワーク・ジョブ項目除去 (RMVNETJOBE)	125
パラメーター	125
ユーザー識別コード (FROMUSRID)	126
例	126
エラー・メッセージ	126
ネットワーク・テーブル項目の除去 (RMVNETTBLE)	127
パラメーター	127
ネットワーク (NETWORK)	127
IPアドレス (INTNETADR)	127
例	127
エラー・メッセージ	128
ノード・リスト項目の除去 (RMVNODLE)	129
パラメーター	129
ノード・リスト (NODL)	129
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	130
SNAノード名 (CPNAME)	130
例	131
エラー・メッセージ	131
NETWARE認証項目の除去 (RMVNTWAUTE)	133
パラメーター	133
サーバー・タイプ (SVRTYPE)	133
NDSツリー (NDSTREE)	133

サーバー (SERVER)	134
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	134
例	134
エラー・メッセージ	135

サーバー記憶域リンクの除去 (RMVNWSSTGL) 137

パラメーター	137
ネットワーク・サーバー記憶スペース (NWSSTG)	137
ネットワーク・サーバー 記述 (NWS)	137
リンクの番号付け直し (RENUMBER)	138
例	138
エラー・メッセージ	138

光ディスク・カートリッジ除去 (RMVOPTCTG) 139

パラメーター	139
ボリューム識別コード (VOL)	139
ボリューム記述オプション (VOLOPT)	140
媒体の位置 (MEDLOC)	140
除去されたカートリッジの位置 (RMVCTGLOC)	141
光媒体ライブラリー (MLB)	141
光ディスク装置 (DEV)	141
例	141
エラー・メッセージ	142

光ディスク・サーバー除去 (RMVOPTSVR) 145

パラメーター	145
サイド情報 (CSI)	145
ボリューム記述オプション (VOLOPT)	145
例	146
エラー・メッセージ	146

プロトコル・テーブル項目除去 (RMVPCLTBLE) 147

パラメーター	147
プロトコル (PROTOCOL)	147
例	147
エラー・メッセージ	147

PEX定義の除去 (RMVPEXDFN) 149

パラメーター	149
定義 (DFN)	149
例	150
エラー・メッセージ	150

PEXフィルター除去 (RMVPEXFTR) 151

パラメーター	151
フィルター (FTR)	151
例	152
エラー・メッセージ	152

PF制約の除去 (RMVPFCST) 153

パラメーター	153
------------------	-----

ファイル (FILE)	153
制約名 (CST)	154
制約タイプ (TYPE)	154
制約の除去 (RMVCST)	155
例	156
エラー・メッセージ	156

物理ファイル・トリガーの除去 (RMVPFTRG) 157

パラメーター	157
物理ファイル (FILE)	158
トリガー時間 (TRGTIME)	158
トリガー・イベント (TRGEVENT)	158
トリガー (TRG)	159
トリガー・ライブラリー (TRGLIB)	159
例	159
エラー・メッセージ	160

プログラム除去 (RMVPGM) 161

パラメーター	161
プログラム (PGM)	161
例	162
エラー・メッセージ	162

事前開始ジョブ項目の除去 (RMVPJE) 163

パラメーター	163
サブシステム記述 (SBSD)	163
プログラム (PGM)	164
例	164
エラー・メッセージ	164

プログラム一時修正除去 (RMVPTF) 167

パラメーター	167
プロダクト (LICPGM)	167
リリース (RLS)	168
選択するPTF番号 (SELECT)	168
除外するPTF番号 (OMIT)	168
エクステンション変更 (RMV)	169
遅延PTF (DELAYED)	169
不在時IPLの除去 (IPLRMV)	169
関連PTFの除去 (RMVDEP)	170
例	170
エラー・メッセージ	170

RDBディレクトリー項目の除去 (RMVRDBDIRE) 173

パラメーター	173
項目 (RDB)	173
例	174
エラー・メッセージ	174

REXXバッファの除去 (RMVREXBUF) 175

パラメーター	175
バッファ (BUFFER)	175
例	175
エラー・メッセージ	176

リモート定義の除去 (RMVRMTDFN)	177
パラメーター	177
システム名 (SYSTEM)	177
例	178
エラー・メッセージ	178
リモート・ジャーナルの除去 (RMVRMTJRN)	179
パラメーター	179
リレーショナル・データベース (RDB)	180
ソース・ジャーナル (SRCJRN)	180
ターゲット・ジャーナル (TGTJRN)	181
例	181
エラー・メッセージ	181
システム応答リスト項目除去 (RMVRPYLE)	183
パラメーター	183
順序番号 (SEQNBR)	183
例	184
エラー・メッセージ	184
経路指定項目除去 (RMVRTGE)	185
パラメーター	185
サブシステム記述 (SBSD)	185
経路指定項目の順序番号 (SEQNBR)	186
例	186
エラー・メッセージ	186
検索見出し項目の除去 (RMV SCHIDX)	187
パラメーター	187
検索見出し (SCHIDX)	187
パネル・グループ (PNLGRP)	188
例	188
エラー・メッセージ	188
制御の範囲項目の除去 (RMVSOCE)	189
パラメーター	189
項目 (ENTRY)	189
例	189
エラー・メッセージ	190
サービス・テーブル項目の除去 (RMVSRVTBLE)	191
パラメーター	191
サービス (SERVICE)	191
ポート (PORT)	191
プロトコル (PROTOCOL)	191
例	192
エラー・メッセージ	192
サーバー権限項目の除去 (RMVSVRAUTE)	193
パラメーター	193
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	193

サーバー (SERVER)	193
例	194
エラー・メッセージ	194

テープ・カートリッジの除去 (RMVTAPCTG)	195
パラメーター	195
ライブラリー装置 (DEV)	195
カートリッジID (CTG)	195
カテゴリ (CGY)	196
端末 (STATION)	197
例	197
エラー・メッセージ	198

TCP/IP ホスト・テーブル項目の除去 (RMVTCPHTE)	199
パラメーター	199
IPアドレス (INTNETADR)	199
例	200
エラー・メッセージ	200

TCP/IPインターフェースの除去 (RMVTCPIFC)	201
パラメーター	201
IPアドレス (INTNETADR)	201
別名 (ALIASNAME)	202
例	202
エラー・メッセージ	202

TCP/IPポート制約事項の除去 (RMVTCPPORT)	203
パラメーター	203
ポートの値の範囲 (PORT)	203
プロトコル (PROTOCOL)	204
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	204
例	204
エラー・メッセージ	205

POINT-TO-POINT プロファイルの除去 (RMVTCPPPTP)	207
パラメーター	207
プロファイルの構成 (CFGPRF)	207
通信構成の削除 (DLTCMNCFG)	207
例	208
エラー・メッセージ	208

TCP/IP リモート・システムの除去 (RMVTCPRSI)	209
パラメーター	209
IPアドレス (INTNETADR)	209
例	209
エラー・メッセージ	210

TCP/IP経路の除去 (RMVTCPRTE)	211
パラメーター	211

経路宛先 (RTEDEST)	212
サブネット・マスク (SUBNETMASK)	212
TYPE OF SERVICE (TOS)	213
ネクスト・ホップ (NEXTHOP)	213
優先バインド・インターフェース (BINDIFC)	214
例	214
エラー・メッセージ	215

TCP/IPサーバーの除去 (RMVTCPSVR)	217
パラメーター	217
サーバー特殊値 (SVRSPCVL)	217
例	217
エラー・メッセージ	217

TCP/IPテーブルの除去 (RMVTCPTBL)	219
パラメーター	219
テーブルヘルプ	219
例	219
エラー・メッセージ	220

トレース除去 (RMVTRC)	221
パラメーター	221
除去するトレース・ステートメント (STMT)	222
プログラム (PGM)	222
例	222
エラー・メッセージ	223

トレース・フィルターの除去 (RMVTRCFTR)	225
パラメーター	225
フィルター (FTR)	225
例	226
エラー・メッセージ	226

ワークステーション項目除去 (RMVWSE)	227
パラメーター	227
サブシステム記述 (SBSD)	227
ワークステーション名の処理 (WRKSTN)	228
ワークステーション・タイプ (WRKSTNTYPE)	228
例	229
エラー・メッセージ	229

オブジェクト名変更 (RNM)	231
パラメーター	232
オブジェクト (OBJ)	232
新しいオブジェクト (NEWOBJ)	232
例	232
エラー・メッセージ	232

ディレクトリー項目の名前変更 (RNMDIRE)	235
パラメーター	235
旧ユーザー識別コード (OLDUSRID)	236
新ユーザー識別コード (NEWUSRID)	236

転送元ユーザー識別コード (FWDFRM)	237
ネットワーク・ユーザー識別コードの変更 (NETUSRID)	237
例	238
エラー・メッセージ	238

文書ライブラリー・オブジェクト名変更 (RNMDLO)	239
パラメーター	239
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	239
新しい文書ライブラリー・オブジェクト (NEWDLO)	239
フォルダー中 (FLR)	240
例	240
エラー・メッセージ	240

配布リストの名前変更 (RNMDSTL)	241
パラメーター	241
リスト識別コード (LSTID)	241
新しいリスト識別コード (NEWLSTID)	242
例	242
エラー・メッセージ	242

LANアダプターの名前変更 (RNMLANADPI)	245
パラメーター	245
アダプター (ADPTNAME)	245
新しい名前 (NEWNAME)	245
例	245
エラー・メッセージ	246

メンバー名変更 (RNMM)	247
パラメーター	247
データベース・ファイル (FILE)	247
メンバー (MBR)	248
新しいメンバー (NEWMBR)	248
例	248
エラー・メッセージ	248

通称の名前変更 (RNMNCK)	249
パラメーター	249
通称 (NCK)	249
新しい通称 (NEWNCK)	250
例	250
エラー・メッセージ	250

オブジェクト名変更 (RNMOBJ)	251
パラメーター	253
オブジェクト (OBJ)	253
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	254
新しいオブジェクト (NEWOBJ)	254
ASP装置 (ASPDEV)	254
システム (SYSTEM)	255
例	255
エラー・メッセージ	256

TCP/IP ホスト・テーブル項目名の変更 (RNMTCPHTE)	261
パラメーター	261
IPアドレス (INTNETADR)	262
新IPアドレス (NEWINTNETA)	262
例	262
エラー・メッセージ	262
ロールバック (ROLLBACK)	265
パラメーター	265
例	265
エラー・メッセージ	266
RPC BIND プログラム・デーモンの開始 (RPCBIND)	267
パラメーター	267
RPC登録の検索 (RTVRPCREG)	267
例	268
エラー・メッセージ	268
RPCソースの変換 (RPCGEN)	269
パラメーター	269
FROMファイル (FROMFILE)	269
オプション (OPTION)	270
プロトコル (PROTOCOL)	270
TOファイル (TOFILE)	271
例	271
エラー・メッセージ	272
文書置き換え (RPLDOC)	273
パラメーター	273
文書 (TODOC)	274
フォルダー中 (TOFLR)	274
文書ファイル (DOCFILE)	274
文書メンバー (DOCMBR)	275
文書パート (DOCPART)	275
ユーザー識別コード (USRID)	275
文書識別コード (DOCID)	276
文書タイプ (DOCTYPE)	276
文書文字識別コード (DOCCHRID)	277
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	277
例	278
エラー・メッセージ	278
オーダー援助の要求 (RQSORDAST)	279
パラメーター	279
例	279
エラー・メッセージ	280
ジョブ経路再指定 (RRTJOB)	281
パラメーター	281
経路指定データ (RTGDTA)	281
要求データまたはコマンド (RQSDTA)	282
例	282
エラー・メッセージ	282

停止点再開始 (RSMBKP)	283
パラメーター	283
例	283
エラー・メッセージ	283
制御装置回復手順再開 (RSMCTLCY)	285
パラメーター	285
制御装置 (CTL)	285
例	286
エラー・メッセージ	286
入出力装置回復再開 (RSMDEVRCY)	287
パラメーター	287
装置 (DEV)	287
例	288
エラー・メッセージ	288
回線回復再開 (RSMLINRCY)	289
パラメーター	289
行 (LINE)	289
例	289
エラー・メッセージ	290
NWI回復処置の再開 (RSMNWIRCY)	291
パラメーター	291
ネットワーク・インターフェース記述 (NWI)	291
例	291
エラー・メッセージ	292
オブジェクトの復元 (RST)	293
パラメーター	293
装置 (DEV)	294
オブジェクト (OBJ)	295
名前パターン (PATTERN)	296
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	296
出力 (OUTPUT)	297
親ディレクトリーの作成 (CRTPRNDIR)	297
親ディレクトリーの所有者 (PRNDIROWN)	298
ボリューム識別コード (VOL)	298
ラベル (LABEL)	298
順序番号 (SEQNBR)	299
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	299
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	299
出力情報のタイプ (INFTYPE)	300
システム (SYSTEM)	300
保管日 (SAVDATE)	300
保管時刻 (SAVTIME)	301
オプション (OPTION)	301
オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)	301
強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)	303
オブジェクトID (OBJID)	304
例	304
エラー・メッセージ	305
権限復元 (RSTAUT)	309
パラメーター	310

ユーザー・プロファイル (USRPRF)	310
保管元ASP装置 (SAVASPDEV)	311
復元先ASP装置 (RSTASPDEV).	311
例	311
エラー・メッセージ	312

構成の復元 (RSTCFG) 315

パラメーター	315
オブジェクト (OBJ)	316
装置 (DEV)	317
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	318
ボリューム識別コード (VOL)	319
順序番号 (SEQNBR)	319
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	319
保管ファイル (SAVF).	320
システム資源管理 (SRM)	320
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	321
オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)	321
出力 (OUTPUT)	322
出力を受け取るファイル (OUTFILE).	323
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	323
除外するオブジェクト (OMITOBJ)	324
例	324
エラー・メッセージ	325

文書ライブラリー・オブジェクト復元 (RSTDLO) 327

パラメーター	328
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	329
保管されたフォルダー (SAVFLR).	330
新しいオブジェクト名 (RENAME)	330
フォルダーへの復元 (RSTFLR)	330
装置 (DEV)	331
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	331
ボリューム識別コード (VOL)	332
順序番号 (SEQNBR)	332
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	333
ラベル (LABEL)	333
保管ファイル (SAVF).	333
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	334
オブジェクト名生成 (NEWOBJ)	334
保管日 (SAVDATE)	334
保管時刻 (SAVTIME).	335
オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)	335
保管元ASP番号 (SAVASP)	336
復元先ASP番号 (RSTASP)	336
出力 (OUTPUT)	336
出力を受け取るファイル (OUTFILE).	337
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	337
例	338
エラー・メッセージ	339

ライブラリー復元 (RSTLIB) 343

パラメーター	344
保管されたライブラリー (SAVLIB)	346
装置 (DEV)	347

ボリューム識別コード (VOL)	348
順序番号 (SEQNBR)	349
ラベル (LABEL)	349
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	349
開始ライブラリー (STRLIB)	350
保管ファイル (SAVF).	351
媒体定義 (MEDDFN)	351
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	351
除外するライブラリー (OMITLIB)	352
オプション (OPTION)	352
データベース・メンバー・オプション (MBROPT)	353
スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)	353
保管日 (SAVDATE)	354
保管時刻 (SAVTIME).	354
オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)	354
強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)	356
復元先ライブラリー (RSTLIB).	357
復元先ASP装置 (RSTASPDEV).	357
復元先ASP番号 (RSTASP)	358
出力 (OUTPUT)	358
出力を受け取るファイル (OUTFILE).	359
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	359
出力情報のタイプ (INFTYPE)	360
除外するオブジェクト (OMITOBJ)	360
例	361
エラー・メッセージ	363

ライセンス・プログラム復元 (RSTLICPGM) 367

パラメーター	367
プロダクト (LICPGM)	368
装置 (DEV)	369
復元される任意選択部分 (OPTION)	369
復元するオブジェクトのタイプ(RSTOBJ)	369
ライセンス・プログラムの言語 (LNG)	370
出力 (OUTPUT)	371
リリース (RLS).	371
リリースの置き換え (REPLACERLS)	371
ボリューム識別コード (VOL)	372
順序番号 (SEQNBR)	372
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	373
保管ファイル (SAVF).	373
ライブラリー (LIB)	373
言語ライブラリー (LNGLIB)	374
フォルダー (FLR)	374
コード・ホーム・ディレクトリー (CODHOMEDIR)	374
言語ホーム・ディレクトリー (LNGHOMEDIR)	375
強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)	375
例	376
エラー・メッセージ	377

オブジェクト復元 (RSTOBJ) 379

パラメーター	381
オブジェクト (OBJ)	382
保管されたライブラリー (SAVLIB)	383
装置 (DEV)	384

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	384
ボリューム識別コード (VOL)	385
順序番号 (SEQNBR)	386
ラベル (LABEL)	386
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	387
保管ファイル (SAVF)	387
オプション (OPTION)	388
ファイル・メンバー (FILEMBR)	388
データベース・メンバー・オプション (MBROPT)	389
スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)	389
保管日 (SAVDATE)	390
保管時刻 (SAVTIME)	390
オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)	390
強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)	392
復元先ライブラリー (RSTLIB)	393
出力 (OUTPUT)	393
媒体定義 (MEDDFN)	394
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	394
復元先ASP装置 (RSTASPDEV)	395
復元先ASP番号 (RSTASP)	395
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	395
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	396
出力情報のタイプ (INFTYPE)	396
除外するライブラリー (OMITLIB)	397
除外するオブジェクト (OMITOBJ)	397
例	398
エラー・メッセージ	399
S/36ファイル復元 (RSTS36F)	403
パラメーター	405
TOファイル (TOFILE)	405
TOライブラリー (TOLIB)	406
装置 (DEV)	406
セット識別コード (SET)	406
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)	406

ファイル・ラベル (FROMLABEL)	407
作成日 (CRTDATE)	407
順序番号 (SEQNBR)	407
ボリューム識別コード (VOL)	408
テープ終了オプション (ENDOPT)	408
物理ファイル (PHYFILE)	408
データベース・メンバー・オプション (MBROPT)	409
日付区分ファイル (DATDIFF)	409
例	410
エラー・メッセージ	410

S/36 ライブラリー・メンバー復元 (RSTS36LIBM) 413

パラメーター	414
TOメンバー (TOMBR)	415
TOライブラリー (TOLIB)	415
装置 (DEV)	415
S/36ソース・メンバー (SRCMBRS)	416
データベース・メンバー・オプション (MBROPT)	416
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)	416
ファイル・ラベル (FROMLABEL)	417
作成日 (CRTDATE)	417
順序番号 (SEQNBR)	417
ボリューム識別コード (VOL)	417
テープ終了オプション (ENDOPT)	418
物理ファイル (PHYFILE)	418
S/36オブジェクト・メンバー (OBJMBRS)	418
例	419
エラー・メッセージ	419

付録. 特記事項 423

商標	424
使用条件	425

装置ドメイン項目の除去 (RMVDEVDMNE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置ドメイン項目除去(RMVDEVDMNE)コマンドは、クラスター・ノードを装置ドメインから除去するために使用されます。除去されたノードは装置クラスター資源グループの回復ドメイン内にもう存在していることはできません。

装置ドメインから除去されてしまったノードは、任意の装置ドメインに追加する前に、大部分はIPLする必要があります。この状態の一例は、補助記憶域プールの装置記述が最後のIPL以後にオンに変更された場合です。

このコマンドは、状況が「活動状態」になっているクラスター内の任意のノードで呼び出すことができます。

制約事項:

1. このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
2. このコマンドは、クラスター資源グループの出口プログラムから呼び出すことはできません。
3. 除去するノードは、どの装置クラスター資源グループの回復ドメインにも存在していることはできません。
4. 除去されるノードと、装置ドメインの少なくとも1つの他のメンバーが「活動状態」になっていなければなりません。ある条件では、装置ドメインの全現行メンバーが「活動状態」になっていなければなりません。
5. ノードの除去元の装置ドメインの任意のメンバーが状況「区画」になっていると、このコマンドは失敗します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLUSTER	クラスター	名前	必須, 定位置 1
DEVDMN	装置ドメイン	名前	必須, 定位置 2
NODE	ノードID	名前	必須, 定位置 3

トップ

クラスター (CLUSTER)

ノードが入っているクラスターを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 ノードが含まれているクラスターの名前を指定してください。

[トップ](#)

装置ドメイン (DEVDMN)

ノードの除去元の装置ドメインを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 ノードの除去元の装置ドメインの名前を指定してください。

[トップ](#)

ノードID (NODE)

装置ドメインから除去されるクラスター・ノードを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 ノードの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
RMVDEVDMNE CLUSTER(MYCLUSTER) DEVDMN(MYDOMAIN) NODE(NODE01)
```

このコマンドは、クラスターMYCLUSTERの装置ドメインMYDOMAINからノードNODE01を除去します。クラスター・メンバーシップ・リストがNODE01, NODE02,およびNODE03であり、3つのすべてのノードが同じ装置ドメイン中にあった場合は、ノードNODE02およびNODE03はまだ装置ドメインMYDOMAINに属しています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF1999

コマンドでエラーが起こった。

[トップ](#)

ディレクトリーの除去 (RMVDIR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリーの除去 (RMVDIR) コマンドは、ディレクトリー内のすべてのオブジェクトがリンク解除され、ディレクトリーが以後使用されないときに、指定されたディレクトリーを除去します。除去するディレクトリーにオブジェクトが入っている場合には、このコマンドは任意指定ですべてのオブジェクトをリンク解除してからディレクトリーを削除します。ディレクトリーのすべてのオブジェクトをリンク解除する権限がユーザーにない場合には、そのユーザーが権限をもっているオブジェクトだけをリンク解除します。オブジェクトをリンク解除できない場合には、リンク解除できないディレクトリーおよびディレクトリー内のすべてのオブジェクトは除去されません。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- RD
- RMDIR

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. "ルート" (/), QOPENSYS, およびユーザー定義ファイル・システムでは、指定されたディレクトリーに対するオブジェクト存在 (*OBJEXIST) 権限とその中のすべてのオブジェクトに対する *OBJEXIST 権限が必要です。ディレクトリー内の1つ以上のオブジェクトに対する *OBJEXIST 権限がない場合には、それらのオブジェクトはリンク解除されずディレクトリーは除去されません。
2. "ルート" (/), QOPENSYS, およびユーザー定義ファイル・システムでは、親ディレクトリーに対する書き込み、実行 (*WX) 権限が必要です。
3. QDLS ファイル・システムでは、ディレクトリーに対する全 (*ALL) 権限とその親ディレクトリーに対する実行 (*X) 権限が必要です。
4. 接頭部ディレクトリーに対する実行 (*X) 権限が必要です。
5. その他のファイル・システムの権限要件については、ISERIES 機密保護解説書 (SD88-5027) を参照してください。
6. 次の1つ以上が真でない場合には、「制限された名前変更およびリンク解除」属性（この属性は S_ISVTX モード・ビットと同じ）がオンに設定されている "ルート" (/), QOPENSYS, またはユーザー定義ファイル・システム内のディレクトリーを除去することはできません。
 - a. ユーザーが、除去するディレクトリーの所有者である。
 - b. ユーザーが、除去するディレクトリーの親ディレクトリーの所有者である。
 - c. ユーザーが全オブジェクト (*ALLOBJ) 特殊権限を持っている。
7. ディレクトリーがジョブの現行ディレクトリーである場合には、それを除去することはできません。
8. このコマンドを使用して、予約されているディレクトリーおよびライブラリーを削除することはできません。

9. オブジェクトがQSYS.LIB,独立ASP QSYS.LIB,またはQDLS内で使用中の場合には、そのオブジェクトをリンク解除することはできません。オブジェクトがQOPENSYSまたは"ルート" (/)ファイル・システム内で使用中の場合には、オブジェクトは正常にリンク解除されて、オブジェクトが使用されなくなったときに削除されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DIR	ディレクトリー	パス名	必須, 定位置 1
RMVLNK	リンクの除去	*NO, *YES	オプション

トップ

ディレクトリー (DIR)

ディレクトリーのパス名、あるいは除去するディレクトリーの1つまたは複数のパス名を突き合わせるパターンを指定します。

オブジェクト・パス名は、単純名、またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

トップ

リンクの除去 (RMVLNK)

ディレクトリー内のすべてのオブジェクトをリンク解除するか、あるいはディレクトリーにオブジェクトが含まれていた場合にそのディレクトリーを削除できないようにするかを指定します。

***NO** 空のディレクトリーだけが除去されます。ディレクトリーには、ディレクトリー(.)および親ディレクトリー(..)の項目が含まれていることがありますが、それでも空のディレクトリーとして扱われます。

***YES** 指定されたディレクトリー内のすべてのオブジェクトが削除されます。ディレクトリーが入っているファイル・システムがディレクトリー内のリンクの除去をサポートしていない場合には、エラー・メッセージCPFA0AC "要求を完了することができない。ディレクトリーにオブジェクトが入っています。"が送られます。

トップ

例

例1: ディレクトリーとそのディレクトリー内のオブジェクトの除去

```
RMVDIR DIR('W') RMVLNK(*YES)
```

このコマンドは、そのすべてのオブジェクトがリンク解除された後でディレクトリーWを除去します。ディレクトリーWにオブジェクトが入っていて、それらのすべてのオブジェクトをリンク解除する権限がある場合には、すべてのオブジェクトがリンク解除されてディレクトリーWが除去されます。すべてのオブジェクトをリンク解除する権限がない場合には、権限を持っているオブジェクトだけがリンク解除されて、ディレクトリーは除去されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA09E

オブジェクトが使用中。オブジェクトは&1です。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AC

要求を完了することができない。ディレクトリーにオブジェクトが入っています。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0B2

要求を満たすオブジェクトはない。

CPFA0B7

&1ディレクトリーは除去された。&2ディレクトリーは除去されなかった。

[トップ](#)

ディレクトリー項目除去 (RMVDIRE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリー項目除去(RMVDIRE)コマンドによって、特定のユーザー項目をシステム配布ディレクトリーから除去することができます。ユーザーIDおよびアドレスをディレクトリーから除去すると、すべての配布リストからも除去されます。ユーザーIDおよびアドレスに関連した記述が複数ある場合には、特定の記述だけを除去するオプション、またはすべての記述を除去するオプションがあります。

*ANYユーザーが除去されて*ANY *ANYディレクトリー項目が存在する場合には、ユーザーは配布リストから除去されませんが、その記述は*ANY *ANY記述に変更されます。

制約事項:

1. 機密保護管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。
2. 除去しようとするユーザー項目には、ローカル文書交換アーキテクチャー(DIA)ライブラリー内の文書またはフォルダーに所有権があってはなりません。
3. 除去しようとするユーザー項目の配布待ち行列に受信配布があって、除去要求が対話式に投入されたものである場合には、メールを除去するかどうかを尋ねる照会メッセージが表示されます。NOと応答した場合には、ユーザー項目はディレクトリーから除去されません。コマンドがバッチ・プログラムで投入されている場合には、メールは消去されず、ユーザー項目はディレクトリーから除去されません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRID	ユーザー識別コード	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
USRD	ユーザー記述	文字値, *FIRST, *ALL	オプション
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

[トップ](#)

ユーザー識別コード (USRID)

除去されるユーザー項目のユーザーIDおよびアドレスを指定します。両方の部分を指定しなければなりません。各フィールドには、最大8文字まで入力することができます。

ユーザー記述 (USRD)

ユーザーIDおよびアドレスに関連した記述を指定します。特定のユーザーIDおよびアドレスについてディレクトリーに複数の項目が存在することがあるので、記述は除去するユーザー項目を十分に定義します。

***FIRST**

指定されたユーザーIDおよびアドレスのディレクトリーの最初の項目が除去されます。項目が1つしかない場合には、その項目が除去されます。

***ALL** 指定されたユーザーIDおよびアドレスのすべての記述が除去され、そのユーザーIDおよびアドレスも除去されます。

ユーザー記述

ユーザーの記述として最大50文字までを指定してください。これは、除去されるユーザーIDおよびアドレスのディレクトリーの中に存在する記述と全く同じものでなければなりません。そうでない場合には、エラー・メッセージが戻されます。

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。

注:

- ユーザーIDおよびアドレス、システム名およびグループ、およびX.400 O/Rパラメーターだけが、このパラメーターで指定された図形文字セットID (GCID)に変換されます。指定したその他のパラメーター値はすべて、入力されたままの状態で記憶されます。GCIDの値はこれらと一緒に記憶されます。
- このコマンドを対話式に実行した場合には、表示装置記述から省略時のGCID値が取られます。このコマンドをバッチで実行した場合には、省略時のGCID値はQCHRID システム値から取られます。このパラメーターに特定の文字セットおよびコード・ページを指定することによって、これらの値を一時変更することができます。

単一値

***SYSVAL**

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

***DEV D**

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

使用するコード・ページを指定してください。

[トップ](#)

例

RMVDIRE USRID(HURST NEWYORK) USRD('給与計算の管理者')

次が真であると、ユーザーIDおよびアドレスHURST NEWYORKが除去されます。

- 指定されたユーザーID,アドレス, および記述をもつ項目がディレクトリー内に存在している。
- ユーザーは文書交換アーキテクチャー(DIA)のライブラリー内に文書またはフォルダーを所有していない。
- ユーザーがOFFICEVISIONに登録されていない。
- ユーザーがメール待ち行列からメールをすべて受信済みである。

さらに、このユーザーはすべての配布リストから除去されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF89A3

権限の理由のために操作が正常に行なわれていない。

CPF90A8

データ妥当性検査理由のために操作が正常に行なわれていない。

CPF90A8

要求した操作を実行するためには*SECADM特殊権限が必要である。

CPF9005

この要求を完了するのに必要なシステム資源を使用することができない。

CPF9009

システムには&2のファイル&1のジャーナルが必要である。

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9087

ディレクトリー項目は除去されなかった。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEV D), DOCCHRID(*DEV D)を使用することはできない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ディレクトリー・シャドー・システムの除去 (RMVDIRSHD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリー・シャドー・システム除去(RMVDIRSHD)コマンドは、現在ローカル・システムにディレクトリー・データをシャドー処理中のシステムを除去します。

制約事項:このコマンドを使用するためには、機密保護管理者(*SECADM)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SYSNAME	システム名	文字値	必須, 定位置 1
RMVDTA	データの除去	*YES, *NO	オプション

トップ

システム名 (SYSNAME)

シャドー処理が除去されるシステムの名前を指定します。この名前には最大8桁の英数字を含めることができます。大文字(AからZ),数字(0から9),および特殊文字(@, #, ¥ ,および組み込みブランク)を指定することができます。組み込みブランクは単一引用符(')で囲む必要があります。先行ブランクは使用できません。@, #,および¥文字は、正規の文字セットでなくすべてのキーボードで使用できるとは限らないので、好ましくありません。

これは必須パラメーターです。

トップ

データの除去 (RMVDTA)

このパラメーターは、除去されるシステムから受け取ったディレクトリー・データを除去するかどうかを指定します。

***NO** 前にシャドー処理されているディレクトリー・データは、ローカル・システムに残されます。除去されるシステムからシャドー処理されたデータがある別のシステムからデータをシャドー処理しない限り、シャドー処理によってこのデータを変更することはできません。

***YES** 指定されたシステムからシャドー処理されたディレクトリー項目のデータは、ローカル・システムから除去されます。部門およびロケーション・データは除去されません。

トップ

例

```
RMVDIRSHD  SYSNAME(NYCITY)  RMVDTA(*YES)
```

このコマンドはシステムNYCITYをシャドーイングから除去し、NYCITYからシャドーイングされたデータのすべてを除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF89A5

シャドー供給者&1の除去または延期が正常に行なわれていない。

CPF90A8

要求した操作を実行するためには*SECADM特殊権限が必要である。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

DLO権限の除去 (RMVDLOAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト権限除去(RMVDLOAUT)コマンドにより、文書またはフォルダーに対する既存のユーザー権限を除去することができます。

次のタイプの権限を除去することができます。

- 既存の特定のユーザー権限
- あるオブジェクトに対する権限リストの権限
- 既存のアクセス・コード

制約事項:

このコマンドを使用するには、そのオブジェクトに対して全(*ALL)権限をもっているか、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもっているか、あるいはこのオブジェクトの所有者でなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値, *SYSOBJNAM, *ALL	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, *NONE	オプション
USER	ユーザー・プロファイル	単一値: *SAME, *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: ユーザー・プロファイル	名前	
AUTL	権限リスト	名前, *SAME	オプション
ACC	文書アクセス・コード	値 (最大 50 回の繰り返し): 0-2047, *SAME, *ALL	オプション
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前	オプション

トップ

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

除去する権限と関連した文書またはフォルダーを指定します。

ALL** 指定されたフォルダー内のすべてのオブジェクトに対するユーザー権限が除去されます。ALL**を指定した場合には、**フォルダー (FLR)**パラメーターは必須です。

***SYSOBJNAM**

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)パラメーターに指定されたシステム・オブジェクト名に対するユーザー権限が除去されます。

名前 除去するユーザー権限と関連した文書またはフォルダーのユーザー割り当て名を指定してください。最大12桁を指定することができます。

[トップ](#)

フォルダー (FLR)

指定されたオブジェクトが入っているフォルダーを指定します。*SYSOBJNAMが文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

***NONE**

フォルダー名は指定されません。文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに名前を指定して、オブジェクトがフォルダーに入っている場合には、*NONEを指定することはできません。*ALLが文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに指定された場合には、*NONEは指定できません。

名前 指定されたオブジェクトが入っているフォルダーのユーザー割り当て名を指定してください。オブジェクトの入っているフォルダーがさらに別のフォルダーに入っている場合には、この名前を一連のフォルダー名から構成することができます。最大63桁を指定することができます。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USER)

除去する特定権限をもっているユーザーの名前を指定します。

***SAME**

特定権限は除去されません。

***ALL** すべてのユーザーの特定ユーザー権限が除去されます (オブジェクトの所有者を除く)。

名前 除去する特定権限をもっているユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

権限リスト (AUTL)

オブジェクトに対する除去する権限が入っている既存の権限リストの名前を指定します。

***SAME**

オブジェクトに対して既存の権限リストに指定されている権限は除去されません。

名前 オブジェクトに対する除去する権限が入っている既存の権限リストの名前を指定してください。

[トップ](#)

文書アクセス・コード (ACC)

オブジェクトに対して除去するアクセス・コードを指定します。

*SAME

オブジェクトのアクセス・コードは除去されません。

***ALL** オブジェクトのすべてのアクセス・コードが除去されます。

0から2047

除去するアクセス・コードを指定します。最大50個のアクセス・コードを指定することができます。

[トップ](#)

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

文書またはフォルダーのシステム・オブジェクト名を指定します。

名前 10桁全体を使用して、文書またはフォルダーのシステム・オブジェクト名を指定してください。

[トップ](#)

例

```
RMVDLOAUT DLO(DOCA) FLR(MYFLR) AUTL(MYLIST)
```

このコマンドは、フォルダーMYFLR内のオブジェクトDOCAの権限リストMYLISTの権限を除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8A75

フォルダー&1のアクセスが認可されていない。

CPF8A77

フォルダー&1が見つからない。

CPF8A78

フォルダー&1は使用中である。

CPF8A79

フォルダー&1は論理的に損傷している。

CPF8A80

フォルダー&1の文書&2は使用中である。

CPF8A82

文書&2がフォルダー&1に見つからない。

CPF8A83

フォルダー&1の文書&2のアクセスが認可されていない。

CPF8A88

フォルダー&1の文書&2でこの操作を使用することはできない。

CPF8A89

フォルダー&1の文書&2が論理的に損傷している。

CPF90BA

文書ライブラリー・オブジェクトの権限要求が正常に実行されなかった。

CPF9073

文書ライブラリー・オブジェクト&1の機密保護の表示または変更権限がない。

CPF908A

要求元&1は登録されていない。

CPF908B

文書ライブラリー・オブジェクトが見つからない。

CPF908E

&1個のオブジェクトが変更されたが、&2個のオブジェクトは変更されなかった。

CPF909A

フォルダー&1の文書&2に損傷がある。

CPF9095

フォルダー&1に損傷がある。

[トップ](#)

配布リスト項目除去 (RMVDSTLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布リスト項目除去(RMVDSTLE)コマンドにより、配布リストから項目を除去することができます。最大300個の項目をリストから一度に除去することができます。

制約事項:他の担当者が所有する配布リストから項目を除去するためには、機密保護管理者権限(*SECADM)が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LSTID	リスト識別コード	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: リスト識別コード	文字値	
	要素 2: リスト識別コード修飾子	文字値	
USRID	ユーザー識別コード	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 2
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
	要素 3: ユーザー記述	文字値, *FIRST, *ALL	
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEVVD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

[トップ](#)

リスト識別コード (LSTID)

除去する項目が入っている配布リストの2つの部分から成るリストID (ID)を指定します。

これは必須パラメーターです。

リストID

リストIDは、少なくとも1つのスペースで区切られる2つの部分として入力されます。小文字を指定した場合には、システムはそれを大文字に変更します。

小文字が指定された場合には、システムはそれを大文字に変更し、大文字として記憶します。

[トップ](#)

ユーザー識別コード (USRID)

配布リストから除去するユーザーのユーザーID、アドレス、および記述を指定します。ユーザーIDおよびアドレスの両方を指定しなければなりません。記述を入力して、あるユーザーIDについて特定の記述の削除を指定することができます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

除去するリモート配布リストを識別するために、ユーザーIDおよびアドレスの代わりに、2つの部分から成るリストID（ユーザーIDおよびアドレス）を使用することができます。

ユーザーID、アドレス、および記述の3つを一組として最大300組まで指定することができます。有効な各組が配布リストから除去されます。

少なくとも1組のユーザーIDが必要です。

ユーザーIDおよびアドレス

除去するユーザーIDおよびアドレスを指定してください。

小文字が指定された場合には、システムはそれを大文字に変更し、大文字として記憶します。

***FIRST**

指定されたユーザーIDおよびアドレスについて配布リスト中の最初の項目が除去されます。項目が1つしか存在しない場合には、それがリストから除去されます。

***ALL** 指定されたユーザーIDおよびアドレスとともにすべての項目が配布リストから除去されます。

ユーザー記述

ユーザーの記述を指定してください。リストID が指定されている場合には、リストの記述を入力してください。記述の長さは最大50文字とすることができます。

[トップ](#)

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字ID（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。

注:

- ユーザーIDおよびアドレス、システム名およびグループ、およびX.400 O/Rパラメーターだけが、このパラメーターで指定された図形文字セットID (GCID)に変換されます。指定したその他のパラメーター値はすべて、入力されたままの状態に記憶されます。GCIDの値はこれらと一緒に記憶されます。
- このコマンドを対話式に実行した場合には、表示装置記述から省略時のGCID値が取られます。このコマンドをバッチで実行した場合には、省略時のGCID値はQCHRID システム値から取られます。このパラメーターに特定の文字セットおよびコード・ページを指定することによって、これらの値を一時変更することができます。

単一値

***SYSVAL**

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*DEVVD

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起きます。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1から32767

使用するコード・ページを指定してください。

注:

- ユーザーIDおよびアドレス、システム名およびグループ、およびX.400 O/Rパラメーターだけが、このパラメーターで指定された図形文字セットID (GCID)に変換されます。指定したその他のパラメーター値はすべて、入力されたままの状態に記憶されます。GCIDの値はこれらと一緒に記憶されます。
- このコマンドを対話式に実行した場合には、表示装置記述から省略時のGCID値が取られます。このコマンドをバッチで実行した場合には、省略時のGCID値はQCHRID システム値から取られます。このパラメーターに特定の文字セットおよびコード・ページを指定することによって、これらの値を一時変更することができます。

トップ

例

```
RMVDSTLE  LSTID(CHICAGO DLIST)
           USRID((HURST PAYROLL 'MANAGER OF PAYROLL')
                (LEE DEPT554 *FIRST)
                (BOCA DLIST 'リモート配布リスト')
                (BRYON WAREHSE *ALL))
```

この例では、4つのユーザーIDが配布リストCHICAGO DLISTから除去されます。3番目のユーザーIDは実際にはリモート配布リストです。BRYON WAREHSEの項目のすべてがこのリストから除去されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9092

項目がリスト&1 &2から除去されなかった。

CPF9093

&1個の項目がリスト&2 &3から除去された。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEV), DOCCHRID(*DEV)を使用することはできない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

[トップ](#)

配布待ち行列の除去 (RMVDSTQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布待ち行列除去(RMVDSTQ)コマンドによって、配布サービス待ち行列テーブルから配布待ち行列項目を除去することができます。配布待ち行列は、他のシステムに送信または転送される前の配布を記憶するために使用されます。

RMVDSTQコマンドは対話式表示サポートを提供しません。これは配布サービス構成(CFGDSTSRV)コマンドによって提供されます。配布ネットワーク構成の詳細については、AS/400 SNA配布サービス(SD88-5031)を参照してください。

配布待ち行列名は、ジョブのコード化文字セット識別コード(CCSID)を使用して、図形文字セットおよびコード・ページ930 500に変換されます。

制約事項:

- このコマンドは*EXCLUDEの共通認可とともに出荷され、QPGMRおよびQSYSOPR ユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用するための私用認可があります。
- 次の配布待ち行列を除去することはできません。
 - 経路指定テーブルの中で参照されている待ち行列
 - 送信されるのを待機中の配布が入っている待ち行列
 - 待ち行列を使用するためのリモート・ライブラリーがすでに構成されているDLS (文書ライブラリー・サービス) 待ち行列
 - 受信先が活動状態であるか、または配布が受信された時に送信元で確認を受信した旨の肯定応答が得られていない場合のSVDS (IBM SYSTEM MANAGER FOR I5/OS配布サービス) 待ち行列
- 配布待ち行列についてエラーを報告するメッセージは、システムの内部変換のために、その配布待ち行列名用に入力されたものと異なる文字で表示または印刷されることがあります。同様に、(ワークステーションに使用される言語によって) 配布待ち行列名の内部値が、配布待ち行列処理(WRKDSTQ)コマンドの場合に表示される文字と異なることがあります。配布待ち行列プロンプト (DSTQパラメーター) に指定された文字ストリング値が内部配布待ち行列値の規則と一致しない場合、あるいは定義されたどの配布待ち行列の内部値とも一致しない (大/小文字の相違を無視して) 場合には、エラーが報告される場合があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DSTQ	配布待ち行列	文字値	必須, 定位置 1

トップ

配布待ち行列 (DSTQ)

除去する配布待ち行列項目の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

RMVDSTQ DSTQ(CHICAGO)

このコマンドは、CHICAGOという名前の配布待ち行列項目を除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF8802

配布待ち行列&1が見つからなかった。

CPF8807

QSNADSジャーナルの使用中にエラーが起こった。

CPF8809

SNADS内部待ち行列でエラーが検出された。

CPF881B

配布待ち行列&1の配布が受信されている。

CPF8826

配布待ち行列&1の配布待ち行列項目が存在している。

CPF8827

配布待ち行列&1の経路指定テーブル項目が存在している。

CPF8828

*DLS配布待ち行列&1にリモート文書ライブラリー項目が存在している。

CPF8833

配布待ち行列&1はすでに存在している。

CPF8849

待ち行列&1は別の配布サービス機能によって使用中である。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

配布経路の除去 (RMVDSTRTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布経路除去(RMVDSTRTE)コマンドによって、配布サービス経路指定テーブルから項目を除去することができます。いったん、テーブルからシステムを除去すると、このシステムから直接そのシステムに配布を送信することはできなくなります。

対話式表示サポートは配布サービス構成(CFGDSTSRV)コマンドによって提供されます。配布ネットワーク構成の詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

制約事項: このコマンドは共用*EXCLUDE権限で出荷され、QPGMRおよびQSYSOPRユーザー・プロファイルは、このコマンドを使用する私用認可をもちます。

システム名およびグループ名は、ジョブのコード化文字セット識別コード(CCSID) を使用して、図形文字セットおよびコード・ページ930 500に変換されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SYSNAME	システム名	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: システム名	文字値, *ANY	
	要素 2: システム・グループ	文字値, *ANY	

[トップ](#)

システム名 (SYSNAME)

経路指定テーブルから除去したいリモート・システムのシステム名およびグループ名を指定します。

最大8文字のシステム名および最大8文字のグループ名を指定することができます。

システム名として*ANYを指定することができます。SYSNAME (*ANY グループ) を指定するのは、特定のシステム名とは一致していないがグループ名と一致している配布の宛先を決定するために使用する経路指定テーブル項目を除去する場合です。テーブル中の各グループごとに*ANYを1つだけ使用することができます。

システム名にも*ANYが指定されている場合に限り、グループ名に*ANYを指定することができます。SYSNAME(*ANY *ANY)を指定するのは、他のどの経路指定テーブル項目とも一致しない配布の宛先を決定するために使用する経路指定テーブル項目を除去する場合です。経路指定テーブル中では、SYSNAME(*ANY *ANY)を1つだけ使用することができます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

例1: 経路指定テーブルからのシステムの除去

```
RMVDSTRTE  SYSNAME(SYSTEMA GROUPA)
```

このコマンドは、SYSTEMAという名前の経路指定テーブル項目を除去します。

例2: 総称経路指定テーブル項目の除去

```
RMVDSTRTE  SYSNAME(*ANY GROUPNM1)
```

このコマンドは、システム名が*ANYで、グループ名がGROUPNM1の経路指定テーブル項目を除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF8802

配布待ち行列&1が見つからなかった。

CPF8807

QSNADSジャーナルの使用中にエラーが起こった。

CPF8815

経路指定テーブル項目&1 &2が見つからない。

CPF8831

経路指定テーブルに項目&1 &2がすでに存在している。

CPF8837

システム名/グループ&1 &2は別の配布サービス機能によって使用中である。

CPF8849

待ち行列&1は別の配布サービス機能によって使用中である。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

2 次システム名の除去 (RMVDSTSYSN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布2次システム名除去(RMVDSTSYSN)コマンドによって、配布サービス2次システム名テーブルから項目を除去することができます。このテーブルには、ローカル・システムが配布を受信し、またそれをリダイレクトすることのある相手先のすべての代替（別名）システム名の名前が入っています。テーブルから代替システム名を除去すると、このシステムは、もはや代替システム用の配布を受信しなくなります。

対話式表示サポートは配布サービス構成(CFGDSTSRV)コマンドによって提供されます。配布ネットワーク構成の詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

システム名およびグループ名は、ジョブのコード化文字セット識別コード(CCSID) を使用して、図形文字セットおよびコード・ページ930 500に変換されます。

制約事項:

- このコマンドは*EXCLUDEの共通認可とともに出荷され、QPGMRおよびQSYSOPR ユーザー・プロフィールには、このコマンドを使用するための私用認可があります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SYSNAME	2次システム名	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: システム名	文字値	
	要素 2: システム・グループ	文字値	

[トップ](#)

2 次システム名 (SYSNAME)

除去する2次システム名テーブル項目のシステム名およびグループ名を指定します。

最大8文字のシステム名および最大8文字のグループ名を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

RMVDSTSYSN SYSNAME(SYS2LAJ1 ROCHESTR)

このコマンドは、配布サービス2次システム名テーブルからSYS2LAJ1 ROCHESTRという名前のシステムを除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF8807

QSNADSジャーナルの使用中にエラーが起こった。

CPF8818

2次システム名テーブル項目&1 &2が見つからない。

CPF8835

システム名/グループ&1 &2はすでに指定されている。

CPF8837

システム名/グループ&1 &2は別の配布サービス機能によって使用中である。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

構成項目除去 (RMVEMLCFGE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

エミュレーション構成項目除去(RMVEMLCFGE)コマンドは、3270装置エミュレーション・セッションについての構成項目を構成ファイルから除去するために、使用されます。

制約事項: ユーザーはこのコマンドによって、システムと一緒に移入される省略時のエミュレーション構成項目である構成項目QEMDFTCFGEを除去することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
EMLCFGE	構成項目	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

構成項目 (EMLCFGE)

除去する構成項目の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

RMVEMLCFGE EMLCFGE(FASBPRINT)

このコマンドは、構成ファイルからエミュレーション構成項目FASBPRINTを除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF85FA

エミュレーション項目QEMDFTCFGEが除去されなかった。

CPF853E

エミュレーション構成項目&1が見つからない。

CPF854B

エミュレーション構成ルーチンに内部エラーが見つかった。

[トップ](#)

環境変数の除去 (RMVENVVAR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

環境変数の除去(RMVENVVAR)コマンドは、存在する1つの環境変数（またはすべての環境変数）を除去します。

制約事項: このコマンドを使用してシステム・レベルの環境変数を除去するためには、*JOBCTL特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ENVVAR	環境変数	文字値, *ALL	必須, 定位置 1
LEVEL	レベル	*JOB, *SYS	オプション

[トップ](#)

環境変数 (ENVVAR)

削除する環境変数の名前を指定します。この名前の環境変数が指定されたレベル(LEVELパラメーター)に存在しない場合には、エラー・メッセージCPFA981が出されます。

特殊値*ALLが指定された場合には、指定されたレベル(LEVELパラメーター)のすべての環境変数が除去されます。

注: 小文字を指定した時には、大文字と小文字が区別されます。

アポストロフィを使用したい場合には、2つのアポストロフィ('')を使用しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

レベル (LEVEL)

環境変数のレベルを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***JOB** これはジョブ・レベルの環境変数です。

***SYS** これはシステム・レベルの環境変数です。

例

例1:ジョブ・レベル環境変数の除去

```
RMVENVVAR  ENVVAR(ALTDIR)
```

このコマンドは、ALTDIRという名前のジョブ・レベル環境変数を除去します。

例2:システム・レベル環境変数の除去

```
RMVENVVAR  ENVVAR(HOME)  TYPE(*SYS)
```

このコマンドは、HOMEという名前のシステム・レベル環境変数を除去します。

例3:すべてのジョブ・レベル環境変数の除去

```
RMVENVVAR  ENVVAR(*ALL)
```

このコマンドは、すべてのジョブ・レベル環境変数を除去します。

例4:すべてのシステム・レベル環境変数の除去

```
RMVENVVAR  ENVVAR(*ALL)  LEVEL(*SYS)
```

このコマンドは、すべてのシステム・レベル環境変数を除去します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA981

この環境変数は存在していない。

CPFA98E

システム・レベルの環境変数を更新するには*JOBCTL特殊権限が必要です。

トップ

EWCバーコード項目の除去 (RMVEWCBCDE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

拡張無線制御装置バーコード項目除去(RMVEWCBCDE)コマンドは、指定されたバーコード・グループのバーコード項目を除去します。

制約事項: このコマンドを実行するには、ユーザー・プロファイルに*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
BCDGRP	バーコード・グループ	名前	必須, 定位置 1
INZMBR	初期設定ソース・メンバー	名前	必須, 定位置 2
INZFILE	初期設定ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: 初期設定ソース・ファイル	名前, <u>QEWCSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u>	

[トップ](#)

バーコード・グループ (BCDGRP)

除去するバーコード・グループ項目の名前を指定します。

[トップ](#)

初期設定ソース・メンバー (INZMBR)

除去中のバーコード項目が入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。バーコード項目には、拡張無線制御装置構成データが入っています。

[トップ](#)

初期設定ソース・ファイル (INZFILE)

ソース・ファイル・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定します。

ソース・ファイルの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

QEWCSRC

ソース・ファイル名QEWCSRCが使用されます。

ソース・ファイル名

ソース・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
RMVEWCBCDE BCDGRP(BCD01) INZMBR(EWC01) INZFILE(QGPL/QEWCSRC)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPLのソース・ファイルQEWCSRCのソース・ファイル・メンバーEWC01のバーコード・グループBCD01のバーコード項目を除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

EWC PTC項目の除去 (RMVEWCPTCE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

拡張無線制御装置PTC項目除去(RMVEWCPTCE)コマンドは、指定されたPTCグループのポータブル・トランザクション・コンピューター(PTC)項目を除去します。

制約事項: このコマンドを実行するには、ユーザー・プロファイルに*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PTCGRP	PTCグループ	名前	必須, 定位置 1
INZMBR	初期設定ソース・メンバー	名前	必須, 定位置 2
INZFILE	初期設定ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: 初期設定ソース・ファイル	名前, <u>QEWCSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u>	

[トップ](#)

PTCグループ (PTCGRP)

除去する項目のPTCグループ名を指定します。

[トップ](#)

初期設定ソース・メンバー (INZMBR)

除去中のPTC項目が入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。ソース・ファイル・メンバーには、拡張無線制御装置構成データが入っています。

[トップ](#)

初期設定ソース・ファイル (INZFILE)

ソース・ファイル・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定します。

ソース・ファイルの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

QEWCSRC

ソース・ファイル名QEWCSRCが使用されます。

ソース・ファイル名

ソース・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
RMVEWCPTCE PTCGRP(PTC01) INZMBR(EWC01) INZFILE(QGPL/QEWCSRC)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPLのソース・ファイルQEWCSRCのソース・ファイル・メンバーEWC01のPTCグループPTC01のPTC項目を除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

出口プログラムの除去 (RMVEXITPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

出口プログラム除去(RMVEXITPGM)コマンドは、登録済みまたは未登録の特定の出口点の出口プログラム項目を除去します。未登録の出口点というのは、出口プログラムが追加された時点で登録機能が出口点なしで作成した出口点です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
EXITPNT	出口点	単純名	必須, 定位置 1
FORMAT	出口点形式	単純名	必須, 定位置 2
PGMNBR	プログラム番号	1-2147483647, *ALL	必須, 定位置 3

[トップ](#)

出口点 (EXITPNT)

出口プログラムが除去される既存の出口点の名前を指定します。

[トップ](#)

出口点形式 (FORMAT)

除去される出口プログラムの出口点様式の名前を指定します。

[トップ](#)

プログラム番号 (PGMNBR)

除去される出口プログラムのプログラム番号を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** 指定された出口点様式 (FORMATパラメーター) のすべての出口プログラムを指定された出口点 (EXITPNTパラメーター) から除去します。

プログラム番号

指定されたプログラム番号に対応する出口プログラムを除去します。

[トップ](#)

例

```
RMVEXITPGM  EXITPNT(USER_EXIT_ONE)  FORMAT(EXIT1)  PGMNBR(1)
```

このコマンドは、出口点形式EXIT1のプログラム順序番号1で追加された出口点USER_EXIT_ONEの出口プログラムを除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

フォント・テーブル項目の除去 (RMVFNTTBLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フォント・テーブル項目の除去 (RMVFNTTBLE)コマンドは、指定されたフォント・テーブルの項目を除去します。このコマンドは、以下の制御を行う印刷サービス機能(PSF)によって使用されるフォント・マッピング・テーブルの項目を除去します。

1. ホスト常駐から印刷装置常駐フォント文字セットへのマッピング
2. 印刷装置常駐からホスト常駐フォント文字セットへのマッピング
3. ホスト常駐から印刷装置常駐コード・ページへのマッピング
4. 印刷装置常駐からホスト常駐コード・ページへのマッピング
5. 印刷装置常駐から印刷装置常駐フォント置き換えへのマッピング

フォント・テーブル項目追加(ADDFNTTBLE)コマンドを実行することによって、ユーザー・テーブルに項目を追加しておかなければなりません。

印刷装置からホストへのフォント・マッピングおよびホストから印刷装置へのフォント・マッピング（上記にリストされた最初の4つのテーブル）の実行では、ユーザー・テーブルが最初に一致を検索されます。一致が見つからない場合には、次にシステム・フォント・テーブルまたはコード・ページ・テーブルが検索されます。

印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルの場合には、システムによって次の処理が実行されます。

- 印刷ジョブで指定された印刷装置常駐フォントがその印刷装置によってサポートされている場合には、それが使用されます。印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルは検索されません。
- 印刷ジョブで指定された印刷装置常駐フォントが印刷装置によってサポートされていない場合には、印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルが検索されます。
 - 一致する項目が印刷装置常駐フォント置き換えテーブルで見つかり、その項目が印刷装置によってサポートされている場合には、印刷装置常駐フォント置き換えテーブルで指定された置き換えフォントが使用されます。
 - 一致する項目が印刷装置常駐フォント置き換えで見つからない場合、あるいは項目が印刷装置によってサポートされていない場合には、システムはその内部フォント置き換えテーブルを使用してフォント置き換えを実行します。

フォント・マッピング・テーブルの詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

制約事項

- このコマンドを使用するためには、PSF機能が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FNTTBL	フォント・テーブル	単一値: *PHFCS, *HPFCS, *PHCP, *HPCP その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フォント・テーブル	名前	
	修飾子 2:	名前, *CURLIB, *LIBL	
PHFCS	印刷装置フォント項目	要素リスト	オプション
	要素 1: 識別コード	1-65535	
	要素 2: 幅	1-32767, *NONE, *PTSIZE	
	要素 3: 属性	*NONE, *BOLD, *ITALIC, *BOLDITC, *DBLWIDE, *ITCDBLWIDE	
	要素 4: 図形文字セット	整数, *SYSVAL	
要素 5: ポイント・サイズ	1.0-999.9, *WIDTH, *NONE		
PHCP	印刷装置コード・ページ項目	要素リスト	オプション
	要素 1: 図形文字セット	整数, *SYSVAL	
	要素 2: コード・ページ	整数	
HPFCS	ホスト・フォント項目	要素リスト	オプション
	要素 1: フォント文字セット	名前	
	要素 2: タイプ	*RASTER, *OUTLINE	
HPCP	ホスト・コード・ページ項目	要素リスト	オプション
	要素 1: コード・ページ	名前	
PPFCS	印刷装置相互間フォント	要素リスト	オプション
	要素 1: 識別コード	1-65535	
	要素 2: ポイント・サイズ	1.0-999.9, *ALL, *NONE	

トップ

フォント・テーブル (FNTTBL)

除去するフォント・テーブルを指定します。

単一値

*PHFCS

印刷装置常駐からホスト常駐フォント文字セットへのテーブルが除去されます。

*PHCP

印刷装置常駐からホスト常駐コード・ページへのマッピング・テーブルが除去されます。

*HPFCS

ホスト常駐から印刷装置常駐フォント文字セットへのテーブルが除去されます。

*HPCP

ホスト常駐から印刷装置常駐コード・ページへのマッピング・テーブルが除去されます。

修飾子1: フォント・テーブル

名前 除去するフォント・テーブルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーを検索します。

*CURLIB

フォント・テーブルを見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 フォント・テーブルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

印刷装置からホスト・フォントへ (PHFCS)

除去する印刷装置常駐フォント項目を指定します。

要素1: 印刷装置フォント

要素1: 識別コード

I-65535

ホスト常駐フォントにマップする印刷装置常駐フォント識別コードを指定します。

要素2: 幅

***NONE**

このフォント識別コードには幅は指定されません。アウトライン・フォントにマッピングする場合には、*NONEを指定しなければなりません。

***PTSIZE**

このフォントIDの幅は、指定されたポイント・サイズから計算されます。幅に*PTSIZEを指定した場合には、ポイント・サイズ・パラメーターを*NONEまたは*WIDTHにすることはできません。印刷用ラスター・フォント(2304 - 3839, 4096 - 53247, 61440 - 65534)をマッピングする場合には、ポイント・サイズの値を指定しなければなりません。幅の値は*PTSIZEにするか、あるいは値を指定することができます。

I-32767

フォント識別コードの幅を指定します。固定ピッチ・ラスター・フォント(1 - 750, 3840 - 4095)をマッピングする場合には、幅を指定しなければなりません。ポイント・サイズの値は*WIDTHにするか、あるいは値を指定することができます。印刷装置常駐フォントのフォント幅の詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

要素3: 属性

***NONE**

このフォントには特別のフォントの属性は指定されません。

***BOLD**

印刷装置常駐フォントは太字体のフォントです。

***ITALIC**

印刷装置常駐フォントはイタリック体のフォントです。

***BOLDITC**

印刷装置常駐フォントはイタリック体の太字フォントです。

***DBLWIDE**

印刷装置常駐フォントは横倍角フォントです。

***ITCDBLWIDE**

印刷装置常駐フォントはイタリック体の横倍角フォントです。

要素4: 図形文字セット

***SYSVAL**

システム値QCHRIDに指定された図形文字セットが使用されます。

図形文字識別コード

フォントの図形文字セットを指定します。図形文字セットは、図形文字セットとコード・ページから構成される図形文字IDの最初の部分です。

要素5: ポイント・サイズ

***WIDTH**

フォントのポイント・サイズは指定されたフォントの幅の値から計算されます。固定ピッチのラスター・フォント(1 - 750, 3840 - 4095)をマッピングする場合には、幅の値を指定してポイント・サイズの値を*WIDTHにすることをお奨めします。

***NONE**

このフォント識別コードにはポイント・サイズは指定されません。アウトライン・フォントにマッピングする場合には、*NONEを指定しなければなりません。

1.0-999.9

1.0から999.9の範囲でポイント・サイズを指定します。印刷用ラスター・フォント(2304 - 3839, 4096 - 53247, 61440 - 65534)をマッピングする場合には、ポイント・サイズの値を指定しなければなりません。

トップ

印刷装置からホスト・コード・ページ (PHCP)

除去する印刷装置常駐コード・ページ項目を指定します。

要素1: 印刷装置コード・ページ

要素1: 図形文字セット

*SYSVAL

システム値QCHRIDに指定された図形文字セットが使用されます。このシステム値の変更が有効となるのは、印刷書き出しプログラムが開始される時のフォント・マッピング・テーブルだけです。QCHRIDが変更され、印刷装置が現在活動状態である場合には、この印刷装置書き出しプログラムを終了して再度開始しなければなりません。

整数 印刷装置常駐コード・ページの図形文字セットを指定します。図形文字セットは、図形文字セットとコード・ページから構成される図形文字IDの最初の部分です。たとえば、図形文字ID 697 500の場合には、697が図形文字セットで、500がコード・ページとなります。この例では、図形文字セットに697を指定します。

要素2: コード・ページ

整数 印刷装置常駐コード・ページの値を指定します。

[トップ](#)

ホストから印刷装置フォントへ (HPFCS)

除去するホスト常駐フォント項目を指定します。

要素1: ホスト・フォント

要素1: フォント文字セット

名前 フォント文字セットを指定します。

要素2: タイプ

*RASTER

ホスト常駐フォントはラスター・フォントです。

*OUTLINE

ホスト常駐フォントはアウトライン・フォントです。

[トップ](#)

ホストから印刷装置コード・ページ (HPCP)

除去するホスト常駐コード・ページ項目を指定します。

要素1: ホスト・コード・ページ

要素1: コード・ページ

名前 ホスト常駐コード・ページの名前を指定します。

[トップ](#)

印刷装置相互間フォント (PPFCS)

除去する印刷装置常駐フォント置き換えマッピングを指定します。

要素1: 印刷装置からのフォント

要素1: 識別コード

1-65535

置き換え印刷装置常駐フォントが変更される印刷装置常駐フォント識別コードを指定します。サポートされている印刷装置常駐フォントや、スケーラブル（ポイント・サイズが必要）かスケーラブルでない（ポイント・サイズに*NONEを指定）かの詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

要素2: ポイント・サイズ

***NONE**

フォント・ポイント・サイズは指定されません。これはすべての非スケーラブル・フォントに指定してください。

***ALL** アウトライン（スケーラブル）・フォントのすべてのポイント・サイズがマップされることを指定します。フォントがスケーラブルでない場合には、これは*NONEと同じに扱われます。

1.0-999.9

1.0から999.9の範囲でポイント・サイズを指定します。印刷用ラスタ・フォント(2304 - 3839, 4096 - 53247, 61440 - 65534)をマッピングする場合には、ポイント・サイズの値を指定しなければなりません。

[トップ](#)

例

例1:フォント項目の除去

```
RMVFNTTBLE FNTTBL(*PHFCS) PHFCS(254 84 *NONE 2039 7.0)
```

このコマンドは、QPHFCSテーブル（印刷装置常駐からホスト常駐へのフォント文字セット・テーブル）から項目を除去します。

例2:コード・ページ項目の除去

```
RMVFNTTBLE FNTTBL(*PHCP) PHCP(*SYSVAL 38)
```

このコマンドは、QPHCPテーブル（印刷装置常駐からホスト常駐へのコード・ページ・テーブル）から項目を除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF88D2

ライブラリー&2のフォント・テーブル&1は変更されなかった。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

[トップ](#)

フィルター処置項目の除去 (RMVFTRACNE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フィルター処置項目の除去(RMVFTRACNE)コマンドでは、ユーザーは指定したフィルター・オブジェクトから処置項目を除去することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILTER	フィルター	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フィルター	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
GROUP	グループ	名前	必須, 定位置 2

[トップ](#)

フィルター (FILTER)

処置項目が除去されるフィルターの修飾名を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

フィルターを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

フィルターが入っているライブラリーの名前を指定してください。

フィルター名

フィルターの名前を指定してください。

[トップ](#)

グループ (GROUP)

削除される処置項目を識別するグループを指定します。

[トップ](#)

例

```
RMVFTRACNE  FILTER(MYLIB/MYFILTER)  GROUP(CHICAGO)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIB内のフィルターMYFILTERのグループCHICAGOで識別された処置項目を除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF812F

フィルターに損傷がある。

CPF91DD

グループ&4の処置項目が見つからなかった。

CPF91EC

内部処理エラーが起こった。

CPF91E8

内部処理エラーが起こった。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

フィルター選択項目の除去 (RMVFTRSLTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フィルター選択項目の除去(RMVFTRSLTE)コマンドでは、ユーザーはフィルター・オブジェクトから選択項目を除去することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILTER	フィルター	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フィルター	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SEQNBR	順序番号	1-9999	必須, 定位置 2

[トップ](#)

フィルター (FILTER)

選択項目が除去されるフィルターの修飾名を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

フィルターを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

フィルターが入っているライブラリーの名前を指定してください。

フィルター名

使用するフィルターの名前を指定してください。

[トップ](#)

順序番号 (SEQNBR)

削除される選択項目の順序番号を指定します。フィルターの選択項目は順番に番号付けされています。あるフィルターが適用されると、順序番号がそれより小さい選択項目が最初に評価されます。1から9999の番号を指定してください。

例

```
RMVFTRSLTE  FILTER(MYLIB/MYFILTER)  SEQNBR(10)
```

このコマンドは、選択項目0010をライブラリーMYLIB内のフィルターMYFILTERから除去します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF812F

フィルターに損傷がある。

CPF91DC

順序番号&4の選択項目が見つからなかった。

CPF91EC

内部処理エラーが起こった。

CPF91E8

内部処理エラーが起こった。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

トップ

ICF装置項目除去 (RMVICFDEVE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム間通信機能装置項目除去(RMVICFDEVE)コマンドは、指定したICFファイルから1つまたは複数のプログラム装置項目を除去します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ICF通信ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ICF通信ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PGMDEV	プログラム装置	値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	必須, 定位置 2

[トップ](#)

ICF通信ファイル (FILE)

プログラム装置項目を除去するICFファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ICF通信ファイル

名前 ICFファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ICFファイルを見つけるために現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ICFファイルが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

プログラム装置 (PGMDEV)

ICFファイルから除去するプログラム装置項目を指定します。

このパラメーターには50個の値を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

文字値 除去するプログラム装置項目の名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
RMVICFDEVE FILE(ICFHIST) PGMDEV (CHICAGO NEWYORK DENVER)
```

このコマンドは、ICFファイルICFHISTからCHICAGO, NEWYORK, およびDENVERのプログラム装置を除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF7366

&2のファイル&1から装置が除去されなかった。

[トップ](#)

イメージ・カタログ項目の除去 (RMVIMGCLGE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

イメージ・カタログ項目除去(RMVIMGCLGE)コマンドは、ライブラリーQUSRSYSのイメージ・カタログ・オブジェクト(*IMGCLG)からイメージ・カタログ項目を除去します。任意に、そのカタログ項目と関連したイメージ・ファイルをシステムから削除することができます。

イメージ・カタログが現在仮想装置にロードされている場合には、エラー・メッセージが送られ、イメージはイメージ・カタログから除去されません。イメージ・カタログのロード/アンロード(LODIMGCLG)コマンドは、仮想装置から現行のイメージ・カタログをアンロードするために使用できます。

制約事項:

- このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
- イメージ・カタログ項目を除去するには、次の権限が必要です。
 1. ライブラリーQUSRSYSに対する実行(*EXECUTE)権限。
 2. イメージ・カタログに対する*CHANGE権限。
 3. イメージ・カタログ・パス名の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限。
- このコマンドは、参照および従属イメージ・カタログではサポートされません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IMGCLG	イメージ・カタログ	名前	必須, 定位置 1
IMGCLGIDX	イメージ・カタログ索引	1-256, *VOL	必須, 定位置 2
VOL	イメージ・カタログ・ボリューム	文字値	オプション
KEEP	イメージ・ファイルの保持	*YES, *NO	オプション

トップ

イメージ・カタログ (IMGCLG)

そのイメージを除去する元のイメージ・カタログを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 イメージ・カタログの名前を指定します。

トップ

イメージ・カタログ索引 (IMGCLGIDX)

除去する項目のイメージ・カタログ索引を指定します。

1から256

使用したいイメージ・カタログ索引番号を指定します。

***VOL** ボリューム名を指定することによって項目を除去することを指定します。この値を使用できるのは、テープ・タイプのイメージ・カタログの場合だけです。

トップ

イメージ・カタログ・ボリューム (VOL)

除去する項目のボリューム名を指定します。

名前 除去する項目のボリューム名を指定します。光ディスク・イメージ・カタログでは、指定されたボリュームと一致する最初のボリュームが除去されます。

トップ

イメージ・ファイルの保持 (KEEP)

このイメージ・カタログ項目と関連したイメージを保持するかどうかを指定します。

***YES** イメージ・カタログ項目と関連したイメージがシステムから削除されないことを指定します。

***NO** イメージ・カタログ項目と関連したイメージ・ファイルがシステムから削除されることを指定します。

トップ

例

例1: イメージ・カタログ項目を除去

```
RMVIMGCLGE IMGCLG(MYCLG) IMGCLGIDX(2)
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**MYCLG**から索引**2**のイメージ・カタログ項目を除去します。関連イメージは削除されません。

例2: イメージ・カタログ項目を除去し、イメージ・ファイルを削除

```
RMVIMGCLGE IMGCLG(MYCLG) IMGCLGIDX(1) KEEP(*NO)
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**MYCLG**から索引**1**のイメージ・カタログ項目を除去します。関連イメージ・ファイルがシステムから削除されます。

例3: ボリューム名によるテープ・イメージ・カタログ項目の除去

```
RMVIMGCLGE IMGCLG(TAPECLG) IMGCLGIDX(*VOL) VOL(TAP001)  
KEEP(*NO)
```

このコマンドは、ボリューム名が**TAP001**のテープ・イメージ・カタログ項目をイメージ・カタログ**TAPECLG**から除去します。関連イメージ・ファイルがシステムから削除されます。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFBC30

索引&2のカタログ項目がイメージ・カタログ&1から除去されなかった。

CPFBC31

索引&2のカタログ項目がイメージ・カタログ&1から除去されなかった。

CPFBC45

イメージ・カタログ&1が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

IP OVER SNA インターフェースの除去 (RMVIPSIFC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SNAインターフェース上のIP除去(RMVIPSIFC)コマンドは、SNAインターフェース上のAF_INETソケット(SNAの転送でこのローカル・ホストが認識されるIPアドレス)を除去します。このコマンドを使用して、SNAインターフェース上のIP追加(ADDIPSIFC) CLコマンドで指定されたインターフェースを除去することができます。除去されるインターフェースは、そのインターネット・アドレス(INTNETADR)によって識別されます。

制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、*IOSYSCFG権限が必要です。
2. このコマンドを投入する場合には、インターフェースが活動状態であってはなりません。SNAインターフェース上のIP終了(ENDIPSIFC) CLコマンドを使用して、インターフェースを非活動化してください。
3. 除去されるSNAインターフェース上のIPに対応するネットワークを通さなければそのNEXTHOPインターネット・アドレスに到達できない構成済みの経路があってはなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
INTNETADR	IPアドレス	文字値	必須, 定位置 1

[トップ](#)

IPアドレス (INTNETADR)

前にSNAインターフェース上のIP追加(ADDTCPIFC) CLコマンドでSNA構成に追加されたインターフェースのインターネット・アドレスを指定します。インターネット・アドレスはNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定されます。ここでNNNは0-255の範囲の10進数です。コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。インターネット・アドレスは、そのアドレスのネットワーク識別コード(ID)部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0の場合には、正しくありません。コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

これは必須パラメーターです。

IPアドレス

除去するインターフェースと関連したIPアドレスを指定してください。

[トップ](#)

例

RMVIPSIFC '9.5.1.248'

このコマンドは、IPアドレス9.5.1.248とのインターフェースを除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP8050

&1を使用するためには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

[トップ](#)

IP OVER SNA ロケーションの除去 (RMVIPSLOC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SNAロケーション上のIP項目除去(RMVIPSLOC)コマンドは、SNAロケーション上のAF_INETソケット項目を除去します。このコマンドを使用して、SNAロケーション上のIP項目追加(ADDIPSLOC) CLコマンドで指定されたロケーション項目を除去することができます。除去されるロケーション項目は、そのリモート経路宛先(RMTDEST)とサブネット・マスク(SUBNETMASK)によって識別されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、*IOSYSCFG権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RMTDEST	リモート宛先	文字値	必須, 定位置 1
SUBNETMASK	サブネット・マスク	文字値, *HOST	必須, 定位置 2

[トップ](#)

リモート宛先 (RMTDEST)

除去されるロケーション項目のリモート経路宛先を指定します。リモート経路宛先はNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定されます。ここでNNNは0-255の範囲の10進数です。リモート経路宛先アドレスをコマンド入力行から入力する場合には、アドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

サブネット・マスク (SUBNETMASK)

除去しているロケーション項目のサブネット・マスクを指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

*HOST

リモート経路宛先フィールドに指定されたインターネット・アドレスの値がホスト・アドレスの場合には、この値を指定してください。サブネット・マスクの値は255.255.255.255になるように計算されます。

サブネットワーク・マスク

サブネットワーク・マスクを`NNN.NNN.NNN.NNN`の形式で指定してください。ここで`NNN`は0-255の範囲の10進数です。サブネットワーク・マスク・アドレスをコマンド入力行から入力する場合には、アドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

[トップ](#)

例

例1:サブネットワークのロケーション項目の除去

```
RMVIPSLOC RMTDEST('128.2.0.0') SUBNETMASK('255.255.255.128')
```

このコマンドは、ネットワーク128.2と255.255.255.128のサブネットワーク・マスクを持つサブネットワークのロケーション項目を除去します。

例2:ネットワークのロケーション項目の除去

```
RMVIPSLOC RMTDEST(128.3.0.0) SUBNETMASK('255.255.0.0')
```

このコマンドは、ネットワーク128.3のロケーション項目を除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

IP OVER SNA経路の除去 (RMVIPS RTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SNA経路上のIP項目除去(RMVIPS RTE)コマンドは、SNA経路上のAF_INETソケットを除去します。このコマンドを使用して、SNA経路上のIP追加(ADDIPS RTE) CLコマンドで指定された経路を除去することができます。除去される経路は、その経路宛先(RTEDEST)、サブネット・マスク(SUBNETMASK)、およびネクスト・ホップ(NEXTHOP)によって識別されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、*IOSYSCFG権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RTEDEST	経路宛先	文字値	必須, 定位置 1
SUBNETMASK	サブネット・マスク	文字値, *HOST	必須, 定位置 2
NEXTHOP	ネクスト・ホップ	文字値	必須, 定位置 3

[トップ](#)

経路宛先 (RTEDEST)

除去される経路の経路宛先を指定します。経路宛先はNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定されます。ここでNNNは0-255の範囲の10進数です。経路宛先アドレスをコマンド入力行から入力する場合には、アドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

サブネット・マスク (SUBNETMASK)

除去される経路のサブネット・マスクを指定します。

これは必須パラメーターです。

注: ネットワーク部分はサブネット・マスクの1のビットと等しくなければなりません。アドレスのホスト部分とサブネット・マスク部分の幅は両方とも最低2ビットでなければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

*HOST

経路宛先フィールドに指定されたインターネット・アドレスの値がホスト・アドレスの場合には、この値を指定してください。

サブネット・マスク

サブネット・マスクを`NNN.NNN.NNN.NNN`の形式で指定してください。ここで`NNN`は0-255の範囲の10進数です。サブネット・マスク・アドレスをコマンド入力行から入力する場合には、アドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

[トップ](#)

ネクスト・ホップ (NEXTHOP)

除去される経路のネクスト・ホップを指定します。ネクスト・ホップは`NNN.NNN.NNN.NNN`の形式で指定されます。ここで`NNN`は0-255の範囲の10進数です。ネクスト・ホップ・アドレスをコマンド入力行から入力する場合には、アドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

```
RMVIPS RTE RTEDEST('128.2.0.0') SUBNETMASK('255.255.255.128')  
NEXTHOP ('128.3.4.5')
```

このコマンドは、ネットワーク128.2と255.255.255.128のサブネット・マスクを持つサブネットワークのネットワーク経路項目を除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP264A

&2 &1は除去されなかった。

TCP8050

&1を使用するためには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

[トップ](#)

ジョブ待ち行列項目除去 (RMVJOBQE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ待ち行列項目除去 (RMVJOBQE)コマンドは、指定されたサブシステム記述からジョブ待ち行列項目を除去します。ジョブ待ち行列項目がサブシステム記述から除去される時に、そのジョブ待ち行列上のジョブは待ち行列に残っています。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - 指定されたサブシステム記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR),オブジェクト管理(*OBJMGT),および読み取り(*READ)権限と、そのサブシステム記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- 現在活動状態のいずれかのジョブがジョブ待ち行列から開始された場合には、ジョブ待ち行列項目を除去することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SBSD	サブシステム記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サブシステム記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOBQ	ジョブ待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

サブシステム記述 (SBSD)

ジョブ待ち行列項目を除去したいサブシステム記述の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サブシステム記述

名前 ジョブ待ち行列項目が除去されるサブシステム記述の名前を指定します。

注:次のIBM提供オブジェクトはこのパラメーターには正しくありません。

- QSYSSBSD

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されま
す。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライ
ブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 サブシステム記述が入っているライブラリーを指定します。

[トップ](#)

ジョブ待行列 (JOBQ)

サブシステム記述からジョブ待ち行列項目を削除したいジョブ待ち行列の名前およびライブラリーを指定し
ます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ待ち行列

名前 項目が除去されるジョブ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されま
す。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライ
ブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 そのジョブ待ち行列があるライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

例

```
RMVJOBQE  SBSDB(MYLIB/NIGHTRUN)  JOBQ(MYLIB/BATCH2)
```

このコマンドは、MYLIBのBATCH2ジョブ待ち行列を参照するジョブ待ち行列項目をライブラリーMYLIB
に保管されているNIGHTRUNサブシステム記述から除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF1619

ライブラリー&2のサブシステム記述&1に損傷がある。

CPF1691

活動サブシステム記述は変更されることも変更されないこともある。

CPF1697

サブシステム記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

ジョブ・スケジュール項目除去 (RMVJOBSCDE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジュール項目除去 (RMVJOBSCDE) コマンドによって、ジョブ・スケジュール内の項目、複数の項目、または総称項目を除去することができます。各ジョブ・スケジュール項目は1つのバッチ・ジョブと対応していて、ジョブを一度、または定期的なスケジュール間隔で自動的に実行するために必要な情報が入っています。項目が正常に除去されるとメッセージが表示され、同時にそのメッセージはジョブ・スケジュール項目に指定されたメッセージ待ち行列に送られます。

制約事項:

1. 項目を除去するには、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限のあるユーザー・プロファイルで実行する必要があります。そうでない場合は、除去できるのは追加した項目だけです。
2. このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - ライブラリーQUSRSYS中のオブジェクトQDFTJOBSCD、タイプ*JOBSCDに対する使用(*USE)権限、およびライブラリーQUSRSYSに対する実行(*EXECUTE)権限。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	総称名, 名前	必須, 定位置 1
ENTRYNBR	項目番号	000001-999999, <u>*ONLY</u> , *ALL	オプション

トップ

ジョブ名 (JOB)

ジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

総称名 ジョブ・スケジュール項目の総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。総称名を指定した場合には、その総称名で始まる名前のすべての項目 (ユーザーに権限がある場合) が除去されます。総称名を指定した場合には、ENTRYNBR(*ALL)も指定しなければなりません。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全なジョブ名と見なします。

名前 除去したいジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。

トップ

項目番号 (ENTRYNBR)

除去したいジョブ・スケジュール項目の番号を指定します。項目が正常に追加された時に送信されるメッセージには、この項目番号が入っています。また、ジョブ・スケジュール項目処理 (WRKJOBSCDE)コマンドを使用して項目番号を判別することもできます。選択した項目の項目番号を表示するには、WRKJOBSCDE画面でF11キーを押してください。

*ONLY

ジョブ・スケジュールの1つの項目だけがJOBパラメーターに指定されたジョブ名を持ちます。
*ONLYが指定され、複数の項目が指定されたジョブ名を持つ場合には、項目は除去されずに、エラー・メッセージも送信されません。

*ALL 指定されたジョブ名を持つすべての項目が除去されます。

000001から999999

除去したいジョブ・スケジュール項目の番号を指定します。

トップ

例

例1:ジョブ・スケジュール項目の除去

```
RMVJOBSCDE JOB(SAMPLE*) ENTRYNBR(*ALL)
```

このコマンドは、ジョブ名がSAMPLEで始まるすべてのジョブ・スケジュール項目を除去します。

例2:個々のジョブ・スケジュール項目の除去

```
RMVJOBSCDE JOB(PAYROLL) ENTRYNBR(*ONLY)
```

このコマンドは、ジョブ・スケジュール内のジョブPAYROLLを除去します。

例3:総称ジョブ・スケジュール項目の除去

```
RMVJOBSCDE JOB(PAY*) ENTRYNBR(*ALL)
```

このコマンドは、ジョブ・スケジュール内の、名前に接頭部PAYを持つすべての項目を除去します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1628

ジョブ・スケジュール項目&3,番号&4が見つからなかった。

CPF1629

ジョブ・スケジュール&1に対して認可されていない。

CPF1630

ジョブ・スケジュール項目&3,番号&4に対して認可されていない。

CPF1631

&3個の項目は正常に除去され、&4個の項目は除去されていない。

CPF1636

指定されたジョブ名の項目が複数検出された。

CPF1637

ライブラリー&2のジョブ・スケジュール&1は使用中。

CPF1638

ジョブ・スケジュール項目&3番号&4は使用中。

CPF1640

ライブラリー&2のジョブ・スケジュール&1は存在していません。

CPF1641

ライブラリー&2のジョブ・スケジュール&1に損傷がある。

CPF1645

指定された名前のジョブ・スケジュール項目が見つからない。

CPF1646

総称名が指定された時には項目番号は*ALLでなければならない。

[トップ](#)

ジャーナル処理済み変更除去 (RMVJRNCHG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル処理済み変更除去(RMVJRNCHG)コマンドは、特定のジャーナル処理済みオブジェクトに対してジャーナル処理された変更を除去します。ジャーナル処理された変更は、指定した開始点から終了点に達するまで、オブジェクトから除去されます。ジャーナル項目は、それらがジャーナル・レシーバーに入れられた順序とは逆の順序（最も新しいものから古いものへ）で処理されます。開始点は、指定されたジャーナル・レシーバー範囲の最後のジャーナル項目、オブジェクトが最後に保管された点、またはレシーバー範囲の特定の項目として示すことができます。終了点は、指定されたジャーナル・レシーバー範囲の最初のジャーナル項目または特定の項目、あるいはオブジェクトが指定のジョブによって最後にオープンされた点として示すことができます。保留中の変更を処理するために、CMTBDYパラメーターを使用できます。

注: RMVJRNCHGによって処理されるデータベース・オブジェクト・レベルの変更はありません。

注: ジャーナル表示(DSPJRN)コマンドを使用して、所要の開始点および終了点を判別することができます。

ジャーナル処理済みオブジェクトのリストが指定されます。すべてのオブジェクトのジャーナル処理済み変更は、ジャーナルでジャーナル項目が見つかった順序（オブジェクトに対して始めに変更が行われた時とは逆の順序）で除去されます。

ジャーナル・コードJ項目タイプSX (JRNSTATE(*STANDBY)終了) 項目が見つかった場合には、指定されたOBJERROPT値とは無関係に、指定されたすべてのオブジェクトに関する操作が終了します。オブジェクトは、ジャーナル項目から部分的に更新されるだけである可能性があります。

さらに、ジャーナル項目にコマンドが再生できない操作がリストされていると、コマンドは個々のオブジェクトについて終了する可能性があります。これが起こっても、OBJERROPT(*CONTINUE)が使用されていれば、指定された他のオブジェクトについて操作が続行されます。たとえば、次のいずれかが起こったことを示すジャーナル項目が見つかったと、オブジェクトに対するコマンドは終了します。

- 物理データベース・ファイルが消去されている
- 物理データベース・ファイル・メンバーが保管されていて、その記憶域が解放されている
- ジャーナル初期プログラム・ロード(IPL)の同期が正常に行われていない
- システムが、ジャーナル変更適用(APYJRNCHG)コマンドまたはRMVJRNCHGコマンドによってすでに変更を適用しているかあるいは変更を除去している。

各種の項目の完全なリストと、コマンドを停止する可能性がある項目も含めて、このコマンドによる項目の処理方法については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。

コマンドは非論理的な条件でもオブジェクトについて終了します。コマンドが非論理的な条件のために終了していても、操作を再開することが論理的に可能な場合には、新しい開始順序番号を指定し、そのオブジェクトに対してコマンドをもう一度出すことができます。しかし、ほとんどの非論理的な条件は、間違ったジャーナル項目での除去の開始の結果であることに注意してください。

順序番号がリセットされている場合にも、ジャーナル項目を除去することができます。システムはこの状態を処理し、通知メッセージを送って、ジャーナル処理済み変更の除去を続行します。

制約事項:

- このコマンドは共用*EXCLUDE権限と一緒に出荷されていて、QPGMRおよびQSRVユーザー・プロファイルにはこのコマンドを使用するための専用認可があります。
- このコマンドに指定されるオブジェクトは、その変更が現在ジャーナル処理されていないと、このコマンドに示されている期間中に指定されたジャーナルにジャーナル処理されていないとなりません。
- 変更前イメージがオブジェクトに必要です。該当する開始ジャーナル処理コマンドを参照してください。
- コマンドに指示されているオブジェクトは、変更が除去されている間に独占的に割り当てられます。オブジェクトが独占的に割り振られない場合には、コマンドは終了し、ジャーナル処理された変更はオブジェクトから除去されません。
- FROMENTLRG, FROMENT, TOENTLRG,またはTOENTパラメーターに指定された項目を表すジャーナル項目がない場合には、コマンドは終了し、ジャーナル処理済みの変更はオブジェクトから除去されません。
- ジャーナルの順序番号が指定されたレシーバーの範囲内にリセットされていて、FROMENTLRG, FROMENT, TOENTLRG, またはTOENTパラメーターに順序番号が指定されている場合には、いずれかのパラメーターに指定されている順序番号の最初のオカレンスが使用されます。
- 指定されたレシーバー範囲内の1つまたは複数のジャーナル・レシーバーが、このデータを省略しているレシーバー・サイズ・オプション(RCVSIZOPT)または固定長データ・オプション(FIXLENDTA)が有効なジャーナルに接続されている場合には、TOJOBOPARAMETERを使用してジャーナル処理された変更の除去操作を終了する時点を指定することはできません。
- 変更が除去されるオブジェクトが記録オープンおよびクローズ項目でない場合には、TOJOBOPARAMETERを使用することはできません。詳細については、STRJRN, STRJRNPF,およびCHGJRNOBJコマンドのジャーナル項目除外(OMTJRNE)パラメーターを参照してください。
- リモート・ジャーナルでは、あるいはリモート・ジャーナルに関してはこのコマンドは使用することができません。
- このコマンドで変更を除去できるオブジェクトの最大数は12,000,000です。12,000,000を超えるオブジェクトを指定に含めると、エラー・メッセージが送られて、変更は除去されません。このパラメーターに指定された値は、限界を超えないように変更することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JRN	ジャーナル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ジャーナル・ファイル識別	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 位置 2
	要素 1: ジャーナルされた物理ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ジャーナルされた物理ファイル	名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前, *ALL, *FIRST	
OBJ	オブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	*FILE, *DTAARA	
	要素 3: データベース・ファイルの場合にメンバー	名前, *ALL, *FIRST	
RCVRNG	ジャーナル・レシーバーの範囲	単一値: *CURRENT, *LASTSAVE その他の値: 要素リスト	オプション, 位置 3
	要素 1: 開始ジャーナル・レシーバー	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 開始ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: 終了ジャーナル・レシーバー	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 終了ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FROMENTLRG	大きい開始順序番号	文字値, *LAST, *LASTSAVE	オプション
TOENTLRG	大きい終了順序番号	文字値, *FIRST, *COMMITSTART	オプション
TOJOB0	完全に修飾されたジョブ名	修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: 完全に修飾されたジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
CMTBDY	コミットメント境界	*YES, *NO	オプション
OPTION	オプション	*NONE, *IGNINQMSG	オプション
OBJERROPT	オブジェクト・エラー・オプション	*CONTINUE, *END	オプション
OUTPUT	出力	*NONE, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

キーワード	記述	選択項目	注
DETAIL	詳細	*ALL, *ERR	オプション
FROMENT	開始順序番号	1-999999999, *LAST, *LASTSAVE	オプション
TOENT	終了順序番号	1-999999999, *FIRST, *COMMITSTART	オプション

トップ

ジャーナル (JRN)

除去するジャーナル項目が入っているジャーナルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジャーナル

ジャーナル名

ジャーナルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ジャーナル・ファイル識別 (FILE)

ジャーナル項目が除去される最大300の物理データベース・ファイルを指定します。ジャーナル処理された変更が除去される物理ファイル内のメンバーも指定することができます。

ジャーナル・ファイル識別 (FILE)パラメーターかオブジェクト (OBJ)パラメーターを指定する必要があります (両方は指定しないでください)。

要素1: ジャーナルされた物理ファイル

修飾子1: ジャーナルされた物理ファイル

ALL** ジャーナル処理された変更は、指定したジャーナルに対して変更がジャーナル処理されている指定したライブラリーのすべての物理ファイルから除去されます。ライブラリー名を指定しなければなりません。ALL**が指定されていて、すべてのオブジェクトに対して必要な権限を持っていない場合には、エラー・メッセージが送られ、コマンドは終了します。

ファイル名

ジャーナル処理された変更が除去されるデータベース物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: メンバー

ジャーナル処理された変更が除去されるファイルのメンバーの名前を指定します。このパラメーターの最初の要素に*ALLを指定した場合には、ライブラリー中の適用可能なすべてのファイルにメンバー名に指定された値が使用されます。たとえば、メンバー名として*FIRSTを指定した場合には、ジャーナル変更はライブラリー中の適用可能なすべてのファイルの最初のメンバーから除去されます。

***ALL** ジャーナル処理の変更は、ファイルのすべてのメンバーから除去されます。

***FIRST**

ジャーナル処理の変更は、ファイルの最初のメンバーから除去されます。

メンバー名

ジャーナル処理の変更が除去されるファイルのメンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

オブジェクト (OBJ)

ジャーナル項目が除去される最大300のオブジェクトを指定します。ジャーナル項目を除去するファイルのメンバー名を指定することもできます。

ジャーナル・ファイル識別 (FILE)パラメーターかオブジェクト (OBJ)パラメーターを指定する必要があります (両方は指定しないでください)。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

***ALL** 指定のジャーナルにジャーナル処理される変更を持つ指定タイプの指定ライブラリーにあるすべてのオブジェクトでは、ジャーナル項目が除去されます。ライブラリー名を指定しなければなりません。*ALLが指定されていて、すべてのオブジェクトに対して必要な権限を持っていない場合には、エラー・メッセージが送られ、コマンドは終了します。

オブジェクト名

ジャーナル項目が除去されるオブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: オブジェクト・タイプ

ジャーナル項目が除去されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

***FILE** データベース・ファイル・メンバーの項目が除去されます。

***DTAARA**

データ域の項目が除去されます。

要素3: データベース・ファイルの場合にメンバー

そのジャーナル項目が除去されるファイルのメンバーの名前を指定します。このパラメーターの最初の要素に*ALLを指定した場合には、ライブラリー中の適用可能なすべてのファイルにメンバー名に指定された値が使用されます。たとえば、メンバー名として*FIRSTを指定した場合には、ジャーナル変更はライブラリー中の適用可能なすべてのファイルの最初のメンバーから除去されます。

注: 指定のオブジェクト・タイプが*FILEではない場合は、メンバー名要素値は無視されます。

***ALL** ジャーナル項目は、ファイルのすべてのメンバーから除去されます。

***FIRST**

ジャーナル項目は、ファイルの最初のメンバーから除去されます。

メンバー名

ジャーナル項目が除去されるファイルのメンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)

ジャーナル処理された変更を除去する際に使用される開始および終了ジャーナル・レシーバーを指定します。システムは開始ジャーナル・レシーバー（最初の値で指定されている）を使用して除去操作を開始し、終了レシーバー（最後の値で指定されている）が処理されるまで、レシーバーの連鎖の中で操作を続行します。パラメーターに指定されている値は、ジャーナル・レシーバーを、それらがジャーナルに接続された順序とは逆の順序で表します。

注: レシーバーの範囲に含めることのできるレシーバーの最大数は1024です。指定された範囲の中に1024を超えるレシーバーが含まれている場合には、エラー・メッセージが送られ、変更は適用されません。このパラメーターに指定された値は、限界を超えないように変更することができます。

単一値

***CURRENT**

ジャーナル項目の除去を開始する時点で接続されているジャーナル・レシーバーが使用されます。

***LASTSAVE**

使用されるジャーナル・レシーバーの範囲は、記録された変更を除去するオブジェクトに関する情報を保管した結果として、システムによって決定されます。このパラメーター値が有効なのは、

***LASTSAVE**が**開始順序番号 (FROMENT)**パラメーターおよび**大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)**パラメーターにも指定されている場合だけです。

要素1: 開始ジャーナル・レシーバー

修飾子1: 開始ジャーナル・レシーバー

開始ジャーナル・レシーバー

ジャーナル処理された変更を除去する最初の（一番新しい）レシーバーとして使用されるジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーを指定します。

要素2: 終了ジャーナル・レシーバー

修飾子1: 終了ジャーナル・レシーバー

終了ジャーナル・レシーバー

ジャーナル処理された変更を除去する最後の（一番古い）レシーバーとして使用されるジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。この名前のレシーバーが見つかる前にレシーバー連鎖の終わりに達した場合には、操作は終了します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーを指定します。

トップ

大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)

ジャーナル処理されたファイル変更を除去するための開始点として使用するジャーナル項目を指定します。

注: 開始順序番号 (FROMENT)パラメーターか大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

*LAST

ジャーナル処理の変更は、指定されたレシーバー範囲の最後のジャーナル項目から開始して除去されることを指定します。

*LASTSAVE

最終保管操作の前の最後のジャーナル項目からジャーナル項目が除去されます。システムは、このコマンドで指定されたオブジェクトのそれぞれに対して実際の開始位置を決定します。パラメーター値は、オブジェクトがシステムに復元されたことだけを示します。

復元されたオブジェクトのバージョンが活動中保管機能を使用して保管されたバージョンであった場合には、これが実際にオブジェクトの最後の保管であったかどうかとは無関係に、システムは、対応する保管の開始項目からの変更の除去を開始します。活動中保管を使用している場合には、ジャーナル処理された変更の除去に必要な情報がオブジェクトとともに保管され、復元されます。除去コマンドに指定されたすべてのオブジェクトが、活動中保管を使用した保管バージョンから復元された場合には、システムはすべてのジャーナル・レシーバーをスキャンして、オブジェクトの保管点を見つける必要がなくなります。これによって、除去処理のパフォーマンスを向上させることができます。

復元されたオブジェクトのバージョンが使用中でない時に保管されたバージョン（通常保管）であった場合には、システムは、また、システムに復元されるオブジェクトの保管バージョンの日付および時刻が、ジャーナルで指示されているように、そのオブジェクトが最後に保管された日付および時刻と同じであるかどうかを検査します。

日付および時刻が一致しない場合には、項目は除去されずに、ユーザーまたはシステム操作員に照会メッセージが送られ、取り消しまたは無視の応答が要求されます。メッセージに対して無視で応答した場合には、操作が試行されます。取り消しの応答では操作が終了されることになり、ジャーナル項目は除去されません。

活動時保管機能でオブジェクトの最終保管を行った場合は、各オブジェクトの保管済みコピーには、ジャーナル項目のすべての変更（対応する保管の開始ジャーナル項目まで）が入っています。この場合には、システムは保管の開始項目が前にある最初のジャーナル項目で開始して、変更を除去します。

オブジェクトが使用中でない時に最終保管した場合（通常保管）には、各オブジェクトの保管済みコピーに、ジャーナル項目の対応するオブジェクト保管済みジャーナル項目までのすべての変更が含まれています。この場合には、システムはオブジェクト保管項目が前にある最初のジャーナル項目で開始して、変更を除去します。

注：保管コマンドのSAVACTWAITパラメーターの2番目の要素として*NOCTBDYを指定して保管されたデータベース・ファイル・メンバーがあり、それが現在ジャーナル処理済み変更の適用が必要な状態である場合には、*LASTSAVEを指定しなければなりません。

開始順序番号

ジャーナル処理の変更が指定されたオブジェクトから除去される時に処理される最初のジャーナル項目の順序番号を指定します。受け入れ可能な範囲は1から18,446,744,073,709,551,600です。

[トップ](#)

大きい終了順序番号 (TOENTLRG)

ジャーナル処理された変更を除去するための終了点として使用するジャーナル項目を指定します。

注：終了順序番号 (TOENT)パラメーターか大きい終了順序番号 (TOENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

***FIRST**

ジャーナル項目が、指定されたレシーバー範囲の最初の項目が処理されるまで除去されます。

***COMMITSTART**

この値を指定するには、FROMENTLRG(*LASTSAVE)かFROMENT(*LASTSAVE)のいずれかをCMTBDY(*YES)と一緒に指定する必要があります。最後の保管ジャーナル項目から開始すると、部分トランザクションのジャーナル項目に対する変更だけが除去されて、コミット・トランザクシ

ンの先頭に戻ります。このオプションは、復元されたオブジェクトのバージョンが部分トランザクションによって保管されたバージョンであり、ジャーナル処理済み変更の適用(APYJRNCHG)が必要でない場合にのみ使用することができます。

終了順序番号

指定されたオブジェクトから除去される最後のジャーナル処理変更の順序番号を指定します。受け入れ可能な範囲は1から18,446,744,073,709,551,600です。

トップ

完全に修飾されたジョブ名 (TOJOB0)

指定するオブジェクトをオープンする時には、このコマンドによってジャーナル項目の除去を終了するジョブのジョブIDを指定します。たとえば、指定したジョブはジョブがファイル・メンバーをオープンする時にエラーの原因と考えられる可能性もあります。指定のオブジェクトで見つかった最初のジョブ・オープン項目が、指定されたすべてのオブジェクトの終了点です。

このパラメーターは特定のジョブのジャーナル項目を除去するために使用することはできません。すべてのジョブのすべての項目が除去されます。

タイプ*FILEのオブジェクトだけに、ジョブ・オープンに関連したジャーナル項目があります。変更が除去されるオブジェクトが記録オープンおよびクローズ項目でない場合には、TOJOB0パラメーターを使用することはできません。詳細については、STRJRN、STRJRNPF、およびCHGJRNOBJコマンドのジャーナル項目除外(OMTJRNE)パラメーターを参照してください。

その他の値

ジョブID

ジョブ名、ユーザー名、および使用するジョブのジョブ番号を指定してください。ジョブ名だけまたはジョブ名とユーザー名を使用するように指定することもできます。

ジョブ名

ジョブのジョブ名を指定してください。

ユーザー名

ジョブのユーザー名を指定してください。

ジョブ番号

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

トップ

コミットメント境界 (CMTBDY)

ジャーナル処理された変更が除去されることになるジャーナル項目がコミットメント制御の論理作業単位(LUW)の一部である時に、コミットメント境界が尊重されるかどうかを指定します。コミットメント制御の使用の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「データベース」情報にあります。

注: このパラメーターの記述を目的として、TOENTLRG、TOENT、またはTOJOB0パラメーターのいずれかが指定されても、それを記述するためにTOオプションが使用されます。

***YES** ジャーナル項目は、コミットメント境界を尊重して、FROMENTLRGまたはFROMENTパラメーターに指定されている項目からTOオプションで指示された項目に除去されます。FROMENTLRGまたはFROMENTパラメーターはコミットメント境界にある地点を識別しなければなりません。

- FROMENTLRGまたはFROMENTパラメーターに指定されているジャーナル項目が、それが関与するLUWの間にある場合には、エラー・メッセージが送られ、操作は試みられません。
- TOオプションで指示されたジャーナル項目がそのLUWの間にある場合には、そのジャーナル項目の前のコミットメント境界で操作が停止します。操作の終了時に診断メッセージが送られません。

注: TOオプションで指示された項目の前で操作が終了する原因となるジャーナル項目が見つかった場合には、コミットメント境界が尊重されていない可能性があります。

***NO** ジャーナル項目は、コミットメント境界に関係なく、FROMENTLRGまたはFROMENTパラメーターに指定されている項目からTOオプションで指示された項目に除去されます。この範囲内にあるジャーナル項目がLUWの構成要素であったとしても、操作は実行されます。

注: CMTBDY(*NO)が指定され、適用先のオブジェクトが部分トランザクションを含む保管バージョンから復元されていた場合には、それらの部分トランザクションに対する保留中の変更は、そのトランザクションが指定された範囲内で完了しなければ除去されません。オブジェクトが使用可能なのは、すべての保留中のトランザクションが指定された範囲内で完了した場合だけです。

トップ

オプション (オプション)

ジャーナル変更を除去する前に追加の検査を実行する必要があるかどうかを指定します。

***NONE**

ジャーナル変更が除去される前に、すべての保護検査が実行されます。

***IGNINQMSG**

照会メッセージを無視します。適用されるオブジェクトがオブジェクトの最後の保管からのものではない場合であっても、照会メッセージCPA7050はユーザーに提供されません。除去操作は続行されます。

トップ

オブジェクト・エラー・オプション (OBJERROPT)

エラー状態が検出された場合に、ジャーナル項目の処理をどのように進める必要があるかを指定します。

***CONTINUE**

特定のオブジェクトのジャーナル項目を処理できないことが検出された場合には、そのオブジェクトのその他残りのジャーナル項目も処理されません。他のオブジェクトのジャーナル項目の処理は続行されます。そのオブジェクトのジャーナル処理済み変更の処理は正常に行われなかったことを示す診断メッセージが送られます。特定のオブジェクトについて処理が早期に終了したことを示す指示が、どの出力ファイル・レコードにも入れられます。

***END** 最初のジャーナル項目を処理できないことが検出された場合には、すべてのオブジェクトについて処理が終了します。

トップ

出力 (OUTPUT)

変更が除去される先のオブジェクトに関する情報のリストが作成されるかどうかを指定します。この情報はデータベース・ファイルに送ることができます。

*NONE

出力によるデータベース・ファイルは作成されません。処理の正常な完了に失敗した最初の512個のオブジェクトに関するメッセージがジョブ・ログに送られます。

*OUTFILE

除去操作に関する出力情報は、**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

*OUTFILEが出力 (OUTPUT)パラメーターに指定されている場合に情報の送り先となるデータベース・ファイルを指定します。このファイルが存在しない場合には、このコマンドが指定したライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。新規ファイルを作成する場合に、システムはモデルとしてQSYS内のQAJRNCHGを形式名QJOAPYRMで使用します。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

データベース・ファイル名

コマンドからの出力が指示されるデータベース・ファイルの名前を指定してください。このファイルが存在していない場合には、指定したライブラリーに作成されます。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバ

ーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR（メンバー名）が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそのメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終りに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

[トップ](#)

出力情報のタイプ (DETAIL)

スプール・ファイルに送られる情報のタイプを指定します。

***ALL** ファイルには、コマンドに関する情報と、コマンドに指定されたオブジェクトの選択と一致した各オブジェクトごとに1つの項目が入れます。

***ERR** ファイルには、コマンドに関する情報と、ジャーナル処理された変更の除去が早期に終了した各オブジェクトに関する項目のみが入れます。

[トップ](#)

開始順序番号 (FROMENT)

ジャーナル処理されたファイル変更を除去するための開始点として使用するジャーナル項目を指定します。

注: 開始順序番号 (FROMENT)パラメーターか大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

***LAST**

ジャーナル処理の変更は、指定されたレシーバー範囲の最後のジャーナル項目から開始して除去されることを指定します。

***LASTSAVE**

最終保管操作の前の最後のジャーナル項目からジャーナル項目が除去されます。システムは、このコマンドで指定されたオブジェクトのそれぞれに対して実際の開始位置を決定します。パラメーター値は、オブジェクトがシステムに復元されたことだけを示します。

復元されたオブジェクトのバージョンが活動中保管機能を使用して保管されたバージョンであった場合には、これが実際にオブジェクトの最後の保管であったかどうかとは無関係に、システムは、対応する保管の開始項目からの変更の除去を開始します。活動中保管を使用している場合には、ジャーナル処理された変更の除去に必要な情報がオブジェクトとともに保管され、復元されます。除去コマンドに指定されたすべてのオブジェクトが、活動中保管を使用した保管バージョンから復元

された場合には、システムはすべてのジャーナル・レシーバーをスキャンして、オブジェクトの保管点を見つける必要がなくなります。これによって、除去処理のパフォーマンスを向上させることができます。

復元されたオブジェクトのバージョンが使用中でない時に保管されたバージョン（通常保管）であった場合には、システムは、また、システムに復元されるオブジェクトの保管バージョンの日付および時刻が、ジャーナルで指示されているように、そのオブジェクトが最後に保管された日付および時刻と同じであるかどうかを検査します。

日付および時刻が一致しない場合には、項目は除去されずに、ユーザーまたはシステム操作員に照会メッセージが送られ、取り消しまたは無視の応答が要求されます。メッセージに対して無視で応答した場合には、操作が試行されます。取り消しの応答では操作が終了されることになり、ジャーナル項目は除去されません。

活動時保管機能でオブジェクトの最終保管を行った場合は、各オブジェクトの保管済みコピーには、ジャーナル項目のすべての変更（対応する保管の開始ジャーナル項目まで）が入っています。この場合には、システムは保管の開始項目が前にある最初のジャーナル項目で開始して、変更を除去します。

オブジェクトが使用中でない時に最終保管した場合（通常保管）には、各オブジェクトの保管済みコピーに、ジャーナル項目の対応するオブジェクト保管済みジャーナル項目までのすべての変更が含まれています。この場合には、システムはオブジェクト保管項目が前にある最初のジャーナル項目で開始して、変更を除去します。

注：保管コマンドのSAVACTWAITパラメーターの2番目の要素として*NOCMTBDYを指定して保管されたデータベース・ファイル・メンバーがあり、それが現在ジャーナル処理済み変更の適用が必要な状態である場合には、*LASTSAVEを指定しなければなりません。

開始順序番号

ジャーナル処理の変更が指定されたオブジェクトから除去される時に処理される最初のジャーナル項目の順序番号を指定します。受け入れ可能な範囲は1から9,999,999,999です。

[トップ](#)

終了順序番号 (TOENT)

ジャーナル処理された変更を除去するための終了点として使用するジャーナル項目を指定します。

注：終了順序番号 (TOENT)パラメーターか大きい終了順序番号 (TOENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

***FIRST**

ジャーナル項目が、指定されたレシーバー範囲の最初の項目が処理されるまで除去されます。

***COMMITSTART**

この値を指定するには、FROMENTLRG(*LASTSAV)かFROMENT(*LASTSAV)のいずれかをCMTBDY(*YES)と一緒に指定する必要があります。最後の保管ジャーナル項目から開始すると、部分トランザクションのジャーナル項目に対する変更だけが除去されて、コミット・トランザクションの先頭に戻ります。このオプションは、復元されたオブジェクトのバージョンが部分トランザクションによって保管されたバージョンであり、ジャーナル処理済み変更の適用(APYJRNCHG)が必要でない場合にのみ使用することができます。

終了順序番号

指定されたオブジェクトから除去される最後のジャーナル処理変更の順序番号を指定します。受け入れ可能な範囲は1から9,999,999,999です。

トップ

例

```
RMVJRNCHG JRN(JRNA) FILE((LIB2/PAYROLL JAN))  
RCVRNG(RCV25 RCV22) TOENT(*FIRST)
```

このコマンドによって、システムはレシーバーRCV25から始まってレシーバーRCV22で終わるジャーナル・レシーバー・チェーンに見つかったライブラリーLIB2のファイルPAYROLLのメンバーJANから、ジャーナルJRNAに見つかったすべてのジャーナル処理された変更を除去します。ジャーナルJRNAとレシーバーRCV25およびRCV22を検索するために、ライブラリー検索リスト*LIBLが使用されます。

除去操作は、レシーバー連鎖上で最後にジャーナル処理された変更で始まり、最初にジャーナル処理された項目で終わります。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF69A9

内部エラーが検出されました。エラー・コードは&2です。

CPF69AA

STG(*FREE)で保管されたオブジェクト&1を参照できない。

CPF69AB

RCVRNGパラメーターの値が正しくない。

CPF70A7

少なくとも1つのオブジェクトで適用または除去されなかった項目がある。

CPF70A8

ライブラリー&2のファイル&1は使用できない。

CPF70AA

FROMENT(*LASTSAVE)を指定する必要がある。

CPF70AB

ライブラリー&2のジャーナル・レシーバー&1が見つからない。

CPF70CC

ジャーナル項目&7を超えて操作を実行することはできない。

CPF70CD

ジャーナル項目&7を超えて操作を実行することはできない。

CPF70CE

ジャーナル項目&7を超えて操作を実行することはできない。

CPF70EB

メンバー&3で参照制約エラー。

CPF70EC

参照制約にエラー。理由コードは&9です。

CPF70EE

メンバー&3でエンコード・ベクトル・アクセス・パスの最大数。

CPF7002

ライブラリー&2のファイル&1が物理ファイルではない。

CPF7003

項目はジャーナル&1にジャーナル処理されなかった。理由コードは&3です。

CPF7006

メンバー&3が&2のファイル&1に見つからない。

CPF7007

&2のファイル&1のメンバー&3を割り振ることができない。

CPF701B

中断された操作のジャーナルの回復が行なわれなかった。

CPF704A

メンバー&3のレコード長が正しくない。

CPF704F

TOJOB0またはTOJOB0Cパラメーターはレシーバー範囲に正しくない。

CPF7041

ジョブ&3/&2/&1の項目が見つからない。

CPF7042

オブジェクトがジャーナル処理されていないか、あるいは別のジャーナルにジャーナル処理されている。

CPF7044

ジャーナル処理済み項目の適用または除去は正常に行なわれなかった。理由コードは&7です。

CPF7045

&2のジャーナル・レシーバー&1が部分的に損傷している。

CPF7046

メンバー&3に重複キーを使用することはできない。

CPF7047

&2のファイル&1のメンバー&3がいっぱいである。

CPF7048

メンバー&3へのジャーナル処理された変更を実行することができない。

CPF7049

ジャーナル項目&7を超えて操作を実行することはできない。

CPF7051

*&6オブジェクトの保管項目が見つかりませんでした。

CPF7052

メンバー&3の論理ファイルに選択／除外の障害がある。

CPF7053

RCVRNGパラメーターの値が正しくない。理由コードは&1です。

CPF7054

FROMとTOの値が正しくない。

CPF7056

オブジェクト&1は変更前イメージでジャーナル処理されていない。

CPF7057

*LIBLとFILE(*ALL)またはOBJ(*ALL)と一緒に指定することはできない。

CPF7058

ジャーナル処理された項目の適用または除去操作が正常に行なわれなかった。

CPF705A

リモート・ジャーナルのために操作が正常に行なわれていない。

CPF7063

OUTFILEとしてファイル&1を使用することはできない。

CPF7067

FROMENTLRGまたはFROMENTオプションが正しくない。コミットの境界違反です。

CPF7068

適用または除去操作に必要な項目が見つからない。

CPF7069

ジャーナル&1を使用して適用または除去する項目がない。

CPF7077

メンバー&3でキー・マッピング・エラー。

CPF7078

メンバー&3の変更を適用または除去することはできない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

LANアダプター情報の除去 (RMVLANADPI)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ローカル・エリア・ネットワーク・アダプター情報除去(RMVLANADPI)コマンドは、アダプター・ファイルからアダプター名項目を除去します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ADPTNAME	アダプター	名前, *ADPTADR	必須, 定位置 1
ADPTADR	アダプター アドレス	000000000001-7FFFFFFFFF	オプション

[トップ](#)

アダプター (ADPTNAME)

アダプター・ファイルから除去する項目の名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ADPTADR

除去するアダプター項目を識別するためにアダプター・アドレスが使用されます。

アダプター名

除去するアダプター項目の名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

アダプターアドレス (ADPTADR)

12文字の16進数アダプター・アドレスを指定します。

[トップ](#)

例

```
RMVLANADPI ADPTNAME(PAYROLL)
```

このコマンドは、アダプターPAYROLLをアダプター・ファイルから除去します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8B43

ネットワーク・アダプター・ファイルからのアダプター&29の除去要求が正常に実行されなかった。アダプターが見つかりません。

CPF8B44

アダプター・アドレスが必要である。

CPF8B62

回線&23のアダプター&29の除去が正常に実行されなかった。ネットワーク・アダプター・ファイルにアダプターが見つかりません。

CPF8B68

回線記述&23が見つからない。

CPF8B74

活動アダプターの表示要求が正常に実行されなかった。

CPF8B75

ネットワーク・アダプター・ファイルにアダプター項目がない。

CPF8B76

アダプターの機能アドレスがない。

LANアダプターの除去 (RMVLANADPT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ローカル・エリア・ネットワーク・アダプター除去(RMVLANADPT)コマンドは、オンに構成変更された回線記述から、活動状態のローカル・エリア・ネットワーク(LAN) アダプターを除去します。

制約事項:

1. このコマンドを使用できるのは、QSECOFR権限を持つユーザーだけです。
2. このコマンドが有効なのは、QSECOFR権限を持つ、制御モードにあるLAN管理機能の場合だけです。

注: LAN管理機能のモード（制御または監視）は、回線記述の作成（トークンリング・ネットワーク）(CRTLINTRN)または回線記述の変更（トークンリング・ネットワーク）(CHGLINTRN)コマンドを使用して回線を作成または変更する時に、TRNMGRMODEパラメーターで設定されます。

注意: このコマンドを使用して活動アダプターを除去すると、ワークステーションや他のシステムなど接続されているプロダクトとの通信が失われます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LINE	回線記述	名前	必須, 定位置 1
ADPTNAME	アダプター	名前, *ADPTADR	必須, 定位置 2
ADPTADR	アダプター アドレス	16 進値	オプション

[トップ](#)

回線記述 (LINE)

除去するアダプターに接続された回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

アダプター (ADPTNAME)

除去するアダプターの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ADPTADR

アダプターを識別するために、アダプター・アドレスが使用されます。

アダプター名

除去するアダプターの名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

アダプターアドレス (ADPTADR)

12文字の16進数アダプター・アドレスを指定します。

[トップ](#)

例

```
RMVLANADPT  LINE(CHGBRANCH) ADPTNAME(*ADPTADR)
              ADPTADR(000000001BFF)
```

このコマンドは、000000001BFFというアドレスのアダプターを回線記述CHGBRANCHから除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8B44

アダプター・アドレスが必要である。

CPF8B47

回線&23でアダプター&29の除去要求が正常に実行されなかった。

CPF8B49

回線&23でネットワーク・アダプター&29を除去することができない。

CPF8B50

回線&23でアダプター&29を除去することができない。

CPF8B68

回線記述&23が見つからない。

CPF8B70

ネットワーク回線記述&23はオンに構成変更されなかった。

CPF8B74

活動アダプターの表示要求が正常に実行されなかった。

CPF8B75

ネットワーク・アダプター・ファイルにアダプター項目がない。

CPF8B76

アダプターの機能アドレスがない。

[トップ](#)

ライブラリー・リスト項目除去 (RMVLIBLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリー・リスト項目除去(RMVLIBLE)コマンドは、ライブラリーを現行スレッドのライブラリー・リストのユーザー部分から除去します。ユーザー部分は、ライブラリー・リストの最後の部分です。これは、システム部分の後に続き、プロダクト・ライブラリーおよび現行ライブラリー項目が存在すればその後に続きます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

現行スレッドのライブラリー・リストのユーザー部分から除去されるライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 現行スレッドのライブラリー・リストのユーザー部分から除去されるライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
RMVLIBLE LIB(TESTLIB)
```

このコマンドは、ライブラリーTESTLIBをライブラリー・リストのユーザー部分から除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2103

ライブラリー&1はすでにライブラリー・リストに存在している。

CPF2104

ライブラリー&1はライブラリー・リストから除去されない。

CPF2106

ライブラリー・リストが使用可能でない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2118

ライブラリー&1は追加されなかった。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

[トップ](#)

ライセンス・キー情報の除去 (RMVLICKEY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライセンス・キー情報の除去(RMVLICKEY)コマンドは、キーによる承諾付きのプロダクトのライセンス・リポジトリからソフトウェア・ライセンス・キー情報を除去するために使用することができます。「キーによる承諾」付きのプロダクトでは、ユーザーはライセンス情報の使用限界または満了日を変更するために、ソフトウェア販売会社からのソフトウェア・ライセンス・キーを持っている必要があります。

リポジトリからライセンス情報を除去しても、導入されたライセンスには影響がありません。このシステムで現在プロダクトのアクセスに使用されているライセンスは有効であり使用可能です。

制約事項:このコマンドは*EXCLUDE権限を共通認可として出荷されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LICKEYINP	ライセンス・キー入力	* <u>LICKEYFILE</u> , *PROMPT	オプション、位置 1
PRDID	プロダクト識別コード	文字値, *ALL	オプション、位置 2
LICTRM	ライセンス条件	文字値, * <u>ALL</u>	オプション、位置 3
FEATURE	機能	文字値, * <u>ALL</u>	オプション、位置 4
SERIAL	システム製造番号	文字値, * <u>LOCAL</u> , *REMOTE, *ALL	オプション
LICKEYFILE	ライセンス・キー・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ライセンス・キー・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u> , *CURLIB	
LICKEYMBR	ライセンス・キー・メンバー	名前, * <u>FIRST</u> , *LAST	オプション

トップ

ライセンス・キー入力 (LICKEYINP)

除去するソフトウェア・ライセンス・キー情報の指定方法を指定します。

*LICKEYFILE

ソフトウェア・ライセンス・キー情報は、LICKEYFILEパラメーターで指定されたファイルから取り出されます。

*PROMPT

ソフトウェア・ライセンス・キー情報はプロンプトによって指定されます。

[トップ](#)

プロダクト識別コード (PRDID)

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を除去するプロダクトの7桁のIDを指定します。

***ALL** すべてのプロダクトIDのソフトウェア・ライセンス・キー情報が除去されます。

総称プロダクトID*

除去するプロダクトの総称IDを指定してください。総称プロダクトIDは、総称名と同じように指定されます。

総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていないければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

プロダクトID

プロダクトの7桁のIDを指定してください。

[トップ](#)

ライセンス条件 (LICTRM)

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を除去するライセンス条件を指定します。

***ALL** システムで見つかったすべてのライセンス条件のソフトウェア・ライセンス・キー情報が除去されます。

ライセンス条件

ライセンス条件をVX, VXRY,またはVXRYMZの形式で指定してください。この場合に、XまたはYは0から9の数字、Zは0から9の数字またはAからZの文字とすることができます。

[トップ](#)

機能 (FEATURE)

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を除去するPRDIDパラメーターで指定したプロダクトの機能を指定します。

***ALL** プロダクトのすべての機能のソフトウェア・ライセンス・キー情報が除去されます。

機能 ソフトウェア・ライセンス・キー情報を除去する機能の番号を指定してください。

[トップ](#)

システム製造番号 (SERIAL)

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を除去するシステムの製造番号を指定してください。

***LOCAL**

ローカル・システムのソフトウェア・ライセンス・キー情報が除去されます。

***REMOTE**

除去されるソフトウェア・ライセンス・キー情報はリモート・システムの用のものだけで、**ライセンス・キー入力(LICKEYINP)**パラメーターに指定された値によって異なります。

- **LICKEYINP(*PROMPT)**が指定された場合には、すべてのリモート・システムのソフトウェア・ライセンス・キー情報が除去されます。
- **LICKEYINP(*LICKEYFILE)**が指定された場合には、**LICKEYFILE**パラメーターに指定されたファイル内に命名されたリモート・システムのソフトウェア・ライセンス・キー情報が除去されま

***ALL** 除去されるソフトウェア・ライセンス・キー情報はすべてのシステム用のもので、**LICKEYINP**パラメーターに指定された値によって異なります。

- **LICKEYINP(*PROMPT)**が指定された場合には、すべてのシステムのソフトウェア・ライセンス・キー情報が除去されます。
- **LICKEYINP(*LICKEYFILE)**が指定された場合には、**LICKEYFILE**パラメーターに指定されたファイル内に命名されたすべてのリモート・システムのソフトウェア・ライセンス・キー情報が除去されます。

システム製造番号

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を除去するシステムの製造番号を指定してください。

トップ

ライセンス・キー・ファイル (LICKEYFILE)

除去するソフトウェア・ライセンス・キー情報が入っているファイルの修飾名を指定します。この入力ファイルは、**QSYS/QALZAKEY**の形式でなければならず、**ライセンス・キー情報表示(DSP LICKEY)**コマンドの**LICKEYFILE**パラメーターを使用して作成することができます。

ライセンス・キー・ファイルの名前は、次のライブラリーの値の1つで修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、**QGPL**ライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

ライセンス・キー・ファイル

ソフトウェア・ライセンス・キー情報が入っているファイルの名前を指定してください。

トップ

ライセンス・キー・メンバー (LICKYEMBR)

除去するソフトウェア・ライセンス・キー情報が入っているメンバーの名前を指定します。このメンバーは、LICKYFILEパラメーターで指定したファイルに入っています。

*FIRST

ファイルの一番古いメンバーが使用されます。

*LAST

ファイルの一番新しいメンバーが使用されます。

ライセンス・キー・メンバー

ソフトウェア・ライセンス・キー情報が入っているメンバーの名前を指定してください。

トップ

例

例1:プロンプト入力からのライセンス・キー情報の除去

```
RMVLICKEY LICKEYINP(*PROMPT) PRDID(1MYPROD)
          LICTRM(V3) FEATURE(5001)
          SERIAL(1234567)
```

このコマンドは、製造番号1234567のシステムのプロダクト1MYPROD、ライセンス条件V3、および機能5001のソフトウェア・ライセンス・キー情報をライセンス・リポジトリから除去します。

例2:ファイル入力からのライセンス・キー情報の除去

```
RMVLICKEY LICKEYINP(*LICKYFILE) SERIAL(*REMOTE)
          LICKYFILE(*LIBL/MYKEYFILE) LICKYEMBR(*LAST)
```

このコマンドは、ファイルMYKEYFILE中の最も新しく作成されたメンバーで見つかったすべてのリモート・システムのソフトウェア・ライセンス・キー情報をライセンス・リポジトリから除去します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9E55

ライセンス・リポジトリ・オブジェクトに損傷がある。

CPF9E57

&1ライセンス・キー情報レコードは除去され、&2は除去されなかった。

CPF9E58

ライセンス・キー情報が見つからなかった。

CPF9E69

ライセンス・キー情報がライセンス・キー・ファイルに見つからなかった。

トップ

リンクの除去 (RMVLNK)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リンクの除去 (RMVLNK)コマンドは、指定されたオブジェクトへのリンクを除去します。これがオブジェクトへの唯一のハード・リンクであった場合には、それが使用されなくなった時にオブジェクトが除去されます。オブジェクトへのシンボリック・リンクが存在していた場合であっても、オブジェクトは除去することができます。シンボリック・リンクは、それが除去されるまで残されます。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- DEL
- ERASE

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseries/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. "ルート" (/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムでは、オブジェクトが入っているディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX)権限が必要です。ハード・リンクをリンク解除する場合には、オブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限も必要です。
2. QDLSファイル・システムでは、オブジェクトに対する全(*ALL)権限と親ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
3. パス内の各ディレクトリーに対する*X権限が必要です。
4. その他のファイル・システムの権限要件については、ISERIES機密保護解説書(SD88-5027)を参照してください。
5. 次の1つ以上が真でない場合には、「制限された名前変更およびリンク解除」属性（この属性はS_ISVTXモード・ビットと同じ）がオンに設定されている"ルート" (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システム内のオブジェクトをリンク解除することはできません。
 - a. ユーザーがオブジェクトの所有者である。
 - b. ユーザーがディレクトリーの所有者である。
 - c. ユーザーが全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っている。
6. ディレクトリーをリンク解除することはできません。
7. ファイルがSQLテーブルのDATALINK列で、そのSQLテーブルの行がこのファイルを参照している場合には、ファイルへのリンクを除去することはできません。
8. 上にリストされた制約事項は、タイプが*DDIR, *DSTMF, *SOCKET, *STMF,および*SYMLNKのI5/OSオブジェクトに対するものです。

QSYS.LIBと独立ASP QSYS.LIBファイル・システムの相違点

1. このコマンドをこれらのファイル・システム内にあるオブジェクトのリンクを除去するために使用する場合には、追加の制約事項が適用される場合があります。それらの制約事項を識別するには、除去するオブジェクトの削除コマンドを参照してください。一般に、このコマンドの名前はI5/OSオブジェクト・

タイプの値を使用し、そこから文字*を除去して、先頭に動詞DLTを追加して形成されます。たとえば、オブジェクト・タイプの値が*LRTBLのアラート・テーブルを削除するには、警報テーブルの削除 (DLTALRTBL)コマンドの追加の制約事項を参照してください。

ただし、この規則には例外があります。たとえば、オブジェクト・タイプの値が*MODULEのコンパイラ単位を削除するには、モジュールの削除 (DLTMOD)コマンドの追加の制約事項を参照してください。

オブジェクト・タイプについては、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックを参照してください。

- これらのファイル・システムでは、リンクの除去 (RMVLNKまたは別名DEL あるいはERASE)コマンドを使用して、ライブラリーおよびデータベース・ファイルを削除することはできません。しかし、これらのオブジェクトは、ディレクトリーの除去 (RMVDIRまたは別名RMDIRあるいはRD)コマンドを使用して削除することができます。
- 次のオブジェクト・タイプは、別のコマンドを使用して削除することはできません。*EXITRG, *IGCSRT, *JOBSCD, *PRDAVL, *QRYDFN, *RCT。

QDLSファイル・システムの相違点

- このコマンドをこのファイル・システム内にあるオブジェクトのリンクを除去するために使用する場合には、追加の制約事項が適用される場合があります。これらの制約事項を識別するには、文書ライブラリー・オブジェクトの削除(DLTDLO)コマンドの説明を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJLNK	オブジェクト・リンク	パス名	必須, 定位置 1

トップ

オブジェクト・リンク (OBJLNK)

リンク解除するオブジェクトのパス名を指定します。名前パターンによって、複数のリンクを除去することができます。

オブジェクト・パス名は、単純名、またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

トップ

例

例1: オブジェクト・リンクの除去

```
RMVLNK OBJLNK('PAY')
```

このコマンドは、PAYという名前のリンクを除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0B2

要求を満たすオブジェクトはない。

CPFA0BD

&1リンクは除去された。&2リンクは正常に実行されなかった。

[トップ](#)

メンバー除去 (RMVM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メンバー除去(RMVM)コマンドは、指定された物理ファイルまたは論理ファイルから1つまたは複数のメンバーを除去します。物理ファイルからメンバーが除去される場合には、メンバーとメンバー・データの両方がシステムから削除されます。論理ファイルからメンバーが除去される場合には、そのメンバーと物理ファイル・メンバーのデータに対するアクセス・パスがシステムから削除されます。

制約事項:

- 別のファイルのメンバーが削除しようとするメンバーのデータを共有している場合には、最初にその従属メンバーを除去しなければなりません。
- 1つまたは複数のメンバーが入っているファイルのオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限が必要です。
- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。マルチスレッド・ジョブでは、このコマンドは、SYSTEM(*RMT)またはSYSTEM(*FILETYPE)が指定されている場合には、タイプ*SNAの分散データ管理機能(DDM)ファイルにはスレッド・セーフではありません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	データベース・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: データベース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	総称名, 名前, *ALL	必須, 定位置 2

[トップ](#)

データベース・ファイル (FILE)

除去する1つ以上のメンバーが入っている物理ファイルまたは論理ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: データベース・ファイル

名前 データベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルのあるライブラリーを指定します。

トップ

メンバー (MBR)

除去する1つまたは複数のファイル・メンバーを指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** 指定されたファイルからすべてのメンバーが除去されます。

総称名 ファイルから除去するメンバーの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称メンバー名を指定した場合には、総称メンバー名と同じ接頭部の名前をもつ指定ファイル内のすべてのメンバーが除去されます。

名前 ファイルから除去するメンバーの名前を指定してください。

トップ

例

例1: ファイル・メンバーの除去

```
RMVM FILE(JOBHIST1) MBR(JOBHIST1A)
```

このコマンドは、ファイルJOBHIST1からファイル・メンバーJOBHIST1A を除去します。このファイルおよびメンバーの検索には、ライブラリー・リスト*LIBLが使用されます。JOBHIST1に他のメンバーが入っている場合には、それらは変更されないで残されます。

例2: 名前がSRCで始まるメンバーの除去

```
RMVM FILE(QGPL/JOBHISTL) MBR(SRC*)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPLのファイルJOBHISTLからSRCで始まる名前を持つすべてのファイル・メンバーを除去します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF32CF

分散ファイル・エラー。理由コードは&3です。

CPF32C3

分散ファイル・エラー、レベルIDが一致していない。

CPF320A

メンバー&3を除去することはできない。

CPF320B

データベース・ファイル&1に対して操作が正しくない。

CPF3203

&2のファイル&1のオブジェクトを割り振ることができない。

CPF3220

&2のファイル&1に対して操作を実行することはできない。

CPF3273

ファイルまたはメンバーは、作成、削除または変更されなかった。

CPF7301

&3のファイル&2から&5個のメンバーが除去されなかった。

CPF7310

メンバー&1は&3のファイル&2から除去されませんでした。

[トップ](#)

マウントFSの除去 (RMVMFS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

マウント・ファイル・システム除去(RMVMFS)コマンドは前にマウントしたファイル・システムをファイル・システム名空間内でアクセスできないようにします。アクセス不能にするファイル・システムは、ローカル・システムのユーザー定義ファイル・システム(*UDFS)、ネットワーク・ファイル・システム・サーバー(*NFS)を介してアクセスされるリモート・ファイル・システム、あるいはローカルまたはリモート NETWAREファイル・システム(*NETWARE)のいずれかとすることができます。ファイル・システム内のオブジェクトが使用中である場合には、このコマンドはユーザーにエラー・メッセージを戻します。ファイル・システムのいずれかの部分それ自体がマウントされている場合には、それがアンマウントされるまで、このファイル・システムをアンマウントすることができないことに注意してください。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- UNMOUNT

ネットワーク・ファイル・システム・コマンドの詳細については、NETWORK FILE SYSTEM BOOK (SC41-5714)を参照してください。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、入出力(I/O)システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	ファイル・システムのタイプ	*NFS, *UDFS, *NETWARE, *ALL	必須, 定位置 1
MNTOVRDIR	マウントされたディレクトリー	パス名, *ALL	オプション
MFS	マウント・ファイル・システム	パス名	オプション

トップ

ファイル・システムのタイプ (TYPE)

アンマウントするファイル・システムのタイプを指定します。

***NFS** アンマウントするファイル・システムは、ネットワーク・ファイル・システムです。*NFSが指定されている場合には、マウントされたディレクトリー (MNTOVRDIR)パラメーターにディレクトリーを指定しなければなりません。

*UDFS

アンマウントするファイル・システムは、ユーザー定義ファイル・システムです。*UDFSが指定されている場合には、MNTOVRDIRまたはマウント・ファイル・システム (MFS)パラメーターのいずれかを指定することができます。

*NETWARE

アンマウントするファイル・システムは、NETWAREファイル・システムです。*NETWAREが指定されている場合には、MNTOVRDIRパラメーターにディレクトリーを指定しなければなりません。

*ALL すべてのタイプのファイル・システムをアンマウントします。*ALLが指定されている場合には、MNTOVRDIRパラメーターに値を指定しなければならず、その値は*ALLとすることができます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

マウントされたディレクトリー (MNTOVRDIR)

前のADDMFS (マウント・ファイル・システム追加) コマンドまたはMOUNTコマンドによってマウントされた(カバーされた)ディレクトリーのパス名を指定します。

ディレクトリー・パス名

前にマウントした指定のディレクトリーはカバーが解除されます。TYPE(*ALL)が指定された場合には、指定のディレクトリー上にマウントされたすべてのファイル・システムがアンマウントされます。ファイル・システムのタイプ (TYPE)パラメーターに特定のファイル・システム・タイプが指定されている場合には、指定されたディレクトリーに最後にマウントされたファイル・システムがアンマウントされるのは、タイプが指定されたTYPE値と一致した場合だけです。

*ALL 前にマウントされたすべてのディレクトリーのカバーが解除されます。*ALLが指定されている場合には、TYPEパラメーターに*ALLを指定しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

マウント・ファイル・システム (MFS)

アンマウントするファイル・システムのパス名を指定します。このパラメーターを使用できるのは、ファイル・システムのタイプ (TYPE)パラメーターに*UDFSが指定されているときに、ブロック特殊ファイル (*BLKSF)をアンマウントするときだけです。

[トップ](#)

例

例1: ディレクトリーのアンマウント

```
RMVMFS TYPE (*NFS) MNTOVRDIR('/TOOLS')
```

このコマンドは、ディレクトリー/TOOLSでアクセス可能なネットワーク・ファイル・システムをアンマウントします。

例2: ユーザー定義ファイル・システムのアンマウント

```
RMVMFS TYPE(*UDFS) MFS('/DEV/QASP02/CUST1UDFS')
```

このコマンドは、ユーザー定義ファイル・システム/DEV/QASP02/CUSTUDFSをアンマウントします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA1B8

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

[トップ](#)

メッセージ除去 (RMVMSG)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
 リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
 スレッド・セーフ: はい

パラメーター
 例
 エラー・メッセージ

メッセージ除去(RMVMSG)コマンドは、指定されたメッセージ待ち行列から指定されたメッセージまたは1グループのメッセージを除去するためにプログラムによって使用されます。未応答の照会メッセージが除去される場合には、それが除去される前に省略時の応答が送られます。このコマンドが出されたジョブに、指定されたメッセージ待ち行列が割り振られておらず、他のジョブにもメッセージ待ち行列が割り振られていない場合には、このコマンドの実行中このコマンドによってメッセージ待ち行列が暗黙に割り振られます。

制約事項:

1. メッセージをメッセージ待ち行列から除去するには、その待ち行列に対する変更(*CHANGE)権限、およびその待ち行列が入っているライブラリーに対する使用(*USE)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGMQ	呼出スタック項目メッセージ待ち行列	単一値: *ALLINACT, *EXT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 関係	*SAME, *PRV	
	要素 2: 呼出スタック項目識別コード	要素リスト	
	要素 1: 呼び出しスタック項目	文字値, _	
	要素 2: モジュール	名前, *NONE	
	要素 3: バインド済みプログラム	名前, *NONE	
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *PGMQ その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MSGKEY	メッセージ・キー	文字値	オプション
CLEAR	消去	*BYKEY, *ALL, *KEEPUNANS, *OLD, *NEW	オプション
RMVEXCP	未処理例外の除去	*YES, *NO	オプション
RJTDFTRPY	省略時応答の拒否	*NOALWRJT, *ALWRJT	オプション

トップ

呼出スタック項目メッセージ待行列 (PGMQ)

メッセージが除去される呼び出しメッセージ待ち行列を指定します。メッセージは、外部待ち行列(*EXT)、または呼び出しスタック項目と関連したメッセージ待ち行列から除去されます。

注:

1. CLEAR(*BYKEY)が指定されている場合には、PGMQパラメーターは無視されます。
2. このパラメーターに値が指定されている場合には、メッセージ待ち行列 (MSGQ)パラメーターに値を指定することはできません。

単一値

*ALLINACT

非活動の呼び出しスタック項目のすべてのメッセージが、ユーザーのジョブ・メッセージ待ち行列から除去されます。この値を指定した場合には、消去 (CLEAR)パラメーターに*ALLを指定しなければなりません。

*EXT メッセージは、ジョブの外部メッセージ待ち行列から除去されます。

要素1: 関係

2つのパラメーター要素が、メッセージが除去される呼び出しスタック項目メッセージ待ち行列を指定するために使用されます。最初の要素は、メッセージ待ち行列が2番目の要素によって識別されるプログラムまたはプロシージャと関連付けられるか、あるいはプログラムまたはプロシージャの呼び出し側と関連付けられるかを指定します。

*SAME

メッセージは、このパラメーターの2番目の要素によって識別されるプログラムまたはプロシージャのメッセージ待ち行列から除去されます。

*PRV メッセージは、このパラメーターの2番目の要素によって識別されるプログラムまたはプロシージャを呼び出したプログラムまたはプロシージャのメッセージ待ち行列から除去されます。

注: 2番目の値によって識別されるものより前のメッセージ待ち行列がILEプログラム入りロプロシージャ(PEP)用のものである場合には、メッセージはPEPメッセージ待ち行列の直前のメッセージ待ち行列から除去されます。これは、実際にはプログラムまたは修飾プロシージャによって識別されるものの前の2つのメッセージ待ち行列となります。

要素2: 呼出スタック項目識別コード

このパラメーターの2番目の要素には3個の要素があります。要素1はOPMプログラム名、ILEプロシージャ名、または特殊値を指定します。要素2は、要素1に指定された値の修飾子として使用されるILEモジュール名を指定します。要素3は、要素1に指定されたものに応じて、OPMプログラム名、ILEプログラム名、あるいはサービス・プログラム名のいずれかを指定することができます。要素3は要素1に指定されたものの修飾子としても使用されます。

要素1: 呼び出しスタック項目

* このコマンドを実行するOPMプログラムまたはILEプロシージャを指定します。

名前 呼び出しスタック項目の識別に使用されるOPMプログラムまたはILEプロシージャの名前を指定してください。

この要素がOPMプログラムを識別する場合には、最大10文字の名前を指定することができます。この要素がILEプロシージャを識別する場合には、最大256文字の名前を指定することができます。

各プロシージャ名をコロン(:)で区切って、ネストされたプロシージャ名を指定することができます。ネストされたプロシージャ名を指定する時には、まず一番外側のプロシージャ名を識別し、続いてその中に含まれるプロシージャを識別します。一番内側のプロシージャ名は、ストリング中で最後に識別します。

名前の先頭に3個のより小記号(<<<)を置くか、あるいは名前の終りに3個のより大記号(>>>)を置くことによって、プログラムまたはプロシージャの部分名を指定することができます。より大記号とより小記号の両方を使用する場合には、プログラムは、指定するプログラム名またはプロシージャ名を250文字に制限します。

システムは、指定されたプログラム名またはプロシージャ名の中から、最後に呼び出されたプログラムまたはプロシージャを検索します。

部分プログラム名または部分プロシージャ名を検索する場合：

- プログラム名またはプロシージャ名の最初にだけ指定されたより小(<<<)記号は切り捨てられ、残りの文字ストリングが右寄せにされます。指定されたストリングの残りの文字が呼び出しスタック上の現行のプログラムまたはプロシージャと比較されます。比較はプログラム名またはプロシージャ名の終わりの桁から始まって逆順に行われます。
- プログラム名またはプロシージャ名の最後にだけ指定されたより大(>>>)記号は切り捨てられます。指定されたストリングの残りの文字が呼び出しスタック上の現行のプログラムまたはプロシージャと比較されます。比較はプログラム名またはプロシージャ名の最初の桁から始まります。
- プログラム名またはプロシージャ名により小記号(<<<)とより大記号(>>>)の両方が指定されている時には、その両方が切り捨てられます。残りの文字が使用され、指定したストリング全体の長さが走査され、呼び出しスタック上の現行のプログラムまたはプロシージャと比較されます。

要素2: モジュール

*NONE

ILEモジュール修飾子は指定されません。

名前 メッセージ待ち行列の識別に使用されるILEモジュール名を指定します。

要素3: プログラム

*NONE

プログラム修飾子は指定されません。

名前 メッセージ待ち行列の識別に使用されるプログラム名を指定します。

トップ

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

1つ以上のメッセージが除去されるメッセージ待ち行列を指定します。このパラメーターを指定した場合には、呼出スタック項目メッセージ待ち行列 (PGMQ)パラメーターを指定することはできません。

単一値

*PGMQ

呼出スタック項目メッセージ待ち行列 (PGMQ)パラメーターに指定された呼び出しメッセージ待ち行列が、そこからメッセージが除去される唯一の待ち行列です。CLEAR(*KEEPUNANS)が指定されている場合には、MSGQ(*PGMQ)を指定することはできません。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 1つ以上のメッセージが除去されるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

メッセージ・キー (MSGKEY)

除去されるメッセージのメッセージ参照キーが入っている制御言語(CL)変数の名前を指定します。このパラメーターを指定することができるのは、CLEAR(*BYKEY)が指定されている場合だけです。

[トップ](#)

消去 (CLEAR)

待ち行列から1つ以上のメッセージを除去するかどうかを指定します。

*BYKEY

メッセージ・キー (MSGKEY)パラメーターに名前が指定された制御言語(CL)変数により識別されたメッセージが、メッセージ待ち行列から除去されます。

***ALL** 指定されたメッセージ待ち行列からすべてのメッセージが除去されます。

*KEEPUNANS

未応答の照会メッセージを除くすべてのメッセージが、指定されたメッセージ待ち行列から除去されます。この値を指定する場合には、MSGQ(*PGMQ)を指定することはできず、メッセージ待ち行列名を指定しなければなりません。

***OLD** 指定されたメッセージ待ち行列の中のすべての古いメッセージが待ち行列から除去されます。

***NEW** 指定されたメッセージ待ち行列の中のすべての新しいメッセージが待ち行列から除去されます。

未処理例外の除去 (RMVEXCP)

未処理の例外メッセージが見つかった時にとられる処置を指定します。未処理の例外メッセージとは、ILE プロシージャに送られたエスケープ、通知、または状況メッセージです。このコマンドが実行される時には、ILE プロシージャは、例外が処理されることをシステムに通知する処置をまだ取っていません。ILE プロシージャがとることのできる1つの処置は、例外メッセージを除去するCLプログラムを呼び出すことです。例外を処理するためにILEプロシージャがとることのできる処置の詳細については、ILE概念 (SD88-5033)にあります。

このパラメーターが有効なのは、ILEプロシージャの呼び出しスタック項目と関連しているメッセージ待ち行列を処理している時だけです。OPM (オリジナル・プログラム・モデル) プログラムの呼び出しスタック項目と関連付けられたメッセージ待ち行列を処理している時には、このパラメーターは無視されます。

- *YES** 指定したメッセージ待ち行列上の未処理の例外メッセージが除去されます。結果として、例外が処理されることとなります。
- *NO** 指定したメッセージ待ち行列上の未処理の例外メッセージは除去されません。このメッセージは、未処理の例外メッセージとして待ち行列上に残ります。

トップ

省略時応答の拒否 (RJTDFTRPY)

未応答の照会メッセージを除去すると、その照会メッセージに対して省略時の応答が送られます。この値は、このコマンドを使用した結果として送られた省略時の応答を応答処理出口プログラムが拒否できるかどうかを指示します。応答処理出口プログラムは、出口点QIBM_QMH_REPLY_INQに対するシステム登録機能を通じて登録することができます。

***NOALWRJT**

応答処理出口プログラムが省略時の応答を拒否することは許可されません。

***ALWRJT**

省略時の応答を拒否することが応答処理出口プログラムに許可されます。出口プログラムが応答を拒否した場合には、メッセージCPD2476 (応答は応答処理出口プログラムによって拒否されました) が診断メッセージとしてこのコマンドを使用しているプログラムに送られます。CPD2476に続いて、このコマンドを使用しているプログラムはこのエラー状態を処理して回復するためにモニターする必要があることを示すCPF2422 (応答は無効です) エスケープ・メッセージが出されます。

トップ

例

例1:メッセージの除去

```
RMVMSG MSGQ(SMITH) MSGKEY(&KEY)
```

このコマンドは、CL変数&KEYに指定された参照キーを持つメッセージをSMITHという名前のメッセージ待ち行列から除去します。

例2:未応答メッセージの保持

```
RMVMSG MSGQ(SMITH) CLEAR(*KEEPUNANS)
```

このコマンドは、未応答の照会メッセージを除くすべてのメッセージをSMITHという名前のメッセージ待ち行列から除去します。

例3:部分プロシージャ名を使用したメッセージの除去

```
RMVMSG PGMQ(*SAME 'PROCESS_ORDER>>>') CLEAR(*ALL)
```

このコマンドは、名前がPROCESS_ORDERで始まる最新のプロシージャからすべてのメッセージを除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF24A6

除去するメッセージの値が正しくない。

CPF24AD

プログラム・メッセージ待ち行列が*ALLINACTである場合には除去するメッセージは*ALLでなければならない。

CPF2401

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2403

&2にメッセージ待ち行列&1が見つからない。

CPF2407

&2にメッセージ・ファイル&1が見つからない。

CPF2408

メッセージ待ち行列&1は認可されていない。

CPF241A

システム・プログラムの除去オプション&1が正しくない。

CPF2410

メッセージ・キーがメッセージ待ち行列&1に見つからない。

CPF2411

&2のメッセージ・ファイル&1は認可されていない。

CPF2419

メッセージ識別コード&1が&3のメッセージ・ファイル&2に見つからない。

CPF2422

応答が正しくない。

CPF2450

ワークステーション・メッセージ待ち行列&1がジョブに割り振られていない。

CPF2451

メッセージ待ち行列&1は別のジョブに割り振られている。

CPF247A

呼び出しスタックの項目が見つからなかった。

CPF2477

メッセージ待ち行列&1は現在使用中である。

CPF2479

呼び出しスタックの項目が見つからなかった。

CPF2483

メッセージ・ファイルは現在使用中である。

CPF2499

メッセージ識別コード&1を使用することはできない。

CPF8127

&9のメッセージ待ち行列&4に&8の損傷がある。VLICログは&7です。

CPF8176

装置記述&4のメッセージ待ち行列に損傷がある。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

[トップ](#)

メッセージ記述除去 (RMVMSGD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ記述除去(RMVMSGD)コマンドでは、指定されたメッセージ・ファイルからメッセージ記述を除去します。

注: 1つまたは一群のメッセージを印刷する方法に関する説明は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER)にある「システム操作の基本」情報のメッセージの処理というタイトルのセクションにあります。

制約事項:メッセージ・ファイルに対する使用(*USE)および削除(*DLT)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGID	メッセージ識別コード	名前	必須, 定位置 1
MSGF	メッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: メッセージ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

トップ

メッセージ識別コード (MSGID)

メッセージ・ファイルから除去されるメッセージのメッセージIDを指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

メッセージ・ファイル (MSGF)

除去されるメッセージが入っているメッセージ・ファイルを指定します。ジョブに関して有効になっているメッセージ・ファイル一時変更は、いずれもこのコマンドによって無視されます。ここで指定されたファイルは、メッセージがそこから除去されるファイルです。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: メッセージ・ファイル

名前 メッセージが除去されるメッセージ・ファイルを指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブに関する現行ライブラリーを使用して、メッセージ・ファイルを見つけます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 メッセージ・ファイルを見つけるライブラリーを指定します。

[トップ](#)

例

```
RMVMSGD MSGID(UIN0115) MSGF(INV)
```

このコマンドは、識別コードがUIN0115のメッセージ記述をINVという名前のメッセージ・ファイルから除去します。INVファイルを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。検索中のライブラリーに複数のINVメッセージ・ファイルが存在している場合には、メッセージ記述はそのライブラリー・リストで見つかった最初のINVメッセージ・ファイルからのみ除去されることに注意してください。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2401

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2407

&2にメッセージ・ファイル&1が見つからない。

CPF2411

&2のメッセージ・ファイル&1は認可されていない。

CPF2419

メッセージ識別コード&1が&3のメッセージ・ファイル&2に見つからない。

CPF2483

メッセージ・ファイルは現在使用中である。

CPF2499

メッセージ識別コード&1を使用することはできない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

通称の除去 (RMVNCK)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ニックネーム除去(RMVNCK)コマンドはシステム配布ディレクトリーから既存のニックネームを除去するために使用されます。除去されたニックネームがもはや使用可能でなくなった時、このコマンドを出したジョブは終了しています。

ニックネームは、ディレクトリー項目名または配布リスト名を短く縮めたものです。ニックネームの詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

制約事項:

1. 所有していない共用ニックネームを除去するためには、機密保護管理者(*SECADM) 権限が必要です。所有している共用または私用ニックネームを除去するには特殊権限は不要です。
2. 私用ニックネームを除去できるのは所有者だけです。特殊権限は不要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NCK	通称	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: 通称	文字値	
	要素 2: アクセス	<u>*PRIVATE</u> , *PUBLIC	

[トップ](#)

通称 (NCK)

除去される既存のニックネームおよびそのニックネームのアクセスを指定します。

指定できるニックネームの値は次の通りです。

ニックネーム

除去するニックネームを指定してください。

指定できるニックネーム・アクセスの値は次の通りです。

*PRIVATE

ユーザーが所有する私用ニックネームが除去されます。

*PUBLIC

共用ニックネームが除去されます。共用ニックネームを除去できるのは、機密保護管理者(*SECADM)権限をもっているユーザーと所有者です。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

```
RMVNCK  NCK(SEC44A *PUBLIC)
```

このコマンドは共通ニックネームSEC44Aを除去します。ユーザーがニックネームに対して正しい権限をもっている場合、ニックネームが除去されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8AA1

ライブラリーQUSRSYSの導入が完全でない。

CPF8360

コミットメント制御操作を実行するための記憶域が不十分である。

CPF9A89

ニックネーム機能が正常に実行されなかった。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

[トップ](#)

ネットワーク・ジョブ項目除去 (RMVNETJOBE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・ジョブ項目除去(RMVNETJOBE)コマンドは、システムからネットワーク・ジョブ項目を除去します。ネットワーク・ジョブ項目は、ネットワーク・ジョブ投入(SBMNETJOB)コマンドを使用してこのシステムのユーザーにバッチ入力ストリームを送信する時にとられる処置を決めるものです。

この項目はユーザー・プロファイルを指定しますが、これはバッチ・ジョブで参照されるジョブ記述に対する権限を検査するために使用します。このシステムにジョブを投入する各ユーザーまたはユーザーのグループごとに、1つの項目がなければなりません。

このコマンドは、特定のユーザーの項目を除去するために使用されます。そのユーザーに有効となっている総称IDをもつ項目がまだ存在している可能性があります。たとえば、ユーザーがJOE PGMRSというユーザーIDの項目を除去した場合に、*ANY PGMRSまたは*ANY *ANYというユーザーIDをもつ項目があれば、その項目がJOE PGMRSによって投入されたジョブを処理するために使用されます。ジョブ項目テーブルの詳細は、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)にあります。

制約事項:

1. このコマンドは共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. ノードIDの内部値は、使用されているワークステーション（言語）のタイプにより、RMVNETJOBEコマンドによって表示される文字とは異なる場合があります。FROMUSRIDコマンド・パラメーターに指定されたバイト・ストリング値が、内部ノードID値に関する規則に合っていない場合や、定義されたどのノードの内部値とも一致していない（大文字・小文字の違いは無視する）場合には、エラーが報告されることがあります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMUSRID	ユーザー識別コード	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: ユーザーID修飾子	文字値	

[トップ](#)

ユーザー識別コード (FROMUSRID)

除去するネットワーク・ジョブ項目を識別する2つの部分から成るユーザーIDを指定します。

これは必須パラメーターです。

ユーザーIDの両方の部分が必須です。

注: 使用されているワークステーションにより、新しいユーザーIDの内部値は、ネットワーク・ジョブ項目表示(DSPNETJOBE)コマンドによって表示される文字とは異なる場合があります。FROMUSRIDパラメーターに指定されたバイト・ストリング値が、内部ユーザーID値に関する規則に合っていない場合や、登録されたどのユーザーの内部値とも一致していない場合には、エラーが報告されることがあります。

[トップ](#)

例

```
RMVNETJOBE FROMUSRID(JOE SMITH)
```

このコマンドは、ユーザーID (JOE SMITH)から受け取った入力ストリームに対して実行される処置を判別するために使用されるネットワーク・ジョブ項目を除去します。ユーザーID (JOE SMITH)のネットワーク・ジョブ権限は、ネットワーク・ジョブ項目*ANY SMITH (その項目が存在している場合) またはネットワーク・ジョブ項目*ANY *ANY (その項目が存在している場合) のいずれか一方から取られます。これらの項目のいずれも存在していない場合は、ユーザーID (JOE SMITH)から受け取ったすべてのジョブは拒否されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8050

ネットワーク・ジョブ・テーブルをアクセスすることができなかった。

CPF8051

ユーザーIDの2番目の部分には*ANYは正しくない。

CPF8054

ネットワーク・ジョブ項目&1 &2は除去されなかった。

CPF9040

間違った文字がユーザーIDかアドレス、またはリスト識別コード&1 &2で使用された。

[トップ](#)

ネットワーク・テーブル項目の除去 (RMVNETTBLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・テーブル項目除去(RMVNETTBLE)コマンドを使用してネットワーク項目をネットワーク・テーブルから取り除きます。ユーザーのネットワークおよび関連するIPアドレスのリストを管理するために、ネットワーク・テーブルが使用されます。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NETWORK	ネットワーク	文字値	必須, 定位置 1
INTNETADR	IPアドレス	文字値	必須, 定位置 2

[トップ](#)

ネットワーク (NETWORK)

除去するネットワーク項目の名前を指定します。

[トップ](#)

IPアドレス (INTNETADR)

除去するネットワークのIPアドレスを指定します。IPアドレスは10進数形式
NNN.NNN.NNN.NNN

で表わされます。ここで、NNNは0から255の範囲の数です。

[トップ](#)

例

```
RMVNETTBLE NETWORK(NETONE) INTNETADR(9.5.0.0)
```

このコマンドは、アドレスが9.5.0.0のNETONEネットワーク項目をネットワーク・テーブルから除去します。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP1901

IPアドレス&1が正しくない。

TCP2649

インターフェース項目が見つからない。

TCP2903

テーブルにネットワーク項目が見つからない。

TCP8050

&1を使用するためには*IOSYSCFG権限が必要である。

ノード・リスト項目の除去 (RMVNODLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ノード・リスト項目除去(RMVNODLE)コマンドは、既存のノード・リスト・オブジェクトから項目を除去します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NODL	ノード・リスト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ノード・リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB, *LIBL	
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	要素リスト	オプション
	要素 1: 名前またはアドレス	文字値	
	要素 2: タイプ	*SNA, *IP	
CPNAME	SNAノード名	単一値: *RMTLOC その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク識別コード	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点	通信名	

[トップ](#)

ノード・リスト (NODL)

項目が除去されるノード・リスト・オブジェクトの修飾名を指定します。

ノード・リスト名は、次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

ノード・リスト名

項目が除去されるノード・リストの名前を指定してください。

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

ノード・リスト・オブジェクトから除去するシステムの名前およびアドレス・タイプを指定します。この名前は、SNAネットワークIDと制御点名、インターネット・プロトコルのホスト名、またはインターネット・アドレスとすることができます。

SNAノード名は、NNNNNNNN.CCCCCCCCの形式を使用して指定されます。ここで、NNNNNNNNはネットワークID、CCCCCCCCは制御点名です。制御点名だけが指定された場合には、ノード・リストから除去されているシステムのネットワークID (ID) の値として、ローカル・ネットワークID (LCLNETID)のネットワーク属性が使用されます。

使用できる名前またはアドレスの値は、次の通りです。

リモート・ロケーション名

ノード・リストから除去するリモート・ロケーション名を指定してください。

使用できるアドレス・タイプの値は、次の通りです。

***SNA** ノード名は、システム・ネットワーク体系(SNA)アドレス・タイプです。

***IP** ノード名は、インターネット・プロトコル(IP)アドレス・タイプです。

SNAノード名 (CPNAME)

ノード・リスト・オブジェクトから除去されているSNAノード名を指定します。このシステムは、ネットワークIDと制御点名の2つの要素として指定されます。

注:

1. ネットワークIDおよび制御点名を指定する際には、RMTLOCNAMEパラメーターの使用をお勧めします。
2. ノード・リストから除去するシステムの名前を指定するためにRMTLOCNAMEパラメーターが使用されている場合には、このパラメーターに*RMTLOCを指定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

*RMTLOC

ネットワークIDおよび制御点名は、RMTLOCNAMEパラメーターを使用して指定されます。

使用できるネットワークIDの値は次の通りです。

*NETATR

ノード・リストから除去されているシステムのネットワークID (ID)の値として、ローカル・ネットワークID (LCLNETID)のネットワーク属性が使用されます。

ネットワークID

ノード・リストから除去するシステムのネットワークIDを指定してください。

使用できる制御点名の値は次の通りです。

制御点名

ノード・リストから除去するシステムの制御点名を指定してください。

注: ネットワークIDとして*RMTLOCが指定されている場合には、このフィールドはブランクのままとなります。

トップ

例

例1: ノード・リストからのローカル・ネットワーク中のシステムの除去

```
RMVNODLE NODL(MYLIB/NODL02) RMTLOCNAME(AS400A01 *SNA)
```

このコマンドは、ローカル・ネットワーク中に入っているシステムAS400A01の項目を、ライブラリーMYLIBのノード・リストNODL02から除去します。項目にはSNAアドレス・タイプがあります。

例2: ノード・リストからのホスト名の除去

```
RMVNODLE NODL(MYLIB/NODL02) RMTLOCNAME(MYSYS.NET1.LOCAL *IP)
```

このコマンドは、ホスト名MYSYS.NET1.LOCALをライブラリーMYLIBのノード・リストNODL02から除去します。項目のアドレス・タイプはIPです。

例3: ノードからのインターネット・アドレスの除去

```
RMVNODLE NODL(MYLIB/NODL02) RMTLOCNAME('9.13.156.8' *IP)
```

このコマンドは、インターネット・アドレス9.13.156.8をライブラリーMYLIBのノード・リストNODL02から除去します。項目のアドレス・タイプはIPです。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF7AD4

ネットワークID &1が正しい形式になっていない。

CPF7B18

制御点&1は正しい形式になっていない。

CPF813E

&9のノード・リスト&4に損傷がある。

CPF96B4

ノード・リスト項目が存在しない。

CPF96B5

リモート・ロケーション名の形式が正しくない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

NETWARE認証項目の除去 (RMVNTWAUTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NETWARE認証項目除去(RMVNTWAUTE)コマンドは、認証項目をユーザー・プロファイルから除去します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SVRTYPE	サーバー・タイプ	*ALL, *NETWARE3, *NDS	必須, 定位置 1
NDSTREE	NDSツリー	文字値, *ALL	オプション
SERVER	サーバー	文字値, *ALL	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	名前, *CURRENT	オプション

[トップ](#)

サーバー・タイプ (SVRTYPE)

除去する認証項目のタイプを指定します。

***ALL** すべての認証項目を除去します。

***NETWARE3**

NETWARE 3.Xサーバーの項目を除去します。

***NDS** NETWAREディレクトリー・サービス・ツリーの項目を除去します。

[トップ](#)

NDSツリー (NDSTREE)

*NDS項目の場合には、除去する認証項目のNETWAREディレクトリー・サービス・ツリー名を指定します。

***ALL** すべてのNDSツリー名の認証項目を除去します。

'名前' 削除されるNDSツリー項目の名前を指定してください。

'総称名'

削除するNDSツリー項目の総称名を指定してください。総称名は、たとえばABC*のように、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリングです。アスタリスクは、有効なすべての文字に置き換わります。総称名は、ユーザーが権限をもっている総称接頭部で始まる名前のすべてのオブジェクトを指定します。アスタリスクが総称（接頭部）名に含まれていない場合には、

システムはそれを完全なオブジェクト名と見なします。完全なオブジェクト名が指定され、複数のライブラリーが検索された場合には、*ALLまたは*ALLUSRライブラリー値を名前として指定できる場合に限り、複数のオブジェクトを削除することができます。

[トップ](#)

サーバー (SERVER)

*NETWARE3項目の場合には、除去する認証項目のサーバー名を指定します。

*ALL すべてのサーバー名の認証項目を除去します。

'名前' 削除するサーバー項目の名前を指定してください。

'総称名'

削除するサーバー項目の総称名を指定してください。総称名は、たとえばABC*のように、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリングです。アスタリスクは、有効なすべての文字に置き換わります。総称名は、ユーザーが権限をもっている総称接頭部で始まる名前のすべてのオブジェクトを指定します。アスタリスクが総称（接頭部）名に含まれていない場合には、システムはそれを完全なオブジェクト名と見なします。完全なオブジェクト名が指定され、複数のライブラリーが検索された場合には、*ALLまたは*ALLUSRライブラリー値を名前として指定できる場合に限り、複数のオブジェクトを削除することができます。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

認証項目を除去するユーザー・プロファイルを指定します。

*CURRENT

項目を現行ユーザー・プロファイルから除去します。

名前 ユーザー・プロファイルの名前を指定します。このユーザー・プロファイルは現行のユーザー・プロファイルであるか、あるいはユーザーはこのユーザー・プロファイルに対する*USEと*OBJMGT権限および*SECADM特殊権限をもっていなければなりません。

[トップ](#)

例

```
RMVNTWAUTE SVRTYPE(*NDS) NDSTREE(IBM TREE)
```

このコマンドは、現行ユーザー・プロファイルからNETWAREディレクトリー・サービス・ツリーIBM TREEの認証項目を除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

FPE0219

&3の認証項目が除去されなかった。

[トップ](#)

サーバー記憶域リンクの除去 (RMVNWSSTGL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー記憶域リンク除去(RMVNWSSTGL)コマンドは、既存のクライアント記憶スペース・リンクをネットワーク・サーバー記述から除去するために使用されます。

注:

1. クライアント記憶スペース・リンクの除去には、記憶スペースがリンクされているドライブの英字を参照するネットワークの別名などの項目の更新が必要です。
2. **ネットワーク・サーバー・タイプ (TYPE)**パラメーターに対して**サーバー接続***IXSVRまたは*ISCSIが指定されて作成されたネットワーク・サーバー記述にリンクされたクライアント記憶域スペースの除去では、これらのドライブに導入されたアプリケーションがあった場合には、そのドライブが変更され、アプリケーションは正常に実行されないことがあるということを考慮する必要があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NWSSTG	ネットワーク・サーバー記憶スペース	名前	必須, 定位置 1
NWSD	ネットワーク・サーバー記述	名前	必須, 定位置 2
RENUMBER	リンクの番号付け直し	*NO, *YES	オプション

トップ

ネットワーク・サーバー記憶スペース (NWSSTG)

ネットワーク・サーバーのリンク・リストから除去されるネットワーク・サーバーの記憶スペースの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

ネットワーク・サーバー記述 (NWSD)

除去されるリンクが入っているネットワーク・サーバー記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

リンクの番号付け直し (RENUMBER)

ネットワーク記憶スペースのリンクの番号が変更されるかどうかを指定します。

- *NO** 記憶域スペースのリンクが ネットワーク・サーバー 記述(NWSD)パラメーターから除去された後で、順序番号は順次に変更されません。順序間にギャップが生じることがあります。
- *YES** 記憶域スペースのリンクが指定のネットワーク・サーバー(NWSDパラメーター) から除去されると、順序番号は順次に変更されるので、順序間にギャップが生じません。

トップ

例

例1:クライアント記憶域スペース・リンクの除去

```
RMVWNSSTGL NWSSTG(PAINTS) NWSD(REMODEL)
```

このコマンドは、クライアント記憶域スペースPAINTSリンクをネットワーク・サーバーREMODELから除去します。

例2:クライアント記憶域スペース・リンクの除去および番号付け直し

```
RMVWNSSTGL NWSSTG(MAIL) NWSD(NTSERVER) RENUMBER(*YES)
```

このコマンドは、クライアント記憶域スペースMAILリンクをネットワーク・サーバーNTSERVERから除去し、リンクされた残りの記憶域スペースの順序番号を付け直して、順序間ギャップを取り除きます。

注: TYPE(*IXSVR *WIN32), TYPE(*ISCSI *WIN32),またはTYPE(*WINDOWSNT)で作成されたネットワーク・サーバー記述にリンクされたクライアント記憶域スペースの番号付け直しの影響の詳細については、INFORMATION CENTERの「**ISERIES**での**WINDOWS**サーバー」のトピックを参照してください。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF26B9

ネットワーク・サーバー記憶域リンク除去コマンドが正常に実行されなかった

トップ

光ディスク・カートリッジ除去 (RMVOPTCTG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク・カートリッジ除去(RMVOPTCTG)コマンドを使用して次のことができます:

- 光ディスク装置または媒体ライブラリー装置から光ディスク・カートリッジおよびそのボリュームを除去する。
- 現在光ディスク媒体ライブラリーの入出力端末にあるカートリッジを除去する。
- 光ディスク媒体ライブラリーの入出力端末を所定外の位置に移動する。
- いくつかの光ディスク装置のトレイをオープンする。
- 前にこのコマンドにVOLOPT(*KEEP)を指定して除去した光ディスク・ボリュームのボリューム記述を除去する。

制約事項: このコマンドを使用するためには、*USE権限が必要です。これは、*EXCLUDE共通認可で出荷されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
VOL	ボリューム識別コード	文字値, *IOSTATION, *MOUNTED, *LEASTUSED, *MAGAZINE	必須, 定位置 1
VOLOPT	ボリューム記述オプション	<u>*REMOVE</u> , *KEEP	オプション, 定位置 2
MEDLOC	媒体の位置	<u>*IOSTATION</u> , *MAGAZINE	オプション, 定位置 3
RMVCTGLOC	除去されたカートリッジの位置	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
MLB	光媒体ライブラリー	名前	オプション
DEV	光ディスク装置	名前	オプション

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

光ディスク装置または媒体ライブラリー装置から除去される光ディスク・カートリッジのボリュームIDを指定します。2つのボリュームをもつカートリッジの場合、ボリュームIDを1つだけ指定しなければなりません。

*IOSTATION

光ディスク媒体ライブラリーの入出力端末が所定外の位置に移動されます。これによって、現在入出力端末にある光ディスク・カートリッジを除去することができます。

注: この値が有効なのは、パラメーターMLBが指定されている場合だけです。

***LEASTUSED**

システムは、どの光ディスク・カートリッジが直前に使用されたかを判別し、それを指定された媒体ライブラリーから除去します。

注: この値が有効なのは、パラメーターMLBが指定されている場合だけです。

***MOUNTED**

システムは、DEVパラメーターで指定された光ディスク装置にあるボリュームの記述を除去します。いくつかの光ディスク装置の場合、トレイがオープンされます。

注: この値が有効なのは、パラメーターDEVが指定されている場合だけです。

***MAGAZINE**

この値により、光ディスク・ライブラリーから除去するために、バルク・ロード・マガジンがオープンされます。

注: この値が有効なのは、パラメーターMLBが指定されている場合だけです。

ボリュームID

除去される光ディスク・カートリッジのボリュームIDを指定してください。

トップ

ボリューム記述オプション (VOLOPT)

光ディスク索引データベース・ファイルに光ディスク・ボリューム記述を保存するかどうかを指定します。

注: このパラメーターは、VOLパラメーターにボリュームIDが指定されている場合にのみ有効です。

***REMOVE**

ボリューム記述は光ディスク索引データベース・ファイルから除去されます。

***KEEP**

ボリューム記述は光ディスク索引データベース・ファイルに保存されます。これによって、除去されたボリュームのボリューム記述を、光ディスク・ボリューム処理(WRKOPTVOL)コマンドの使用時に表示することができます。

注: この値は、媒体ライブラリー装置内の初期設定されたボリュームの場合にのみ有効です。その他の光ディスク装置内の初期設定されていないボリュームの場合には、この値は無視され、

*REMOVEが使用されます。

トップ

媒体の位置 (MEDLOC)

除去しようとしている光ディスク・ボリュームの最終宛先を指定します。

***IOSTATION**

光ディスク・カートリッジは入出力端末に除去されます。

***MAGAZINE**

光ディスク・カートリッジはバルク・ロード・マガジンに除去されます。

注: すべての光ディスク・ライブラリーがバルク・ロード・マガジンを装備しているわけではありません。

[トップ](#)

除去されたカートリッジの位置 (RMVCTGLOC)

光ディスク・カートリッジが除去された後で、その外部ロケーションを指定します。

注: このパラメーターはVOLOPT(*KEEP)が指定されている場合にのみ有効です。

*NONE

外部ロケーションは指定されません。

除去されたカートリッジのロケーション

光ディスク・カートリッジが除去された後のそのロケーションを指定してください。最大50文字まで指定することができます。

[トップ](#)

光媒体ライブラリー (MLB)

操作に使用する光ディスク媒体ライブラリーの名前を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、VOL(*IOSTATION)、VOL(*MAGAZINE)、またはVOL(*LEASTUSED)が指定されている場合だけです。このパラメーターは、VOLパラメーターに特定のボリューム名が指定されている時には無視されます。

[トップ](#)

光ディスク装置 (DEV)

ボリュームをもつ光ディスク装置の名前を指定しますが、これはこの装置がサポートしている場合には、光ディスク索引データベースおよびオープンされたトレイから除去されるボリュームを含みます。

注: このパラメーターはVOL(*MOUNTED)が指定されている場合にのみ有効です。このパラメーターは、VOLパラメーターに特定のボリューム名が指定されている時には無視されます。

[トップ](#)

例

例1: ボリュームIDの指定

```
RMVOPTCTG VOL(VOL01)
```

このコマンドは、ボリュームID VOL01をもつ光ディスク・カートリッジを除去します。

例2: スタンドアロン装置の指定

```
RMVOPTCTG VOL(*MOUNTED) DEV(OPT01)
```

このコマンドは、スタンドアロン光ディスク装置OPT01に見つかったボリュームを除去します。

例3:媒体場所*MAGAZINEの指定

```
RMVOPTCTG VOL(VOL01) MEDLOC(*MAGAZINE)
```

このコマンドは、ボリュームID VOL01をもつ光ディスク・カートリッジをバルク・ロード・マガジンから除去します。

例4:ボリューム名*MAGAZINEの指定

```
RMVOPTCTG VOL(*MAGAZINE) MLB(OPTMLB01)
```

このコマンドは、光ディスク・ライブラリーから除去できるように、バルク・ロード・マガジンをオープンします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

OPT1320

光ディスク・ボリューム&1は使用中である。

OPT1325

光ディスク・ボリュームの形式が認識されません。

OPT1330

光ディスク・ボリュームが見つからないか、または使用不能です。

OPT1331

光ディスク・ボリューム&1が見つかりません。

OPT1346

リモート光ディスク装置にあるボリュームには操作を行なうことができない。

OPT1430

光ディスク・ボリューム&1の情報が除去された。

OPT1460

光ディスク・ボリューム&1が光ディスク装置にない。

OPT1530

&1は有効な光ディスク装置を表していない。

OPT1555

光ディスク装置&1は使用中です。

OPT1652

装置&1は光ディスク媒体ライブラリーでない。

OPT1671

機能が光ディスク装置&1に導入されていません。

OPT1672

光ディスク装置&1のバルク・ロード・マガジンをアクセス中にエラー。

OPT1676

光ディスク装置&1のバルク・ロード・マガジンが満杯です。

OPT1677

光ディスク装置&1のバルク・ロード・マガジンは開かれています。

OPT1790

操作が許可されないか、または別の要求と矛盾しています。

OPT1805

光ディスク・ボリューム索引ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1810

光ディスク・ディレクトリー索引ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1815

内部プログラム・エラーが起きました。

OPT1820

光ディスク装置&1で内部エラーが起こった。

OPT1821

光ディスク装置&1でエラーが起こった。

OPT1825

光ディスク装置&1で光ディスク索引が間違っている。

OPT1860

光ディスク装置&1に対する要求が正常に実行されなかった。

OPT1861

装置&1に構成された装置記述がない。

OPT1862

資源&1に活動状態の装置記述がない。

OPT1863

光ディスク・ライブラリーを再利用する必要がある。

OPT1872

光ディスク要求がタイムアウトまたは取り消されました。

OPT2301

内部システム・オブジェクトが使用中である。

OPT7740

ユーザーにはライブラリー&3タイプ&4のオブジェクト&2が認可されていない。

[トップ](#)

光ディスク・サーバー除去 (RMVOPTSVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク・サーバー除去(RMVOPTSVR)コマンドは、階層ファイル・システム(HFS) APIのリモート光ディスク・サーバーへのアクセス機能を無効にします。指定されたサーバーはもはや、HFS APIを使用してアプリケーションをアクセスできなくなります。

制約事項:このコマンドを使用するためには、*USE権限が必要です。これは、*EXCLUDE共通認可で出荷されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CSI	サイド情報	値 (最大 16 回の繰り返し): 名前, *ALL	必須, 定位置 1
VOLOPT	ボリューム記述オプション	<u>*REMOVE</u> , *KEEP	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

サイド情報 (CSI)

光ディスク構成から除去するリモート光ディスクを表す通信サイド情報オブジェクトを指定します。

***ALL** 光ディスク構成の中のすべてのリモート光ディスク・サーバーが除去されます。

通信サイド情報オブジェクト名

リモート光ディスク・サーバーを表す通信サイド情報オブジェクトの名前を指定してください。最大16個までのサーバーを指定することができます。

[トップ](#)

ボリューム記述オプション (VOLOPT)

除去される光ディスク・サーバーの光ディスク索引データベース・ファイルに、ボリューム記述を保存するかどうかを指定します。

*REMOVE

光ディスク索引データベース・ファイルからすべてのボリューム記述が除去されます。

***KEEP**

すべてのボリューム記述が光ディスク索引データベース・ファイルに保存されます。これによって、光ディスクボリューム処理(WRKOPTVOL)コマンドの使用時に*REMOVEDボリューム記述を表示することができます。

トップ

例

RMVOPTSVR CSI(LAN01)

このコマンドは、光ディスクLANサーバーLAN01を光ディスク構成から除去します。すべてのボリューム記述が光ディスク索引データベース・ファイルから除去されます。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

OPT0125

コマンド&1がエラーで完了し、ジョブ・ログに詳細がある。

OPT6730

特殊値*ALLが使用される時にはサーバーを指定することができない。

トップ

プロトコル・テーブル項目除去 (RMVPCLTBLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プロトコル・テーブル項目除去(RMVPCLTBLE)コマンドを使用してプロトコル項目をプロトコル・テーブルから取り除きます。プロトコル・テーブルは、インターネットで使用されるプロトコルのリストを管理するために使用されます。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PROTOCOL	プロトコル	文字値	必須, 定位置 1

[トップ](#)

プロトコル (PROTOCOL)

除去するプロトコル項目の名前を指定します。

[トップ](#)

例

```
RMVPCLTBLE PROTOCOL(TCP)
```

このコマンドは、TCPプロトコル項目をプロトコル・テーブルから除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP2902

テーブルにプロトコル項目が見つからない。

TCP8050

&1を使用するためには*IOSYSCFG権限が必要である。

[トップ](#)

PEX定義の除去 (RMVPEXDFN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PERFORMANCE EXPLORER定義除去(RMVPEXDFN)コマンドは、システムから1つ以上のPERFORMANCE EXPLORER定義を除去します。各定義は、ライブラリーQUSRSYS中のQAPEXDFNファイルのメンバーとして記憶されています。メンバー名は定義名と同じです。

制約事項:

1. このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. このコマンドを使用するには、*SERVICE特殊権限をもっているか、あるいはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してI5/OSのサービス・トレース機能を許可されていなければなりません。また、QIBM_SERVICE_TRACEの機能IDをもつ機能使用法情報の変更(QSYCHFUI) APIも、トレース操作に実行できるユーザーのリストを変更するために使用できます。
3. 次のユーザー・プロファイルはコマンドを使用するための専用認可を受けています。
 - QPGMR
 - QSRV
4. RMVPEXDFNを同時に実行するために、同じジョブ内で2つのスレッドを使用することはできません。最初にRMVPEXDFNを出したスレッドがコマンドの実行を完了するのを、2番目のRMVPEXDFNが待機します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DFN	定義	総称名, 名前, *ALL	必須, 定位置 1

トップ

定義 (DFN)

除去するPERFORMANCE EXPLORER定義の名前を指定します。特定の定義名、総称定義名、または*ALLを指定することができます。

***ALL** すべてのPERFORMANCE EXPLORER定義が除去されます。

定義名 除去するPERFORMANCE EXPLORER定義の名前を指定してください。

総称*定義名

除去するPERFORMANCE EXPLORER定義の総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる

名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリクが入っていないと、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

[トップ](#)

例

例1: 単一定義の除去

```
RMVPEXDFN  DFN(SAMPLE)
```

このコマンドは、SAMPLEという名前のPERFORMANCE EXPLORER定義が入っているライブラリーQUSRSYSのファイルQAPEXDFNからSAMPLEという名前のメンバーを除去します。

例2: SAMで始まるすべての定義の除去

```
RMVPEXDFN  DFN(SAM*)
```

このコマンドは、ライブラリーQUSRSYSのファイルQAPEXDFNからSAMで始まるすべてのメンバーを除去することにより、名前がSAM で始まるすべての定義を除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3203

&2のファイル&1のオブジェクトを割り振ることができない。

CPF3220

&2のファイル&1に対して操作を実行することはできない。

CPF7301

&3のファイル&2から&5個のメンバーが除去されなかった。

CPF7310

メンバー&1は&3のファイル&2から除去されませんでした。

[トップ](#)

PEXフィルター除去 (RMVPEXFTR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PERFORMANCE EXPLORERフィルター除去(RMVPEXFTR)コマンドは、システムから1つ以上のPERFORMANCE EXPLORERフィルターを除去します。各フィルターは、ライブラリーQUSRSYS中のQAPEXFTRファイルのメンバーとして保管されています。メンバー名はフィルター名と同じです。

制約事項:

- このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
- このコマンドを使用するには、*SERVICE特殊権限をもっているか、あるいはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してI5/OSのサービス・トレース機能を許可されていなければなりません。また、QIBM_SERVICE_TRACEの機能IDをもつ機能使用法情報の変更(QSYCHFUI) APIも、トレース操作に実行できるユーザーのリストを変更するために使用できます。
- 次のユーザー・プロファイルはコマンドを使用するための専用認可を受けています。
 - QPGMR
 - QSRV
- RMVPEXFTRを同時に実行するために、同じジョブ内で2つのスレッドを使用することはできません。最初にRMVPEXFTRを出したスレッドがコマンドの実行を完了するのを、2番目のRMVPEXFTRが待機します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FTR	フィルター	総称名, 名前, *ALL	必須, 定位置 1

[トップ](#)

フィルター (FTR)

除去するPERFORMANCE EXPLORERフィルターの名前を指定します。特定のフィルター名、総称フィルター名、または*ALLを指定することができます。

***ALL** すべてのPERFORMANCE EXPLORERフィルターが除去されます。

総称*フィルター名

除去するPERFORMANCE EXPLORERフィルターの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング（たとえば、ABC*）です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていないと、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。総称オブジェクト名の詳細

については、WEBサイト([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))のISERIES INFORMATION CENTERで、「プログラミング」->「制御言語(CL)」の下にある「I5/OSオブジェクト」トピックを参照してください。

フィルター名

除去するPERFORMANCE EXPLORERフィルターの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

例1: 単一フィルターの除去

```
RMVPEXFTR FTR(SAMPLE)
```

このコマンドは、SAMPLEという名前のPERFORMANCE EXPLORER フィルターが入っているライブラリーQUSRSYSのファイルQAPEXFTR からSAMPLEという名前のメンバーを除去します。

例2: SAMで始まるすべてのフィルターの除去

```
RMVPEXFTR FTR(SAM*)
```

このコマンドは、ライブラリーQUSRSYSのファイルQAPEXFTRからSAMで始まるすべてのメンバーを除去することにより、名前がSAM で始まるすべてのフィルターを除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3203

&2のファイル&1のオブジェクトを割り振ることができない。

CPF3220

&2のファイル&1に対して操作を実行することはできない。

CPF7301

&3のファイル&2から&5個のメンバーが除去されなかった。

CPF7310

メンバー&1は&3のファイル&2から除去されませんでした。

[トップ](#)

PF制約の除去 (RMVPFCST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

物理ファイル制約除去(RMVPFCST)コマンドは、物理ファイル間の1つまたは複数の制約関係を除去するために使用することができます。このコマンドで除去できる制約関係は、参照制約、固有限制、1次キー制約、および検査制約です。

制約事項:

- ファイル(FILE)パラメーターに指定された物理ファイルに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)またはオブジェクト変更(*OBJALTER)権限が必要です。
- 物理ファイルが入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。
- ユーザー・ジョブがオープンしたファイルから制約関係を除去することはできません。
- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。マルチスレッド・ジョブではこのコマンドは分散ファイルに対してスレッド・セーフではなく、タイプ*SNAのリレーショナル・データベースを使用する分散ファイルに対して正常に実行されません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CST	制約名	単一値: *ALL, *CHKPND その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	必須, 定位置 2
TYPE	制約タイプ	*ALL, *REFCST, *UNQCST, *PRIKEY, *CHKCST	オプション, 定位置 3
RMVCST	制約の除去	*RESTRICT, *REMOVE, *KEEP	オプション

トップ

ファイル (FILE)

制約が除去される物理ファイルを指定します。参照制約の場合には、このファイルは従属ファイルにしかすることはできません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

制約名 (CST)

除去される制約関係の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** FILEパラメーターに指定されたファイルのすべての制約関係が除去されます。

*CHKPND

制約の違反の可能性があるレコード（検査保留）をもつ制約関係が除去されます。**検査保留状態**は、従属ファイルの値をその親キーと比較してすべて有効であること、または検査制約式のレコード値が有効であることを、システムがまだ判断していない時に起こります。参照および検査制約だけが検査保留にできます。

その他の値（最大300個指定可能）

文字値 制約の名前を指定してください。

注: 小文字を指定した時には、大文字と小文字が区別されます。

[トップ](#)

制約タイプ (TYPE)

CSTパラメーターで指定され、物理ファイルから除去される制約関係のタイプを指定します。

***ALL** すべてのタイプの1次キーおよび固有限制約が除去されます。CSTパラメーターの依存関係の例は、次の通りです。

- CST(*ALL) TYPE(*ALL)-すべての制約が除去されます。
- CST(*CHKPND) TYPE(*ALL)-検査保留中のすべての参照および検査制約が除去されます。
- CST(ABC) TYPE(*ALL) -制約ABCが除去されます。

注: RMVCSTパラメーターが指定された時には、参照制約パラメーターではこの値は無視されます。

*REFCST

参照制約が除去されます。CSTパラメーターの依存関係の例は、次の通りです。

- CST(*ALL) TYPE(*REFCST)-すべての参照制約が除去されます。
- CST(*CHKPND) TYPE(*REFCST)-検査保留のすべての参照制約が除去されます。

- CST(ABC) TYPE(*REFCST)-参照制約ABCが除去されます。

***UNQCST**

固有制約が除去されます。

注: 固有の制約が1次キーである場合には、固有の制約は除去されますが、1次キーの定義およびファイルのアクセス・パスは除去されません。

CSTパラメーターの依存関係の例は、次の通りです。

- CST(*ALL) TYPE(*UNQCST)-(1次キー制約を除く) すべての固有制約が除去されます。
- CST(*CHKPND) TYPE(*UNQCST)-無効。固有制約は検査保留にすることはできません。
- CST(ABC) TYPE(*UNQCST)-固有制約ABCが除去されます (ただし1次キー制約でない場合)。

***PRIKEY**

1次キー制約が除去されます。CSTパラメーターの依存関係の例は、次の通りです。

- CST(*ALL) TYPE(*PRIKEY)-1次キー制約が除去されます。
- CST(*CHKPND) TYPE(*PRIKEY)-無効。1次キー制約を検査保留にすることはできません。
- CST(ABC) TYPE(*PRIKEY)-1次キー制約ABCが除去されます。

***CHKCST**

検査制約が除去されます。CSTパラメーターの依存関係の例は、次の通りです。

- CST(*ALL) TYPE(*CHKCST)-すべての検査制約が除去されます。
- CST(*CHKPND) TYPE(*CHKCST)-検査保留中のすべての検査制約が除去されます。
- CST(XYZ) TYPE(*CHKCST)-検査制約XYZが除去されます。

トップ

制約の除去 (RMVCST)

親キーでもある1次キーまたは固有制約が参照制約の親ファイルから除去される時に、従属ファイルの制約関係がどの程度除去されるかを指定します。

注: 制約タイプ(TYPE)パラメーターに*REFCSTが指定された場合には、このパラメーターは無視されません。

***RESTRICT**

制約が親ファイルと従属ファイルの間で定義または確立されている場合には、制約は除去されません。従属ファイルの外部キーのアクセス・パスも外部キーも除去されません。

***REMOVE**

親ファイルと従属ファイルの間の制約および制約定義が除去されます。対応する外部キーが除去されます。従属ファイルの外部キー・アクセス・パスが除去されるのは、それが存在しているが、共用されていない場合だけです。

***KEEP**

親ファイルと従属ファイルの間の制約は除去されますが、制約定義は除去されません。従属ファイルの対応する外部キーおよび外部キー・アクセス・パスは除去されません。

トップ

例

これらの例では、次の物理ファイル制約追加(ADDPFCST)コマンドを出し、固有制約 UNIQUE_DEPARTMENT_NUMBERおよび参照制約EMPLOYEE_DEPARTMENTがファイルに追加されています。

```
ADDPFCST  FILE(MYLIB/DEPARTMENTS)  TYPE(*UNQCST)
          KEY(DEPTNUM)  CST(UNIQUE_DEPARTMENT_NUMBER)
ADDPFCST  FILE(MYLIB/PERSONNEL)  TYPE(*REFCST)  KEY(DEPTNO)
          CST(EMPLOYEE_DEPARTMENT)
```

例1:固有制約の除去

```
RMVFCST  FILE(MYLIB/DEPARTMENTS)  CST(*ALL)  TYPE(*ALL)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBにあるファイルDEPARTMENTSから固有制約 UNIQUE_DEPARTMENT_NUMBERを除去します。

例2:参照制約の除去

```
RMVFCST  FILE(MYLIB/PERSONNEL)  CST(EMPLOYEE_DEPARTMENT)
          TYPE(*REFCST)  RMVFCST(*RESTRICT)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBにある従属ファイルPERSONNELから参照制約 EMPLOYEE_DEPARTMENTを除去します。親ファイルが確立されていない(ADDPFCSTコマンドに PRNFILEが指定されていない)ので、除去は制限されていません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF32B1

ファイル&1から制約が除去されなかった。

[トップ](#)

物理ファイル・トリガーの除去 (RMVPFTRG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

物理ファイル・トリガー除去(RMVPFTRG)コマンドは、トリガー・プログラムを呼び出すトリガーを指定した物理ファイルから除去します。除去するトリガーは、トリガー事象、トリガー時点、またはトリガー名によって指定することができます。トリガー・プログラムは、物理ファイル・トリガー追加(ADDPFTRG)コマンド (システム・トリガー) またはSQL CREATE TRIGGER ステートメント(SQLトリガー) によって、指定された物理ファイルに追加されたプログラムです。

トリガー時点、トリガー・イベント、およびトリガー名が指定されて、トリガー時点およびイベントがトリガー定義名について時点およびイベントと一致しない場合には、トリガーは除去されません。

指定したトリガー時点、トリガー・イベント、またはトリガー名のトリガーが物理ファイルから除去されると、ファイル内でトリガー・イベントが起こってもトリガー・プログラムは呼び出されなくなります。トリガーがシステム・トリガーであった場合には、トリガー・プログラムはシステム上に存在し続けます。トリガーがSQLトリガーであった場合には、トリガー・プログラムは削除されます。

物理ファイルからトリガーを除去する時には、その物理ファイルで排他非読み取りロックが保持されます。その物理ファイルに関して作成されたすべての論理ファイルも排他非読み取りロック状態が保持されます。

制約事項:

- 物理ファイルに対するオブジェクト変更(*OBJALTER)またはオブジェクト管理(*OBJMGT)権限および物理ファイルが入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。
- このジョブまたは別のジョブで物理ファイルあるいは従属の論理ファイルまたは構造化照会言語(SQL)ビューがオープンされた場合には、トリガーを除去することはできません。
- このコマンドの実行中は、物理ファイルも従属論理ファイルもオープンできません。
- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。マルチスレッド・ジョブではこのコマンドは分散ファイルに対してスレッド・セーフではなく、タイプ*SNAのリレーショナル・データベースを使用する分散ファイルに対して正常に実行されません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	物理ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 物理ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TRGTIME	トリガー時間	*ALL, *BEFORE, *AFTER	オプション, 定位置 2
TRGEVENT	トリガー・イベント	*ALL, *INSERT, *DELETE, *UPDATE, *READ	オプション, 定位置 3

キーワード	記述	選択項目	注
TRG	トリガー	文字値, *ALL	オプション
TRGLIB	トリガー・ライブラリー	名前, *FILE, *CURLIB	オプション

トップ

物理ファイル (FILE)

トリガーが除去される物理ファイルを指定します。指定するファイルは、システムに存在していなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 物理ファイル

名前 トリガーが除去されるファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

トリガー時間 (TRGTIME)

トリガー・プログラムが呼び出される時点に基づいて除去されるトリガーを指定します。

***ALL** トリガー・イベントの前または後に呼び出されたプログラムのすべてのトリガーが除去されます。

*BEFORE

トリガー・イベントの前に呼び出されたプログラムのトリガーが除去されます。

*AFTER

トリガー・イベントの後に呼び出されたプログラムのトリガーが除去されます。

トップ

トリガー・イベント (TRGEVENT)

除去されるトリガーに関連したトリガー・イベントを指定します。

***ALL** 挿入、削除、および更新操作のすべてのトリガーが除去されます。

*INSERT

挿入操作のトリガーが除去されます。

***DELETE**

削除操作のトリガーが除去されます。

***UPDATE**

更新操作のトリガーが除去されます。

***READ**

読み取り操作のトリガーが除去されます。

[トップ](#)

トリガー (TRG)

除去しようとしているトリガーの名前を指定します。

***ALL** SQLトリガーを含め、すべてのトリガー定義が除去されます。

文字値 トリガーの名前を指定してください。区切り文字のない場合には最大128文字、引用符(")の区切り文字がある場合には最大258文字を指定することができます。

TRGパラメーターの依存関係の例は、次の通りです。

- TRG(*ALL) TRGTIME(*ALL) TRGEVENT(*ALL) -すべてのトリガーが除去されます。
- TRG(*ALL) TRGTIME(*INSERT) TRGEVENT(*AFTER) -すべての*INSERT *AFTERトリガーが除去されます。
- TRG(ABC) TRGTIME(*ALL) TRGEVENT(*ALL) - ABCという名前のトリガーが除去されます。
- TRG(ABC) TRGTIME(*BEFORE) TRGEVENT(*INSERT) -トリガー時点が*BEFOREで、トリガー・イベントが*INSERTの場合に、ABCという名前のトリガーが除去されます。トリガー時点とトリガー・イベントが一致しない場合には、トリガーABCは除去されません。

[トップ](#)

トリガー・ライブラリー (TRGLIB)

トリガーが除去されるライブラリーを指定します。

注: 特殊値*LIBLおよび*CURLIBは、トリガーが除去される時に実行中のジョブの値です。

***FILE** 物理ファイル(FILE)パラメーターに指定されたファイルのライブラリーが使用されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 使用するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

例1:挿入事象のすべてのトリガーの除去

```
RMVPFTRG FILE(EMP) TRGEVENT(*INSERT)
```

このコマンドは、挿入操作によって呼び出されたプログラムのすべてのトリガーをEMPという名前の物理ファイルから除去します。

例2:トリガー・イベントの前に呼び出されたプログラムのすべてのトリガーの除去

```
RMVPFTRG FILE(EMP) TRGTIME(*BEFORE)
```

このコマンドは、トリガー事象の前に呼び出されたプログラムのすべてのトリガーをEMPという名前の物理ファイルから除去します。

例3:挿入イベント後に呼び出されたプログラムのトリガーの除去

```
RMVPFTRG FILE(EMP) TRGTIME(*AFTER) TRGEVENT(*INSERT)
```

このコマンドは、挿入操作の後に呼び出されたプログラムのトリガーをEMPという名前の物理ファイルから除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF32C6

トリガー操作が正常に実行されなかった。

[トップ](#)

プログラム除去 (RMVPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム除去(RMVPGM)コマンドは、現デバッグ・セッションから1つまたは複数のプログラムを除去します。各プログラムの中で定義されているすべての停止点およびトレースが除去され、プログラムは通常の状態に戻ります。除去したプログラムのどれかを再び追加するためには、停止点およびトレースを指定し直さなければなりません。

制約事項:

1. このコマンドを使用できるのは、デバッグ・モードの時だけです。デバッグ・モードを開始するためには、デバッグ開始(STRDBG)コマンドを参照してください。
2. このコマンドを使用して、デバッグ中のセッションからバインド済みプログラムを除去することはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	単一値: *DFTPGM, *ALL その他の値 (最大 20 回の繰り返し): 名前	オプション、位置 1

トップ

プログラム (PGM)

現デバッグ・セッションからどのプログラムを除去するかを指定します。

単一値

*DFTPGM

デバッグ・セッションにおいて、現在省略時のプログラムとして指定されているプログラムが除去されるプログラムです。後で省略時のプログラムを指定し直さない限り、このデバッグ・セッションには省略時のプログラムはなくなります。

*ALL 現在デバッグ・モードになっているすべてのプログラムが除去されます。

その他の値 (最大20個指定可能)

名前 現行デバッグ・セッションから除去されるプログラムの名前を指定してください。

トップ

例

RMVPGM PGM(PGMX PGMY PGMZ)

このコマンドは、3つのプログラムPGMX、PGMY,およびPGMZを現行のデバッグ・セッションから除去します。すべての停止点およびデータ・トレースがプログラムから除去されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF1999

コマンドでエラーが起こった。

[トップ](#)

事前開始ジョブ項目の除去 (RMVPJE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

事前開始ジョブ項目の除去 (RMVPJE)指定されたサブシステム記述から事前開始ジョブ項目を除去します。

ライブラリー名に*LIBLが指定されている項目を除去する時には、指定された名前のプログラムを見つけるために、ライブラリー・リストが検索されます。ライブラリー・リストにプログラムが見つかったが、別のライブラリー名 (ライブラリー・リストの後の方にある) をもつ項目が存在している場合には、項目は除去されません。ライブラリー・リストにプログラムが見つからないが、項目が存在している場合は、項目は除去されません。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - 指定されたサブシステム記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR),オブジェクト管理(*OBJMGT),および読み取り(*READ)権限と、そのサブシステム記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- 事前開始ジョブが活動状態の場合には、このコマンドを実行する前に事前開始ジョブの終了 (ENDPJ)コマンドを実行しなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SBSD	サブシステム記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サブシステム記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

サブシステム記述 (SBSD)

除去する事前開始ジョブ項目が入っているサブシステム記述の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サブシステム記述

名前 事前開始ジョブ項目が除去されるサブシステム記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されま
す。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライ
ブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 事前開始ジョブ項目が除去されるサブシステム記述のライブラリーを指定します。

トップ

プログラム (PGM)

除去する事前開始ジョブ項目用のプログラムの名前およびライブラリーを指定します。1つのサブシステム
記述の中に同じプログラム名の2つの項目が存在していても構いませんが、それらのライブラリー名は異な
ってなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: プログラム

名前 事前開始ジョブによって実行されるプログラムの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されま
す。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライ
ブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 事前開始ジョブによって実行されるプログラムのライブラリーを指定します。

トップ

例

```
RMVPJE  SBS(DQGPL/PJE)  PGM(QGPL/PGM1)
```

このコマンドは、PGM1プログラム(QGPLライブラリー中)の事前開始ジョブ項目をQGPLライブラリーに
入っているPJEサブシステム記述から除去します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1619

ライブラリー&2のサブシステム記述&1に損傷がある。

CPF1691

活動サブシステム記述は変更されることも変更されないこともある。

CPF1697

サブシステム記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

プログラム一時修正除去 (RMVPTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム一時修正除去(RMVPTF)コマンドは、指定されたプロダクトから、指定されたプログラム一時修正(PTF)を除去します。PTFが一時的に適用されている場合には、これらのPTFと置き換えられた元のオブジェクトが戻されます。PTFは一時的に除去することができ、この場合には、除去されたPTFはプロダクトPTFライブラリーに保留され、後から適用することができます。PTFが適用されていない場合には、QRPLOBJライブラリーに永久的に除去および移動することができます。

RMVPTFコマンドは、コマンドの実行時に即時PTFを除去するために使用するか、あるいは次の不在時初期プログラム・ロード(IPL)時に除去するよう要求するために使用します。

制約事項: このコマンドを使用するためには、QSRVとしてサインオンするか、あるいは*ALLOBJ権限をもっていないければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LICPGM	プロダクト	文字値	必須, 定位置 1
RLS	リリース	文字値, *ONLY	オプション
SELECT	選択するPTF番号	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
OMIT	除外するPTF番号	値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
RMV	エクステント変更	*TEMP, *PERM	オプション
DELAYED	遅延PTF	*NO, *YES	オプション
IPLRMV	不在時IPLの除去	*YES, *NO	オプション
RMVDEP	関連PTFの除去	*NO, *YES	オプション

[トップ](#)

プロダクト (LICPGM)

PTFが除去されるプロダクトの7桁のIDを指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

リリース (RLS)

ロードされるPTFのリリース・レベルを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*ONLY

この値が有効なのは、システムに導入されているプロダクトの基本オプションのリリースが1つの場合だけです。プロダクトのすべての導入済みオプションに対するPTFは、オプションのリリース・レベルとは無関係に除去されます。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXRYMZの形式で指定してください。VXはバージョン番号、RYはリリース番号、MZはモディフィケーション・レベルです。変数XおよびYは0から9の数字、変数Zは0から9の数字またはAからZの文字とすることができます。

指定されたリリース・レベルがプロダクトの基本オプションのリリース・レベルである場合には、オプションのリリース・レベルとは無関係に、そのプロダクトのすべての導入済みオプションのPTFが除去されます。

指定されたリリース・レベルがプロダクトの基本オプションのリリース・レベルでない場合には、そのリリース・レベルで導入されるオプションのPTFだけが除去されます。

トップ

選択するPTF番号 (SELECT)

指定されたプロダクトからどのPTFを除去するかを指定します。選択するPTF番号 (SELECT)パラメーターに単一のPTF番号を指定した場合には、除外するPTF番号 (OMIT)パラメーターを指定することはできません。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

考えられる値は、次の通りです。

*ALL プロダクトからすべてのPTFが除去されます。永久的に適用されたPTFについては、このコマンドは無視します。すべてのPTFを除去することができなかった場合には、除去されなかったPTFおよび除去されない理由を示すメッセージが操作員に送られます。

PTF番号

除去する各プログラム一時修正のPTF識別番号を指定してください。最大300個のPTF番号を指定することができます。

トップ

除外するPTF番号 (OMIT)

このパラメーターに指定されたPTFを除いて、すべてのPTFが除去されることを指定します。残りのすべてを除去する時に、省く（システムに残しておく）プログラム一時修正のPTF番号を指定してください。最大300個のPTF番号を指定することができます。選択するPTF番号 (SELECT)パラメーターに単一のPTF番号を指定した場合には、OMITパラメーターを指定することはできません。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

エクステント変更 (RMV)

PTFを一時的に除去するかまたは永久的に除去するかを指定します。永久的に除去されたPTFオブジェクトはQRPLOBJに移動されるか、または削除されます。一時的に除去されたPTFオブジェクトは、後から適用できるように、プロダクトPTFライブラリーに保留されます。

考えられる値は、次の通りです。

***TEMP**

PTFは除去され、後から再び適用できるように、プロダクトPTFライブラリーに保留されます。

***PERM**

PTFは永久的に除去されて、QRPLOBJに入れられます。

トップ

遅延PTF (DELAYED)

コマンドの処理時に即時PTFが除去されるかどうか、あるいは次の不在時IPL時に即時PTFおよび遅延PTFが除去されるかどうかを指定します。

***NO** 識別された即時PTFは、コマンドの処理時にすべて除去されます。遅延PTFでは、PTFが適用されていない状態で、RMV(*PERM)が指定された場合にはコマンドの実行時にPTFは永続的に除去されます。この他のすべての遅延PTFはこのRMVPTF要求の間中は無視され、除去されません。一時的に除去されている即時PTFの場合には、活動状態の前提条件があると、PTFは除去されない結果となります。除去されない各PTFについてメッセージが送られます。

***YES** 遅延と即時の両方のPTFが次の不在時IPLで除去されます。不在時IPLの除去 (IPLRMV)パラメータは、次の不在時IPLでPTFが除去されるかどうか、あるいは次の不在時IPLでPTFを除去するための前の要求が取り消されるかどうかを決定します。

トップ

不在時IPLの除去 (IPLRMV)

次の不在時IPL時に遅延または即時PTFに対して行われる処置を指定します。このパラメーターが有効なのは、遅延PTF (DELAYED)パラメーターに*YESが指定されている場合だけです。

考えられる値は、次の通りです。

***YES** 指定されたPTFが次の不在時IPLで除去されます。エクステント変更 (RMV)パラメーターによって、この除去が一時的なものか、永久的なものかが決定されます。

***NO** 識別されたPTFの次の不在時IPLでの除去の前の要求は、取り消されます。

トップ

関連PTFの除去 (RMVDEP)

SELECTパラメーターに指定されたPTFと同じプロダクトおよびオプション内の従属PTFおよび相互従属PTFが、SELECTパラメーター・リストに指定されたPTFと一緒に処理されるかどうかを指定します。RMVDEPパラメーターが有効なのは、SELECTパラメーターに*ALLを指定していない場合だけです。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** 従属および相互従属PTFは、SELECTパラメーター・リストでは処理されません。リストに指定されたPTFがリストにないかまたはすでに適用済みの従属PTFをもっている場合には、PTFは除去されません。メッセージが、欠落している従属PTFおよびそれが従属する指定されたPTFを識別します。

***YES** 従属および相互従属PTFは、SELECTパラメーター・リストで除去されます。

[トップ](#)

例

例1: PTFの一時的な除去

```
RMVPTF LICPGM(5722SS1) DELAYED(*YES)
```

このコマンドは、次のIPLで、オペレーティング・システム(5722SS1)から一時的に適用されたすべてのPTFを一時的に除去します。このPTFは、必要な場合にはAPYPTFコマンドを使用して再度適用することができます。

例2: PTFの永続的な除去

```
RMVPTF LICPGM(5722SS1) SELECT(SI10002 SI10005) RMV(*PERM)
```

このコマンドは、オペレーティング・システム(5722SS1)から2個のPTF（番号SI10002およびSI10005）を永続的に除去します。2個のPTFはQRPLOBJに移動され、適用する前にはLODPTFコマンドを使用して再度ロードしなければなりません。

例3: PTFとその相互従属の除去

```
RMVPTF LICPGM(5722SS1) SELECT(SI00003 SI00008 SI00012)  
DELAYED(*YES) RMVDEP(*YES)
```

このコマンドは、PTFのSI00003、SI00008とSI00012、および同じ製品とオプション内のその従属と相互従属PTFを、次のIPLでライブラリーQSYS中のオペレーティング・システムから一時的に除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF24B4

パラメーター・リストのアドレス指定中に重大エラー。

CPF35A0

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF35A1

ライセンス内部コードの間違ったコピーを使用している。

CPF35A4

ライセンス内部コード修正&2を除去することはできない。

CPF35A9

ライセンス内部コード修正を処理中にエラーが起こった。

CPF35C0

PTF &1-&2 &3のIPL処置は除去できない。

CPF35D0

ライセンス内部コード修正&1-&2 &3が永久的除去にセットされていない。

CPF35D2

PTF &1-&2は除去されていない。

CPF35EB

プロダクト&1の複数のリリースが導入されている。

CPF35E4

PTF &1-&2 &3の情報が完了していない。

CPF35FB

PTF &1-&2は除去されていない。

CPF3558

&3のタイプ*&2の&1を割り振ることができない。

CPF3564

PTF &1-&2に損傷がある。

CPF358A

リリースは正しくない。

CPF3596

選択/除外リストのPTF番号が許されない。

CPF3598

PTF機能はすでに処理中である。

CPF3602

PTF &2は永久適用されているので除去されなかった。

CPF3604

エラーが起こったので、PTFは取り除かれなかった。

CPF3606

プロダクト&1 &2は導入されていない。

CPF361E

プロダクト&1のPTFを除去中にエラーが起こった。

CPF3612

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3641

即時PTFは取り除かれなかった。

CPF3658

識別されたプログラム一時修正はない。

CPF3693

エラーが起こったので保守機能は終了した。

CPF3931

必要なプログラムが見つからない。PTFは完了していません。

CPF3945

ライセンス・プログラムのPTF活動のレコードが削除された。

CPF3956

PTF処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

RDBディレクトリー項目の除去 (RMVRDBDIRE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目除去(RMVRDBDIRE)コマンドは、リレーショナル・データベース(RDB)ディレクトリーから特定の項目、総称項目、すべての項目、またはすべてのリモート項目を除去します。

制約事項:

*LOCAL RDB項目を除去するためには、*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RDB	項目	総称名, 名前, *ALL, *ALLRMT	必須, 定位置 1

[トップ](#)

項目 (RDB)

リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目を指定します。項目に別名がない場合には、リレーショナル・データベース名が項目名として使用されます。項目に別名がある場合には、その別名が項目名として使用されます。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

*ALLRMT

*LOCAL項目を除くRDBディレクトリーのすべての項目が除去されます。

*ALL RDBディレクトリー中のすべての項目が除去されます。

総称*リレーショナル・データベース名

除去するRDB項目の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。

リレーショナル・データベース名

除去するRDB項目の名前を指定してください。

[トップ](#)

例

RMVRBBDIRE RDB(YOURRDB)

このコマンドは、リレーショナル・データベース・ディレクトリーから項目YOURRDBを除去します。この項目は、以降はアクセスできなくなります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF3EC2

リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目の除去が失敗しました。

[トップ](#)

REXXバッファの除去 (RMVREXBUF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

REXXバッファ除去(RMVREXBUF)コマンドは、1つまたは複数のバッファをREXX 外部データ待ち行列から取り除きます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
BUFFER	バッファ	10 進数, *CURRENT , *ALL	オプション、位置 1

[トップ](#)

バッファ (BUFFER)

取り除くバッファの番号を示します。この番号によって識別されるバッファおよびその番号の後に追加されているすべてのバッファが取り除かれます。

考えられる値は、次の通りです。

***CURRENT**

現行バッファだけが除去されます。

***ALL** すべてのバッファおよび項目がREXX外部データ待ち行列から取り除かれます。これは BUFFER(0)を指定することと同じです。

変数名 変数名を指定してください。制御言語(CL)プログラムでは、最小11桁の長さの10進数で小数点以下の桁のない変数を指定しなければなりません。

バッファ番号

除去するバッファの番号を指定します。

[トップ](#)

例

RMVREXBUF BUFFER(2)

このコマンドは、バッファ番号2および2より大きい番号のすべてのバッファをREXX外部データ待ち行列から除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF7CF7

REXX外部データ待ち行列に損傷がある。

[トップ](#)

リモート定義の除去 (RMVRMTDFN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リモート定義除去(RMVRMTDFN)コマンドは、リモート・システムの属性の定義を除去するために使用されます。

制約事項: ユーザーは*ALLOBJ権限をもっていなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SYSTEM	システム名	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: システム名	文字値, *ANY, *ALL	
	要素 2: システム・グループ	文字値	

[トップ](#)

システム名 (SYSTEM)

除去されるリモート・システムのシステム名およびシステム・グループを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ANY** 他の項目によって処理されないリモート・システムの省略時の定義を除去します。

***ALL** すべてのリモート・システムの定義を除去します。

指定できるシステム名の値は次の通りです。

システム名

除去するリモート・システムの名前を指定してください。

指定できるシステム・グループの値は次の通りです。

システム・グループ

除去するリモート・システムのグループ名を指定してください。この値を指定しないと、グループ名はブランクになります。

[トップ](#)

例

例1:特定リモート定義の除去

```
RMVRMTDFN  SYSTEM(RCHAS1)
```

このコマンドは、リモート・システムからの定義を除去します。現在、このシステムは*ANYリモート定義に対する値または省略時の値を使用します。

例2:リモート定義のすべての除去

```
RMVRMTDFN  SYSTEM(*ALL)
```

このコマンドはリモート・システム定義のすべてを除去します。現在、システムは省略時の値を使用します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF6DCA

SYSTEMパラメーターをローカル・システムにできない。

CPF6DCC

システム&1 &2のリモート定義が見つからない。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

リモート・ジャーナルの除去 (RMVRMTJRN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リモート・ジャーナル除去(RMVRMTJRN)コマンドは、指定されたターゲット・システムのリモート・ジャーナルをソース・システムの指定されたジャーナルから関連解除します。ソース・システム上のジャーナルは、ローカル・ジャーナルまたは別のリモート・ジャーナルのいずれか一方とすることができます。

このコマンド処理によって、リモート・ジャーナルおよび関連したすべてのジャーナル・レシーバーはターゲット・システムから削除されません。ターゲット・システムでは、このコマンドの処理は実行されません。ターゲット・システムに残っているリモート・ジャーナルは、リモート・ジャーナル追加(ADDRMTJRN)コマンドまたはリモート・ジャーナル追加(QJOADDRESSMOTAJOURNAL) APIを使用して、後からジャーナルのリモート・ジャーナル定義に追加し直すことができます。

必要な場合に、リモート・ジャーナルおよび関連したすべてのジャーナル・レシーバーをターゲット・システムから削除するのは、ユーザーの責任です。

リモート・ジャーナルの関連がジャーナルから除去されてしまうと、ジャーナル項目がまだリモート・ジャーナルに複写されていなくても、ソース・システムで現在ジャーナルのレシーバー・ディレクトリー内にあるジャーナル・レシーバーのすべては、もはや削除から保護されなくなります。

制約事項:

- ローカル・ジャーナルまたはリモート・ジャーナルに対するコマンドは、ソース・システムから呼び出さなければなりません。
- 指定されたターゲット・システムのリモート・ジャーナルは、ジャーナル状態*ACTIVEになってはいけません。
- 指定されたリレーショナル・データベース(RDB)ディレクトリー項目は、次の規則を満たしていなければなりません。
 - 通信プロトコルは、リモート・ジャーナル機能がサポートされているプロトコルの1つとしなければなりません。
 - RDB内のリモート・ロケーション名は*LOCALデータベースを参照することができません。
 - RDBは、アプリケーション要求元ドライバー・プログラム(*ARDPGM)を使用してターゲット・システムを見つけることができません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RDB	リレーショナル・データベース	名前	必須, 定位置 1

キーワード	記述	選択項目	注
SRCJRN	ソース・ジャーナル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TGTJRN	ターゲット・ジャーナル	単一値: *SRCJRN その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ターゲット・ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	

トップ

リレーショナル・データベース (RDB)

ターゲット・システムのリモート・ロケーション名が入っているリレーショナル・データベース・ディレクトリー項目の名前。

これは必須パラメーターです。

リレーショナル・データベース項目名

リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目の名前には最大18桁を指定することができます。

トップ

ソース・ジャーナル (SRCJRN)

リモート・ジャーナルを除去するソース・システム上のジャーナルを指定します。ソース・システム上のジャーナルは、ローカル・ジャーナルまたはリモート・ジャーナルのいずれか一方とすることができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ソース・ジャーナル

ソース・ジャーナル名

ターゲット・ジャーナルを除去するソース・ジャーナルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

ソース・ジャーナルの名前は、次のライブラリー値の1つで修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ターゲット・ジャーナル (TGTJRN)

ターゲット・システム上のリモート・ジャーナルを指定します。

単一値

*SRCJRN

ターゲット・ジャーナル名はソース・ジャーナル名と正確に同じです。

修飾子1: ターゲット・ジャーナル

ターゲット・ジャーナル名

ソース・ジャーナルから除去するターゲット・ジャーナルを指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

例1: ソース・ジャーナルと同じ名前を持つリモート・ジャーナルの除去

```
RMVRMTJRN SRCJRN(RMTLIB/JOURNAL) RDB(CHICAGO)
           TGTJRN(*SRCJRN)
```

このコマンドは、リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目CHICAGOによって識別されたライブラリーRMTLIBのリモート・ジャーナルJOURNALを、ライブラリーRMTLIBのソース・ジャーナルJOURNALから除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF6981

&2のリモート・ジャーナル&1は除去されていない。

CPF6982

リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目&1が正しくない。

CPF6992

&2のリモート・ジャーナル&1は除去されていない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

システム応答リスト項目除去 (RMVRPYLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム応答リスト項目除去(RMVRPYLE)コマンドでは、システム応答リストから項目を除去します。応答リストは、事前定義照会メッセージに対する自動応答の源泉として使用されます。

応答リストは、システム応答リストの照会メッセージ応答属性が指定された、言い換えると INQMSGRPY(*SYSRPLY)が指定された、ジョブによって照会メッセージが送られる時にだけ、使用されます。INQMSGRPY(*SYSRPLY)は、ジョブ変更(CHGJOB)コマンドを使用して変更することができます。

応答リスト項目追加(ADDRPYLE)コマンドを使用して、新規項目を応答リストに追加することができます。既存の項目は、応答リスト項目変更(CHGRPYLE)コマンドを使用して変更することができます。システム応答リスト項目の処理(WRKRPLYE)画面を使って、項目のリスト全体を表示することができます。

WRKRPLYEによって表示された画面から、個々の項目を追加、変更、および除去することができます。

制約事項:

1. このコマンドは共通*EXCLUDE権限で提供され、QPGMRユーザー・プロファイルがこのコマンドを使用する専用認可を持っています。
2. このコマンドを使用するには、QPGMRとしてサインオンするか、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っている必要があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SEQNBR	順序番号	1-9999, *ALL	必須, 定位置 1

トップ

順序番号 (SEQNBR)

システム応答リストから除去される応答リスト項目の順序番号を指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** すべての応答リスト項目がシステム応答リストから除去されることを指定します。

順序番号

システム応答リストから除去される項目を指定する4桁の順序番号を指定してください。有効な値の範囲は1から9999です。

トップ

例

例1:すべての項目の除去

```
RMVRPYLE SEQNBR(*ALL)
```

このコマンドは、システム応答リストからすべての項目を除去します。

例2: 1つの項目の除去

```
RMVRPYLE SEQNBR(0001)
```

このコマンドは、システム応答リストから、順序番号0001の項目を除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2435

システム応答リストが見つからなかった。

CPF2556

順序番号&1はシステム応答リストに定義されていない。

CPF2557

システム応答リストに損傷がある。

CPF2558

システム応答リストは現在使用中である。

[トップ](#)

経路指定項目除去 (RMVRTGE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

経路指定項目除去 (RMVRTGE)指定されたサブシステム記述からルーティング項目を除去します。サブシステムは、このコマンドの実行時に活動状態としておくことができます。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - 指定されたサブシステム記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR),オブジェクト管理(*OBJMGT),および読み取り(*READ)権限と、そのサブシステム記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SBSD	サブシステム記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サブシステム記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SEQNBR	経路指定項目の順序番号	1-9999	必須, 定位置 2

トップ

サブシステム記述 (SBSD)

除去したいルーティング項目の入っているサブシステム記述の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サブシステム記述

名前 ルーティング項目が除去されるサブシステム記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ルーティング項目が除去されるサブシステム記述のライブラリーの名前を指定します。

経路指定項目の順序番号 (SEQNBR)

除去されるルーティング項目の順序番号を指定します。ルーティング項目の順序番号は、値が比較される時にルーティング項目が処理される順序を示します。ジョブがシステムに入力されると、ジョブの比較値がサブシステム中のルーティング項目の比較値と比較されます。最初の一致が見つかった時には、その項目のルーティング情報が新しいジョブに使用されます。したがって、順序番号は比較の順序を示します。

これは必須パラメーターです。

1から9999

1から9999の順序番号を指定してください。

トップ

例

```
RMVRTGE  SBS(OR/PERT)  SEQNBR(9912)
```

このコマンドは、経路指定項目9912をライブラリーORのサブシステム記述PERTから除去します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1619

ライブラリー&2のサブシステム記述&1に損傷がある。

CPF1691

活動サブシステム記述は変更されることも変更されないこともある。

CPF1697

サブシステム記述&1は変更されなかった。

トップ

検索見出し項目の除去 (RMV SCHIDX)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

検索見出し項目除去(RMV SCHIDX)コマンドは、検索見出しからパネル・グループ見出し項目を除去します。

制約事項:

- 検索見出しに対する変更(*CHANGE)権限、および検索見出しが入っているライブラリーに対する使用(*USE)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SCHIDX	検索見出し	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 検索見出し	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PNLGRP	パネル・グループ	名前	必須, 定位置 2

トップ

検索見出し (SCHIDX)

項目を除去する検索見出しを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 検索見出し

名前 検索見出しの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

検索見出しを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索見出しが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

パネル・グループ (PNLGRP)

項目が除去されるパネル・グループを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 パネル・グループの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

RMV SCHIDX SCHIDX (ACCOUNTING) PNLGRP (PAYROLL)

このコマンドは、パネル・グループPAYROLLを検索見出しACCOUNTINGから除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

制御の範囲項目の除去 (RMVSOCE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

制御の範囲項目の除去(RMVSOCE)コマンドによって、CLユーザーまたはプログラムは、警報制御の範囲から拡張対等サブシステム(APPN)ネットワーク・ノード制御点を除去することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ENTRY	項目	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプションル
	要素 1: ネットワーク識別コード	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点	通信名	

[トップ](#)

項目 (ENTRY)

制御の範囲から除去するシステムを指定します。

このパラメーターには50個の値を指定することができます。

要素1: ネットワーク識別コード

*NETATR

ネットワークIDの値としてNETIDネットワーク属性を使用してください。NETIDネットワーク属性は、記憶されている値です。*NETATRは、記憶されていません。

通信名 制御の範囲から除去したいシステムのネットワークIDを指定してください。

要素2: 制御点

通信名 制御の範囲から除去したいシステムの制御点名を指定してください。

[トップ](#)

例

```
RMVSOCE ENTRY((*NETATR RCHSTR1) (*NETATR RCHSTR2))
```

このコマンドは、2つのシステム(RCHSTR1およびRCHSTR2)を警報制御範囲から除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

サービス・テーブル項目の除去 (RMVSRVTBLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・テーブル項目除去(RMVSRVTBLE)コマンドを使用してサービス項目をサービス・テーブルから取り除きます。サービス・テーブルを使用してポートに対するネットワーク・サービスのマッピングを管理します。サービス項目名、ポート、およびプロトコルを調べた上で項目を除去しなければなりません。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SERVICE	サービス	文字値	必須, 定位置 1
PORT	ポート	1-65535	必須, 定位置 2
PROTOCOL	プロトコル	文字値	必須, 定位置 3

[トップ](#)

サービス (SERVICE)

除去するサービス項目の名前を指定します。

[トップ](#)

ポート (PORT)

除去するサービスの割り当て先のポート番号を指定します。

[トップ](#)

プロトコル (PROTOCOL)

除去するサービスによって使用されるプロトコルの名前を指定します。

[トップ](#)

例

RMVSRVTBLE SERVICE(FTP) PORT(21) PROTOCOL(TCP)

このコマンドは、FTPサービス項目をネットワーク・サービス・テーブルから除去します。除去しようとするサービスはポート21に割り当てられ、TCPプロトコルが実行されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP2901

テーブルにサービス項目が見つからない。

TCP8050

&1を使用するためには*IOSYSCFG権限が必要である。

[トップ](#)

サーバー権限項目の除去 (RMVSVRAUTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サーバー確認項目除去(RMVSVRAUTE)コマンドは、指定したユーザー・プロファイルからサーバー確認項目を除去するために使用されます。この確認情報は、アプリケーション・サーバーに接続するためにアプリケーション・リクエスターが使用します。項目が除去されると、そのサーバーに新規に接続しようとする、他のサーバー確認項目を使用するか、あるいは一致が見つからない場合は、アプリケーションにエラーを戻すかのいずれかの結果になります。

制約事項: サーバー確認項目の除去元のユーザー・プロファイルに対する機密保護管理者(*SECADM)特殊権限、オブジェクト管理(*OBJMGT)権限、および使用(*USE)権限が必要です。そうでなければ、このコマンドを実行するためにそのユーザー・プロファイルのもとでサインオンしなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRPRF	ユーザー・プロファイル	単純名, *CURRENT	必須, 定位置 1
SERVER	サーバー	文字値, *ALL	必須, 定位置 2

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

サーバー確認項目を除去するユーザー・プロファイルを指定します。

*CURRENT

現行ユーザーのサーバー確認項目が除去されます。

名前 サーバー確認項目を除去元のユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

サーバー (SERVER)

アプリケーション・サーバーの名前を指定します。

***ALL** このユーザー・プロファイルのすべてのサーバー確認項目を除去します。

'文字値'

項目を除去するアプリケーション・サーバーの名前を指定してください。200 文字を超えないように指定してください。

例

```
RMVSVRAUTE  USRPRF(*CURRENT)  SERVER('MPLS_RDB')
```

このコマンドは、MPLS_RDBのサーバー確認項目を現行ユーザー・プロファイルから除去します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2213

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

CPF225E

サーバー認証項目が存在していない。

CPF226C

機能の実行が認可されていない。

トップ

テープ・カートリッジの除去 (RMVTAPCTG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ・カートリッジ除去(RMVTAPCTG)コマンドは、指定されたカートリッジIDをその現行カテゴリーまたは指定されたカテゴリーから除去して、それらを*EJECTカテゴリーに入れます。*EJECTカテゴリーは入出力操作に有効なカテゴリーではありません。*EJECTカテゴリーのカートリッジをテープ装置で使用することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	ライブラリー装置	名前	必須, 定位置 1
CTG	カートリッジID	単一値: *ALL その他の値 (最大 40 回の繰り返し): 文字値	オプション
CGY	カテゴリー	単一値: *SHARE400, *INSERT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カテゴリー名	文字値, *NOSHARE, *IPL, *NL, *CNV	
	要素 2: カテゴリー・システム	文字値, *CURRENT	
STATION	端末	*DEV, *CNV, *HIGHCAP	オプション

[トップ](#)

ライブラリー装置 (DEV)

使用するライブラリー装置を指定します。装置名は、装置媒体ライブラリー作成(CRTDEVMLB)コマンドを使用して前もってシステム上に作成しておかなければなりません。

これは必須パラメーターです。

名前 ライブラリー装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

カートリッジID (CTG)

除去されるカートリッジIDを指定します。

注:

- カートリッジIDは、ライブラリー装置に外部IDを読み取るバーコード・スキャナーがある場合には、外部IDを表すものでなければなりません。

- このパラメーターが指定されている場合には、CGYパラメーターを指定することはできません。

単一値

***ALL** すべてのカートリッジが除去されます。

その他の値（最大40個指定可能）

総称ID

カートリッジIDの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング（たとえば、ABC*）です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、総称接頭部で始まる名前を持つすべてのカートリッジIDを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なカートリッジIDと見なします。

ID 除去するカートリッジIDを指定してください。

[トップ](#)

カテゴリー (CGY)

テープ・カートリッジが除去されるカテゴリーを指定します。

注: CGYパラメーターが指定されている場合には、CTGパラメーターを指定することはできません。

単一値

*SHARE400

*SHARE400カテゴリーに割り当てられているカートリッジIDが除去されます。このカテゴリーのカートリッジは、同じ装置に接続された他のシステムと共用することができます。

*INSERT

*INSERTカテゴリーに割り当てられているすべてのカートリッジIDが除去されます。このカテゴリーのカートリッジはライブラリー装置に入っていますが、そのIDはまだシステムに追加されていません。

要素1: カテゴリー名

*NOSHARE

*NOSHAREカテゴリーに割り当てられているすべてのカートリッジIDが除去されます。このIDのカートリッジは他のシステムと共用することができません。

***IPL** *IPLカテゴリーに割り当てられているカートリッジIDが除去されます。このIDのカートリッジは代替IPLに使用することができます。

***NL** *NLカテゴリーに割り当てられているすべてのカートリッジIDが除去されます。このIDのカートリッジはラベルなしテープとして使用されます。

***CNV** *CNVカテゴリーに割り当てられたすべてのカートリッジIDが除去されます。このカテゴリーのカートリッジがOS/400によって自動的に除去されるのは、カートリッジがロードされていて、ユーザーがアンロードを要求した場合です。

文字値 ユーザー定義のカテゴリーの名前を指定してください。指定したユーザー定義カテゴリーに割り当てられているカートリッジIDが除去されます。

要素2: カテゴリー・システム

この要素は、カテゴリが属するシステムを識別します。システム名は、ネットワーク属性表示 (DSPNETA) コマンドの保留中システム名フィールドから取られます。保留中のシステム名がない場合には、現行システム名属性が使用されます。

*****注意*****
システム名を変更した場合には、ライブラリー装置中のすべてのテープ・カートリッジと関連したライブラリー装置内のカートリッジが無効になります。

***CURRENT**

現在コマンドを実行中のシステムに属するカテゴリ。

文字値 このカテゴリが属するシステムの名前を指定してください。

トップ

端末 (STATION)

イジェクトされるカートリッジを受け取る端末を指定します。

***DEV** テープ・ライブラリーに通常の入出力端末がある場合には、カートリッジはそれに入れられます。テープ・ライブラリーに通常の入出力端末がない場合には、カートリッジは高容量の出力端末に入れられます。テープ・ライブラリーに高容量の出力端末がない場合には、カートリッジはライブラリー内の保管スロットに入れられます。ライブラリーのドアを開けて、高容量の出力端末またはライブラリー内の保管スロットからテープ・カートリッジを物理的に除去しなければなりません。

***CNV** テープ・カートリッジは、通常の入出力端末にイジェクトされます。通常の入力端末によってライブラリーのドアを開けずにライブラリーからテープ・カートリッジの挿入および除去を行うことができます。テープ・ライブラリーに通常の入出力端末がない場合には、カートリッジは高容量の出力端末に入れられます。テープ・ライブラリーに高容量の出力端末がない場合には、カートリッジはライブラリー内の保管スロットに入れられます。ライブラリーのドアを開けて、高容量の出力端末またはライブラリー内の保管スロットからテープ・カートリッジを物理的に除去しなければなりません。

***HIGHCAP**

テープ・カートリッジは、ライブラリー装置内の高容量の出力端末にイジェクトされます。テープ・ライブラリーに高容量の出力端末がない場合には、カートリッジは通常の入出力端末に入れられます。テープ・ライブラリーに通常の入出力端末がない場合には、カートリッジはライブラリー内の保管スロットに入れられます。ライブラリーのドアを開けて、高容量の出力端末またはライブラリー内の保管スロットからテープ・カートリッジを物理的に除去しなければなりません。

トップ

例

例1: *HIGHCAP端末への単一のカートリッジの除去

```
RMVTAPCTG  DEV(LIB01)  CTG(VOL4)  STATION(*HIGHCAP)
```

このコマンドは、カートリッジID VOL4をその現在のカテゴリから除去して、それを*EJECTカテゴリに入れます。カートリッジは、高容量の出力端末に入れられます。高容量の出力端末が定義されていない場合には、カートリッジは通常の入出力端末に入れられます。通常の入出力端末がサポートされていない場合には、カートリッジは保管スロットに残されます。

例2: *IPLカテゴリーからのすべてのカートリッジの除去

```
RMVTAPCTG  DEV(LIB01)  CGY(*IPL)  STATION(*CNV)
```

このコマンドは、*IPLカテゴリーのすべてのカートリッジIDを除去して、それらを*EJECTカテゴリーに入れます。カートリッジは、通常の入出力端末に入れます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF67AF

&6個のカートリッジが除去されなかった。

CPF6745

装置&1は媒体ライブラリー装置でない。

[トップ](#)

TCP/IP ホスト・テーブル項目の除去 (RMVTCPHTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPホスト・テーブル項目除去(RMVTCPHTE)コマンドは、IPアドレス、その関連ホスト名のすべて、および関連テキスト記述フィールドをローカル・ホスト・テーブルから除去するために使用します。ローカル・ホスト・テーブルは、項目当たり1つのIPアドレス、4つのホスト名、および1つのテキスト記述フィールドを使用できるように定義されています。

次のホスト・テーブル・コマンドも参照してください。

- TCP/IPホスト・テーブル項目追加(ADDTCPHTE)コマンドは、ローカル・ホスト・テーブルに新しい項目を追加します。
- TCP/IPホスト・テーブル項目変更(CHGTCPHTE)コマンドは、1つまたは複数のホスト名あるいはテキスト記述フィールドを変更します。
- TCP/IPホスト・テーブル組み合わせ(MRGTCPHTE)コマンドは、ホスト名、IPアドレス、およびテキスト注記項目を物理ファイル・メンバーからローカル・ホスト・テーブルに組み合わせます。ローカル・ホスト・テーブル全体をユーザー指定の物理ファイル・メンバー中のホスト・テーブルで置き換えることのできる置き換えオプションも提供されています。
- TCP/IPホスト・テーブル項目名前変更(RNMTCPHTE)コマンドは、ホスト・テーブル項目のIPアドレスを別のIPアドレスに名前変更します。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
INTNETADR	IPアドレス	文字値	必須, 定位置 1

[トップ](#)

IPアドレス (INTNETADR)

ローカル・ホスト・テーブルから除去されるIPアドレスを指定します。インターネット・アドレスはNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定されます。ここでNNNは0から255の範囲の10進数です。IPアドレスは、そのアドレスのネットワークID (ID)部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0の場合には、正しくありません。コマンド行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

[トップ](#)

例

```
RMVTCPHTE INTNETADR('132.28.71.5')
```

このコマンドは、IPアドレスの132.28.71.5をもつホスト・テーブル項目を除去します。これには、IPアドレス、すべての関連ホスト名、および項目と関連付けられたテキスト記述フィールドが含まれます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP1901

IPアドレス&1が正しくない。

TCP1902

IPアドレス&1が正しくない。

TCP1907

IPアドレス項目&1が存在しない。

TCP1908

IPアドレス&1が正しくない。

TCP1929

ホスト・テーブルが使用できない。

TCP8050

&1を使用するためには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

[トップ](#)

TCP/IPインターフェースの除去 (RMVTCPIFC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPインターフェース除去(RMVTCPIFC)コマンドは、伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)インターフェースを除去するために使用します。このコマンドを投入する場合には、インターフェースが活動状態であってはなりません。インターフェースはTCP/IPインターフェース終了(ENDTCPIFC)またはTCP/IP終了(ENDTCP)コマンドを使用して終了しなければなりません。

既存の経路またはリモート・システム情報(RSI)項目にとって必要なインターフェースを除去することはできません。

このコマンドは、TCP/IPインターフェース追加(ADDTCPIFC)コマンドによって指定されたインターフェースを除去するために使用します。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
INTNETADR	IPアドレス	文字値	オプション、位置 1
ALIASNAME	別名	単純名	オプション

[トップ](#)

IPアドレス (INTNETADR)

前にTCP/IPインターフェース追加(ADDTCPIFC)コマンドを使用してTCP/IP構成に追加されたインターフェースのIPアドレスを指定します。インターネット・アドレスはNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定されます。ここでNNNは0から255の範囲の10進数です。IPアドレスは、そのアドレスのネットワークID (ID)部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0 の場合には、正しくありません。コマンド行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

注: コマンドには、INTNETADRパラメーターかALIASNAMEパラメーターのいずれかを指定する必要がありますが、両方は指定できません。

文字値 除去するインターフェースと関連したIPアドレスを指定してください。

[トップ](#)

別名 (ALIASNAME)

TCP/IPインターフェース追加(ADDTCPIFC)コマンドによって、TCP/IP構成に既に追加されているインターフェースの名前を指定します。指定する別名は、IPV4インターフェースに対するものでなければなりません。別名がIPV6インターフェースに対するものである場合には、エラー・メッセージが戻されます。

注: コマンドには、INTNETADRパラメーターかALIASNAMEパラメーターのいずれかを指定する必要がありますが、両方は指定できません。

単純名 除去するインターフェースに関連した名前を指定してください。

[トップ](#)

例

例1: トークンリング・インターフェースの除去

```
RMVTCPIFC INTNETADR('9.5.11.125')
```

このコマンドは、IPアドレス9.5.11.125と関連付けられたインターフェースを除去します。

例2: 別名を使用したトークンリング・インターフェースの除去

```
RMVTCPIFC ALIASNAME(TEST_NETWORK)
```

このコマンドは、別名TEST_NETWORKに関連したインターフェースを除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP1D03

&1メンバーのレコード長が正しくない。

TCP1D04

&2/&3のメンバー&1の処理でエラーが起こった。

TCP1901

IPアドレス&1が正しくない。

TCP8050

&1を使用するためには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

[トップ](#)

TCP/IPポート制約事項の除去 (RMVTCPPORT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPポート制約事項の除去(RMVTCPPORT)コマンドは、ポートまたはポートの範囲を使用することのできるユーザー・プロファイルのリストから特定のユーザー・プロファイルを除去します。ユーザー・プロファイルの除去は、除去されるそのユーザー・プロファイルがポートまたはポートの範囲内の任意のポートを使用しなくなると同時に有効となります。

ポートには2つの独立したセットがあります。1つのセットはTCP処理用で、もう1つはUDP処理用です。これらは完全に独立したポートのセットであり、相互に関係はありません。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PORT	ポートの値の範囲	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: 下限値	1-65535, *ALL	
	要素 2: 上限値	1-65535, *ONLY	
PROTOCOL	プロトコル	*UDP, *TCP	必須, 定位置 2
USRPRF	ユーザー・プロファイル	文字値	必須, 定位置 3

[トップ](#)

ポートの値の範囲 (PORT)

ポートまたはポートの範囲を使用することのできるユーザー・プロファイルのリストからユーザー・プロファイルを除去させるポート番号またはポート番号の範囲を指定します。有効な値の範囲は1から65535です。ただし、ポート1から1023はシステム提供のTCP/IPアプリケーションによって使用されるために予約されています。ユーザーがポート1から1023を指定した場合には、これらのアプリケーションの操作に影響する可能性があります。

これは必須パラメーターです。

要素1: 下限値

1から65535

ユーザー・プロファイルを除去したいポート値または下限ポート値を範囲で指定してください。

要素2: 上限値

***ONLY**

下限ポートの値に指定されたポート値は、ユーザー・プロファイルを除去するただ1つのポートの値です。

***ALL** 除去されるポートの範囲の値は1から65535です。

1から65535

ユーザー・プロファイルを除去したい上限ポート値を範囲で指定してください。

[トップ](#)

プロトコル (PROTOCOL)

ポートまたはポートの範囲を排他使用するユーザー・プロファイルのリストから除去されるユーザー・プロファイルをもっているポートまたはポートの範囲と関連したトランスポート・プロトコルを指定します。

これは必須パラメーターです。

***UDP** ポートはユーザー・データグラム・プロトコル(UDP)トランスポート・プロトコル・ポートです。

***TCP** ポートは伝送制御プロトコル(TCP)トランスポート・プロトコル・ポートです。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

ポートまたはポートの範囲を同時に使用できないユーザー・プロファイルのリストからプロファイルを除去するユーザー・プロファイルの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 除去するユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

例1:単一ユーザー・プロファイルに対する除去の除去

```
RMVTCPPORT PORT(1590) PROTOCOL(*UDP) USRPRF(USER1)
```

このコマンドは、UDPポート1590に対するUSER1という名前のユーザー・プロファイルについての制限を除去します。このユーザー・プロファイルは、ポート番号1590を使用できるユーザー・プロファイルのリストから除去されます。

例2:ポート範囲に対する制限の除去

```
RMVTCPPORT PORT(1590 2000) PROTOCOL(*TCP) USRPRF(USER2)
```

このコマンドは、TCPポート1590からポート2000までに対するUSER2という名前のユーザー・プロファイルについての制限を除去します。このユーザー・プロファイルは、ポート1590からポート2000までを使用できるユーザー・プロファイルのリストから除去されます。

例3:全ポートの除去

RMVTCPPORT PORT(*ALL) PROTOCOL(*TCP) USRPRF(USER3)

このコマンドは、TCPポート1からポート65535までに対するUSER3という名前のユーザー・プロファイルについての制限を除去します。ユーザーがこの制限範囲内のポートをもっていなくても、このコマンドは正常に完了します。このユーザー・プロファイルは、TCPポートのいずれも使用できるユーザー・プロファイルのリストから除去されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP1D03

&1メンバーのレコード長が正しくない。

TCP1D04

&2/&3のメンバー&1の処理でエラーが起こった。

TCP26E2

ユーザー・プロファイル&1が破損している。

TCP26E4

ポート制限アクションは成功しましたが、TCP/IPエラーが起こりました。

TCP26E7

'*ALL'と'*ONLY'を持つことはできない。

TCP26FA

ポートの制約事項&1 - &2は除去されなかった。

TCP26FB

ユーザー・プロファイル&1が存在していない。

TCP26FC

上位ポートの値は*ONLYでなければならない。

TCP26FD

ポート&1が見つからない。

TCP26F1

ポートの範囲が正しくない。

TCP26F2

ポートの制約事項&1 - &2の除去は正しくない。

TCP8050

&1を使用するためには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP9503

ライブラリー&2のファイル&3が使用できない。

TCP9526

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

[トップ](#)

POINT-TO-POINT プロファイルの除去 (RMVTCPPTP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

POINT-TO-POINT TCP/IPプロファイル除去(RMVTCPPTP)コマンドは、POINT-TO-POINT接続プロファイルを除去するために使用されます。プロファイル(QUSRSYS/プロファイル名)に関連した出力待ち行列(*OUTQ)オブジェクトのある場合があります、この*OUTQも除去されることになります。

オプションで、このプロファイルと関連したすべての関連通信オブジェクトも削除することができます。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CFGPRF	プロファイルの構成	文字値	必須, 定位置 1
DLTCMNCFG	通信構成の削除	*NO, *YES	オプション

[トップ](#)

プロファイルの構成 (CFGPRF)

除去するPOINT-TO-POINT構成プロファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

文字値 除去する、有効で非活動状態のPOINT-TO-POINT構成プロファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

通信構成の削除 (DLTCMNCFG)

このPOINT-TO-POINTプロファイルに関連したすべての通信構成オブジェクトを削除したいかどうかを指定します。これには、このプロファイルで使用するために定義された回線、制御装置、および装置記述が含まれます。オプションで、一部のプロファイル・タイプの場合には、削除中の回線記述に関連したすべてのネットワーク・インターフェース記述および接続リストも含めることができます。

***NO** 現在このPOINT-TO-POINTプロファイルに関連しているどの通信構成も削除しません。

***YES** このPOINT-TO-POINTプロファイルに関連した通信構成を削除します。

注: 削除する通信構成オブジェクトに、他のPOINT-TO-POINTプロファイルまたはそれを使用する回線記述が含まれているか、あるいは「オフに変更」状態であることが分かった場合には、それは削除されません。通信オブジェクトが削除されない場合には、その理由を示すメッセージが送られます。

[トップ](#)

例

例1:POINT-TO-POINTプロファイルの削除

```
RMVTCPPTP  CFGPRF(SLIPPROF)
```

このコマンドは、SLIPPROFという名前のPOINT-TO-POINTプロファイルを除去します。このプロファイルと関連付けられた通信構成オブジェクトはすべて削除されません。

例2:プロファイルおよび関連通信構成オブジェクトの削除

```
RMVTCPPTP  CFGPRF(ANSPROF) DLTCMNCFG(*YES)
```

このコマンドは、ANSPROFという名前のPOINT-TO-POINTプロファイルおよびそのプロファイルと関連付けられた通信構成オブジェクトのすべてを除去します。さらに、構成オブジェクトのいずれか（回線記述など）が他のPOINT-TO-POINTプロファイルと共用されていることが分かると、そのオブジェクトは削除されません。オブジェクトが削除されない場合は、削除されなかったオブジェクトおよびその理由が示されている診断メッセージが送信されることとなります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP83E0

POINT-TO-POINTプロファイル&1は除去されていません。

[トップ](#)

TCP/IP リモート・システムの除去 (RMVTCPRSI)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPリモート・システム情報除去(RMVTCPRSI)コマンドは、IPアドレスをTCP/IP構成の中のX.25ネットワーク・アドレスと関連づけるリモート・システム情報項目を除去します。

X.25ネットワークのSVCまたはPVCで活動中のIPアドレスと関連したリモート・システム情報項目を除去しようとする場合には、除去操作は正常に実行されません。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
INTNETADR	IPアドレス	文字値	必須, 定位置 1

[トップ](#)

IPアドレス (INTNETADR)

リモート・システムのIPアドレスを指定します。インターネット・アドレスはNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定されます。ここでNNNは0から255の範囲の10進数です。IPアドレスは、そのアドレスのネットワークID (ID)部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0 の場合には、正しくありません。コマンド行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

[トップ](#)

例

```
RMVTCPRSI INTNETADR('128.1.1.10')
```

このコマンドは、IPアドレス128.1.1.10を、対応しているX.25ネットワーク・アドレスおよびその他のデータと一緒に、TCP/IP構成リモート・システム情報データから除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP1D03

&1メンバーのレコード長が正しくない。

TCP1D04

&2/&3のメンバー&1の処理でエラーが起こった。

TCP1901

IPアドレス&1が正しくない。

TCP1902

IPアドレス&1が正しくない。

TCP1908

IPアドレス&1が正しくない。

TCP26D4

リモート・システム情報は除去されなかった。

TCP26D5

ファイルの処理中にエラーが起こった。

TCP8050

&1を使用するためには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

[トップ](#)

TCP/IP経路の除去 (RMVTCPRTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP経路除去(RMVTCPRTE)コマンドは、前に識別された経路を伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)構成から除去します。

5つのパラメーター値が経路を固有に定義します。これらの値は経路の宛先(RTEDEST), サブネット・マスク(SUBNETMASK), TYPE OF SERVICE (TOS),経路上のネクスト・システムのIPアドレス(NEXTHOP),および優先バインド・インターフェース(BINDIFC)です。省略時の経路および省略時のマルチキャスト経路(*DFTRROUTEおよび*DFTMCAST)の場合には、SUBNETMASKが常に*NONEであるので、NEXTHOP, TOS, およびBINDIFCの値が固有に経路を定義します。

注: TCP/IP経路の処理画面のオプション4を使用してRMVTCPRTEコマンドを入力した場合には、確認画面が表示されます。この画面は、経路の除去によって活動状態のTCP接続が影響を受ける場合があり、予測できない結果が起こる可能性があることを警告します。RMVTCPRTE CLコマンドを直接出した場合には、確認画面は表示されません。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
- 既存のRSI項目に到達するために必要な経路を除去しようとしても、正常に除去されません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RTEDEST	経路宛先	文字値, *DFTRROUTE, *DFTMCAST	必須, 定位置 1
SUBNETMASK	サブネット・マスク	文字値, *NONE, *HOST	必須, 定位置 2
TOS	TYPE OF SERVICE	*MINDELAY, *MAXTHRPUT, *MAXRLB, *MINCOST, *NORMAL	オプション, 定位置 3
NEXTHOP	ネクスト・ホップ	文字値	オプション
BINDIFC	優先バインド・インターフェース	文字値, *NONE	オプション

トップ

経路宛先 (RTEDEST)

除去する経路宛先を指定します。IPアドレスを構成する4バイトすべてを指定しなければなりません（バイトのいくつかは0でも可）。たとえば、9.5.11サブネットワーク上のすべてのホストへの経路は、経路宛先に9.5.11.0を入力することによって識別されます。サブネット・マスク、サービスのタイプ値、およびネクスト・ホップと組み合わせて使用すると、経路の宛先はネットワークまたはシステムへの経路を固有に識別します。

*DFTRROUTE

省略時のルーティング項目が除去されることを指定します。省略時のルーティング項目は、特定の経路が定義されていないリモート宛先に送信されるデータを経路指定するためにシステムによって使用されます。省略時のルーティング項目は、ネクスト・ホップ・ゲートウェイが使用可能であるかどうかおよびTYPE OF SERVICE (TOS)に基づいて使用されます。アプリケーションが特定のTOSを要求する場合には、使用される省略時の経路のTOSが要求されたTOSと一致しなければなりません。要求されたTOSと一致する省略時の経路が見つからない場合には、TOSが*NORMALである最初に使用可能な省略時の経路が使用されます。

*DFTMCAST

除去しようとしている静的経路が省略時のマルチキャスト経路であることを指示するためには、*DFTMCAST特殊値を使用してください。省略時のマルチキャスト経路は、特定の経路が指定されていない場合にアプリケーションによって使用されます。

注: RTEDEST(*DFTMCAST)を指定した時には、SUBNETMASK(*NONE)も指定しなければならず、NEXTHOPパラメーターはローカルTCP/IPインターフェース（このシステム上）でなければなりません。

文字値 変更される経路宛先を指定してください。経路宛先は、クラスAの場合はNNN.0.0.0、クラスBの場合はNNN.NNN.0.0、クラスCの場合はNNN.NNN.NNN.0、またはこれらの任意の組み合わせの場合はNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定することができます。ここでNNNは0から255の範囲の10進数です。

これらの任意の組み合わせとは、すべての9.5.X.XアドレスがクラスAネットワーク・アドレスであっても、9.5サブネット上のホストに9.5.0.0などのリモート経路宛先を指定できることを意味しています。

例外:

- 最初のバイト（オクテット）は0より大きく、255より小さくなければなりません。
- 最後のバイト（オクテット）を255と等しくすることはできません。
- SUBNETMASKの値として*HOSTが指定されている場合には、最後のバイト（オクテット）を0と等しくすることはできません。
- ブロードキャスト・アドレスへの経路指定は許されません。

トップ

サブネット・マスク (SUBNETMASK)

経路宛先(RTEDEST)に指定された値のどのビットがIPアドレスのネットワークおよびサブネット部分を構成するかをTCP/IPに対して識別するビット・マスクを指定します。RTEDESTアドレスのネットワーク部分およびサブネットワーク部分を定義することによって、サブネット・マスクもRTEDESTアドレスのどのビットがホスト部分を構成するかを定義します。マスクは、特定のサブネットワークを判別するためにIPアドレ

スと論理AND結合した32ビットの組み合わせです。値1に設定されたマスクのビットは、アドレスのネットワークおよびサブネットワーク部分を決定します。値ゼロ(0)に設定されたビットは、アドレスのホスト部分を決定します。

***NONE**

サブネット・マスクは使用されません。省略時の経路を指定すると、サブネット・マスクは使用されません。たとえば、`RTEDEST(*DFTMCAST)`または`RTEDEST(*DFTRROUTE)`を指定する場合には、`SUBNETMASK(*NONE)`も指定しなければなりません。

***HOST**

経路宛先フィールドに指定されたIPアドレス値はホスト・アドレスです。サブネット・マスクの値は、`255.255.255.255`となるように計算されます。

文字値 サブネット・フィールドのマスクを指定してください。インターネット・アドレスは `NNN.NNN.NNN.NNN` の形式です。ここで `NNN` は0から255の範囲の10進数です。宛先経路のIPアドレスのサブネット・マスク・ネットワーク・クラスのネットワークID部分は255でなければなりません。たとえば、宛先経路のIPアドレス値 `129.35.11.0` はクラスBサブネットです。そのアドレスのネットワークID部分は `129.35` です。サブネット・マスクの上位2バイトには255を指定しなければなりません。サブネット・マスクは `255.255.X.X` の形式で表さなければなりません。ここで、`X` はユーザーが決定します。アドレスの特定のクラスのネットワーク部分に関連したサブネット・マスクの部分は255でなければなりません。

トップ

TYPE OF SERVICE (TOS)

使用するTYPE OF SERVICEを指定します。TYPE OF SERVICEは、インターネット・ホストおよびルーターがスループット、遅延、信頼性、およびコストの間で行うトレードオフを定義します。

***NORMAL:**データの配布には通常のサービスが使用されます。

***MINDELAY:**遅延最小化は、この接続上のデータにとって迅速な配布が重要であることを意味します。

***MAXTHRPUT:**スループット最大化は、この接続上のデータにとって高いデータ速度が重要であることを意味します。

***MAXRLB:**信頼性の最大化は、この接続上のデータにとって配布を確実に実行する努力が重要であることを意味します。

***MINCOST:**コスト最小化は、この接続のデータにとってより低いコストが重要であることを意味します。

トップ

ネクスト・ホップ (NEXTHOP)

経路上のネクスト・システム（ゲートウェイ）のIPアドレスを指定します。

文字値 IPアドレスを指定してください。インターネット・アドレスは `NNN.NNN.NNN.NNN` の形式で指定されます。ここで `NNN` は0から255の範囲の10進数です。IPアドレスは、そのアドレスのネットワークID (ID)部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0 の場合には、正しくありません。コマンド行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

優先バインド・インターフェース (BINDIFC)

優先バインド・インターフェース(BINDIFC)。この経路がバインドされるIPインターフェースを指定してください。バインドは絶対的です。

注: このパラメーターは、同じネットワークにシステムで複数のインターフェースが定義されている場合にだけ有用です。BINDIFCによって、特定経路宛先のネットワークに達するために使用するインターフェースを定義することができます。この方法で複数のインターフェースにまたがってトラフィックを分散（負荷平衡）することができ、そのためすべての経路がネットワークに達するために同じインターフェースを使用しません。

指定したIPインターフェースが活動状態である場合には、この経路がバインドされます。活動状態でない場合には、通常の経路バインド規則に従います（これはBINDIFCが*NONEとして定義された時にも使用されます）。

*NONE

この経路に対して特定のIPインターフェースがバインドされません。NEXTHOP および SUBNETMASKパラメーターによって定義されたネットワーク上の最初の活動状態のIPインターフェースが使用されます。これが省略時の値です。

文字値 この経路をバインドさせたいインターフェースのIPアドレス(IPアドレス) を入力してください。

トップ

例

例1:経路の除去

```
RMVTCPRTE RTEDEST('132.65.0.0') SUBNETMASK('255.65.0.0')
          TOS(*MINDELAY) NEXTHOP('9.5.15.1')
```

このコマンドは、サブネット・マスクの255.65.0.0、TYPE OF SERVICE (TOS)の*MINDELAY,およびネクスト・ホップの9.5.15.1で132.65.0.0 として識別された経路を除去します。

例2:省略時経路の除去

```
RMVTCPRTE RTEDEST(*DFTRROUTE) SUBNETMASK(*NONE)
          NEXTHOP('186.34.76.92')
```

このコマンドは、省略時経路(*DFTRROUTE)として識別されたホスト経路を除去します。サブネット・マスクは*NONEとして指定され、TYPE OF SERVICE (TOS)のサブネット・マスクとして*NORMALが使用されます。サブネット・マスク、TYPE OF SERVICE (TOS),およびネクスト・ホップ値により、この*DFTRROUTEはその他の考えられる8個の*DFTRROUTE項目と区別されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP1D03

&1メンバーのレコード長が正しくない。

TCP1D04

&2/&3のメンバー&1の処理でエラーが起こった。

TCP1901

IPアドレス&1が正しくない。

TCP261C

処理は正常に完了した。

TCP264A

&2 &1は除去されなかった。

TCP8050

&1を使用するためには*IOSYSCFG権限が必要である。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

[トップ](#)

TCP/IPサーバーの除去 (RMVTCPSVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPサーバー除去(RMVTCPSVR)コマンドは、前にTCP/IPサーバー追加(ADDTCPSVR)コマンドによって追加されたサーバーを除去するために使用されます。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)および全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SVRSPCVL	サーバー特殊値	文字値	必須, 定位置 1

[トップ](#)

サーバー特殊値 (SVRSPCVL)

除去されるサーバーの特殊値を指定します。

文字値 除去されるサーバーの特殊値を指定してください。

[トップ](#)

例

```
RMVTCPSVR SVRSPCVL(*XYZ)
```

このコマンドは、STRTCPSVR (TCP/IPサーバー開始) およびENDTCPSVR (TCP/IPサーバー終了) CLコマンドによってサポートされるサーバーのリストからサーバー特殊値*XYZを除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

TCP1641

TCP/IPサーバー&1は除去されません。

[トップ](#)

TCP/IPテーブルの除去 (RMVTCPTBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPテーブル除去(RMVTCPTBL)コマンドは、IPフィルター・テーブルまたはIP ネットワーク・アドレス変換テーブル、あるいはその両方のテーブルを使用から除去（アンロード）するために使用されます。

制約事項:

このコマンドを使用するには、*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TBL	テーブル	<u>*ALL</u> , *IPFTR, *IPNAT	オプション的、 位置 1

[トップ](#)

テーブルヘルプ

使用から除去するテーブルを指定します。選択されたテーブル・タイプごとに、それらがすべての物理インターフェースから除去されることに注意してください。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** IPフィルター規則とIPネットワーク・アドレス変換規則の両方が除去されます。

***IPFTR**

IPフィルター規則だけが除去されます。

***IPNAT**

IPネットワーク・アドレス変換規則だけが除去されます。

[トップ](#)

例

RMVTCPTBL

このコマンドは、すべてのルール・ファイルを使用状態から除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP8050

&1を使用するためには*IOSYSCFG権限が必要である。

[トップ](#)

トレース除去 (RMVTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

トレース除去(RMVTRC)コマンドは、1つまたは複数のトレース追加(ADDTRC)コマンドでプログラムのデバッグに使用するために指定されているトレースの全部または一部を除去します。除去しようとしているトレースによってすでに作成されているトレース・データは、このコマンドによって影響を受けることはありません。このデータは、トレース・データ消去(CLRTRCDTA)コマンドによって除去することができます。デバッグ変更(CHGDBG)コマンドまたはデバッグ開始(STRDBG)コマンドで指定したトレースの限界は変更されません。

トレース除去(RMVTRC)コマンドでは、ユーザーは、トレースを必要としなくなったHLLステートメントIDまたは機械語命令番号の範囲を指定します。1つのトレースを除去するためには、トレース追加(ADDTRC)コマンドで指定したのと正確に同じ範囲を指定しなければなりません。1つのコマンドで、最高5組のトレース範囲を指定することができます。

制約事項:

- このコマンドを使用できるのは、デバッグ・モードの時だけです。デバッグ・モードを開始するためには、デバッグ開始(STRDBG)コマンドを参照してください。
- 別のジョブをサービス中で、そのジョブがジョブ待ち行列上にあるか、あるいは保留、延期、または終了中の場合には、このコマンドを使用することはできません。
- このコマンドを使用して、バインド済みプログラムからトレースを除去することはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
STMT	除去するトレース・ステートメント	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション、位置 1
	要素 1: 開始ステートメント識別コード	文字値	
	要素 2: 終了ステートメント識別コード	文字値	
PGM	プログラム	名前, <u>*DFTPGM</u> , *ALL	オプション、位置 2

トップ

除去するトレース・ステートメント (STMT)

トレースを必要としなくなったトレース・ステートメントのステートメントIDまたは機械語命令番号を指定します。プログラムからトレースを除去するためには、*ALLを指定する場合を除いて、トレース追加(ADDTRC)コマンドに指定されているものと同じステートメントIDを、ここに指定しなければなりません。

それらを除去するためには、ADDTRCコマンドにトレース・ステートメントを指定するために使用される方式(すなわち、HLLステートメントID対機械語命令番号)をここでも使用しなければなりません。

***ALL** トレース追加(ADDTRC)コマンドでトレースがどのように定義されているかに関係なく、指定したプログラムの中のすべての高水準言語(HLL)ステートメントまたは機械語命令(あるいはその両方)が、以後はトレースされなくなります。

開始ステートメントID 終了ステートメントID

今後のトレースから除去したい最初のトレース・ステートメントのHLLステートメントID(または機械語命令番号)を指定してください。必要であれば、除去される最後のステートメントのIDを指定することができます。ただし、トレース追加(ADDTRC)コマンドで終了ステートメントを指定した場合には、ここでも終了ステートメントを指定しなければなりません。このコマンドの1回の使用で、プログラム内のトレース範囲を5つまで指定することができます。

ステートメントを除去するためには、トレース追加(ADDTRC)コマンドでトレース・ステートメントの追加のために使用した方式(つまり、HLLステートメントIDかそれとも機械語命令番号か)を、ここでも使用しなければなりません。

[トップ](#)

プログラム (PGM)

今後のトレース操作から除去したいトレース・ステートメントの入っているプログラム(または全プログラム)を指定します。

***DFTPGM**

トレースから除去するステートメントは、前に省略時のプログラムとして指定されているプログラムに入っています。

***ALL** 現在トレース範囲を含んでいるすべてのプログラムのすべてのトレース範囲が除去されます。ADDTRCコマンドによってさらにトレースを追加しない限り、デバッグ・モードにあるどのプログラムでも、トレースを行うことはできなくなります。*ALLは、**除去するトレース・ステートメント (STMT)**パラメーターに値を指定しなかった場合に限り有効です。

名前 指定したトレース・ステートメント(またはすべてのトレース・ステートメント)を除去したいプログラムの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

RMVTRC

このコマンドは、現在省略時のプログラムとして指定されているプログラム内でトレースに使用されているすべてのトレース・ステートメントを除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1999

コマンドでエラーが起こった。

[トップ](#)

トレース・フィルターの除去 (RMVTRCFTR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

トレース・フィルター除去(RMVTRCFTR)コマンドは、システムから1つまたは複数のフィルターを除去します。

制約事項:

- ユーザーはサービス(*SERVICE)特殊権限を持っているか、あるいはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してオペレーティング・システムのサービス・トレース機能に許可されていなければなりません。また、機能使用法情報変更(CHGFCNUSG)コマンドを使用して、トレース操作に実行できるユーザーのリストを変更することもできます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FTR	フィルター	総称名, 名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

フィルター (FTR)

除去するトレース・フィルターを指定します。特定または総称フィルター名を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

総称名 除去するトレース・フィルターの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後のアスタリスク(*)が続いた文字ストリングです。たとえば、ABC*です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていないと、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

名前 除去するトレース・フィルターの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

例1: 単一フィルターの除去

```
RMVTRCFTR FTR(SAMPLE)
```

このコマンドは、トレース・フィルターSAMPLEを除去します。

例2: SAMで始まるすべてのフィルターの除去

```
RMVTRCFTR FTR(SAM*)
```

このコマンドは、SAMで始まる名前を持つすべてのトレース・フィルターを除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

ワークステーション項目除去 (RMVWSE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ワークステーション項目除去 (RMVWSE)コマンドは、指定されたサブシステム記述からワークステーション項目を除去します。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - 指定されたサブシステム記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR),オブジェクト管理(*OBJMGT),および読み取り(*READ)権限と、そのサブシステム記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- ワークステーション項目と関連した活動ジョブがある場合には、活動サブシステムのサブシステム記述内のワークステーション項目を除去することはできません。
- 制御サブシステムから*CONまたはCONS項目を除去することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SBSD	サブシステム記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サブシステム記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
WRKSTN	ワークステーション名の処理	総称名, 名前	オプション
WRKSTNTYPE	ワークステーション・タイプ	*ALL, 3179, 3180, 3196, 3197, 3277, 3278, 3279, 3476, 3477, 3486, 3487, 5251, 5252, 5291, 5292, 5555, *ASCII, CONS, *CONS, *NONASCII	オプション

[トップ](#)

サブシステム記述 (SBSD)

除去するワークステーション・ジョブ項目が入っているサブシステム記述の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サブシステム記述

名前 ワークステーション・ジョブ項目が除去されるサブシステム記述の名前を指定します。

注:次のIBM提供オブジェクトはこのパラメーターには正しくありません。

- QLPINSTALL

- QSYSSBSD

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 サブシステム記述が入っているライブラリーを指定します。

[トップ](#)

ワークステーション名の処理 (WRKSTN)

サブシステムによって使用されるワークステーションの名前を指定します。ワークステーションに関連する装置記述の作成（表示装置）(CRTDEV DSP)コマンドに指定された装置記述名が、使用される名前です。

2バイト文字セットの考慮事項:2バイト文字セット(DBCS)の場合には、タイプが5555のワークステーションをこのパラメーターか**ワークステーション・タイプ (WRKSTNTYPE)**パラメーターのいずれかに指定しなければなりません、両方を指定することはできません。

総称名 総称名を指定してください。たとえば、DSP*、RMT*などです。

注: 総称ワークステーション名を指定しても、複数の項目が追加、変更、または除去されることはありません。

名前 特定のワークステーションの名前を指定します。たとえば、DSP10、DSP11、RMT55などです。

このパラメーターか**ワークステーション・タイプ (WRKSTNTYP)**パラメーターのいずれかに値を指定しなければなりません、両方に指定することはできません。

[トップ](#)

ワークステーション・タイプ (WRKSTNTYPE)

追加、変更、または除去する項目に関連したワークステーションのタイプを指定します。この項目は、個々のワークステーションの特定の項目を持たないこのタイプのすべてのワークステーションに適用されます。

***ALL** すべてのワークステーション装置。これには、5250、ASCII、および327Xの装置タイプの装置が含まれます。

3179 3179ワークステーション。

3180 3180ワークステーション。

3196 3196ワークステーション。

3197 3197ワークステーション。

3277 3277ワークステーション。

3278 3278ワークステーション。

3279 3279ワークステーション。

3476 3476ワークステーション。

228 IBM Systems - iSeries: i5/OS コマンド RMVDEVDMNE (装置ドメイン項目除去) での開始

- 3477 3477ワークステーション。
- 3486 3486ワークステーション。
- 3487 3487ワークステーション。
- 5251 5251ワークステーション。
- 5291 5291ワークステーション。
- 5292 5292カラー・ワークステーション。
- 5555 5555バイト文字セット(DBCS)使用可能ワークステーション。

***ASCII**

すべてのASCIIワークステーション装置タイプ。

CONS システム・コンソール画面。この項目は、コンソールとして使用される装置と同じ装置タイプを指定する装置タイプ項目に優先権を持ちます。

***CONS**

システム・コンソール画面。この項目は、コンソールとして使用される装置と同じ装置タイプを指定する装置タイプ項目に優先権を持ちます。

***NONASCII**

327X装置タイプだけでなく、5250データ・ストリームを使用するすべてのワークステーション装置。

このパラメーターか **ワークステーション名の処理 (WRKSTN)**パラメーターのいずれかに値を指定しなければなりません、両方に指定することはできません。

[トップ](#)

例

```
RMVWSE SBS(D/LIB2/CHARLES) WRKSTN(B53)
```

このコマンドは、ワークステーションB53のワークステーション項目をライブラリーLIB2のCHARLESという名前のサブシステム記述から除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF1619

ライブラリー&2のサブシステム記述&1に損傷がある。

CPF1691

活動サブシステム記述は変更されることも変更されないこともある。

CPF1697

サブシステム記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

オブジェクト名変更 (RNM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト名変更 (RNM)コマンドは、ディレクトリー内のオブジェクトの名前を変更します。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- REN

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. このコマンドは1つのオブジェクトにだけ作用します。オブジェクト (OBJ)パラメーターでパターンが指定されていて、複数のオブジェクトがそのパターンと一致した場合には、対話式ジョブのリストからオブジェクトを選択することができます。これがバッチ・ジョブの場合には、このコマンドは失敗して、エラー・メッセージCPFA08E, "複数の名前がパターンと一致した。"が出されます。
2. "ルート" (/), QOPENSYSまたはユーザー定義ファイル・システムのオブジェクトの名前を変更するときには、名前変更するオブジェクトに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限、およびオブジェクトが入っているディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX)権限が必要です。名前変更するオブジェクトがディレクトリーの場合には、そのディレクトリーに対する書き込み(*W)権限も必要です。
3. パス内の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
4. 次の1つ以上が真でない場合には、「制限された名前変更およびリンク解除」属性（この属性はS_ISVTXモード・ビットと同じ）がオンに設定されている"ルート" (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システム内のオブジェクトの名前を変更することはできません。
 - a. ユーザーがオブジェクトの所有者である。
 - b. ユーザーがディレクトリーの所有者である。
 - c. ユーザーが全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っている。
5. 既存のオブジェクト名変更 (RNMOBJ)コマンドおよび文書ライブラリー・オブジェクト名変更 (RNM DLO)コマンドからの権限要件および制約事項は、QSYS.LIB,独立ASP QSYS.LIB,およびQDLSファイル・システム内のオブジェクトに適用されます。
6. QSYS.LIBおよび独立ASP QSYS.LIBファイル・システムでは、新しい名前に同じオブジェクト・タイプ設備部が含まれていなければなりません。
7. 名前を変更できないオブジェクトもあります。それらのオブジェクトの名前を変更しようとする、エラーが戻されます。
8. ファイルがSQLテーブルのDATALINK列で、そのSQLテーブルの行がこのファイルを参照している場合には、ファイルの名前を変更することはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	パス名	必須, 定位置 1
NEWOBJ	新しいオブジェクト	文字値	必須, 定位置 2

[トップ](#)

オブジェクト (OBJ)

名前を変更するオブジェクトのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

[トップ](#)

新しいオブジェクト (NEWOBJ)

名前変更するオブジェクトの新しい名前を指定します。この名前にはディレクトリーの修飾子を含めることはできないため、既存のオブジェクトと同じディレクトリーに入ります。

[トップ](#)

例

例1:オブジェクト・リンクの名前変更

```
RNM  OBJ('DECEMBER-1994-MONTHLY-PAYROLL-FILE')
      NEWOBJ('JANUARY-1995-MONTHLY-PAYROLL-FILE')
```

このコマンドは、DECEMBER-1994-MONTHLY-PAYROLL-FILEという名前のファイルを JANUARY-1995-MONTHLY-PAYROLL-FILEという名前のファイルに名前変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA08E

複数の名前がパターンと一致した。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A6

リンクの数がファイル・システムに使用可能な最大数を超過している。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0B2

要求を満たすオブジェクトはない。

CPFA0B4

NEWOBJパラメーターはスラッシュで始めることができない。

CPFA0B5

NEWOBJパラメーターにパスを含むことはできない。

CPFA0C4

オブジェクトがファイルではありません。オブジェクトは&1です。

[トップ](#)

ディレクトリー項目の名前変更 (RNMDIRE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリー項目名前変更(RNMDIRE)コマンドは、ローカルまたはリモート・ユーザーID (ID)およびユーザー・アドレスを新しいユーザーIDおよびユーザー・アドレスに名前変更します。名前変更操作は、総称(*ANY)ユーザーIDまたは省略時のディレクトリー項目(QSYS, QDFTOWN, QLPAUTO, QLPINSTL)には使用できません。このコマンドは、すべての弊社提供ファイルに現れる指定されたすべてのユーザーIDおよびアドレスを名前変更します。

このジョブは、ジョブ投入(SBMJOB)コマンドを使用して、使用状況が少ない期間中に予定するようにお勧めします。

システム上では一度に1つの名前変更操作しか実行することができません。名前変更をバッチに投入すると、ジョブは活動中の名前変更が完了するまで待機します。

制約事項: ユーザーIDおよびユーザー・アドレスを名前変更するためには、管理者権限(*SECADM)または全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OLDUSRID	旧ユーザー識別コード	要素リスト	必須, キー, 定位置 1
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
NEWUSRID	新ユーザー識別コード	単一値: *BACKOUT その他の値: 要素リスト	必須, 定位置 2
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
FWDFRM	転送元ユーザー識別コード	単一値: *NONE, *OLDUSRID その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
NETUSRID	ネットワーク・ユーザー識別コードの変更	*SAME, *NEWUSRID	オプション

[トップ](#)

旧ユーザー識別コード (OLDUSRID)

名前変更されるディレクトリー項目のユーザーIDおよびアドレスを指定します。両方の要素を指定しなければなりません。小文字を指定すると、システムはそれらを大文字として記憶します。ユーザーIDおよびアドレスの指定の詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

これは必須パラメーターです。

要素1:ユーザーID

文字値 ディレクトリー項目の現行ユーザーIDを指定してください。最大8桁を指定することができます。この値を指定した場合には、要素2にアドレスを指定しなければなりません。

要素2:アドレス

文字値 ディレクトリー項目の現行アドレスを指定してください。最大8桁を指定することができます。この値を指定した場合には、要素1にユーザーIDを指定しなければなりません。

[トップ](#)

新ユーザー識別コード (NEWUSRID)

前のユーザーIDおよびアドレスが名前変更されるユーザーIDおよびアドレスを指定します。両方の要素を指定しなければなりません、一方の要素だけがOLDUSRIDパラメーターに指定されたユーザーIDおよびアドレスと異なっていれば十分です。

指定された新しいユーザーIDおよびアドレスが、既存のユーザーIDおよびアドレスであったり、ディレクトリーの転送元の値として存在することはできません。

前の名前変更要求の結果として名前変更中の項目にエラーがある場合には、名前変更操作を続行するか、あるいは変更をバックアウトしてファイルを前のユーザーIDおよびアドレスにリセットすることができます。変更をバックアウトするためには、このパラメーターに*BACKOUTを指定してください。名前変更操作を続行するためには、このパラメーターの値を変更しないでください（値が別のユーザーIDおよびアドレスに変更されると、それがエラーになります）。

小文字を指定すると、システムはそれらを大文字として記憶します。

単一値

*BACKOUT

ディレクトリー項目の名前変更操作のバックアウト。この値を使用できるのは、前の名前変更の結果としてエラーがあるディレクトリー項目の場合だけです。この値は、名前変更要求によって変更された弊社提供のすべてのファイルのユーザーIDおよびアドレスをOLDUSRIDパラメーターに指定された値に設定します。

要素1: ユーザー識別コード

文字値 ディレクトリー項目に新しいユーザーIDを指定してください。最大8桁を指定することができます。この値を指定した場合には、要素2にアドレスを指定しなければなりません。

要素2: アドレス

文字値 ディレクトリー項目に新しいアドレスを指定してください。最大8桁を指定することができます。この値を指定した場合には、要素1にユーザーIDを指定しなければなりません。

注: アドレス要素を変更しても、ディレクトリー項目のシステム名は変更されません。このユーザーへの配布をディレクトリー項目によって指定されているシステム以外のシステムに転送したい場合には、ディレクトリー項目変更(CHGDIRE)コマンドを使用してディレクトリー項目のシステム名を変更しなければなりません。

[トップ](#)

転送元ユーザー識別コード (FWDFRM)

配布が、前のユーザーIDおよびアドレスまたは指定されたユーザーIDおよびアドレスから自動的に転送されるかどうかを指定します。この値が有効なのは、ローカル・ユーザーの場合だけです。

単一値

***NONE**

配布は転送されません。

***OLDUSRID**

すべての配布が前のユーザーIDおよびアドレスから転送されます。

要素1: ユーザー識別コード

文字値 配布の転送元のユーザーIDを指定してください。最大8桁を指定することができます。この値を指定した場合には、要素2にアドレスを指定しなければなりません。

要素2: アドレス

文字値 配布の転送元のアドレスを指定してください。最大8桁を指定することができます。この値を指定した場合には、要素1にユーザーIDを指定しなければなりません。

[トップ](#)

ネットワーク・ユーザー識別コードの変更 (NETUSRID)

現行のネットワーク・ユーザーIDおよびアドレスを新しいユーザーIDおよびアドレスに名前変更するかどうかを指定します。ネットワーク・ユーザーIDは、シャドー処理でネットワーク中のユーザーを固有に識別するために使用されます。省略時の値はユーザーIDおよびアドレスです。ネットワーク中の固有の値としてユーザーIDおよびアドレスでディレクトリーのシャドー処理を使用する場合には、この値をNEWUSRIDパラメーターに指定された新しいユーザーIDおよびアドレスに変更することもできます。

***SAME**

値は変更されません。

***NEWUSRID**

ネットワーク・ユーザーIDおよびアドレスが、新しいユーザーIDおよびアドレスに変更されます。

[トップ](#)

例

例1:ユーザーIDの名前変更

```
RNMDIRE  OLDUSRID(HURST PAYROLL)  NEWUSRID(HURST NEWYORK)
          FWDFRM(*OLDUSRID)
```

このコマンドは現行ユーザーID HURST PAYROLLを新規ユーザーID HURST NEWYORKに名前変更します。旧ユーザーIDおよびアドレスに送信された配布は転送されます。

例2:ユーザーIDおよびネットワーク・ユーザーIDの名前変更

```
RNMDIRE  OLDUSRID(HURST PAYROLL)  NEWUSRID(HURST NEWYORK)
          FWDFRM(*OLDUSRID)  NETUSRID(*NEWUSRID)
```

このコマンドは現行ユーザーID HURST PAYROLLおよび現行ネットワーク・ユーザーIDを新規ユーザーID HURST NEWYORKに名前変更します。旧ユーザーIDおよびアドレスに送信された配布は転送されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF897F

ユーザーIDおよびアドレス&1 &2の名前変更が正常に実行されなかった。

CPI90F1

名前変更がエラーで完了した。前にリストされたメッセージを参照してください。

[トップ](#)

文書ライブラリー・オブジェクト名変更 (RNMDLO)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト名変更(RNMDLO)コマンドによって、文書またはフォルダーの名前を変更することができます。文書またはフォルダーが使用中の場合には、名前を変更することはできません。

制約事項:

- 名前を変更している文書またはフォルダーに対して全(*ALL)権限が必要で、それらが入っているフォルダーに対して変更(*CHANGE)権限が必要です。
- このコマンドの使用中に、内部オブジェクトはロックされていることを示すエラー・メッセージが見つかることがあります別のユーザーが文書ライブラリー機能を使用中で、これはRNMDLOコマンドと同時に実行することはできません。したがって、数分してからこのコマンドをやり直してください。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値	必須, 定位置 1
NEWDLO	新しい文書ライブラリー・オブジェクト	文字値	必須, 定位置 2
FLR	フォルダー中	文字値, *NONE	オプション, 定位置 3

[トップ](#)

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

名前を変更している文書またはフォルダーの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

新しい文書ライブラリー・オブジェクト (NEWDLO)

文書またはフォルダーの新しい名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

フォルダー中 (FLR)

名前を変更中の文書またはフォルダーが入っているフォルダーの名前を指定します。

*NONE

名前を変更中のフォルダーは第1レベルのフォルダーです。名前を変更中のオブジェクトが文書である場合には、*NONEを指定することはできません。

名前 名前を変更中の文書またはフォルダーが入っているフォルダーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

RNMDLO DLO(A) NEWDLO(B) FLR(FLR1)

このコマンドは、フォルダーFLR1にある文書またはフォルダーAの名前をBに変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8A14

フォルダー&1中のタイプ&4の&2が&3に名前変更されなかった。

[トップ](#)

配布リストの名前変更 (RNMDSTL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布リスト名前変更(RNMDSTL)コマンドは、既存の配布リストのリストID (ID)を名前変更します。

配布リストは、配布ディレクトリーからの項目のリストです。配布リストは、ローカル、リモート、間接、および独立ワークステーション・ユーザーの項目を含むことができます。配布リストはまた、リモート配布リストを含むことができますが、ローカル配布リストを含むことはできません。配布リストの詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

配布リストを名前変更する時には、新しいリストIDはディレクトリー中のすべてのローカル・ユーザーIDおよび他のリストIDに固有のものでなければなりません。新しいリストIDが固有でない場合には、リストは名前変更されず、エラー・メッセージが戻されます。

制約事項: 所有していない配布リストを名前変更するためには、機密保護管理者(*SECADM)権限が必要です。所有している配布リストを名前変更するには特殊権限は不要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LSTID	リスト識別コード	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: リスト識別コード	文字値	
	要素 2: リスト識別コード修飾子	文字値	
NEWLSTID	新しいリスト識別コード	要素リスト	必須, 定位置 2
	要素 1: リスト識別コード	文字値	
	要素 2: リスト識別コード修飾子	文字値	

[トップ](#)

リスト識別コード (LSTID)

名前が変更される配布リストの2部分から成るリストIDを指定します。

指定できるリストIDの値は次の通りです。

リストID

配布リストのリストID (ID)を指定してください。

指定できるリスト修飾子の値は次の通りです。

リストID修飾子

配布リストのリストID修飾子を指定してください。

注: 配布リストIDはIDと修飾子の2つの部分から成り、両者の間は少なくとも1つのスペースで区切られます。小文字を指定した場合には、システムが大文字に変換します。

2部分から成るリストIDの命名規則はユーザーIDおよびアドレスの規則と同じです。規則の完全な説明については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

新しいリスト識別コード (NEWLSTID)

配布リストの新しい2部分から成るリストIDを指定します。

指定できるリストIDの値は次の通りです。

リストID

配布リストのリストID (ID)を指定してください。

指定できるリスト修飾子の値は次の通りです。

リストID修飾子

配布リストのリストID修飾子を指定してください。

注: 配布リストIDはIDと修飾子の2つの部分から成り、両者の間は少なくとも1つのスペースで区切られます。小文字を指定した場合には、システムが大文字に変換します。

2部分から成るリストIDの命名規則はユーザーIDおよびアドレスの規則と同じです。規則の完全な説明については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

```
RNMDSTL LSTID(DEPTABC DLIST) NEWLSTID(DEPTXYZ DLIST)
```

このコマンドは、部門ABCのメンバーが入っている配布リストを名前変更します。リストIDは、新規部門名XYZと対応するように変更されています。新規リストIDが固有であると、配布リストが変更されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9A8B

配布リスト&1 &2は名前変更されなかった。

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

LANアダプターの名前変更 (RNMLANADPI)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

このコマンドは、アダプター・ファイルのLANアダプター情報に関連した名前を変更するために使用します。

制約事項: アダプター名は固有でなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ADPTNAME	アダプター	名前	必須, 定位置 1
NEWNAME	新しい名前	名前	必須, 定位置 2

[トップ](#)

アダプター (ADPTNAME)

現在アダプターに関連のある名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

新しい名前 (NEWNAME)

アダプター情報に関連した新しい名前を指定します。新しい名前のオブジェクト・タイプは*NAMEです。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

```
RNMLANADPI ADPTNAME(ACCTG3A) NEWNAME(BILLING2)
```

このコマンドは、名前をACCTG3AからBILLING2に変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8B48

アダプター名- &29またはアドレス- &30はすでにネットワーク・アダプターにある。

CPF8B68

回線記述&23が見つからない。

CPF8B74

活動アダプターの表示要求が正常に実行されなかった。

CPF8B75

ネットワーク・アダプター・ファイルにアダプター項目がない。

CPF8B76

アダプターの機能アドレスがない。

CPF8B83

アダプター&29の名前変更要求が正常に実行されなかった。アダプター名が見つかりません。

[トップ](#)

メンバー名変更 (RNMM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メンバー名変更(RNMM)コマンドは、指定されたファイルのメンバーの名前を変更します。使用中にメンバーの名前を変更することはできません。他のユーザーは、名前変更されるメンバーが入っているファイル内の他のメンバーの記録を読み取ったり、変更したりすることができます。同じジョブ内でオープンされたメンバーの名前を変更することはできません。

制約事項:

- 名前変更されるメンバーが入っているファイルに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限およびファイルが入っているライブラリーに対する更新(*UPDATE)および実行(*EXECUTE)権限が必要です。
- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。マルチスレッド・ジョブでは、このコマンドは*SNAタイプの分散データ管理機能(DDM)ファイルに対してスレッド・セーフではなく、正常に実行されません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	データベース・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: データベース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前	必須, 定位置 2
NEWMBR	新しいメンバー	名前	必須, 定位置 3

トップ

データベース・ファイル (FILE)

名前変更されるメンバーが入っているデータベース・ファイル（物理または論理）を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: データベース・ファイル

名前 データベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

メンバー (MBR)

名前変更される物理ファイル・メンバーまたは論理ファイル・メンバーを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 ファイル・メンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

新しいメンバー (NEWMBR)

ファイル・メンバーに割り当てられる新しい名前を指定します。そのメンバーは、名前の変更後も同じファイルの中に残っています。新しい名前は、**メンバー(MBR)**パラメーターに指定された名前と同じではありません。新しい名前は、ファイル内で固有のものとしなければなりません。

これは必須パラメーターです。

名前 ファイル・メンバーの新しい名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
RNMM FILE(ELEMENT) MBR(LEAD) NEWMBR(GOLD)
```

このコマンドは、ファイルELEMENT中のメンバーLEADをGOLDに名前変更します。ファイルを見つけるために、ライブラリー・リスト(*LIBL)が使用されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF3178

メンバー&3が&4に名前変更されなかった。

[トップ](#)

通称の名前変更 (RNMNCK)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ニックネーム名前変更(RNMNCK)コマンドは、システム配布ディレクトリー中の既存のニックネームを名前変更するために使用されます。新しいニックネームは、共用ニックネームの時には固有でなければなりません。新しいニックネームが私用ニックネームの時には、所有者の場合にのみ固有でなければなりません。

ニックネームは、ディレクトリー項目または配布リスト名を短く縮めたものです。ニックネームの詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

制約事項:

1. 所有していない共用ニックネームを名前変更するためには、機密保護管理者(*SECADM)権限が必要です。所有している共用ニックネームを名前変更するには特殊権限は不要です。
2. 私用ニックネームを名前変更できるのは所有者だけです。特殊権限は不要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NCK	通称	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: 通称	文字値	
	要素 2: アクセス	<u>*PRIVATE</u> , *PUBLIC	
NEWNCK	新しい通称	文字値	必須, 定位置 2

トップ

通称 (NCK)

名前が変更される既存のニックネームおよびそのニックネームのアクセスを指定します。

指定できるニックネームの値は次の通りです。

ニックネーム

名前を変更するニックネームを指定してください。

指定できるニックネーム・アクセスの値は次の通りです。

*PRIVATE

ユーザーが所有する私用ニックネームが名前変更されます。

*PUBLIC

共用ニックネームが名前変更されます。共用ニックネームを名前変更できるのは、機密保護管理者(*SECADM)権限をもっているユーザーと所有者だけです。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

新しい通称 (NEWNCK)

新しいニックネームを指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

```
RNMNCK NCK(SEC44A *PUBLIC) NEWNCK(SEC44C)
```

このコマンドは、共通ニックネームSEC44AをSEC44Cに名前変更します。新規ニックネームが固有であると、ニックネームが名前変更されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8AA1

ライブラリーQUSRSYSの導入が完全でない。

CPF8360

コミットメント制御操作を実行するための記憶域が不十分である。

CPF9A80

共通ニックネーム&1は使用中である。

CPF9A80

共通ニックネーム&1は使用中である。

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

[トップ](#)

オブジェクト名変更 (RNMOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト名変更(RNMOBJ)コマンドは、ライブラリーの中のオブジェクトの名前を変更します。オブジェクトに対して指定される新しい名前は、ライブラリーの中でそのオブジェクト・タイプに固有でなければなりません。名前変更されるオブジェクトがコマンドの入力時に使用中である場合は、そのオブジェクトは名前変更されません。ライブラリーの名前変更時に活動ユーザーのライブラリー・リストにライブラリーがある場合には、ライブラリー・リスト表示(DSPLIBL)コマンドはその新しい名前を反映します。ライブラリー名を変更すると、プログラミング・エラーになります。したがって、これはお奨めできません。

制約事項:

1. 名前変更されるオブジェクトに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限およびオブジェクトが入っているライブラリーに対する更新(*UPDATE)および実行(*EXECUTE)権限が必要です。
2. ライブラリーに*CRG, *DTADCT, *JRN, *JRNRCV, *SQLPKG, および*SQLUDTのいずれかのオブジェクト・タイプが含まれる場合には、名前を変更することができません。
3. PL/Iプログラムは、作成した後で名前を変更することはできません。
4. 制御装置記述、回線記述、装置記述、およびネットワーク・インターフェース記述などの構成オブジェクトは、名前変更するためにはオフに構成変更しなければなりません。
5. 次のオブジェクトは名前変更できません。
 - ジョブの一時ライブラリー(QTEMP)
 - 以下のシステム・ライブラリー（ここでXXXXXXは5桁の番号）：
 - QSYSまたはQSYSXXXXXX
 - QSYS2またはQSYS2XXXXXX
 - QRCLまたはQRCLXXXXXX
 - QRECOVERYまたはQRCYXXXXXX
 - SYSIBMまたはSYSIBXXXXXX
 - QQALIB
 - QSYSCGI
 - システム操作員メッセージ待ち行列(QSYSOPR)
 - すべてのワークステーション・ユーザー・メッセージ待ち行列
 - システム・ログ(QHST)
 - 構成オブジェクト(QCTLおよびQCONSOLE)
 - 構成リスト(QAPPNRMT, QAPPNLCL, QASYNCLC, QRTLPASTR)
 - エレクトロニック支援通信構成オブジェクト(QESLINE, QESPAP, QESCTL, QTILINE, QTICTL, QTIDA, QTIDA2, QIADSP, QIAPRT, QQAHOST)
6. ユーザー・ライブラリーは、次の名前に名前変更することはできません(XXXXXXは5桁の番号)。
 - QSYSXXXXXX
 - QSYSまたはQSYS2XXXXXX

- QRCLまたはQRCLXXXXXX
 - QRECOVERYまたはQRCYXXXXXX
 - SYSIBMまたはSYSIBXXXXXX
 - QTEMP
7. タイプ*CSI, *GSS, *FNTRSC, *FORMDF, *OVL, *PAGDFN,および*PAGSEGのオブジェクトを名前変更する時には、そのオブジェクトの新しい名前の長さは8桁以内でなければなりません。
 8. このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。次の制約事項が適用されます。
 - マルチスレッド・ジョブではこのコマンドは分散ファイルに対してスレッド・セーフではなく、タイプ*SNAのリレーショナル・データベースを使用する分散ファイルに対して正常に実行されません。またこのコマンドは、タイプ*SNAの分散データ管理機能(DDM)ファイルにスレッド・セーフでもなく、SYSTEM(*RMT)またはSYSTEM(*FILETYPE)を指定すると正常に実行されません。
 - タイプ*CFGL, *CNL, *CTLD, *DEVD, *LIND,または*NWIDのオブジェクトを名前変更すると、マルチスレッド・ジョブで失敗することになります。

注:

1. 次の項目に対する参照は、構成オブジェクトを名前変更した後でユーザーが更新しなければならない場合があります。
 - 接続リスト
 - ワークステーション項目
 - 通信項目
 - 表示装置ファイル
 - 印刷装置ファイル
 - テープ・ファイル
 - ディスケット・ファイル
 - ICFファイル
 - ユーザー・プロファイル
 - ジョブ記述
 - CLプログラム
 - QPRTDEVシステム値
 - これを補助印刷装置として参照する表示装置記述
 - 通信サイド情報(CSI)オブジェクト
 - 分散データ管理ファイル (APPC装置名)
 - 名前が変更された接続リスト(CNL)を参照する統合サービス・デジタル網(ISDN)制御装置記述
 - 名前が変更されたCNLを参照するISDN回線記述
 - その他の構成オブジェクト。たとえば、名前が変更された構成オブジェクトを参照する回線、制御装置、およびその他の装置など。
2. 名前が変更されたオブジェクトに対する次の項目による参照は、名前変更操作の後でシステムによって自動的に変更されます。参照の変更は、名前の変更された構成オブジェクトに対して行なわれた変更を反映します。
 - QCONSOLEシステム値
 - 表示装置と関連したメッセージ待ち行列
 - システム/36環境装置テーブル

- 旧印刷装置と関連した出力待ち行列
- 平衡型データ・リンク制御(TDLC)回線と関連したローカル・ワークステーション制御装置
- ローカルまたはリモート・ワークステーション制御装置と関連したTDLC回線

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALRTBL, *AUTL, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CNL, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEVD, *DTAARA, *DTAQ, *EDTD, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IMGCLG, *IPXD, *JOB, *JOBQ, *LIB, *LIND, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *M36, *M36CFG, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SRVPGM, *SSND, *TBL, *USRIDX, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	必須, 定位置 2
NEWOBJ	新しいオブジェクト	名前	必須, 定位置 3
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *CURASGRP, *SYSBAS	オプション
SYSTEM	システム	<u>*LCL</u> , *RMT, *FILETYPE	オプション, 定位置 4

トップ

オブジェクト (OBJ)

名前変更されるオブジェクトを指定します。ライブラリー (修飾子2)が指定されていない場合には、*LIBLが使用されます。修飾子2にライブラリー名を指定して、確実に正しいオブジェクトが名前変更されるようにすることができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: オブジェクト

名前 名前変更されるオブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。この値が使用される時にASP装置 (ASPDEV)パラメーターが指定された場合には、ASPDEV()が唯一の有効な値です。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。この値が使用される時にASP装置 (ASPDEV)パラメーターが指定された場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

名前変更されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト) を押します。オブジェクト・タイプの記述については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

これは必須パラメーターです。

オブジェクト・タイプ

名前変更されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定してください。

トップ

新しいオブジェクト (NEWOBJ)

名前変更されるオブジェクトの新しい名前を指定します。オブジェクトは、同じライブラリーの中にそのまま残ります。

これは必須パラメーターです。

名前 オブジェクトの新しい名前を指定してください。

トップ

ASP装置 (ASPDEV)

名前変更されるオブジェクトが入っているライブラリーの記憶域が割り振られている補助記憶域プール (ASP)装置を指定します。このライブラリーがスレッドのライブラリー名スペースの一部でないASPにある場合には、必ず正しいオブジェクトが名前変更されるようにするために、このパラメーターを指定しなければなりません。名前変更されるライブラリーが現在スレッドのライブラリー・ネーム・スペースの一部でない補助記憶域プール(ASP)装置にある場合には、そのライブラリーをOBJ(QSYS/名前)として指定し、オブジェクト・タイプをOBJTYPE(*LIB)として指定し、ASP装置をASPDEV (名前)として指定してください。

注: オブジェクト(OBJ)パラメーターのライブラリー (修飾子2)に*LIBLまたは*CURLIBを指定し時には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

* 現在、スレッドのライブラリー名スペースの一部であるASPが、ライブラリーを見つけるために検

索されます。これには、システムASP (ASP 1),すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が含まれ、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループの中の1次および2次ASPが含まれます。

*CURASGRP

スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループ中の1次および2次ASPがライブラリーを見つけるために検索されます。システムASP (ASP 1)および定義済みの基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

*SYSBAS

システムASP (ASP 1)とすべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が、ライブラリーを見つけるために検索されます。スレッドにASPグループがあっても、1次または2次ASPは検索されません。

名前 ライブラリーを見つけるために検索される1次または2次ASP装置の名前を指定してください。この1次または2次ASPは活動化されていて(ASP装置をオンに変更することによって)、「活動中」または「使用可能」の状況になっていなければなりません。システムASP (1)と定義済み基本ユーザーASP (2から32)は検索されません。

注: 特定の補助記憶域プール(ASP)装置名を指定するには、ASPグループ中の各ASP装置に対する使用(*USE)権限が必要です。

トップ

システム (SYSTEM)

ファイルが分散データ管理(DDM)ファイルの場合には、名前変更がローカル・システムで行うかまたはリモート・システムで行うかを指定します。

***LCL** ローカル・システムのファイルが名前を変更されます。

***RMT** DDMソース・ファイルによって参照されたりリモート・ファイルが名前を変更されます。

注: リモート・ファイルを名前変更したい場合には、2つのDDMファイルを使用しなければなりません。既存のDDMファイルは、**オブジェクト(OBJ)**パラメーターに指定し、新しいDDMファイルは、**新しいオブジェクト(NEWOBJ)**パラメーターに指定します。新しいDDMファイルは、既存のDDMファイルと同じライブラリーの中になければなりません。リモートの名前変更が起こった時には、それは新しいDDMファイル名に名前変更される既存のDDMファイルのリモート・ファイル名です。

*FILETYPE

OBJパラメーターの名前がDDMファイルである場合には、名前変更はリモート名前変更となります。OBJパラメーターの名前がDDMファイルでない場合には、名前変更はローカル名前変更となります。

トップ

例

RNMOBJ OBJ(PAYROLL/FILEX) OBJTYPE(*FILE) NEWOBJ(MSTR)

PAYROLLという名前のライブラリーがFILEXという名前のファイルを見つけるために検索されます。このファイルが見つかった場合、FILEXに対するオブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびPAYROLLライブラリーに対する更新(*UPD)権限をもっていれば、FILEXがMSTRに名前変更されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA030

オブジェクトはすでに使用中である。

CPFB8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

CPF0601

&2のファイル&1に対する操作は許可されていない。

CPF0602

ファイル&1は、すでにライブラリー&2に存在している。

CPF0605

&2の装置ファイル&1は、記憶域を解放して保管された。

CPF0610

&2のファイル&1が使用可能でない。

CPF0678

&2のファイル名&1に対する操作は実行されなかった。

CPF1763

1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF180B

機能&1は使用できない。

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2111

ライブラリー&1はすでに存在している。

CPF2112

&2のオブジェクト&1タイプ*&3がすでに存在している。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2132

オブジェクト&1はライブラリー&2にすでに存在している。

- CPF2136**
ライブラリー&1の名前変更が正常に実行されなかった。
- CPF2139**
ライブラリー&1の名前変更が正常に実行されなかった。
- CPF2140**
ライブラリー&1の名前変更が前に正常に実行されていない。
- CPF2150**
オブジェクト情報機能に障害。
- CPF2151**
&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。
- CPF2160**
オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。
- CPF2164**
ライブラリー&2の名前変更は完了していない。
- CPF2166**
ライブラリー名&1は無効である。
- CPF2173**
ライブラリーの特殊値にはASPDEVの値は無効である。
- CPF2176**
ライブラリー&1に損傷がある。
- CPF218C**
&1は1次または2次ASPではない。
- CPF2182**
ライブラリー&1の使用は認可されていない。
- CPF2189**
&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。
- CPF2190**
リモート削除または名前変更要求を行うことはできない。
- CPF22BC**
タイプ&3のオブジェクト&1はプログラム定義のオブジェクトでない。
- CPF2451**
メッセージ待ち行列&1は別のジョブに割り振られている。
- CPF2512**
メッセージ待ち行列&1に対してこの操作を使用することはできない。
- CPF2691**
&2タイプ*&5の名前変更は完了していない。
- CPF2692**
オブジェクト&2タイプ*&5はオフに構成変更しなければならない。
- CPF2693**
&2タイプ*&5を名前変更を使用することはできない。

CPF2694

オブジェクト&2タイプ*&5は名前変更することができない。

CPF2696

オブジェクト&2タイプ*&5は名前変更されなかった。

CPF320B

データベース・ファイル&1に対して操作が正しくない。

CPF3201

ライブラリー&2にファイル&1はすでに存在している。

CPF3202

ライブラリー&2のファイル&1は使用中である。

CPF3203

&2のファイル&1のオブジェクトを割り振ることができない。

CPF322D

データベース・ファイル&1の操作は実行されなかった。

CPF3220

&2のファイル&1に対して操作を実行することはできない。

CPF323C

QRECOVERYライブラリーを割り振ることができなかった。

CPF323D

ユーザーは正しい権限をもっていない。

CPF324C

並行権限ホルダー操作のため、移動、名前変更、または復元を行なうことはできない。

CPF3245

ファイル&1メンバー&6の損傷により、ファイル&3に対する操作は行なわれなかった。

CPF326A

ライブラリー&2のファイル&1の操作が正常に行なわれていない。

CPF327F

ライブラリー&2のファイル&1の操作が正常に行なわれていない。

CPF329D

ライブラリー&2のファイル&1の操作が正常に行なわれていない。

CPF3323

ジョブ待ち行列&1はすでに&2に存在している。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3353

&2に出力待ち行列&1はすでに存在している。

CPF3375

&2のジョブ待ち行列&1の名前は変更されなかった。ジョブ待ち行列は使用中です。

CPF3376

&2の出力待ち行列&1の名前は変更されなかった。出力待ち行列は使用中です。

CPF3467

出力待ち行列&1が削除されてから、再作成された。

CPF3469

出力待ち行列に対する操作は認められない。

CPF5702

ファイルがDDMファイルでないか、あるいは見つからない。

CPF7003

項目はジャーナル&1にジャーナル処理されなかった。理由コードは&3です。

CPF8D05

ライブラリー&1はすでに存在している。

CPF88C4

新しいオブジェクトの値&1が8桁を超えている。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRP PRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPF9876

保護されたライブラリー&2は変更できません。

[トップ](#)

TCP/IP ホスト・テーブル項目名の変更 (RNMTCPHTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPホスト・テーブル項目名前変更(RNMTCPHTE)コマンドは、ローカル・ホスト・テーブルの中のIPアドレスを別のIPアドレスに名前変更するために使用されます。これは、古いIPアドレスのホスト名を新しいIPアドレスと対応させる効果があります。ホスト名およびテキスト記述フィールドはRNMTCPHTEコマンドでは変更できません。

ローカル・ホスト・テーブルは、項目当たり1つのIPアドレス、4つのホスト名、および1つのテキスト記述フィールドを使用できるように定義されています。

次のホスト・テーブル・コマンドも参照してください。

- TCP/IPホスト・テーブル項目追加(ADDTCPHTE)コマンドは、ローカル・ホスト・テーブルに新しい項目を追加します。
- TCP/IPホスト・テーブル項目変更(CHGTCPHTE)コマンドは、1つまたは複数のホスト名あるいはテキスト記述フィールドを変更します。
- TCP/IPホスト・テーブル組み合わせ(MRGTCPHTE)コマンドは、ホスト名、IPアドレス、およびテキスト注記項目を物理ファイル・メンバーからローカル・ホスト・テーブルに組み合わせます。ローカル・ホスト・テーブル全体を物理ファイル・メンバーで置き換えることのできる置き換えオプションも提供されています。
- TCP/IPホスト・テーブル項目除去(RMVTCPHTE)コマンドは、ローカル・ホスト・テーブルから項目全体を除去します。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
INTNETADR	IPアドレス	文字値	必須, 定位置 1
NEWINTNETA	新IPアドレス	文字値	必須, 定位置 2

[トップ](#)

IPアドレス (INTNETADR)

名前変更したいホスト名と関連づけるIPアドレスを指定します。インターネット・アドレスは *NNN.NNN.NNN.NNN* の形式で指定されます。ここで *NNN* は0から255の範囲の10進数です。IPアドレスは、そのアドレスのネットワークID (ID)部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0 の場合には、正しくありません。コマンド行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

[トップ](#)

新IPアドレス (NEWINTNETA)

ローカル・ホスト・テーブル内の既存のIPアドレスを名前変更する新しいIPアドレスを指定します。インターネット・アドレスは *NNN.NNN.NNN.NNN* の形式で指定されます。ここで *NNN* は0から255の範囲の10進数です。IPアドレスは、そのアドレスのネットワークID (ID)部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0 の場合には、正しくありません。コマンド行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

[トップ](#)

例

```
RNMTCPHTE INTNETADR('132.28.71.5') NEWINTNETA('142.48.81.6')
```

このコマンドは、ホスト・テーブル項目IPアドレスの132.28.71.5をIPアドレスの142.48.81.6によって置き換えられます。項目と関連付けられたホスト名およびテキスト記述フィールドはすべて同じままになっています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP1901

IPアドレス&1が正しくない。

TCP1902

IPアドレス&1が正しくない。

TCP1904

ホスト・テーブルに重複したIPアドレス&1が見つかった。

TCP1907

IPアドレス項目&1が存在しない。

TCP1908

IPアドレス&1が正しくない。

TCP1910

LOOPBACK IPアドレス&1が正しくない。

TCP1929

ホスト・テーブルが使用できない。

TCP8050

&1を使用するためには*IOSYSCFG権限が必要である。

[トップ](#)

ロールバック (ROLLBACK)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ロールバック(ROLLBACK)コマンドは、現行のトランザクションを再始動して、コマンドのプログラム発行に関連したコミットメント定義の現行のコミットメント境界として最後のコミットメント境界を再確立するために使用されます。

ROLLBACKコマンドが出される場合：

- コミットメント境界の最後の確立以降にコミットメント定義のコミットメント制御のもとにあるデータベース・ファイルおよびその他のコミットメント資源に対する変更は、ロールバックされます。そのコミットメント境界以降にデータベース・ファイルのデータに対して行われた更新、追加、または削除はロールバックまたは除去されて、元の項目がファイルに戻されます。ファイルに追加されたレコードは削除済みレコードとしてそのままとなります。ファイルは最後のコミットメント境界に位置変更されず。さらに、その他のコミットメント資源に対する変更もロールバックされます。
- コミットメント定義のコミットメント制御下でオープンされたファイルで保留されたすべてのレコード・ロックが解放されます。
- トランザクション中に資源が作成または変更された時に獲得された、オブジェクト・レベル・コミットメント制御資源のロックが解放されます。

コミットメント制御の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「コミットメント制御」の記事を参照してください。

このコマンドには、パラメーターはありません。

トップ

パラメーター

なし

トップ

例

ROLLBACK

このコマンドは、コマンドを出したプログラムに関連するコミットメント定義について、最後のコミットメント境界（コミット(COMMIT)コマンドまたはロールバック(ROLLBACK)コマンドが最後に出された時点）を再確立します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF83D0

コミットメント操作は使用できない。

CPF835F

コミットまたはロールバック操作が正常に実行されなかった。

CPF8350

コミットメントの定義が見つからない。

CPF8359

ロールバック操作が正常に実行されなかった。

CPF8367

コミットメント制御操作を実行できない。

*STATUS メッセージ

CPF83E6

コミットメント制御操作が進行中の再同期化とともに完了した。

[トップ](#)

RPC BIND プログラム・デーモンの開始 (RPCBIND)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

RPC BIND プログラム・デーモンの開始 (RPCBIND)コマンドは、リモート・プロシージャ呼び出し (RPC) RPCBINDデーモンを開始します。ネットワーク・ファイル・システム(NFS)のデーモンとコマンド、および一部のTI-RPC APIを使用して実行するためには、RPCバインド・プログラム・デーモン・ジョブが実行中でなければなりません。

このコマンドは、次の代替コマンドを使用して出すこともできます。

- STRNFSSVR SERVER(*RPC)

このデーモンを開始しようとして、すでに実行中の場合には、それがコマンドの失敗原因にはなりません。デーモンがすでに実行中であれば、コマンドが診断メッセージCPDA1BAを出します。

RPCBINDデーモンが実行中かどうかを判別するには、活動ジョブ処理 (WRKACTJOB)コマンドを使用して、サブシステムQSYSWRKに次のジョブが存在するかどうかを調べてください。

QNFSRPCD RPCBINDデーモン

制約事項

1. このコマンドを使用するには、入出力(I/O)システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RTVRPCREG	RPC登録の検索	*NO, *YES	オプション、定位置 1

[トップ](#)

RPC登録の検索 (RTVRPCREG)

RPCBINDデーモンが開始された時、以前に記録された登録情報を内部ファイルから検索するかどうかを指定します。登録情報がファイルから検索されれば、RPCBINDデーモンにすでに登録済みのサービスは、RPCBINDデーモンに改めて登録する必要はありません。

***NO** 登録情報を検索しません。

***YES** 登録情報を内部ファイルから検索します。

[トップ](#)

例

例1: RPCバインダー・デーモンの開始

```
RPCBIND RTVRPCREG(*YES)
```

このコマンドはRPCバインダー・デーモン・ジョブを開始して、前に記録されている登録情報をリトリブします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA1B8

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

[トップ](#)

RPCソースの変換 (RPCGEN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

RPCソースの変換 (RPCGEN)コマンドは、リモート・プロシージャ呼び出し(RPC)言語で書かれた入力ファイルからCコードを生成します。生成されたCコードを使用して、RPCプロトコルを実装することができます。

このコマンドは、UNIXシステムでRPCGENユーティリティーを実行するのと同じです。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- CVTRPCSRC

制約事項:

1. 入力ファイルと出力ファイルの両方のパス内の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
2. 入力ファイルに対する読み取り(*R)権限が必要です。
3. 出力ファイルのディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMFILE	FROMファイル	パス名	必須, 定位置 1
OPTION	オプション	*ALL, *XDR, *HDR, *CLTSTUB, *SVRSTUB, *CLTSAMP, *SVRSAMP, *NOSAMP	オプション
PROTOCOL	プロトコル	値 (最大 2 回の繰り返し): *NONE, *TCP, *UDP	オプション
TOFILE	TOファイル	パス名	オプション

トップ

FROMファイル (FROMFILE)

リモート・プロシージャ呼び出し(RPC)言語で書かれた入力ソース・ファイルのパス名を指定します。入力ソース・ファイルは、ルート/またはQOPENSYSファイル・システム内のファイルでなければなりません。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

トップ

オプション (OPTION)

コンパイル・オプションを指定します。

***NOSAMP**

サンプル・ファイル(*CLTSAMPおよび*SVRSAMP)以外のすべてのファイル・タイプが生成されません。

***ALL** すべてのファイル・タイプが生成されます。

***XDR** 入力ファイルは、XDR（外部データ表示形式）ルーチンにコンパイルされます。

***HDR** 入力ファイルは、Cデータ定義（ヘッダー・ファイル）にコンパイルされます。

***CLTSTUB**

入力ファイルは、クライアント側のスタブ・プロシージャにコンパイルされます。

***SVRSTUB**

入力ファイルは、サーバー側のスタブ・プロシージャにコンパイルされます。ただし、「メイン」ルーチンは生成されません。

***CLTSAMP**

リモート・プロシージャ呼び出しを使用するサンプル・クライアントが生成されます。ファイルはアプリケーション用にカスタマイズすることができます。

***SVRSAMP**

リモート・プロシージャ呼び出しを使用するサンプル・サーバーが生成されます。ファイルはアプリケーション用にカスタマイズすることができます。

[トップ](#)

プロトコル (PROTOCOL)

指定されるトランスポートのサーバー側スタブ・プロシージャにコンパイルします。指定された値は、サーバー・アプリケーションの実行時に/ETC/NETCONFIGファイルに存在していなければなりません。このパラメーターが有効なのは、OPTION(*SVRSTUB)が指定されている場合だけです。次のオプションの1つまたは複数指定することができます。

***NONE**

/ETC/NETCONFIGファイルにあるすべてのトランスポートのサーバー側スタブ・プロシージャをコンパイルします。

***TCP** TCPトランスポートのサーバー側スタブ・プロシージャをコンパイルします。

***UDP** UDPトランスポートのサーバー側スタブをコンパイルします。

[トップ](#)

TOファイル (TOFILE)

出力ファイルのパス名を指定します。このオプションを使用できるのは、OPTION(*ALL)もOPTION(*NOSAMP)も指定されない場合だけです。OPTION(*ALL)またはOPTION(*NOSAMP)が指定されているか、あるいは別のオプションを使用しているときにTOFILEパラメーターが指定されなかった場合には、次のように **FROMファイル (FROMFILE)**パラメーターを使用してTOFILE名が生成されます。ここで、FILENAMEはFROMFILEパラメーターからの入力ファイル名の名前です。

- FILENAME.H -ヘッダー・ファイルの場合
- FILENAME_XDR.C - XDRファイルの場合
- FILENAME_CLNT.C -クライアント側スタブの場合
- FILENAME_SVC.C -サーバー側スタブの場合
- FILENAME_CLIENT.C -クライアント側サンプル・ファイルの場合
- FILENAME_SERVER.C -サーバー側サンプル・ファイルの場合

サンプル・コードの出力ファイルは存在してはいけません。サンプル出力ファイルのいずれかが存在していると、コマンドは正常に実行されません。その他の出力ファイルは、存在していると上書きされます。

'TOファイル・パス名'

TOFILE名を生成するために使用するパス名を指定してください。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

トップ

例

RPCGENの代替コマンド名はCVTRPCSRCです。次の例では代替コマンド名を使用していますが、RPCGENはそれらのすべてで直接CVTRPCSRCに置き換えることができます。

例1: 省略時のファイルへのRPCソースの変換

```
CVTRPCSRC FROMFILE('/MYRPC') OPTION(*ALL)
```

これは、RPC言語ファイル'/MYRPC'を4つのファイル・タイプ(*XDR, *HDR, *CLTSTUB,および*SVRSTUB)すべてに変換します。サーバー側のスタブ・プログラムの生成には、省略時の値PROTOCOL(*TCP)が使用されます。ファイルは次のファイル名に入れられます。

- ヘッダー・ファイルの場合にはMYRPC.H
- XDRファイルの場合にはMYRPC_XDR.C
- クライアント側スタブの場合にはMYRPC_CLNT.C
- サーバー側スタブの場合にはMYRPC_SVC.C

例2: クライアント・スタブのみへのRPCソースの変換

```
CVTRPCSRC FROMFILE('/MYRPC2') OPTION(*CLTSTUB)
           TOFILE('/MYCLNT.C')
```

このコマンドは、RPC言語ファイル'/MYRPC2'をクライアント側スタブ・プロシージャーに変換します。結果は、指定されているファイル'/MYCLNT.C'に入れられます。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF416

CVTRPCSRCまたはRPCGENコマンドが正しく実行されなかった。

文書置き換え (RPLDOC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書置き換え(RPLDOC)コマンドは、文書ライブラリーに存在する文書の文書内容および交換文書プロファイル(IDP)を置き換えるために使用されます。このコマンドは、文書の新しいバージョンを文書ライブラリーに戻します。文書をチェックアウトしなければ、データを置き換えることはできません。

制約事項:

- このコマンドを使用する前に、USRIDパラメーターに指定されたユーザーが文書検索(RTVDOC)コマンドを使用して、文書をチェックアウトしなければなりません。
- ユーザーには、少なくとも、その文書に対する変更(*CHANGE)権限、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもっているか、あるいはその文書に対して認可されているユーザーの代行処理を行う場合でなければなりません。
- 他のユーザーの代行処理の権限はユーザー認可(GRTUSRPMN)コマンドによって認可されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TODOC	文書	文字値, *DOCID	必須, 定位置 1
TOFLR	フォルダー中	文字値, *NONE	オプション
DOCFILE	文書ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: 文書ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DOCMBR	文書メンバー	名前, *FIRST	オプション
DOCPART	文書パート	*DOC, *IDP, *BOTH	オプション
USRID	ユーザー識別コード	単一値: *CURRENT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
DOCID	文書識別コード	文字値, *NONE	オプション
DOCTYPE	文書タイプ	2-65535, *DFT, *FFT, *RFT	オプション
DOCCHRID	文書文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEVVD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

キーワード	記述	選択項目	注
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

[トップ](#)

文書 (TODOC)

データを入れる文書の名前を指定するか、あるいはデータを入れるライブラリー割り当て文書名を指定するために文書識別コード (DOCID)パラメーターが使用されることを指定します。

名前 置き換える文書のユーザー割り当て名を指定してください。

*DOCID

置き換える文書は、DOCIDパラメーターで指定するライブラリー割り当て文書名によって識別されます。

[トップ](#)

フォルダー中 (TOFLR)

置き換える文書が入っているフォルダーの名前を指定します。

*NONE

文書が文書識別コード (DOCID)パラメーターで識別される時には、フォルダーは指定されません。

名前 置き換える文書が入っているフォルダーの名前を指定してください。置き換える文書が入っているフォルダーがさらに別のフォルダーに入っている場合には、フォルダー名を一連のフォルダー名から構成することができます。最大63桁を指定することができます。

[トップ](#)

文書ファイル (DOCFIL)

データベース・ファイルの名前および文書データが入っているライブラリーの名前を指定します。データベース・ファイルは、ユーザー定義ファイルであるか、あるいは配布受信(RCVDST)コマンドまたは文書検索(RTVDOC)コマンドのいずれかに指定されている出力ファイルです。出力ファイルが指定されている場合には、文書データ・レコードのデータ部分だけが出力ファイルから読み取られます。文書データ・レコードから接頭部が除去されます。

名前 文書データが入っているデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

データベース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブのライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 データベース・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

文書メンバー (DOCMBR)

使用する文書データベース・ファイル・メンバーを指定します。

***FIRST**

データベース・ファイルに作成された最初のメンバーが使用されます。

名前 使用するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

文書パート (DOCPART)

置き換える文書の部分を指定します。

注: *BOTHを指定して、一方の置き換えが正常に実行されなかった場合には、両方とも置き換えられず、文書はチェックアウトされたままになります。

***DOC** 文書内容のみを置き換えてください。指定されたファイルに文書内容レコードが存在しない場合には、文書は置き換えられますが、文書内容が置き換えられなかったことをユーザーに警告するメッセージが戻されます。

***IDP** 文書の交換文書プロファイル(IDP)のみを置き換えてください。この値が指定された場合には、指定されたファイルにIDPレコード (レコード・コード500)が存在していなければなりません。そうでないと、コマンドが正常に実行されません。

***BOTH**

文書の文書内容とIDPの両方を置き換えてください。この値が指定された場合には、指定されたファイルにIDPレコード (レコード・コード500)が存在していなければなりません。そうでないと、コマンドが正常に実行されません。

[トップ](#)

ユーザー識別コード (USRID)

ユーザーIDおよびユーザーIDアドレスを要求と関連付けるかどうかを指定します。

単一値

***CURRENT**

自分自身で要求を実行します。

要素1: ユーザー識別コード

文字 別のユーザーのユーザーIDまたは自身のユーザーIDを指定してください。別のユーザーの代行処理が許可されているか、あるいは全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもっていなければなりません。

要素2: アドレス

文字 別のユーザーのアドレスまたは自身のアドレスを指定してください。別のユーザーのための代行処理が許可されているか、あるいは*ALLOBJ権限をもっていなければなりません。

[トップ](#)

文書識別コード (DOCID)

文書のライブラリー割り当ての名前を指定します。これは、文書が作成された時にシステムによって文書に割り当てられた名前です。ローカル・システム外にファイルされた文書はライブラリー割り当て文書名だけをもっています。ライブラリー割り当て文書名は、文書ライブラリーQUERY(QRYDOCLIB)コマンドを使用して、または文書ファイル(FILDOC)コマンドから戻されたメッセージによって、判別することができます。

ライブラリー割り当て文書名の長さは次の形式で24桁です。

YYYYMMDDHHMNSSHSSNSNSNSN

ここで

YYYY = 年
MM = 月
DD = 日
HH = 時
MN = 分
SS = 秒
HS = 100分の1秒
SNSNSNSN = システム名

*NONE

文書が**文書 (DOC)**パラメーターで識別される時には、ライブラリー割り当て文書名は必要ありません。

名前 送信する文書のライブラリー割り当て名を指定してください。

[トップ](#)

文書タイプ (DOCTYPE)

使用する文書のタイプを指定します。このIDは、データ・ストリームを正しく処理できるかどうかを調べるためにシステムによって使用されます。

***DFT** システムが、データのソース仕様に基づいて適切な文書タイプIDを作成します。

***FFT** 文書は最終形式テキストです。このタイプの文書は、受信者によって検討され、印刷することを目的としたものですが、編集は行われません。

***RFT** 文書は変更可能テキストです。このタイプの文書は、受信者によって検討、印刷、および編集することができます。

2から65,535

文書タイプID値を指定します。2から32,767の番号は、IBM文書交換アーキテクチャーでこれらを登

録することによって制御され、IBM定義の文書タイプで使用されます。32,768から65,535の範囲の番号は、IBMとしては登録されず、IBM定義以外の文書タイプで使用することができます。

[トップ](#)

文書文字識別コード (DOCCHRID)

使用中の文書データの文字ID（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。文字IDは、文書データの作成で使用した表示装置と関連しています。

単一値

*SYSVAL

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*DEV D

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1から32767

使用するコード・ページを指定してください。

[トップ](#)

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字ID（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。文字IDはコマンドの入力に使用される表示装置に関連付けられています。

ユーザー識別コード (USRID)パラメーターに指定された値は、文字セットおよびコード・ページ'930 500'に変換されます。

単一値

*SYSVAL

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*DEV D

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1から32767

使用するコード・ページを指定してください。

[トップ](#)

例

```
RPLDOC  TODOC(*DOCID)  DOCFILE(*LIBL/MYFILE)  DOCPART(*BOTH)
        DOCID('1987060710102053SYSTEM1')  DOCTYPE(*FFT)
```

このコマンドは、ファイルMYFILE中の文書データおよびIDPを置き換えます。データは、文書ID '1987060710102053SYSTEM1'で識別された文書に入れられます。文書タイプは最終形式テキストに変更されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF900B

ユーザーIDおよびアドレス&1 &2はシステム配布ディレクトリーに入っていない。

CPF900C

サインオンおよびユーザーの検査が正常に実行されなかった。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF906A

ライブラリー中で文書が置き換えられなかった。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEVVD), DOCCHRID(*DEVVD)を使用することはできない。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

オーダー援助の要求 (RQSORDAST)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

発注援助の要求(RQSORDAST)コマンドは、発注援助の要求を弊社に送ります。次のものを含むサービスおよびプロダクトの発注に関する援助を要求することができます。

- ソフトウェア更新
- ハードウェア更新
- AS/400情報
- サービス提供
- 一般ヘルプ（たとえば、ネットワーク計画）

RQSORDASTコマンドが正常に処理されると、発注情報が入っているファイルが作成され、発注援助要求とともに送信されます。このファイルには次のものが入っています。

- ハードウェア構成情報（重要なプロダクト・データ(VPD)およびトポロジー・データ）
- ソフトウェア構成情報（導入されたIBMプログラム・プロダクト）

発注情報ファイルはすべての要求によって送信されます。

制約事項:

1. このコマンドは共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. このコマンドを使用するためには、*ALLOBJ権限をもっているか、あるいはQSYSOPRまたはQSRVとしてサインオンしていなければなりません。

このコマンドにはパラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

RQSORDAST

このコマンドは、「順序アシスタンス要求」入力パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

ジョブ経路再指定 (RRTJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ経路再指定 (RRTJOB)コマンドは、現行サブシステム中のジョブの新しいルーティング・ステップを開始します。再経路指定によって、ジョブのルーティング・データの中での変更が可能となり、またこれによって、新しいルーティング・ステップで使用される別のプログラムが呼び出されます。ジョブは、別のクラスのもとで実行するか、別の記憶域プール内で実行するために、再経路指定を使用することができます。このコマンドを使用すると、前のルーティング・ステップに割り振られているオブジェクトはすべて割り振り解除され、オープンされているファイルはすべてクローズされます。新しいルーティング・ステップで、オブジェクトまたはファイルが必要な場合には、あらためて割り振りまたはオープンしなければなりません。

注:

- このコマンドをバッチ・ジョブで実行すると、プール・インライン・ファイルが失われます。プール・インライン・ファイルは、新しいルーティング・ステップではアクセスできません。
- システムの終了中に(サブシステム終了 (ENDSBS)コマンド、システム終了 (ENDSYS)コマンド、またはシステム電源遮断 (PWRDWN SYS)コマンドの実行によって) RRTJOBコマンドが実行されると、新しいルーティング・ステップは開始されず、ジョブは終了されます。
- CLプログラム内でRRTJOBコマンドが出されると、CLプログラム内の後続のすべてのコマンドがう回されます。

制約事項:

- ジョブは、グループ・ジョブ、事前開始ジョブ、バッチ即時ジョブ、または制限状態のバッチ・ジョブであってはなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RTGDTA	経路指定データ	文字値, <u>QCMDI</u> , *RQSDTA	オプションル、位置 1
RQSDTA	要求データまたはコマンド	文字値, * <u>NONE</u> , *RTGDTA	オプションル、位置 2

トップ

経路指定データ (RTGDTA)

ジョブの次のルーティング・ステップを開始するために使用される経路指定データを指定します。この経路指定データは、ジョブが実行するプログラムを識別する経路指定項目を決めるために使用されます。

QCMDI

このルーティング・データはIBM提供のサブシステム記述QINTERの中のルーティング項目に相当するものであり、QSYSライブラリー中のIBM提供の制御言語処理プログラムQCMDによって処理されるルーティング・ステップを示すものです。

***RQSDTA**

このコマンドの**要求データまたはコマンド (RQSDTA)**パラメーターに指定された要求データの最初の80文字は、次のルーティング・ステップのルーティング・データとしても使用されます。

文字値 次のルーティング・ステップを開始するためのルーティング・データとして使用する文字ストリングを指定してください。最大80文字まで入力することができます（必要な場合には、アポストロフィで囲んでください）。

トップ

要求データまたはコマンド (RQSDTA)

このジョブのメッセージ待ち行列に最後の項目として入れられる要求データを指定します。この要求データは実行するCLコマンドまたは別のプログラムによって使用される文字ストリングとすることができます。

*NONE

このジョブのメッセージ待ち行列には要求データは入りません。

***RTGDTA**

経路指定データ (RTGDTA)パラメーターに指定されたルーティング・データは、ジョブのメッセージ待ち行列の終わりにも入ります。

文字値 新しいルーティング・ステップ、またはジョブの中の一部の後続のルーティング・ステップによって使用されるために、ジョブのメッセージ待ち行列の終わりに入れる文字ストリングを指定してください。最大256文字まで入力することができます（必要な場合には、アポストロフィで囲んでください）。

トップ

例

```
RRTJOB RTGDTA(INQUIRY)
```

このコマンドは、ルーティング・データINQUIRYを含む新しいルーティング・ステップを開始することによって、このコマンドが出されるジョブを転送します。このジョブは同じサブシステム内にとどまります。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1315

この環境では、コマンド&1を使用することはできない。

トップ

停止点再開始 (RSMBKP)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

停止点再開(RSMBKP)コマンドは、プログラムが停止点で停止した後で、そのプログラムに処理を続行させます。続行するプログラムは、最後に停止点で停止したプログラムです。ジョブの中で、1つの停止点で複数のプログラムが停止している場合には、要求終了(ENDRQS)コマンドを使用することによって、停止点で停止している前のプログラム呼び出しに関するコマンド入力画面に戻ることができます。

別のジョブをサービス中であり、それが終了していない場合には、このコマンドは停止点からそのジョブを再開します。また、このコマンドは、停止点画面が表示される直前のポイントにサービス・ジョブを戻します。

制約事項:

- このコマンドを使用できるのは、デバッグ・モードにおいてプログラムがユーザー定義の停止点で停止している場合だけです。
- 監視対象外のメッセージが原因で生じた停止点では、このコマンドは無効です。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

RSMBKP

制御を持っているプログラムが停止点で停止されるとして、このコマンドによって、プログラムは停止点位置から処理を続行します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1999

コマンドでエラーが起こった。

[トップ](#)

制御装置回復手順再開 (RSMCTLR CY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

制御装置回復手順再開(RSMCTLR CY)コマンドは、特定の制御装置に対するエラー回復手順を再開します。エラー回復手順は、制御装置回復終了(ENDCTLR CY)コマンドを使用するか、あるいは障害に関連した照会メッセージに取り消しオプションで応答することによって終了することができます。

制御装置回復手順再開(RSMCTLR CY)コマンドで、自動エラー回復手順を停止した後に再開したり、あるいは制御装置を取り消した後に（その制御装置を使用するジョブと一緒に）再活動化することができます。（制御装置の障害と関連した照会メッセージにCを応答した場合。）制御装置をC応答で取り消した場合には、すべてのジョブが終了します。制御装置が修理され、RSMCTLR CYコマンドを入力すると、ジョブはその制御装置を使用して再び開始することができますようになります。

制約事項: このコマンドを使用するためには、制御装置に対するオブジェクト操作権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTL	制御装置	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

制御装置 (CTL)

エラー回復手順を再開する制御装置を指定します。有効なタイプの制御装置は次の通りです。

CTL 値

制御装置

5251 表示装置

***PU2** 物理装置 (タイプ2)。基本BSCおよびRJE用のSDLC。

***BSC** BSC装置 (基本BSCおよびRJE)

***BSCT**

BSC装置 (マルチポイント従属端末および3270装置エミュレーション)

***APPC**

拡張プログラム間通信機能

***WSC** ローカル・ワークステーション

***WSCE**

ローカル・ワークステーション (拡張)

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

RSMCTRLCY CTL(TROLL3)

このコマンドは、制御装置TROLL3に対してのエラー・リカバリー手順を再開します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2703

制御装置記述&1が見つかりません。

CPF5924

制御装置&1では自動エラー回復手順を使用することはできない。

CPF5928

制御装置&1がオンに変更されていません。

CPF5929

制御装置&1は別のジョブに割り当てられている。

CPF5930

制御装置&1の回復手順は再開されなかった。

CPF5931

制御装置&1の回復手順は再開されなかった。

CPF5935

コマンドの処理中にエラーが起こった。

CPF5936

制御装置&1が認可されていない。

[トップ](#)

入出力装置回復再開 (RSMDEVRCY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

入出力装置回復手順再開(RSMDEVRCY)コマンドは、特定の装置に対するエラー回復手順を再開します。エラー回復手順は、装置回復終了(ENDDEVRCY)コマンドの使用、あるいは障害に関連した照会メッセージに取り消しオプションで応答することによって終了します。

RSMDEVRCYコマンドによって、自動エラー回復手順を停止した後にこれらを再開し、装置を取り消した（装置障害と関連した照会メッセージに応答をCと入力した場合）後に再活動化することができます。装置をC応答で取り消した場合には、すべてのジョブが終了します。装置が修理され、RSMDEVRCYコマンドを入力すると、ジョブはその装置を使用して再び開始することができるようになります。

制約事項: このコマンドを使用するためには、装置に対するオブジェクト操作権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

装置 (DEV)

エラー回復手順を再開する装置を指定します。有効な装置タイプは次の通りです。

DEVタイプ

装置

5219 印刷装置 (ワークステーション)

5224 印刷装置 (ワークステーション)

5225 印刷装置 (ワークステーション)

5251 表示装置

5252 複式表示装置

5256 印刷装置 (ワークステーション)

5291 表示装置

5292 表示装置

*PLU1 物理装置 (タイプ1)

*BSC BSC装置

***BSCT**

BSCマルチポイント従属端末

***APPC**

拡張プログラム間通信機能

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

RSMDEVRCY DEV(WSPR03)

このコマンドは、再開する装置WSPR03に対してのエラー・リカバリー手順を再開します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF5923

装置&1では自動エラー回復手順を使用することはできない。

CPF5925

装置&1がオンに変更されていません。

CPF5926

装置&1の回復手順は再開されなかった。

CPF5927

装置&1の回復手順は再開されなかった。

CPF5935

コマンドの処理中にエラーが起こった。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

[トップ](#)

回線回復再開 (RSMLINRCY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線回復手順再開(RSMLINRCY)コマンドは、特定の回線に対するエラー回復手順を再開します。エラー回復手順は、回線回復終了(ENDLINRCY)コマンドの使用、あるいは障害に関連した照会メッセージに取り消しオプションで応答することによって終了します。

回線回復手順再開(RSMLINRCY)コマンドで、自動エラー回復手順を停止した後に再開したり、あるいは回線を取り消した後に（その回線を使用するジョブと一緒に）再活動化したりすることができます。回線をC応答で取り消した場合には、すべてのジョブが終了します。回線が修理され、RSMLINRCYコマンドを入力すると、ジョブはその回線を使用して再び開始することができるようになります。

制約事項: このコマンドを使用するためには、回線に対するオブジェクト操作権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LINE	行	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

行 (LINE)

回復手順を再開する通信回線の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

```
RSMLINRCY LINE(NYC2)
```

このコマンドは、再開する回線NYC2に対してのエラー・リカバリー手順を再開します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2704

回線記述&1が見つからない。

CPF5917

回線記述&1の使用は認可されていない。

CPF5932

回線&1をアクセスすることができない。

CPF5933

回線&1がオンに構成変更されていない。

CPF5934

回線&1の回復手順は再開されなかった。

CPF5935

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

NWI回復処置の再開 (RSMNWIRCY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・インターフェース回復再開(RSMNWIRCY)コマンドは、ネットワーク・インターフェース記述のエラー回復手順を再開します。エラー回復手順は、ネットワーク・インターフェース回復終了(ENDNWIRCY)コマンドを使用して終了するか、あるいは取り消しオプションで障害関連照会メッセージに応答することによって終了します。ネットワーク・インターフェース回復再開(RSMNWIRCY)コマンドによって、停止した後の自動エラー回復手順を再開したり、また、取り消された後のネットワーク・インターフェース記述（およびその記述を使用するジョブ）を再活動化することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NWI	ネットワーク・インターフェース記述	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

ネットワーク・インターフェース記述 (NWI)

自動エラー回復を再始動するネットワーク・インターフェース記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

RSMNWIRCY NWID(ISDNNET)

このコマンドは、ISDNNETという名前のネットワーク・インターフェース記述に対してのエラー・エラー・リカバリー手順を再開します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF591A

ネットワーク・インターフェース記述&1は認可されていない。

CPF593A

ネットワーク・インターフェース&1はオンに構成変更されていない。

CPF593B

ネットワーク・インターフェース記述&1が見つからない。

CPF593C

ネットワーク・インターフェース&1をアクセスすることができない。

CPF593D

ネットワーク・インターフェース&1に対する回復は再開されなかった。

[トップ](#)

オブジェクトの復元 (RST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

復元(RST)コマンドは、統合ファイル・システムで使用することができる1つまたは複数のオブジェクトのコピーを復元します。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER)にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

- このコマンドは、共通認可(*EXCLUDE)なしで出荷されます。
- ルート・ディレクトリーで名前パターンを使用することでオブジェクトを復元するため、オブジェクトをライブラリーに復元するため、あるいは文書ライブラリー・オブジェクトを復元するために、このコマンドを使用する際の制約事項の詳細については、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	値 (最大 4 回の繰り返し): パス名	必須, 定位置 1
OBJ	オブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: 名前	パス名, *	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE, *OMIT	
	要素 3: 新しいオブジェクト名	パス名, *SAME	
PATTERN	名前パターン	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: パターン	文字値, *	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE, *OMIT	
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*ALL, *DIR, *NONE, *OBJ, *STG	オプション
OUTPUT	出力	パス名, *NONE, *PRINT	オプション
CRTPRNDIR	親ディレクトリーの作成	*NO, *YES	オプション
PRNDIROWN	親ディレクトリーの所有者	単純名, *PARENT	オプション
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション
LABEL	ラベル	文字値, *SEARCH	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *SEARCH	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, *	オプション
INFTYPE	出力情報のタイプ	*ALL, *ERR, *SUMMARY	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SYSTEM	システム	*ALL, *LCL, *RMT	オプション
SAVDATE	保管日	日付	オプション
SAVTIME	保管時刻	時刻	オプション
OPTION	オプション	*ALL, *NEW, *OLD	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	単一値: *NONE, *ALL その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *AUTL, *OWNER, *PGP	オプション
FRCOBJCVN	強制オブジェクト変換	単一値: *SYSVAL, *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 復元中変換	*YES	
	要素 2: 変換するオブジェクト	*RQD, *ALL	
OBJID	オブジェクトID	*SAVED, *SYS	オプション

トップ

装置 (DEV)

復元されるオブジェクトが入っている装置を指定します。

装置パス名の指定の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「バックアップおよび回復」情報の「装置名の指定」を参照してください。

これは必須パラメーターです。

’保管ファイルのパス名’

オブジェクトの復元に使用される保管ファイルのパス名を指定してください。

’光ディスク装置のパス名’

オブジェクトの復元に使用される光ディスク装置のパス名を指定してください。

’テープ媒体ライブラリー装置のパス名’

オブジェクトの復元に使用されるテープ媒体ライブラリーのパス名を指定してください。

’テープ装置のパス名’

オブジェクトの復元に使用されるテープ装置のパス名を指定してください。最大4つのテープ装置を指定することができます。仮想テープ装置を使用する場合には、指定された装置のみでなければなりません。

’媒体定義パス名’

データを復元するために使用される装置および媒体を識別する媒体定義(*MEDDFN)オブジェクトのパス名を指定します。

媒体定義の作成の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTERで、API解説 (英文) の媒体定義作成APIを参照してください。

媒体定義の使用の詳細については、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)、ならびに ISERIES INFORMATION CENTERのサイト HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTERで、API解説 (英文) のサーバー・バックアップ・トピックを参照してください。

オブジェクト (OBJ)

復元するオブジェクトのパス名を指定します。このパス名のパターンを指定することができます。最大300個のパス名を指定することができます。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

オブジェクト名パターンの詳細説明は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「統合ファイル・システム」情報にあります。

要素1: 名前

媒体上に保管されたオブジェクトを指定します。ディレクトリーの略語（たとえば、現行ディレクトリー）は、それが保管操作時に持っていた値ではなく、現在の値によって拡張されます。

****** 現行ディレクトリーのオブジェクトが復元されます。

パス名 多くの名前と突き合わせるができるオブジェクトのパス名またはパターンを指定してください。このパラメーターの3番目の要素に*SAMEが指定された場合には、パス名の中の最後の構成要素を除く各構成要素が存在していなければなりません。最後の構成要素のオブジェクト名が存在していないと、新しいものとして復元されます。

要素2: 組み込みまたは除外

パターンと一致する名前を操作に含めるかまたは操作から除外するかを指定します。名前がパターンと一致するかどうかを判別する時に、相対的な名前パターンは常に現行作業ディレクトリーとの相対関係として取り扱われることに注意してください。

注: SUBTREEパラメーターは、サブツリーを含めるか、または除外するかを決定します。

***INCLUDE**

*OMITの指定によって一時変更されない限り、オブジェクト名パターンと一致したオブジェクトが復元されます。

***OMIT**

オブジェクト名パターンと一致したオブジェクトは復元されません。これは*INCLUDEの指定を一時変更するもので、前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることとなります。

要素3: 新しいオブジェクト名

オブジェクトの新しいパス名を指定します。

***SAME**

オブジェクトは、保管された時の名前と同じ名前で復元されます。

パス名 オブジェクトを復元する先のパス名を指定してください。最初の要素にパターンが指定された場合には、新しいパス名は、パターンと一致したすべてのオブジェクトを復元する先のディレクトリーでなければなりません。オブジェクト名を要素1に指定すると、新しいパス名の中の最後の構成要

素は例外であるが、各構成要素は存在していなければなりません。オブジェクトが、存在していない最後の構成要素の中に記述されると、それは新しいものとして復元されます。

トップ

名前パターン (PATTERN)

オブジェクトを組み込みまたは除外するために使用するパターンを指定します。最大300のパターンを指定することができます。

要素1: パターン

''** 操作について限定する全オブジェクトが組み込まれるか除外されます。

文字値 多くの名前と突き合わせるができるオブジェクト名またはパターンを指定します。

要素2: 組み込みまたは除外

パターンと一致する名前を操作に含めるかまたは操作から除外するかを指定します。

注: SUBTREEパラメーターは、サブツリーを含めるか、または除外するかを決定します。

*INCLUDE

*OMITの指定によって一時変更されない限り、OBJパラメーターによって組み込まれ、PATTERNパラメーターと一致するオブジェクトのみが、復元に組み込まれます。

*OMIT

PATTERNパラメーターと一致するオブジェクトを除き、OBJパラメーターによって組み込まれたすべてのオブジェクトが復元に組み込まれます。これは*INCLUDEの指定を一時変更するもので、前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることとなります。

トップ

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

ディレクトリーのサブツリーを復元操作に含めるかどうかを指定します。

***ALL** オブジェクト名パターンと一致した各ディレクトリーのサブツリー全体が処理されます。このサブツリーには、すべてのサブディレクトリーおよびそのサブディレクトリー内のオブジェクトが含まれます。

***DIR** オブジェクト名パターンと一致した各ディレクトリーの第1レベルにあるオブジェクトが処理されます。一致した各ディレクトリーのサブディレクトリーは含まれますが、そのサブディレクトリー内のオブジェクトは含まれません。

*NONE

サブツリーは復元操作に含まれません。ディレクトリーが指定されたオブジェクト名パターンと一致した場合には、そのディレクトリーのオブジェクトが含まれます。ディレクトリーにサブディレクトリーがあった場合には、サブディレクトリーもそのサブディレクトリー内のオブジェクトも含まれません。

***OBJ** オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトだけが処理されます。オブジェクト名パターンがディレクトリーを指定している場合には、ディレクトリー内のオブジェクトは含まれません。

***STG** オブジェクト名パターンに一致するオブジェクトが関連オブジェクトの記憶域とともに処理されます。この値を使用してオブジェクトを復元できるのは、そのオブジェクトがSUBTREE(*STG)によって保管された場合だけです。

トップ

出力 (OUTPUT)

復元されたオブジェクトについての情報のリストを作成するかどうかを指定します。情報は、スプール・ファイル、ストリーム・ファイル、またはユーザー空間に向けることができます。

ストリーム・ファイルまたはユーザー空間は、パス名として指定されます。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

***NONE**

出力は作成されません。

***PRINT**

復元についての出力情報が印刷されます。

'ストリーム・ファイルのパス名'

コマンドの出力が向けられる既存のストリーム・ファイルのパス名を指定してください。

'ユーザー空間のパス名'

コマンドの出力が向けられる既存のユーザー空間のパス名を指定してください。

トップ

親ディレクトリーの作成 (CRTPRNDIR)

復元されるオブジェクトの親ディレクトリーが存在しない場合に、これを作成するかどうかを指定します。たとえば、オブジェクト'/A/B/C/FILE1'を復元しようとする場合には、ディレクトリー'/A'、'/A/B'、および'/A/B/C'が存在しなければなりません。このパラメーターは、「ルート」(/)、QOPENSYS、およびユーザー定義ファイル・システムにのみ適用され、他のすべてのファイル・システムは無視されます。

***NO** 親ディレクトリーがまだ存在しない場合には、それは作成されません。診断メッセージCPD375Bが送信され、オブジェクトは復元されません。

***YES** 親ディレクトリーが存在しない場合には、復元でこれが作成されます。復元によって作成されたディレクトリーには*EXCLUDE共通認可があり、親ディレクトリーの所有者 (PRNDIROWN)パラメーターに指定されたユーザー・プロファイルによって所有されます。その他の親ディレクトリー属性は、ディレクトリーの作成 (CRTDIR)コマンド・パラメーターの出荷時の省力時の値を使用して設定されます。

トップ

親ディレクトリーの所有者 (PRNDIROWN)

復元によって作成される親ディレクトリーを所有することになる既存のユーザー・プロファイルの名前を指定します。このパラメーターは、「ルート」(/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムにのみ適用され、他のすべてのファイル・システムは無視されます。

注: このパラメーターに値が指定されている場合には、親ディレクトリーの作成 (CRTPRNDIR)パラメーターに*YESを指定しなければなりません。

*PARENT

復元によって作成される親ディレクトリーの所有者は、これが作成されるディレクトリーの所有者と同じとなります。たとえば、オブジェクト'/A/B/C/FILE1'が復元され、ディレクトリー'/A'が存在するのに、'/B'および'/B/C'ディレクトリーが存在しない場合には、'/B'および'/B/C'ディレクトリーが'/A'ディレクトリーと同じ所有者で作成されます。

名前 復元によって作成される親ディレクトリーの所有者となるユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

オブジェクト復元元である媒体のボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、データが保管された時と同じ順序で入れなければなりません。復元されるファイルの先頭が入っているボリュームを装置に入れておく必要があります。

注: SAVDATEおよびSAVTIMEパラメーターの値によって特定のバージョンが識別されていない限り、復元されるボリュームのバージョンは、指定されたロケーションで最初に見つかったバージョンです。

単一値

*MOUNTED

オブジェクトは、装置 (DEV)パラメーターに指定された装置に入っているボリュームから復元されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリー設定 (SETTAPCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリー中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの復元に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

[トップ](#)

ラベル (LABEL)

復元操作に使用される媒体のファイルIDを指定します。

*SEARCH

検索するファイル・ラベルがシステムによって判別されます。

文字値 復元操作に使用するテープ・ファイルのID (最高17桁) を指定します。

順序番号 (SEQNBR)

使用するテープ・ファイル順序番号を指定します。

***SEARCH**

次のファイルについて、指定されたオブジェクトが入っているテープ・ボリュームが検索されます。

1から16777215

ファイルの順序番号を指定してください。

トップ

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

復元操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームにおいて自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されます。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合には、*UNLOADがサポートされるただ1つの特殊値であり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

トップ

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

復元操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

* システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

’光ディスクのパス名/*’

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

’光ディスク・ファイル・パス名’

光ディスク・ファイルのパス名を指定してください。

[トップ](#)

出力情報のタイプ (INFTYPE)

スプール・ファイル、ストリーム・ファイル、またはユーザー空間に向けられる情報のタイプを指定します。

***ALL** ファイルには、コマンド、各ディレクトリーの項目、正常に復元された各オブジェクトの項目、および正常に復元されなかった各オブジェクトの項目についての情報が入ります。

***ERR** ファイルには、コマンド、各ディレクトリーの項目、および正常に復元されなかった各オブジェクトの項目についての情報が入ります。

***SUMMARY**

ファイルには、コマンドおよび各ディレクトリーの項目についての情報が入ります。

[トップ](#)

システム (SYSTEM)

ローカル・システムまたはリモート・システムに存在しているオブジェクトを処理するかどうかを指定します。

***LCL** ローカル・オブジェクトだけが処理されます。

***RMT** リモート・オブジェクトだけが処理されます。

***ALL** ローカルおよびリモートの両方のオブジェクトが処理されます。

[トップ](#)

保管日 (SAVDATE)

オブジェクトが保管された日付を指定します。復元されているバージョンが保管された最新のバージョンでない場合、あるいは媒体上に複数の保管されたバージョンがある場合には、復元するオブジェクトのバージョンを識別する日付を指定してください。

この日付はジョブ日付形式で指定しなければなりません。システム値QDATSEPによって指定された区切り記号が使用される場合には、値をアポストロフィで囲まなければなりません。

注: このパラメーターが有効なのは、ボリュームIDまたは値*MOUNTEDがVOLパラメーターに指定されているか、あるいは*SAVFがDEVパラメーターに指定されている場合だけです。このパラメーターが有効であって指定されない場合には、復元されるオブジェクトのバージョンは最初に見つかったバージョンです。

日付 復元するオブジェクトが保管された日付を指定します。

保管時刻 (SAVTIME)

オブジェクトが保管された時刻を指定します。

時刻は、次のように時刻区切り記号つきまたはなしの24時間形式で指定されます。

- 時刻区切り記号付きの場合には、5桁または8桁のストリングで指定してください。ジョブの時刻区切り記号で時、分、秒を区切ります。このコマンドをコマンド行から出す場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ユーザー・ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用すると、このコマンドは正常に実行されません。
- 時刻区切り記号なしの場合には、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、**HH**=時間、**MM**=分、および**SS**=秒です。**HH**に有効な値の範囲は00から23です。**MM**および**SS**に有効な値の範囲は00から59です。

ボリュームIDまたは値*MOUNTEDがVOLパラメーターに指定され、SAVTIMEパラメーターが指定されていない場合には、復元されるオブジェクトのバージョンはボリューム上で最初に見つかったバージョンです。

注:

1. このパラメーターが有効なのは、SAVDATEパラメーターが指定された場合だけです。
2. SEQNBRパラメーターが指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

時刻 復元するオブジェクトが保管された時刻を指定します。

オプション (OPTION)

システム上にすでに存在しているオブジェクトまたはシステム上にすでに存在していないオブジェクトを復元するかどうかを指定します。

***ALL** システム上にすでに存在しているかどうかに関係なく、指定されたすべてのオブジェクトが復元されます。

***NEW** システム上にすでに存在していない場合にのみ、オブジェクトが復元されます。

***OLD** システム上にすでに存在している場合にのみ、オブジェクトが復元されます。

オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)

保管したオブジェクトと復元されたオブジェクトとの間の相違が許されるかどうかを指定します。

注:

1. このパラメーターに*NONE以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。
2. 相違が検出された場合には、復元操作に関する最終メッセージは正常完了メッセージではなくエスケープ・メッセージになります。

相違のタイプには以下のものがあります。

- 権限リスト：保管されたオブジェクトには権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたないか、あるいはオブジェクトが存在せず保管システムと異なるシステムに復元されているかのどちらかです。

注：保管されるオブジェクトに権限リストがなかった場合には、このパラメーターは影響しません。オブジェクトが存在している場合には、既存のオブジェクトの権限リストとともにこれが復元されます。存在しない場合には、これは権限リストなしで復元されます。

- 所有権：システム上のオブジェクトの所有者が、保管操作からのオブジェクトの所有者と異なっている。
- 1次グループ：システム上のオブジェクトの1次グループが保管操作の時のオブジェクトの1次グループと異なっている。

単一値

***NONE**

前述の相違のどれも復元操作では許可されていません。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

- *ALL** 前述の相違のすべてが復元操作で許可されています。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

その他の値（最大3個指定可能）

***AUTL**

権限リストの相違は許可されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは既存のオブジェクトの権限リストとともに復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元され、権限リストにリンクされます。権限リストが存在していない場合には、共通認可は***EXCLUDE**に設定されます。

この値が指定されない場合には、権限リストの相違は許可されません。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元されますが、権限リストにはリンクされず共通認可が***EXCLUDE**に設定されます。

***OWNER**

所有権の相違は許可されます。オブジェクトが保管したオブジェクトと異なる所有者でシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの所有者で復元されます。

この値が指定されない場合には、所有権の相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる所有者をもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

- *PGP** 1次グループの相違は許可されます。保管したオブジェクトと異なる1次グループがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの1次グループとともに復元されます。

この値が指定されない場合には、1次グループの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる1次グループをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

トップ

強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)

ユーザー・オブジェクトを、そのオブジェクトの復元時にオペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために必要な形式に変換するかどうかを指定します。

注：

1. このパラメーターが適用されるのは、*MODULE, *PGM, *SRVPGM,および*SQLPKG オブジェクト・タイプのユーザー・オブジェクトの場合だけです。
2. オブジェクトには変換する作成データ（識別可能または不能）が入っていないなければなりません。
3. オブジェクトは（オペレーティング・システムの前のバージョン用に形式設定されているので）変換する必要がありますが、この復元操作中に変換されない場合には、そのオブジェクトは初めて使用されるときに自動的に変換されます。

単一値

*SYSVAL

オブジェクトはQFRCCVNRSTシステム値の値に基づいて変換されます。

***NO** オブジェクトは復元操作中に変換されません。

注: FRCOBJCVN(*NO)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値の値は"0"または"1"のいずれかでなければなりません。

要素1: 復元中変換

***YES** オブジェクトは復元操作中に変換されます。

注：

1. FRCOBJCVN(*YES *RQD)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値は値"0", "1", または"2"でなければなりません。FRCOBJCVN(*YES *RQD)はQFRCCVNRST値"0"または"1"を指定変更します。FRCOBJCVN(*YES *ALL)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTは任意の有効な値をもつことができ、FRCOBJCVN(*YES *ALL)はQFRCCVNRSTシステム値を指定変更します。
2. この値を指定すると、復元操作の時間は増加しますが、最初に使用するとき変換する必要性がなくなります。

要素2: 変換するオブジェクト

***RQD** オブジェクトが変換されるのは、現行オペレーティング・システムによって使用するために変換が必要な場合だけです。オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

***ALL** すでに現行形式になっているオブジェクトも含めて、すべてのオブジェクトが現行の形式に関係なく変換されます。ただし、オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

トップ

オブジェクトID (OBJID)

このパラメーターは使用不可となっており、もはや有効ではありません。

[トップ](#)

例

例1:ライブラリー内にない、または文書ライブラリー・オブジェクトでないすべてのデータの復元

```
RST  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
      OBJ('//*') ('/QSYS.LIB' *OMIT) ('/QDLS' *OMIT))
```

このコマンドは、ライブラリー内にない、文書ライブラリー・オブジェクトでないすべてのオブジェクトを復元します。

例2:ライブラリーの復元

```
RST  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD') OBJ('/QSYS.LIB/A.LIB')
```

このコマンドは、TAP01という名前のテープ装置からライブラリーAを復元します。

例3: MYLIB内のすべてのファイルの復元

```
RST  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
      OBJ('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/*.FILE')
```

このコマンドは、TAP01という名前のテープ装置からライブラリーMYLIB内のすべてのファイルを復元します。

例4:現行ディレクトリー内のすべてのオブジェクトの復元

```
RST  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
```

このコマンドは、OBJパラメーターの省略時の値を使用して、現行ディレクトリー内のすべてのオブジェクトおよびそのサブディレクトリーを復元します。

```
RST  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD') OBJ('*') SUBTREE(*NONE)
```

このコマンドは、現行ディレクトリー内のすべてのオブジェクトを復元しますが、サブディレクトリー内のオブジェクトは復元しません。

```
RST  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD') OBJ('.') SUBTREE(*DIR)
```

このコマンドは、現行ディレクトリーおよびその現行ディレクトリー内のすべてのオブジェクトを復元します。現行ディレクトリーのサブディレクトリー内のオブジェクトは復元しません。

例5:オブジェクトの除外

```
RST  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
      OBJ('//*') (**.BACKUP' *OMIT) (**.TEMP' *OMIT))
```

このコマンドは、.BACKUPおよび.TEMPの拡張子をもつオブジェクトを除き（これらの拡張子をもつディレクトリーのサブツリー全体は除外されます）、現行ディレクトリー内のすべてのオブジェクトを復元します。

例6:オブジェクトの名前変更または移動

```
RST  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
      OBJ(('MYDIR/X.PGM' *INCLUDE 'YOURDIR/Y.PGM'))
```

このコマンドは、ディレクトリーMYDIRからのプログラムXをディレクトリーYOURDIR内のプログラムYとして復元します。

```
RST  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
      OBJ(('MYDIR/*.PGM' *INCLUDE 'YOURDIR')) SUBTREE(*OBJ)
```

このコマンドは、ディレクトリーMYDIR内のすべてのプログラムをディレクトリーYOURDIRに復元します。

例7:保管ファイルからの復元

```
RST  DEV('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYSAVF.FILE') OBJ(MYDIR)
```

このコマンドは、MYLIBという名前のライブラリー内のMYSAVFという名前の保管ファイルからディレクトリーMYDIRを復元します。

例8:シンボリック・リンクの使用

現行ディレクトリーには次のシンボリック・リンクが含まれているものとします。

- DEVLINK = /QSYS.LIB/TAP01.DEVD
- DIRLINK = /SOMEDIRECTORY
- FILELINK = /SOMEDIRECTORY/SOMEFILE

シンボリック・リンクは、装置および出力ファイルを指定するために使用することができます。シンボリック・リンクが復元される場合には、関連したオブジェクトの名前だけが復元され、その関連したオブジェクトの内容は復元されません。ディレクトリーに対するシンボリック・リンクは、ディレクトリー内のオブジェクトを復元するために使用することができます。シンボリック・リンクに関する追加情報は、INFORMATION CENTERの「ファイル・システムおよび管理」カテゴリーの「統合ファイル・システム」トピックにあります。DIRLINKおよびFILELINKと関連した名前を装置TAP01から復元するには、以下のようになります:

```
RST  DEV('DEVLINK') OBJ(('DIRLINK') ('FILELINK'))
```

SOMEDIRECTORY内のオブジェクトを装置TAP01から復元するには、以下のようになります:

```
RST  DEV('DEVLINK') OBJ(('DIRLINK/*'))
```

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFA0DB

オブジェクトがQSYS.LIBオブジェクトではありません。オブジェクトは&1です。

CPFA0DC

オブジェクトがQDLSオブジェクトではありません。オブジェクトは&1です。

CPF370C

ALWOBJDIFパラメーターが認可されていない。

- CPF3707**
&2の保管ファイル&1にデータが入っていない。
- CPF3727**
装置名リストで重複する装置&1が指定された。
- CPF3738**
保管または復元に使用した装置&1に損傷がある。
- CPF3743**
ファイルを復元、表示またはリストすることができない。
- CPF3768**
装置&1はコマンドに対して正しくない。
- CPF3782**
&2のファイル&1は保管ファイルでない。
- CPF3794**
保管または復元操作が正常に終了しなかった。
- CPF380D**
システム全体の保管または復元が異常終了した。
- CPF3805**
&2中の保管ファイル&1からのオブジェクトは復元されなかった。
- CPF381E**
ALWOBJDIFパラメーターが認可されていない。
- CPF3812**
&2の保管ファイル&1は使用中である。
- CPF382A**
指定されたパラメーターがQDLSファイル・システムには正しくない。
- CPF382B**
複数ファイル・システムでパラメーターが正しくない。
- CPF382C**
QSYSファイル・システムについてのOBJパラメーター値が正しくない。
- CPF382D**
指定されたパラメーターがQSYSファイル・システムには正しくない。
- CPF382F**
QDLSファイル・システムに対してOBJパラメーター値が正しくない。
- CPF3823**
オブジェクトが保管または復元されなかった。
- CPF3826**
OBJパラメーターに*INCLUDEオブジェクトが必要である。
- CPF3828**
&1を使用しようとした時にエラーが起こった。
- CPF383A**
保管または復元が正常に終了しなかった。

- CPF383B**
ファイル&1の終わり。
- CPF383C**
ユーザー・プロファイル&1の記憶域限界を超えた。
- CPF383D**
&1を使用することができない。
- CPF383E**
&1個のオブジェクトが復元された。&2個のオブジェクトは復元されなかった。
- CPF3833**
DEVパラメーターに指定された値が正しくない。
- CPF3834**
DEVパラメーターに指定された値が多すぎる。
- CPF3835**
テープ装置は同じ密度をサポートしていない。
- CPF3839**
&1個のオブジェクトが復元された。&2個が復元されませんでした。
- CPF384A**
ボリューム識別コード&1は正しくない。
- CPF384B**
指定された光ディスク・ファイルが正しくない。
- CPF384C**
CCSIDの変換中にエラーが起こった。
- CPF384F**
&2 &1はライブラリー&3に復元されなかった。
- CPF3840**
復元操作に指定されたファイルが見つからなかった。
- CPF38A5**
PATTERNパラメーターでエラー。
- CPF5729**
オブジェクト&1を割り振ることができない。
- CPF9802**
&3のオブジェクト&2は認可されていない。
- CPF9825**
装置&1は認可されていない。
- OPT1498**
装置&1でボリューム名リストが使い切られた。
- OPT1502**
マルチボリューム・セットの終わりを乗り越して処理しようとしてしました。
- OPT1605**
媒体または装置エラーが起きました。

[トップ](#)

権限復元 (RSTAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限復元(RSTAUT)コマンドにより、専用認可がユーザー・プロファイルに復元されます。このコマンドは、すべてのプロファイルがシステム保管(SAVSYS)または機密保護データ保管(SAVSECDTA)コマンドによって保管された時に、各ユーザー・プロファイルの中で指定されたオブジェクトに、同じオブジェクト権限を復元します。保管後に与えられた既存の権限は残すことができます。プロファイルがユーザー・プロファイル復元(RSTUSRPRF)コマンドによって最初にシステムに復元され、(権限が与えられている)すべてのオブジェクトが保管されたライブラリーと同じライブラリーに復元されるまでは、権限をユーザー・プロファイルに復元することはできません。オブジェクトは、ライブラリー復元(RSTLIB)またはオブジェクト復元(RSTOBJ)コマンドによって復元することができます。文書およびフォルダーは、文書ライブラリー・オブジェクト復元(RSTDLO)コマンドを使用して復元することができます。装置構成オブジェクトは、構成復元(RSTCFG)コマンドを使用して復元することができます。統合ファイル・システム・オブジェクトは、オブジェクト復元(RST)コマンドによって復元することができます。

システム全部を復元する場合には、次の順序に従わなければなりません。RSTAUT コマンドは順序の最終ステップで使用しなければなりません。

1. オペレーティング・システムを復元します。これはプログラムをロードする代替方式です。これで QSYSライブラリーが復元され、IBM提供のユーザー・プロファイルは必ずそこに存在するようになります。
2. RSTUSRPRFコマンドを使用して、保管済みのユーザー・プロファイルをすべてシステムに復元します (*ALLはUSRPRFパラメーターの省略時の値です)。
3. RSTCFGコマンドを使用して、構成およびシステム資源管理(SRM)オブジェクトをすべてシステムに復元します。
4. RSTLIBコマンドを使用して、すべてのユーザー・ライブラリーを復元します。
5. RSTDLOコマンドを使用して、すべての文書ライブラリー・オブジェクトをシステムに復元します。
6. RSTコマンドを使用して、すべてのオブジェクトをディレクトリーに復元します。
7. RSTAUTコマンドを使用して、ユーザー・プロファイルに対するオブジェクト権限を復元します。

注: ステップ2から7までは複数回実行することができます。たとえば、ユーザー・プロファイルを復元した(ステップ2)後に、重要なアプリケーション・ライブラリーだけを復元して(ステップ3)から、オブジェクト権限を復元する(ステップ7)ことができます。これで、重要なライブラリーしか使用しないという制限付きの操作可能システムが提供されます。後から、残りのユーザー・プロファイルを復元してから、ライブラリーおよびオブジェクト権限を復元する操作を行うことができます。

すべてにサブシステムが終了している間に、RSTAUTコマンドを使用してユーザー・プロファイルの権限を復元する場合には、ユーザー・プロファイルについての他の権限を復元する前に、再びユーザー・プロファイルを復元しなければなりません。

ユーザー・プロファイルを1つ復元する場合には、次の順序に従わなければなりません。RSTAUTコマンドは最終ステップで使用しなければなりません。

1. RSTUSRPRFコマンドを使用して指定したユーザー・プロファイルをシステムに復元します。

2. RSTCFGコマンドを使用して、入出力装置構成およびSRMオブジェクトをすべてシステムに復元します。
3. RSTOBJコマンドを使用して指定したユーザー・ライブラリーをシステムに復元します。システム上の現行プロファイルが損傷したためにユーザー・プロファイルを復元する場合は、必要なライブラリーはすでにシステム上に存在していて、そのライブラリーの復元は不要です。
4. RSTDLOコマンドを使用して、すべての文書ライブラリー・オブジェクトをシステムに復元します。
5. RSTコマンドを使用して、すべてのオブジェクトをディレクトリーに復元します。
6. RSTAUTコマンドを使用して、ユーザー・プロファイルに対するオブジェクト権限を復元します。指定されたプロファイルはRSTUSRPRFコマンドを使用して復元済みの場合があります。

制約事項:

- このコマンドは、共通認可(*EXCLUDE)なしで出荷されます。
- このコマンドを実行するには、システム保管(*SAVSYS)特殊権限が必要です。
- システム上で実行できるRSTAUTコマンドは一度に1つだけです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRPRF	ユーザー・プロファイル	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプションル, 位置 1
SAVASPDEV	保管元ASP装置	名前, <u>*ALLAVL</u> , *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプションル
RSTASPDEV	復元先ASP装置	名前, <u>*SAVASPDEV</u> , *SYSBAS	オプションル

トップ

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

専用認可を復元したい1つまたは複数のユーザー・プロファイルの名前を指定します。指定されたユーザー・プロファイルは、ユーザー・プロファイル復元(RSTUSRPRF) コマンドを用いて最初に復元しなければなりません。

単一値

*ALL 復元はされるが、その専用認可は復元されないユーザー・プロファイルのすべてを指定します。これには、複数の前のユーザー・プロファイル復元(RSTUSRPRF)コマンドを使用して、復元されたユーザー・プロファイルが含まれます。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 ユーザー・プロファイルのセットの1つまたは複数の総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前と一緒に*が指定されていない場合には、システムはその名前がユーザー・プロファイル名全体であるとみなします。

名前 1つまたは複数の特定のユーザー・プロファイルの名前を指定してください。総称名と特定名の両方を同じコマンドに指定することができます。最大300のユーザー・プロファイル名を指定することができます。

保管元ASP装置 (SAVASPDEV)

保管された専用認可が入っていた補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

*ALLAVL

システムASP (ASP番号1),すべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32),および使用可能なすべての独立ASPから保管された専用認可が復元されます。

- * システムASP,すべての基本ユーザーASP,さらに現行スレッドにASPグループがある場合には, そのASPグループ中のすべての独立ASPから保管された専用認可が復元されます。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPから保管された専用認可が復元されます。

*CURASGRP

現行スレッドにASPグループがある場合には, そのASPグループ中のすべての独立ASPから保管された専用認可が復元されます。

名前 保管された専用認可が入っていたASP装置の名前を指定します。

トップ

復元先ASP装置 (RSTASPDEV)

専用認可を復元する補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

*SAVASPDEV

専用認可は, 保管された時と同じASPに復元されます。

*SYSBAS

専用認可は, システムASP (ASP番号1)または基本ユーザーASP (ASP番号2から32)に復元されます。

名前 専用認可が復元される独立ASP装置の名前を指定してください。

トップ

例

例1:すべての権限の復元

```
RSTAUT
```

このコマンドは, システムが保管された時点でプロファイルに含まれていた各オブジェクトを使用する権限をそれぞれのユーザー・プロファイルに復元します。RSTAUTコマンドが送られる前に, ユーザー・プロファイルとライブラリーおよびそれらのオブジェクトが復元されていることが必要です。

例2:特定のユーザーの権限の復元

```
RSTUSRPRF  USRPRF(USER1 USER2 USER3 USER4)
RSTLIB    SAVLIB(USERLIB)
RSTAUT    USRPRF(USER1 USER2 USER3)
```

このコマンドは、正常に復元された指定のそれぞれのユーザーに、システムが保管された時点でプロファイルに含まれていた各オブジェクトを使用する権限を復元します。RSTAUTコマンドが送られる前に、ユーザー・プロファイルとライブラリーおよびそれらのオブジェクトが復元されていることが必要です。USER4はRSTAUTコマンドに指定されていないので、その権限はまだ使用可能であり、後日復元することができます。

例3:特定のライブラリーの権限の復元

```
RSTUSRPRF  USRPRF(*ALL)
RSTLIB    SAVLIB(USERLIBA)
RSTLIB    SAVLIB(USERLIBB)
RSTLIB    SAVLIB(USERLIBC)
RSTAUT    USRPRF(*ALL)
```

このコマンドは、システム上で復元されたすべてのユーザー・プロファイルの専用認可を復元します。これには、RSTUSRPRFコマンドによって復元されたすべてのユーザー・プロファイルの権限が含まれます。これらのコマンドが指定される前にその権限が復元されていないシステム上のその他のユーザー・プロファイルも、RSTAUT(*ALL)コマンドによって復元されます。

例4:複数のRSTUSRPRFコマンドの後の権限の復元

```
RSTUSRPRF  USRPRF(USER1 USER2)
RSTLIB    SAVLIB(USERLIBA)
RSTUSRPRF  USRPRF(USER1 USER3)
RSTLIB    SAVLIB(USERLIBB)
RSTAUT    USRPRF(*ALL)
```

このコマンドは、USER2およびUSER3の専用認可とUSER1の最新バージョンの専用認可を復元します。このユーザー・プロファイルは同じ名前を持っているので、2番目のRSTUSRPRFコマンドがUSER1の最初のバージョンをオーバーレイします。

例5:独立ASPへのライブラリーおよび権限の復元

```
RSTUSRPRF  USRPRF(*ALL) SAVASPDEV(*SYSBAS)
RSTLIB    SAVLIB(USERLIBA) RSTASPDEV(DIVISION1)
RSTLIB    SAVLIB(USERLIBB) RSTASPDEV(DIVISION1)
RSTLIB    SAVLIB(USERLIBC) RSTASPDEV(DIVISION1)
RSTAUT    USRPRF(*ALL) SAVASPDEV(*SYSBAS)
           RSTASPDEV(DIVISION1)
```

この例は、データおよび権限を独立補助記憶域プール(ASP)へ移動する方法を示しています。RSTUSRPRFコマンドは、保管されたすべてのユーザー・プロファイルおよび専用認可情報をシステムASP (ASP番号1) および基本ユーザーASP (ASP番号2から32)から復元します。RSTLIBコマンドは、ライブラリーUSERLIBA, USERLIBB,およびUSERLIBCをDIVISION1という名前の独立ASPに復元します。RSTAUTコマンドは、すべてのユーザー・プロファイルの保管された権限を、システムASPおよび基本ユーザーASPから現在DIVISION1 ASPに存在するオブジェクトに復元します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2206

ユーザーには、オブジェクトに要求した機能を実行する権限が必要である。

CPF222E

&1特殊権限が必要である。

CPF3776

権限が復元されなかったユーザー・プロファイルがある。

CPF3785

終了していないサブシステムがある。

CPF3855

この時点でRSTAUTは使用できない。

CPF386D

事前開始ジョブが正常に実行されなかった。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPFB8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

[トップ](#)

構成の復元 (RSTCFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成復元(RSTCFG)コマンドは、システム保管(SAVSYS)または構成保管(SAVCFG) コマンドによって保管された構成オブジェクトをシステムに復元します。このコマンドで復元できるオブジェクトのタイプは、**オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)**パラメーターにリストされます。システムに復元され、その所有者がシステムに認識されないオブジェクトについては、QDFTOWNユーザー・プロファイルが省略時の所有者となります。オブジェクトを復元するライブラリーに、すでにそのオブジェクトが存在している場合には、既存のオブジェクトの共通認可および専用認可が保存されます。そのライブラリーにオブジェクトが存在していない場合には、すべての共通認可は復元されますが、専用認可は再び指定しなければなりません。

制約事項:

- オブジェクトがすでにシステムに存在している場合には、システム保管(*SAVSYS)特殊権限または指定された各オブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限（あるいはその所有者であること）が必要です。
- このコマンドは、共通認可(*EXCLUDE)なしで出荷されます。
- 装置構成オブジェクトはそれが復元されている時にオフに構成変更しなければなりません。装置構成オブジェクトをオフに構成変更するためには、構成変更(VRYCFG)コマンドを使用してください。
- 出力リスト・ファイルに対する一時変更は例外とし、このコマンドは現在ジョブに対して有効となっているすべてのファイルの一時変更を無視します。
- システム資源管理(SRM)オブジェクトは、V2R2M0より前に作成された媒体を使用してRSTCFGコマンドが実行された場合には復元されません。
- RSTCFGコマンドおよびSAVSYSまたはSAVCFGコマンドが同じシステムで実行されていない場合には、構成オブジェクトはターゲット・システムで物理ハードウェアと合致しない可能性があります。
- SAVSYSまたはSAVCFGコマンドが保管されたシステム以外のシステムでシステム資源管理オブジェクトを復元する場合には、システムはターゲット・システムのハードウェアを新規のものとして取り扱い、既存の構成記述を不用とすることによりすべての新しい資源名を作成します。これが行われた場合には、そのコマンドについて最新のSAVSYSまたはSAVCFGコマンドから正しいシステム資源管理オブジェクトを復元する必要があります。これらのすべてが使用不能な場合には、新しい資源名を反映するように既存の構成記述を変更しなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	単一値: *ALL, *SRM その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 1
DEV	装置	単一値: *SAVF その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2

キーワード	記述	選択項目	注
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 10 回の繰り返し): *CFGL, *CNNL, *COSD, *CTLD, *DEVD, *LIND, *MODD, *NTBD, *NWID, *NWS	オプション, 位置 3
VOL	ボリューム識別コード	単一値: <u>*MOUNTED</u> その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション, 位置 4
SEQNBR	順序番号	1-16777215, <u>*SEARCH</u>	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	<u>*REWIND</u> , *LEAVE, *UNLOAD	オプション
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
SRM	システム資源管理	<u>*ALL</u> , *NONE, *HDW, *TRA	オプション
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, <u>*</u>	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	単一値: <u>*NONE</u> , *ALL その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *AUTL, *OWNER, *PGP	オプション
OUTPUT	出力	<u>*NONE</u> , *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	
OMITOBJ	除外するオブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾子リスト	
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, <u>*NONE</u> , *ALL	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	<u>*ALL</u> , *CFGL, *CNNL, *COSD, *CTLD, *DEVD, *LIND, *MODD, *NTBD, *NWID, *NWS	

トップ

オブジェクト (OBJ)

復元するオブジェクトを指定します。復元する各オブジェクトの名前、またはオブジェクトの各グループの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。アスタリスク(*)が名前と一緒に指定されていない場合には、システムは、その名前がオブジェクト名全体であるとみなします。

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)パラメーターが*ALLの値を持っている場合には、OBJTYPEパラメーターの記述にリストされたオブジェクト・タイプが、指定された名前を持っていればすべて復元されます。

システム資源管理(SRM)オブジェクトは、個別に、または総称名を指定して復元することはできません。SRMオブジェクトだけを復元するには、このパラメーターに*SRMを指定し、**システム資源管理 (SRM)**パラメーターに値を指定してください。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** OBJTYPEパラメーターに指定された値に基づいて、すべての装置構成オブジェクトが復元されます。

***SRM** 装置構成オブジェクトは復元されませんが、システム資源管理(SRM)オブジェクトはSRMパラメーターの値に基づいて復元されます。

注意復元しようとしているシステムのハードウェア構成が、オリジナルの構成が保管されたシステムと正確に同じでない場合には、SRM情報が復元されないように、RSTCFGにSRM(*NONE)を指定する必要があります。SRM情報が復元された場合には、構成オブジェクトは使用できなくなる可能性があります。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 指定したライブラリー中の復元するオブジェクトのグループの1つまたは複数の総称名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 復元する特定のオブジェクトの1つまたは複数の名前を指定してください。総称名と特定名の両方を同じコマンドに指定することができます。最大300のオブジェクト名を指定することができます。

[トップ](#)

装置 (DEV)

復元操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、装置記述によってシステム上ですでに認識されていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

単一値

***SAVF** 復元操作は、**保管ファイル (SAVF)**パラメーターに指定された保管ファイルを使用して実行されます。

その他の値

光ディスク装置名

復元操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

復元操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

復元操作に使用される1つ以上のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を使用する場合には、指定する唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置 (最大4つまで) を使

用する場合には、使用する順序で装置の名前を指定してください。複数のテープ・ボリュームを復元するときに複数のテープ装置を使用すると、テープ・ボリュームを巻き戻しながら、別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理できます。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

復元されるシステム・オブジェクトのタイプを指定します。

単一値

***ALL** 名前によって指定されたすべての装置構成オブジェクトが復元されます。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターにも*ALLが指定されている場合には、保管されたすべての装置構成オブジェクトが復元されます。

その他の値 (最大10個指定可能)

文字値 復元するオブジェクトの各タイプの値を指定してください。

表示されているオブジェクト・タイプは、システム保管(SAVSYS)コマンドまたは構成保管(SAVCFG)コマンドによって装置構成ファイルに保管されるものです。

***CFGL**

構成リスト

***CNL**

接続リスト

***COSD**

サービス・クラス記述

***CTLD**

制御装置記述

***DEV**

装置記述

***IPXD** インターネット・パケット交換記述

***LIND** 回線記述

***MODD**

モード記述

***NTBD**

NETBIOS記述

***NWID**

ネットワーク・インターフェース記述

***NWSD**

ネットワーク・サーバー記述

注: *SRMSPCを保管することはできませんが、オブジェクト・タイプとして復元することはできません。
*SRMデータを復元するには、OBJパラメーターに*SRMを指定してください。

ボリューム識別コード (VOL)

オブジェクト復元元である媒体のボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、データが保管された時と同じ順序で入れなければなりません。復元されるファイルの先頭が入っているボリュームを装置に入れておく必要があります。

注: 特定のバージョンがSAVDATEパラメーターおよびSAVTIMEパラメーター、またはテープの場合にはSEQNBRパラメーターによって識別されない限りは、指定されたロケーションで見つかったオブジェクトの最初のバージョンが復元されます。

単一値

*MOUNTED

オブジェクトは、装置 (DEV)パラメーターに指定された装置に入っているボリュームから復元されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリ設定 (SETTAPCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリ中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの復元に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

トップ

順序番号 (SEQNBR)

復元操作に使用される順序番号を指定します。

*SEARCH

装置に入れられたボリュームの中で、保管された装置構成オブジェクトが入っているデータ・ファイルが検索されます。一致するものが見つかった時に、その構成オブジェクトが復元されます。

1から16777215

復元操作に使用するファイルの順序番号を指定してください。

トップ

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

復元操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームにおいて自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されます。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合には、*UNLOADがサポートされるただ1つの特殊値であり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

[トップ](#)

保管ファイル (SAVF)

データを復元するために使用される保管ファイルを指定します。

注: 装置 (DEV)パラメーターに*SAVFが指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

修飾子1: 保管ファイル

名前 使用する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

システム資源管理 (SRM)

復元するシステム資源管理(SRM)情報のタイプを指定します。このパラメーターが有効なのは、**オブジェクト (OBJ)**パラメーターに*ALLまたは*SRMが指定された場合だけです。

注意復元しようとしているシステムのハードウェア構成が、オリジナルの構成が保管されたシステムと正確に同じでない限り、SRM情報が復元されないように、このコマンドにSRM(*NONE)を指定する必要があります。別のハードウェア構成のシステムでSRM情報が復元された場合には、構成オブジェクトが使用できなくなる場合があります。

***ALL** すべてのシステム資源管理情報が復元されます。

***NONE**

システム資源管理情報は復元されません。

***HDW** すべてのハードウェア情報が復元されます。

***TRA** すべてのトークンリング・アダプター情報が復元されます。

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

復元操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

* システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

'光ディスクのパス名/*'

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)

保管したオブジェクトと復元されたオブジェクトとの間の相違が許されるかどうかを指定します。

注:

1. このパラメーターに*NONE以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。
2. 相違が検出された場合には、復元操作に関する最終メッセージは正常完了メッセージではなくエスケープ・メッセージになります。

相違のタイプには以下のものがあります。

- 権限リスト：保管されたオブジェクトには権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたないか、あるいはオブジェクトが存在せず保管システムと異なるシステムに復元されているかのどちらかです。

注：保管されるオブジェクトに権限リストがなかった場合には、このパラメーターは影響しません。オブジェクトが存在している場合には、既存のオブジェクトの権限リストとともにこれが復元されます。存在しない場合には、これは権限リストなしで復元されます。

- 所有権：システム上のオブジェクトの所有者が、保管操作からのオブジェクトの所有者と異なっている。
- 1次グループ：システム上のオブジェクトの1次グループが保管操作の時のオブジェクトの1次グループと異なっている。

単一値

*NONE

前述の相違のどれも復元操作では許可されていません。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

*ALL 前述の相違のすべてが復元操作で許可されています。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

その他の値（最大3個指定可能）

***AUTL**

権限リストの相違は許可されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは既存のオブジェクトの権限リストとともに復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元され、権限リストにリンクされます。権限リストが存在していない場合には、共通認可は *EXCLUDE に設定されます。

この値が指定されない場合には、権限リストの相違は許可されません。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元されますが、権限リストにはリンクされず共通認可が *EXCLUDE に設定されます。

***OWNER**

所有権の相違は許可されます。オブジェクトが保管したオブジェクトと異なる所有者でシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの所有者で復元されます。

この値が指定されない場合には、所有権の相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる所有者をもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

***PGP** 1次グループの相違は許可されます。保管したオブジェクトと異なる1次グループがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの1次グループとともに復元されます。

この値が指定されない場合には、1次グループの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる1次グループをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

トップ

出力 (OUTPUT)

オブジェクトの状況に関する情報を示すリストを作成して出力ファイルに入れるかどうかを指定します。このリストには、復元情報が表示され、復元されたすべてのオブジェクト、復元されなかったオブジェクト、および除外されたオブジェクトが表示されます。各オブジェクトの機密保護についての情報が復元オブジェクト用にリストされます。

***NONE**

出力は作成されません。

***PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

***OUTFILE**

出力は、出力を受け取るファイル (**OUTFILE**) パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、OUTFILEパラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、情報を指示するデータベース・ファイルを設定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。新規ファイルを作成する場合には、システムはモデルとして形式名QSRRSTでQSYS内のQASRRSTOを使用します。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンドからの出力が指示されるデータベース・ファイルの名前を指定してください。このファイルが存在していない場合には、指定したライブラリーに作成されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を設定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそのメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終りに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

除外するオブジェクト (OMITOBJ)

操作から除外するオブジェクトを指定します。最大300までのオブジェクトまたは総称オブジェクトの値を指定することができます。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

*NONE

操作から除外されるオブジェクトはありません。

***ALL** 指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトが操作から除外されます。

総称名 除外するオブジェクトの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトの名前を指定します。

要素2: オブジェクト・タイプ

***ALL** オブジェクト名に指定された値に基づいて、すべてのオブジェクト・タイプが操作から除外されます。

文字値 操作から除外するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト) を押します。オブジェクト・タイプの記述については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

例

例1:すべてのオブジェクトの復元

```
RSTCFG OBJ(*ALL) DEV(TAP01) OBJTYPE(*ALL)
```

このコマンドは、すべての装置構成およびSRMオブジェクトをTAP01駆動機構上のテープから復元します。

例2:装置記述の復元

```
RSTCFG OBJ(PRT01) DEV(TAP01) OBJTYPE(*DEV) VOL(ABCD)
```

テープ・ボリュームABCDに保管されているPRT01の装置記述がシステムに復元されます。装置記述PRT01がすでにシステムに存在している場合には、復元する前にそれをオフに構成変更しなければなりません。

例3:ネットワーク・サーバー記述の復元

```
RSTCFG OBJ(SERVER1) DEV(TAP01) OBJTYPE(*NWS) VOL(SAV1)
```

テープ・ボリュームSAV1に保管されているネットワーク・サーバー記述SERVER1がシステムに復元されま
す。ネットワーク・サーバー記述SERVER1がすでにシステムに存在している場合には、復元する前にそれ
をオフに構成変更しなければなりません。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF26C1

ネットワーク・サーバー&1がオフに構成変更されなかった。

CPF370C

ALWOBJDIFパラメーターが認可されていない。

CPF3707

&2の保管ファイル&1にデータが入っていない。

CPF3709

テープ装置は同じ密度をサポートしていない。

CPF3727

装置名リストで重複する装置&1が指定された。

CPF3728

装置&1が他の装置と一緒に指定されている。

CPF3733

&3の&2 &1で前に損傷が起こっている。

CPF3738

保管または復元に使用した装置&1に損傷がある。

CPF3743

ファイルを復元、表示またはリストすることができない。

CPF3748

ライブラリー&1のオブジェクト情報に損傷がある。

CPF376B

ファイル&1が見つからない。

CPF3767

装置&1が見つからない。

CPF3768

装置&1はコマンドに対して正しくない。

CPF3769

媒体上で見つかったファイルが保管／復元ファイルでない。

CPF377B

オブジェクトは復元されません。&3個のオブジェクトが除外されました。

CPF377C

&1個のオブジェクトが復元された。&2個は復元されませんでした。&6個が除外されました。

CPF3780

ライブラリー&1に指定したファイルが見つからない。

CPF3782

&2のファイル&1は保管ファイルでない。

CPF379B

&2の保管ファイル&1のオブジェクトは復元されなかった。

CPF3791

&3の&2 &1の処理中にファイル&4の終わりになった。

CPF3793

マシンまたはASPの記憶域限界に達しました。

CPF3794

保管または復元操作が正常に終了しなかった。

CPF3796

ユーザー・プロファイル&4の記憶域限界を超えた。

CPF3805

&2中の保管ファイル&1からのオブジェクトは復元されなかった。

CPF3807

&2の保管ファイル&1でデータ圧縮解除エラーが起こった。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF3883

S/38装置構成オブジェクトは復元されなかった。

CPF5729

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

[トップ](#)

文書ライブラリー・オブジェクト復元 (RSTDLO)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト復元(RSTDLO)コマンドは、文書、フォルダー、および配布オブジェクト（メール）を復元します。

文書が文書ライブラリー・オブジェクト保管(SAVDLO)コマンドによって解放されたか、あるいはされない場合に、その文書およびフォルダーを復元するか、あるいは文書ライブラリー・オブジェクト削除(DLTDLO)コマンドによって削除された文書およびフォルダーを復元するためには、このコマンドを使用することができます。

文書の復元によって、文書がシステム上に存在している場合には、既存の文書の内容および制御情報が置き換えられ、文書がシステム上に存在しない場合には、新しい文書の内容および制御情報が追加されます。

ファイル済み文書（文書ライブラリーに記憶されている電子メールまたは文書）の場合には、復元操作時に文書が名前変更されて、別のフォルダーに入れられない限り、媒体上の文書オブジェクトの文書およびフォルダー名は、システム上の文書の文書名およびフォルダー名と同じでなければなりません。

注: 復元されるフォルダーのフォルダー名は完全に一致しなければなりません。使用中でないすべてのオブジェクトが、媒体上または保管ファイル内のフォルダーから既存のフォルダーに復元されます。フォルダーを復元すると、そのフォルダーが存在していなければ新しいフォルダー・オブジェクトが作成され、媒体上または保管ファイル内のフォルダーで保管されたすべてのオブジェクトがこの新しいフォルダーに追加されます。フォルダーが存在している場合には、その中に存在していない文書またはフォルダー・オブジェクトがすべて作成されます。既存の文書は、媒体からのバージョンで置き換えられます。

ファイル済み文書がシステムに復元され、その所有者がシステムに知られていないか、またはシステム配布ディレクトリーに登録されていない場合には、省略時の所有者のユーザー・プロファイル(QDFTOWN)がその文書またはフォルダーの所有者になります。

文書の作成日は、その文書が存在している場合には変わりません。文書が存在していない場合には、作成日は文書が作成される日付に設定されます。

機密保護は、文書またはフォルダーがそれらの復元されるシステムに存在している場合には変わりません。文書またはフォルダーが存在していない場合には、共通認可、権限リスト、および個人状況が復元されません。ただし、他のすべての私用文書およびフォルダー権限は復元されません。これらの権限は、所有者が再び設定しなければなりません。

保管時にメール・ログ項目をもっていた文書が復元される場合には、配布追跡オブジェクトがシステムに存在していれば、そのメール・ログ項目が復元されます。配布追跡オブジェクトがシステムに存在していない場合には、文書がメール・ログ項目なしで復元されたことを示すメッセージが送られます。

このコマンドが異常終了すると、オブジェクトは不明状態でシステムに残され、ライブラリーに見つからなくなります。これは、このコマンドの実行時に電源障害が発生した場合に起こることがあります。記憶域再

利用(RCLSTG)コマンドを使用すれば、補助記憶域を整理し、システムからそれらのオブジェクトの大部分を削除することができます。ただし、不明のメール・オブジェクトは、RCLSTGコマンドでは整理できません。

1セットの文書およびフォルダーを復元する場合は、そのセット内のすべての文書およびフォルダーが同じ磁気テープ、光ディスク・ボリューム、または保管ファイルに存在していなければなりません。

文書が複数の磁気テープ・ファイルに存在している場合は、ユーザーは、順序番号またはラベル・パラメーターを使用して媒体ファイルを指定することによって、どの文書を復元するかを制御することができます。その文書に複数のバージョンが存在する場合には、さらにSAVDATEおよびSAVTIMEパラメーターを使って正しい文書を選択することができます。

テキスト検索サービスがシステムにある時に、ユーザーが文書ライブラリー・オブジェクトを復元すると、そのオブジェクトのテキスト検索索引が復元されます。

制約事項:

- このコマンドは共通認可(*EXCLUDE)で出荷されます。
- このコマンドを実行するには、システム保管(*SAVSYS)または全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要であるか、システム配布ディレクトリーに登録されていなければなりません。
- このコマンドは、RCLDLO DLO(*ALL)を実行しているときには実行できません。これは、RCLDLOが内部オブジェクトの排他的使用を必要とするためです。
- OUTFILEパラメーターを使用して既存データベース・ファイルに対する保管または復元を行う場合は、出力データベース・ファイルがあるライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	単一値: *ALL, *SYSOBJNAM, *MAIL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	必須, 定位置 1
SAVFLR	保管されたフォルダー	単一値: *ANY, *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
RENAME	新しいオブジェクト名	単一値: *SAME その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
RSTFLR	フォルダーへの復元	文字値, *SAME	オプション
DEV	装置	単一値: *SAVF その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	値 (最大 300 回の繰り返し): 名前, *NONE	オプション
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション
SEQNBR	順序番号	単一値: *SEARCH その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 開始順序番号	1-16777215	
	要素 2: 終了順序番号	1-16777215, *ONLY	
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
LABEL	ラベル	文字値, *GEN	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, *	オプション
NEWOBJ	オブジェクト名生成	*SAME, *NEW	オプション
SAVDATE	保管日	日付	オプション
SAVTIME	保管時刻	時刻	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	*NONE, *ALL	オプション
SAVASP	保管元ASP番号	1-32, *ANY	オプション
RSTASP	復元先ASP番号	1-32, *SAVASP	オプション
OUTPUT	出力	*NONE, *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

トップ

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

復元される文書ライブラリー・オブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** 媒体に保管され、保管されたフォルダー (SAVFLR)パラメーターに指定された基準を満たす文書、フォルダー、および配布オブジェクト (メール) のすべてが復元されます。

*MAIL

メール・ログによって示されるすべての配布オブジェクトおよび文書が復元されます。

*SYSOBJNAM

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)パラメーターに指定されたシステム・オブジェクト名をもつすべての文書が復元されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

文書名 復元する文書のユーザー割り当て名を指定します。指定のすべての文書は、SAVFLRパラメーターに指定されたフォルダー内になければなりません。

トップ

保管されたフォルダー (SAVFLR)

文書およびフォルダーが復元されるその媒体のフォルダーの名前を指定します。

単一値

***ANY** 保管されているフォルダー（ある場合）とは関係なく、**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに指定された値を満たすすべての文書ライブラリー・オブジェクトが復元されます。この値が有効なのは、DLOパラメーターに*ALL、*MAIL、または*SYSOBJNAMが指定されている場合だけです。

*NONE

フォルダー以外に文書として保管されたすべての文書が復元されます。*NONEが有効なのは文書に対してだけで、*ALLがDLOパラメーターに指定されているときだけ有効です。

その他の値（最大300個指定可能）

フォルダー名

文書を復元する元の保管フォルダーの名前、あるいは*ALLがDLOパラメーターに指定された場合には復元中のフォルダーの名前を指定してください。フォルダー名に対して最大63文字を指定することができます。*ALLがDLOパラメーターに指定された場合には、最大300個のフォルダー名を指定することができます。DLO（文書名）が指定された場合には、保管済みフォルダーの名前を指定しなければなりません。

[トップ](#)

新しいオブジェクト名 (RENAME)

復元された文書の新しいユーザー割り当て名を指定します。

単一値

*SAME

文書は、その文書が保管された時の名前でも復元されます。

その他の値（最大300個指定可能）

文書名 復元後のその文書の新しいユーザー割り当て名を指定します。文書名が**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに指定される場合には、復元中の文書に対して最大300個のユーザー割り当て名を指定することができます。

[トップ](#)

フォルダーへの復元 (RSTFLR)

復元されたフォルダーおよび文書を入れるフォルダーの名前を指定します。このフォルダーはシステム上に存在するか、あるいは*ALLが**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに指定された場合には、保管されるフォルダーは媒体上に存在していなければなりません。

*SAME

復元中のフォルダーおよび文書は、保管されていたのと同じフォルダーに入れられます。

フォルダー名

復元される文書およびフォルダーを入れるフォルダーの名前を指定してください。

装置 (DEV)

復元操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、装置記述によってシステム上ですでに認識されていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

単一値

*SAVF

復元操作は、**保管ファイル (SAVF)**パラメーターに指定された保管ファイルを使用して実行されます。

その他の値

光ディスク装置名

復元操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

復元操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

復元操作に使用される1つ以上のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を使用する場合には、指定する唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置（最大4つまで）を使用する場合には、使用する順序で装置の名前を指定してください。複数のテープ・ボリュームを復元するときに複数のテープ装置を使用すると、テープ・ボリュームを巻き戻しながら、別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理できます。

トップ

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

*SYSOBJNAMが**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに指定された場合には、復元される文書のシステム・オブジェクト名を指定します。

単一値

*NONE

システム・オブジェクト名は指定されません。

その他の値（最大300個指定可能）

システム・オブジェクト名

復元する文書のシステム・オブジェクト名を指定してください。

トップ

ボリューム識別コード (VOL)

オブジェクト復元元である媒体のボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、データが保管された時と同じ順序で入れなければなりません。復元されるファイルの先頭が入っているボリュームを装置に入れておく必要があります。

単一値

*MOUNTED

オブジェクトは、装置 (DEV)パラメーターに指定された装置に入っているボリュームから復元されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリー設定 (SETTAPCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリー中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの復元に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

[トップ](#)

順序番号 (SEQNBR)

復元操作に使用されるテープ・ファイルの順序番号を指定します。

注: 文書ライブラリー・オブジェクト(DLO)を複数の補助記憶域プール(ASP)から復元する時には、開始および終了の順序番号を指定しなければなりません。開始および終了の順序番号は、テープ媒体ファイルを作成するために使用されるSAVDLOコマンドの完了メッセージに表示されます。あるいは、テープの表示 (DSPTAP) コマンドを使用して、QDOCおよびQDOCNNNNファイルの順序番号を検索します。ここでNNNNはASP番号です。

単一値

*SEARCH

ラベル (LABEL)パラメーター値と一致した識別コードをもち、指定された文書ライブラリー・オブジェクトの1つの最小値の内容をもつ最初のデータ・ファイルのテープが検索されます。装置の最後の操作で、最後の操作が終了した位置にテープが位置づけられるENDOPT(*LEAVE)が指定されていた場合には、ファイルの検索は、現在のテープの位置を超えて最初のデータ・ファイルから開始されます。装置の最後の操作でENDOPT(*LEAVE)が指定されなかった場合、あるいはENDOPT(*LEAVE)操作以降にテープが巻き戻された場合には、検索は、そのボリュームの最初のデータ・ファイルから開始されます。

要素1: 開始順序番号

1-16777215

復元操作に使用される最初のファイルの順序番号を指定してください。

要素2: 終了順序番号

*ONLY

終了順序番号は開始順序番号と同じです。

復元操作に使用される最後のファイルの順序番号を指定してください。

[トップ](#)

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

復元操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームにおいて自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されません。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合には、*UNLOADがサポートされるただ1つの特殊値であり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

[トップ](#)

ラベル (LABEL)

保管操作中に媒体に書き出されたファイルの検索に使用されるファイル・ラベルを指定します。

***GEN** システムは検索を行なうファイル・ラベルの省略時の名前を生成します。

文字値 復元する文書ライブラリー・オブジェクトが入っているファイルのファイル・ラベルを指定します。最大17の英数字を使用することができます。

[トップ](#)

保管ファイル (SAVF)

データを復元するために使用される保管ファイルを指定します。

注: 装置 (DEV)パラメーターに*SAVFが指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

修飾子1: 保管ファイル

名前 使用する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

復元操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

* システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

'光ディスクのパス名/*'

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

'光ディスク・ファイル・パス名'

光ディスク・ファイルのパス名を指定してください。

トップ

オブジェクト名生成 (NEWOBJ)

新規ライブラリー割り当て名およびシステム・オブジェクト名を復元するフォルダーおよび文書に対して生成するかどうかを指定します。

***SAME**

ライブラリー割り当て名およびシステム・オブジェクト名は変わりません。

***NEW** 新規ライブラリー割り当て名およびシステム・オブジェクト名が、復元するフォルダーおよび文書ごとに生成されます。

トップ

保管日 (SAVDATE)

文書ライブラリー・オブジェクトが保管された日付を指定します。媒体上に複数のバージョンの文書ライブラリー・オブジェクトが存在する場合には、このパラメーターを使用して、復元する文書ライブラリー・オブジェクトのバージョンを識別してください。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。区切り記号を使用すると、その値はアポストロフィで囲まなければなりません。SAVDATEパラメーターが

指定されていない場合には、復元される文書およびフォルダーのバージョンは、ボリューム上で見つかった最初のバージョンとなるか、あるいは指定されたファイル・ラベルで見つかったバージョンとなります。

トップ

保管時刻 (SAVTIME)

文書ライブラリー・オブジェクトが保管された時刻を指定します。保管された日付に同じ値をもつ複数のバージョンの文書ライブラリー・オブジェクトが媒体上に存在する場合には、このパラメーターを使用して、復元する文書ライブラリー・オブジェクトのバージョンを識別してください。この時刻は時間、分、秒 (HHMMSS)の形式の6桁の値として指定してください。区切り記号が使用された場合には、その値をアポストロフィで囲まなければなりません('HH:MM:SS')。ボリューム識別コードが指定され、**保管時刻 (SAVTIME)**パラメーターが指定されていない場合には、復元される文書およびフォルダーのバージョンは、ボリューム上で見つかった最初のバージョンとなるか、あるいは指定されたファイル・ラベルで見つかったバージョンとなります。

このパラメーターが有効なのは、**保管日 (SAVDATE)**パラメーターも指定されている場合だけです。

トップ

オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)

復元操作に見つかった次の相違点が許されるかどうかを指定します。

- 所有権—システム上のオブジェクトの所有者が保管操作からのオブジェクトの所有者と異なる。
- システム・オブジェクト名—システム上のシステム・オブジェクト名が媒体上のシステム・オブジェクト名と一致しない。
- 権限リストのリンカーオブジェクトが、オブジェクトを保管したものと異なるシステム上に復元されます。

システム上の所有者またはオブジェクト名が復元操作で使用される媒体の場合と異なるオブジェクトを復元できるようにするためには、ALWBJDIFパラメーターを使用することができます。*ALL特殊値を指定することによって、別の名前をもつオブジェクトが媒体上の名前に復元され、一方、別の所有者をもつオブジェクトは、その所有者名は媒体からではなくシステムから保持します。

注: このパラメーターを使用するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)権限が必要です。

*NONE

前述の相違のどれも復元操作では許可されていません。権限リストの場合には、オブジェクトは復元されますが、そのオブジェクトは当該の権限リストにはリンクされず、共通権限が*EXCLUDEに設定されます。他のケースについては、オブジェクトの診断メッセージが送信されて、オブジェクトは復元されません。

***ALL** 上で説明したすべての相違点が復元操作で許されます。通知メッセージが送られて、そのオブジェクトが復元されます。

注:

- オブジェクトの所有者が一致しない場合には、そのオブジェクトは復元されますが、復元操作の前のシステム上のオブジェクト所有権および権限のままとなります。

- このパラメーターに*ALLが指定された場合には、オブジェクト名生成 (NEWOBJ)パラメーターに*NEWを指定することはできません。
- オブジェクトが保管されたシステムで、そのオブジェクトが権限リストによって保護されているシステムとは異なるシステムからオブジェクトを復元中の場合には、*ALLを指定すると、そのオブジェクトを権限リストに自動的にリンクします。新しいシステムに権限リストが存在していない場合には、欠落しているリストの名前が入っているメッセージが出されます。

トップ

保管元ASP番号 (SAVASP)

復元される保管された文書およびフォルダーが入っている媒体上の補助記憶域プール(ASP)の番号を指定します。

***ANY** 任意のASPで保管された文書およびフォルダーが復元されます。

注：文書ライブラリー・オブジェクト(DLO)を複数のASPから復元する時には、順序番号(SEQNBR)パラメーターを指定しなければなりません。

I-32 復元する文書およびフォルダーが入っているASPの番号を指定してください。

トップ

復元先ASP番号 (RSTASP)

復元された文書およびフォルダーが入れられる媒体上の補助記憶域プール(ASP)の番号を指定します。

***SAVASP**

文書およびフォルダーは、保管される前と同じASPに入れられます。

I-32 復元された文書およびフォルダーが入るASPの番号を指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

オブジェクトの状況に関する情報を示すリストを作成して出力ファイルに入れるかどうかを指定します。このリストには、復元情報が表示され、復元されたすべてのオブジェクト、復元されなかったオブジェクト、および除外されたオブジェクトが表示されます。各オブジェクトの機密保護についての情報が復元オブジェクト用にリストされます。

***NONE**

出力は作成されません。

***PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

***OUTFILE**

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、OUTFILEパラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

*OUTFILEが出力 (OUTPUT)パラメーターに指定された時に、そのオブジェクトについての情報が送られるデータベース・ファイルの修飾名を指定します。このファイルが存在しない場合には、このコマンドが指定したライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。新しいファイルが作成された場合には、システムは様式名QOJRSTをもつQSYSのQAOJRSTOをモデルとして使用します。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンドからの出力が指示されるデータベース・ファイルの名前を指定してください。このファイルが存在していない場合には、指定したライブラリーに作成されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそのメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終りに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

例

例1:システム・オブジェクト名を指定した文書の復元

```
RSTDLO DLO(*SYSOBJNAM) DEV(TAP01) SYSOBJNAM(HZ83B55219)
```

このコマンドは、HZ83B55219という名前の文書を磁気テープ装置TAP01から復元します。

例2:保管フォルダーからの文書の復元

```
RSTDLO DLO(A) DEV(TAP01) SAVFLR(X)
```

このコマンドは、Aという名前の文書をフォルダーXから復元します。

例3:文書すべての復元

```
RSTDLO DLO(*ALL) DEV(TAP01)
```

このコマンドは、磁気テープ装置TAP01の最初の磁気テープ・ファイルにある文書およびフォルダーのすべてを復元します。

例4:システムASPから保管したフォルダーのユーザーASPへの復元

```
RSTDLO DLO(*ALL) FLR(Y) SAVASP(1) RSTASP(2)
```

このコマンドは、ASP 1から保管されたフォルダーYをユーザーASP 2に復元します。フォルダーYは、ASP 2に復元する前にASP 1から削除しなければなりません。

例5:新規ライブラリー割り当て名の作成

```
RSTDLO DLO(*SYSOBJNAM) DEV(TAP01) SYSOBJNAM(HZ83B55219)
        NEWOBJ(*NEW)
```

このコマンドは、文書HZ83B55219を磁気テープ装置TAP01から復元し、新規ライブラリー割り当て名および新規システム・オブジェクト名を付けます。

例6:文書の名前変更

```
RSTDLO DLO(A B) DEV(TAP01) SAVFLR(C)
        RENAME(Y Z) RSTFLR(X)
```

このコマンドは、文書AおよびBをフォルダーC内から復元します。文書AはYに名前変更され、文書BはZに名前変更されます。次に、それらの文書をフォルダーXに書き込みます。

例7:シーケンス番号の指定

```
RSTDLO DLO(*ALL) DEV(磁気テープ装置名) SAVFLR(A)
        SEQNBR(1 3) LABEL(*GEN)
```

このコマンドは、フォルダーAのすべてをソース順序番号1, 2,および3と、ラベルQDOCまたはQDOCXXXXをもつ磁気テープ・ファイルから復元します。

例8:許可される差の指定

```
RSTDLO DLO(A) DEV(TAP01) SAVFLR(X) ALWOBJDIF(*ALL)
```

このコマンドは、文書AをフォルダーXから復元します。フォルダーX内の文書Aがシステム上に存在していて、システム上の文書の所有者が復元しようとする文書の所有者と一致しない場合は、その文書は復元されて、システム上の文書の所有者は未変更のままです。

例9:復元されたオブジェクトおよび復元されなかったオブジェクトに関する情報の報告

```
RSTDLO DLO(*ALL) DEV(TAP01) OUTPUT(*OUTFILE)
        OUTFILE(INFO92) OUTMBR(FOURQT *ADD)
```

このコマンドは文書およびフォルダーのすべてを磁気テープ装置から復元します。復元されたオブジェクトおよび復元されなかったオブジェクトに関する情報が報告されているリストは、出力ファイルINFO92に送られます。この出力は、メンバーFOURQT中に、そのメンバー中の既存情報への追加として受け取られます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF370C

ALWOBJDIFパラメーターが認可されていない。

CPF3718

ファイル&1の復元コマンドが正しくない。

CPF3728

装置&1が他の装置と一緒に指定されている。

CPF3767

装置&1が見つからない。

CPF3780

ライブラリー&1に指定したファイルが見つからない。

CPF3782

&2のファイル&1は保管ファイルでない。

CPF381B

DLOがASP &1に復元されなかった。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF384D

ASP &1では保管または復元操作は使用できない。

CPF8AB5

ASP &5は構成されていない。

CPF8A47

内部システム・オブジェクトが使用中である。

CPF90AF

RSTFLR値は使用できない。

CPF90A4

RENAME値は使用できない。

CPF90B4

&1個のフォルダーがシステムに復元されたが、&2個のは復元されなかった。

CPF90CD

配布の復元は認可されていない。

CPF90CF

見出し検索データベースに損傷がある。

CPF90E0

ALWOBJDIF(*ALL)に対する権限が不十分である。

CPF90E7

文書ライブラリー・オブジェクトが復元されなかった。

CPF9003

&1個の文書ライブラリー・オブジェクトが復元された。&10個は復元されませんでした。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9050

終了順序番号が正しくない。

CPF9069

ユーザーにはフォルダー&1への復元は許されていない。

CPF908A

要求元&1は登録されていない。

CPF909B

&1個の文書ライブラリー・オブジェクトが復元された。&10個は復元されませんでした。

CPF9412

DLOパラメーターと一緒にフォルダー名のリストは使用できない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9831

装置&1を割り当てることができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

OPT1498

装置&1でボリューム名リストが使い切られた。

OPT1502

マルチボリューム・セットの終わりを乗り越して処理しようとしてしました。

OPT1605

媒体または装置エラーが起こりました。

[トップ](#)

ライブラリー復元 (RSTLIB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリー復元(RSTLIB)コマンドは、ライブラリー保管(SAVLIB)コマンドによって保管された1つのライブラリーまたはライブラリー・グループをシステムに復元します。ライブラリー復元(RSTLIB)コマンドは、ライブラリー記述、オブジェクト記述、およびライブラリーのオブジェクトの内容を含めたライブラリー全体を復元します。

ジョブ待ち行列、メッセージ待ち行列、ユーザー待ち行列、および論理ファイルの場合は、定義しか保管されないため、オブジェクト記述だけが保管されます。また、論理ファイルのアクセス・パスが保管された場合には、それを復元することもできます。アクセス・パス復元の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「データベース」情報を参照してください。出力待ち行列上のスプール・ファイルの内容は、これらが保管されている場合には、スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)パラメーターに*NEWを指定することによって復元することができます。

このコマンドを使用して、オブジェクトの記憶域が復元操作の対応するSAVLIBコマンドで解放済みのライブラリー、またはライブラリー削除(DTLIB)コマンドで削除されたライブラリーを復元することができます。保管済みライブラリー内のオブジェクトのデータ部分が解放されていなかった場合は、各ライブラリーはそれが前に占めていた記憶域の同一域を占有します。記憶域が解放されていた場合、システムは、ライブラリーの内容（すべてのファイル、モジュール、プログラム、サービス・プログラム、ジャーナル・レシーバー、構造化照会言語(SQL)パッケージ、およびジャーナル・レシーバーのオブジェクト記述およびデータ部分）を記憶するために必要な記憶スペースを検出します。ライブラリーが削除済みであるか、あるいは復元を別のシステムに行っているために、システム上に存在していない場合は、システムはライブラリー中のすべて（ライブラリー記述を含む）の記憶域を検出しなければなりません。

所有者プロファイルがシステム上に存在しない場合は、システム省略時の所有者のユーザー・プロファイル(QDFTOWN)がそのシステムに復元されるすべてのオブジェクトの省略時の所有者になります。

オブジェクトが、それを復元する先のライブラリーにすでに存在している場合は、既存のオブジェクトの共通認可および専用認可は維持されます。オブジェクトがライブラリー内に存在しない場合は、共通認可はすべて復元されますが、専用認可は再び認可しなければなりません。復元操作時に活動状態でスプーリング中の既存の出力待ち行列オブジェクト、またはすでにライブラリー内に存在しているデータ待ち行列の場合は、オブジェクトは復元されず、診断メッセージが送られます。

システム上の既存のオブジェクトの上に重ねてオブジェクトを復元する場合には、既存のオブジェクトの監査値が保持されます。オブジェクトをシステムに対して新規オブジェクトとして復元する場合は、オブジェクト監査値は媒体から復元されます。さらに、オブジェクトがライブラリーの場合には、ライブラリーに作成されるそれぞれのオブジェクトごとの省略時の監査値が復元されるのは、ライブラリーを新規として復元する場合です。そうでない場合は、省略時の監査値が媒体から復元されます。

注:

1. 保管ファイルをまだ存在していないライブラリーに復元するには、保管ファイル作成(CRTSAVF)コマンドに対する*USE権限が必要です。

2. RSTLIBコマンドは、復元出力ファイルへの一時変更を除いた、ジョブに対して現在有効になっているすべてのファイル一時変更を無視します。

制約事項:

- このコマンドは、共通認可(*EXCLUDE)なしで出荷されます。
 - システム保管(*SAVSYS)特殊権限または以下のすべてのオブジェクト権限が必要です。
 1. 指定された各ライブラリーに対する読み取り(*READ)および追加(*ADD)権限、あるいはその所有者であること。
 2. オブジェクトがすでにシステム上のライブラリーに存在している場合には、そのライブラリー内の各オブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限、あるいはその所有者であること。メッセージ待ち行列オブジェクトには*OBJEXISTおよび使用(*USE)権限が必要です。オブジェクトが存在していない場合は、復元中のオブジェクトを所有しているユーザー・プロファイルに対する追加(*ADD)権限。スプール・ファイル・データの場合、復元される出力待ち行列に対して*OBJEXIST権限が必要です。
- 指定されたすべてのライブラリーおよびオブジェクトに対する正しい権限がない場合には、ユーザーが権限を持っているものだけが復元されます。
3. VOL(*SAVVOL)が指定された場合には、保管元ライブラリーに対する*USE権限。
 4. ライブラリーを保管ファイルから復元する場合には、保管ファイルに対する*USE権限が必要です。ライブラリーをテープまたは光ディスク装置から復元する場合には、装置記述および装置ファイルに対する*USE権限が必要です。
- 媒体定義を使用する場合には、その媒体定義に対する*USE権限および媒体定義ライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。
 - OUTFILEパラメーターを使用して既存のデータベース・ファイルへの保管または復元を行う場合には、出力ファイルが入っているライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
 - システム上の現行バージョンのプログラムが入っているライブラリーの復元中は、そのプログラムを実行してはいけません。復元中にOPMプログラムが実行中の場合は、実行中のプログラムは失敗し、予測できない動作を行なう可能性があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SAVLIB	保管されたライブラリー	単一値: *NONSYS, *ALLUSR, *IBM, *ANY その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 1
DEV	装置	単一値: *SAVF, *MEDDFN その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED, *SAVVOL その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション, 定位置 3
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *SEARCH	オプション, 定位置 4
LABEL	ラベル	文字値, *SAVLIB	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
STRLIB	開始ライブラリー	名前, *FIRST	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MEDDFN	媒体定義	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 媒体定義	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, *	オプション
OMITLIB	除外するライブラリー	単一値: *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
OPTION	オプション	*ALL, *NEW, *OLD, *FREE	オプション
MBROPT	データベース・メンバー・オプション	*MATCH, *ALL, *NEW, *OLD	オプション
SPLFDTA	スプール・ファイル・データ	*NEW, *NONE	オプション
SAVDATE	保管日	日付	オプション
SAVTIME	保管時刻	時刻	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	単一値: *NONE, *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *AUTL, *FILELVL, *OWNER, *PGP	オプション
FRCOBJCVN	強制オブジェクト変換	単一値: *SYSVAL, *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 復元中変換	*YES	
	要素 2: 変換するオブジェクト	*RQD, *ALL	
RSTLIB	復元先ライブラリー	名前, *SAVLIB	オプション
RSTASPDEV	復元先ASP装置	名前, *SAVASPDEV	オプション
RSTASP	復元先ASP番号	1-32, *SAVASP	オプション
OUTPUT	出力	*NONE, *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
INFTYPE	出力情報のタイプ	*OBJ, *MBR	オプション
OMITOBJ	除外するオブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *NONE, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	総称名, 名前, *ALL	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	文字値, *ALL	

トップ

保管されたライブラリー (SAVLIB)

システムに復元するライブラリーを指定します。

注:

- 複数のライブラリー、特殊値、または総称値を指定した場合には、以下のことが必要です。
 - 装置 (DEV)パラメーターに*SAVFを指定してはなりません。
 - 復元先ライブラリー (RSTLIB)パラメーターに*SAVLIBを指定しなければなりません。
 - ラベル (LABEL)パラメーターに*SAVLIBを指定しなければなりません。
 - 光ディスク・ファイル (OPTFILE)パラメーターに*を指定するか、あるいはそれが*で終わっていないなければなりません。
- 値*NONSYSおよび*IBMの場合には、このオプションを指定する前に、システム上の他のすべての操作を終了していなければなりません。これには、サブシステム終了(ENDSBS)コマンドまたはシステム終了(ENDSYS)コマンドによってすべてのサブシステムを終了する必要があります。
- 復元に選択するテープまたは光ディスク・ファイルには、このパラメーターに指定する値と一致しないライブラリーが含まれている場合があります。このパラメーターは、テープ・ファイルの省力時のLABEL値および光ディスク・ファイルの省力時のOPTFILE値を判別するのに使用されますが、復元操作ではこのパラメーターが保管ライブラリーと一致することは検証されません。

これは必須パラメーターです。

単一値

*NONSYS

LIB(*NONSYS)を指定したライブラリー保管(SAVLIB)コマンドで保管されたライブラリーが復元されます。

SAVLIB LIB(*NONSYS)からRSTLIB SAVLIB(*IBM)およびRSTLIB SAVLIB(*ALLUSR) を実行することができます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが復元されます。次のもの以外で名前が文字Qで始まらないすべてのライブラリーが復元されます。

```
#CGULIB    #DSULIB    #SEULIB
#COBLIB    #RPGLIB
#DFULIB    #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーはIBMによって提供されますが、これらには一般的に、頻繁に変更されるユーザー・データが入れられます。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」とみなされ、復元もされます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX  QUSRIJS    QUSRVXXMX
QGPI       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGPI38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

*IBM 以下のものを除くIBM提供のすべてのライブラリーが復元されます。

QDOC	QRCYXXXX	QTEMP	QUSRRDARS
QDOCXXXX	QRECOVERY	QUSER38	QUSRSYS
QDSNX	QRPLOBJ	QUSRADSM	QUSRVI
QGPL	QRPLXXXX	QUSRBRM	QUSRVXRXMX
QGPL38	QSPL	QUSRDIRCL	
QMGTC	QSPLXXXX	QUSRDIRDB	
QMGTC2	QSRV	QUSRIJS	
QMPGDATA	QSRVAGT	QUSRINFSKR	
QMOMDATA	QSYS	QUSRNOTES	
QMOMPROC	QSYSXXXX	QUSROND	
QPFRDATA	QSYS2	QUSRPOSGS	
QRCL	QSYS2XXXX	QUSRPOSSA	
QRCLXXXX	QS36F	QUSRPYMSVR	

注: 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前が文字Qで始まらない次のライブラリーも復元されます。

```
#CGULIB    #DSULIB    #SEULIB
#COBLIB    #RPGLIB
#DFULIB    #SDALIB
```

***ANY 順序番号 (SEQNBR)**パラメーターに指定された順序番号で始まるテープにある、保管されたすべてのライブラリーの最初のバージョンが復元されるか、あるいは**光ディスク・ファイル (OPTFILE)**パラメーターに指定されたディレクトリー内の光ディスク媒体にある、保管されたすべてのライブラリーが復元されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 復元するライブラリーの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 復元するライブラリーの名前を指定します。復元されるライブラリーの名前は、ライブラリーが保管された時に使用された名前と同じでなければなりません。

[トップ](#)

装置 (DEV)

復元操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、装置記述によってシステム上ですでに認識されていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

単一値

*SAVF

復元操作は、**保管ファイル (SAVF)**パラメーターに指定された保管ファイルを使用して実行されます。

*MEDDFN

復元操作は、**媒体定義 (MEDDFN)**パラメーターに指定された媒体定義で識別された装置および媒体を使用して実行されます。

その他の値

光ディスク装置名

復元操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

復元操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

復元操作に使用される1つ以上のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を使用する場合には、指定する唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置（最大4つまで）を使用する場合には、使用する順序で装置の名前を指定してください。複数のテープ・ボリュームを復元するときに複数のテープ装置を使用すると、テープ・ボリュームを巻き戻しながら、別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理できます。複数の装置を並列に使用するには、媒体定義が指定されていなければなりません。

トップ

ボリューム識別コード (VOL)

オブジェクト復元元である媒体のボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、データが保管された時と同じ順序で入れなければなりません。復元されるファイルの先頭が入っているボリュームを装置に入れておく必要があります。

注: 特定のバージョンが**保管日 (SAVDATE)**および**保管時刻 (SAVTIME)**パラメーター、またはテープの場合は**順序番号 (SEQNBR)**パラメーターによって識別されない限り、媒体で見つかった保管ライブラリーの最初のバージョンが復元されます。

単一値

*MOUNTED

オブジェクトは、**装置 (DEV)**パラメーターに指定された装置に入っているボリュームから復元されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリ設定 (SETTAPCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリ中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

*SAVVOL

システムは、保管または復元履歴情報を使用して、どのボリュームにライブラリーの最新保管バージョンが入っているかを判別します。**装置(DEV)**パラメーターに指定された装置タイプがライブラリーの最新保管バージョンの装置タイプと一致しない場合には、ユーザーにエラー・メッセージが送られ、機能は終了します。***SAVVOL**を指定した場合は、**SAVDATE**パラメーターおよび**SAVTIME**パラメーターを指定することはできません。***SAVVOL**が指定された場合には、**SEQNBR**パラメーターに***SEARCH**を指定しなければなりません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの復元に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

順序番号 (SEQNBR)

テープが使用された時に、復元操作に使用される順序番号を指定します。

*SEARCH

装置のボリュームから、FROMLABELパラメーター値と一致するIDをもつデータ・ファイルが検索されます。一致するものが見つかり、そのオブジェクトが復元されます。テープ装置に対する最後の操作でテープ終了オプション (ENDOPT)パラメーターに、最後の操作が終了した位置にテープが位置づけられることを指示する*LEAVEが指定されていた場合には、現在のテープ位置を越えたところにある最初のデータ・ファイルからファイル検索が開始されます。最後の操作のテープ終了オプション (ENDOPT)パラメーターに*LEAVEが使用されなかった場合、あるいは操作の後でテープが手操作で巻き戻された場合には、検索はボリューム上の最初のデータ・ファイルから開始されます。

1から16777215

復元操作に使用するファイルの順序番号を指定してください。

*NONSYS, *ALLUSR,または*IBMが保管されたライブラリー (SAVLIB)パラメーターに指定された場合には、順序番号はファイルQFILEのロケーションを指定します。QFILEファイルは*NONSYS, *ALLUSR または*IBM保管操作の始めにあります。QFILEファイルには保管されたライブラリーのリストが入っています。

トップ

ラベル (LABEL)

復元操作に使用されるデータ・ファイルを識別する名前を指定します。このラベルは保管コマンドで指定されたものでなければなりません。

*SAVLIB

ファイル・ラベルは保管されたライブラリー (SAVLIB)パラメーターに指定された名前です。

文字値 復元操作に使用されるデータ・ファイルのデータ・ファイルIDを指定してください。最大17文字を使用することができます。このオプションは単一ライブラリーの復元の場合にのみ有効です。

トップ

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

復元操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームにおいて自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されます。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合には、*UNLOADがサポートされるただ1つの特殊値であり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

*REWIND

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

*LEAVE

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

*UNLOAD

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

トップ

開始ライブラリー (STRLIB)

*NONSYS, *IBM,または*ALLUSR復元操作の開始ライブラリー名を指定します。

復元操作中に回復不能媒体エラーが起こった場合には、このパラメーターを使用して、操作を再開することができます。

注: 以下の回復ステップでは、このコマンドの保管されたライブラリー (SAVLIB)パラメーターに*NONSYSが指定されています。IBM提供ライブラリーを復元する場合、あるいはすべてのユーザー作成ライブラリーおよびIBM提供ライブラリーを復元する場合には、かわりに*IBMまたは*ALLUSRを指定してください。

復元操作の基本回復ステップは次の通りです。

1. ジョブ・ログを調べて、前のライブラリー復元(RSTLIB SAVLIB(*NONSYS))コマンドが正常に行われなかったライブラリーを判別してください。最後に復元されたライブラリーを見つけてください。このライブラリーは、復元操作完了メッセージによって示されます。
2. SAVLIB LIB(*NONSYS)媒体の最初のテープを装てんしてください。
3. 次のコマンドを入力して、実行キーを押してください。

```
RSTLIB SAVLIB(*NONSYS) DEV(TAP01) ENDOPT(*LEAVE)
        STRLIB(ライブラリー名) OMITLIB(ライブラリー名)
```

ここで、STRLIBおよびOMITLIBパラメーターのライブラリー名は最後のRSTLIBが正常に行われなかったライブラリーです。これによって、復元操作が正常に行われなかったライブラリーの後のライブラリーに対して復元操作が開始されます。

4. プロンプト表示されたら、開始ライブラリーが入っているボリュームを装てんしてください。
5. 復元操作が完了した後で、以前の保管操作の媒体を使用して復元操作が正常に行われなかったライブラリーを復元してください。

注: 別のテープ・エラーを防止するために、次の保管ローテーション・サイクルから媒体エラーのあるテープを除外することを考慮してください。

注: このパラメーターが有効なのは、SAVLIBパラメーターに*NONSYS, *IBM,または*ALLUSRが指定された場合だけです。

*FIRST

復元操作は、最初に保管されたライブラリーで開始されます。

名前 復元操作を開始するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

保管ファイル (SAVF)

データを復元するために使用される保管ファイルを指定します。

注: 装置 (DEV)パラメーターに*SAVFが指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

修飾子1: 保管ファイル

名前 使用する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

媒体定義 (MEDDFN)

データを復元するために使用される装置および媒体を識別する媒体定義(*MEDDFN)オブジェクトを指定します。媒体定義の作成および使用の詳細については、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)、ならびにISERIES INFORMATION CENTERのサイトHTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTERで、API解説 (英文) の媒体定義作成API (CREATE MEDIA DEFINITION API)を参照してください。

媒体定義を指定した場合には、VOL, SEQNBR, SAVF,およびOPTFILEパラメーターは指定することができません。ボリュームIDおよび順序番号は、媒体定義に指定します。

修飾子1: 媒体定義

名前 使用する媒体定義の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

復元操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

* システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

'光ディスクのパス名/*'

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

'光ディスク・ファイル・パス名'

光ディスク・ファイルのパス名を指定してください。

トップ

除外するライブラリー (OMITLIB)

復元操作から除外するライブラリーのリストを指定します。

単一値

*NONE

復元操作から除外するライブラリーはありません。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 除外するライブラリーの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

ライブラリー名

復元操作から除外するライブラリーの名前を指定します。

トップ

オプション (OPTION)

各オブジェクトの復元の処理方法を指定します。

***ALL** 保管済みライブラリー内のすべてのオブジェクトはそのライブラリーに復元されます。保管済みライブラリー内のオブジェクトは、システム・ライブラリー内の現行バージョンを置き換えます。現行バージョンがないオブジェクトはシステム・ライブラリーに追加されます。現在ライブラリー内にあるが、媒体上にないオブジェクトはライブラリー内に残ります。

***NEW** 保管済みライブラリー内の、システム・ライブラリーの現行バージョンに存在していないオブジェクトだけがライブラリーに追加されます。システム・ライブラリーに認識されていないオブジェクトだけが復元されて、認識されているオブジェクトは復元されません。このオプションは、保管後に削除されたオブジェクトまたはこのライブラリーに対して新規のオブジェクトを復元します。システム・ライブラリーにすでに入っているバージョンが保管済みオブジェクトにある場合には、それらは復元されず、それぞれに関する通知メッセージが送信されますが、復元操作は続行されません。

***OLD** 保管済みバージョンがあるライブラリー内のオブジェクトだけが復元されます。すなわち、現在ライブラリーに入っている各オブジェクトのバージョンが保管済みバージョンで置き換えられます。ライブラリーに対して認識されているオブジェクトだけが復元されます。すべての保管済みオブジェクトがもはやライブラリーのオンライン・バージョンの一部でない場合には、それぞれに関する通知メッセージが送信されますが、復元操作は続行されます。

***FREE**

保管済みオブジェクトが復元されるのは、システム・ライブラリー内に存在していて、その空きスペースが解放されている場合だけです。各オブジェクトの保管済みバージョンはシステム上で以前に解放されたスペースに復元されます。このオプションは、保管時にスペースが解放されたオブジェクトを復元します。保管済みオブジェクトがすでにライブラリーの現行バージョンの一部でない場合、あるいはオブジェクト用のスペースが解放されていない場合には、そのオブジェクトは復元されず、それぞれに関する通知メッセージが送信されます。復元操作は続行されて、すべての解放済みオブジェクトが復元されます。

[トップ](#)

データベース・メンバー・オプション (MBROPT)

システム上に存在しているデータベース・ファイルに対しては、復元するメンバーを指定します。

***MATCH**が使用されている場合には、保管されたファイルのメンバー・リストがシステム上の現行バージョンとメンバーごとに一致していなければなりません。ファイルを復元する場合には、存在していないファイルのすべてのメンバーが復元されます。

***MATCH**

保管されたメンバーは、それらの存在しているメンバーのリストが現行システム・バージョンのリストとメンバーごとに一致している場合に復元されます。**オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)**パラメーターで***ALL**が指定されている場合には、**MBROPT(*MATCH)**は無効です。

***ALL** 保管されたファイルにあるすべてのメンバーが復元されます。

***NEW** 新しいメンバー（システムに認識されていないメンバー）のみが復元されます。

***OLD** システムにとって既知のメンバーのみが復元されます。

[トップ](#)

スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)

スプール・ファイル・データおよび属性を復元するかどうかを指定します。

***NEW** 出力待ち行列とともに保管されたスプール・ファイル・データがシステムにすでにない場合には、復元される出力待ち行列ごとにこれが復元されます。

***NONE**

スプール・ファイル・データは復元されません。

[トップ](#)

保管日 (SAVDATE)

ライブラリーが保管された日付を指定します。最新の保管されたバージョンが復元されない場合、あるいは複数の保管されたバージョンがボリューム上にある場合には、ライブラリーのどのバージョンを復元するかを示す日付を入力してください。

ボリュームIDまたは*MOUNTEDをボリューム識別コード (VOL)パラメーターに指定したが、このパラメーターを指定しなかった場合には、そのボリュームで見つかったライブラリー最初のバージョンが復元されます。このパラメーターは、VOL(*SAVVOL)については無効です。

日付 復元するライブラリーが保管された日付を指定します。この日付はジョブ日付の形式で入力しなければなりません。

トップ

保管時刻 (SAVTIME)

現行バージョンを復元しない場合には、ライブラリーが保管された時刻を指定します。

ボリュームIDまたは*MOUNTEDをボリューム識別コード (VOL)パラメーターに指定したが、このパラメーターを指定しなかった場合には、そのボリュームで見つかったライブラリー最初のバージョンが復元されます。このパラメーターが有効なのは、**保管日 (SAVDATE)**パラメーターも指定されている場合だけです。

時刻 復元するライブラリーが保管された時刻を指定します。時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ジョブで指定した時刻区切り記号を時、分、および秒の区切りに使用して、5桁または8桁のストリングを指定します。このコマンドをコマンド行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

トップ

オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)

保管したオブジェクトと復元されたオブジェクトとの間の相違が許されるかどうかを指定します。

注:

1. このパラメーターに*NONE以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。
2. 相違が検出された場合には、復元操作に関する最終メッセージは正常完了メッセージではなくエスケープ・メッセージになります。

相違のタイプには以下のものがあります。

- 権限リスト：保管されたオブジェクトには権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたないか、あるいはオブジェクトが存在せず保管システムと異なるシステムに復元されているかのどちらかです。

注: 保管されるオブジェクトに権限リストがなかった場合には、このパラメーターは影響しません。オブジェクトが存在している場合には、既存のオブジェクトの権限リストとともにこれが復元されます。存在しない場合には、これは権限リストなしで復元されます。

- **ファイル・レベルID**: システム上のデータベース・ファイルの作成日時が、保管されたファイルの作成日時と一致しません。
- **メンバー・レベルID**: システム上のデータベース・ファイル・メンバーの作成日時が、保管されたメンバーの作成日時と一致しません。
- **所有権**: システム上のオブジェクトの所有者が、保管操作からのオブジェクトの所有者と異なっている。
- **1次グループ**: システム上のオブジェクトの1次グループが保管操作の時のオブジェクトの1次グループと異なっている。

単一値

*NONE

前述の相違のどれも復元操作では許可されていません。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

- ***ALL** 前述の相違のすべてが復元操作で許可されています。ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は、*FILELVL値と異なる取り扱いになります。ファイル・レベルの相違があって、データベース・メンバー・オプション (**MBROPT**)パラメーターに*ALLが指定された場合には、ファイルの既存のバージョンは名前変更され、ファイルの保管バージョンが復元されます。メンバー・レベルの相違があった場合には、メンバーの既存のバージョンは名前変更され、メンバーの保管バージョンが復元されます。この値では、保管されたデータは復元されますが、結果は正しくない可能性があります。復元されたデータと名前変更されたデータのどちらが正しいかを選択する必要があります。また、データベースに対して必要な訂正を行うことが必要になります。その他の相違の場合には、個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

その他の値 (最大4個指定可能)

***AUTL**

権限リストの相違は許可されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは既存のオブジェクトの権限リストとともに復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元され、権限リストにリンクされます。権限リストが存在していない場合には、共通認可は*EXCLUDEに設定されます。

この値が指定されない場合には、権限リストの相違は許可されません。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元されますが、権限リストにはリンクされず共通認可が*EXCLUDEに設定されます。

***FILELVL**

ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は許可されます。保管媒体上の物理ファイルがシステム上の物理ファイルとは異なるファイル・レベルIDまたはメンバー・レベルIDを持っていても、既存の物理ファイルの復元は試行されます。保管媒体上の形式レベルIDがシステム上の対応する物理ファイルの形式レベルIDと一致する物理ファイルの物理ファイル・データだけが復元されます。

この値が指定されない場合には、ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なるファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

***OWNER**

所有権の相違は許可されます。オブジェクトが保管したオブジェクトと異なる所有者でシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの所有者で復元されます。

この値が指定されない場合には、所有権の相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる所有者をもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

***PGP** 1次グループの相違は許可されます。保管したオブジェクトと異なる1次グループがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの1次グループとともに復元されます。

この値が指定されない場合には、1次グループの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる1次グループをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

トップ

強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)

ユーザー・オブジェクトを、そのオブジェクトの復元時にオペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために必要な形式に変換するかどうかを指定します。

注：

1. このパラメーターが適用されるのは、*MODULE、*PGM、*SRVPGM、および*SQLPKG オブジェクト・タイプのユーザー・オブジェクトの場合だけです。
2. オブジェクトには変換する作成データ（識別可能または不能）が入っていないなければなりません。
3. オブジェクトは（オペレーティング・システムの前のバージョン用に形式設定されているので）変換する必要がありますが、この復元操作中に変換されない場合には、そのオブジェクトは初めて使用されるときに自動的に変換されます。

単一値

***SYSVAL**

オブジェクトはQFRCCVNRSTシステム値の値に基づいて変換されます。

***NO** オブジェクトは復元操作中に変換されません。

注：FRCOBJCVN(*NO)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値の値は"0"または"1"のいずれかでなければなりません。

要素1: 復元中変換

***YES** オブジェクトは復元操作中に変換されます。

注：

1. FRCOBJCVN(*YES *RQD)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値は値"0"、"1"、または"2"でなければなりません。FRCOBJCVN(*YES *RQD)はQFRCCVNRST値"0"または"1"を

指定変更します。FRCOBJCVN(*YES *ALL)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTは任意の有効な値をもつことができ、FRCOBJCVN(*YES *ALL)はQFRCCVNRSTシステム値を指定変更します。

2. この値を指定すると、復元操作の時間は増加しますが、最初に使用するとき変換する必要がなくなります。

要素2: 変換するオブジェクト

***RQD** オブジェクトが変換されるのは、現行オペレーティング・システムによって使用するために変換が必要な場合だけです。オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

***ALL** すでに現行形式になっているオブジェクトも含めて、すべてのオブジェクトが現行の形式に関係なく変換されます。ただし、オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

トップ

復元先ライブラリー (RSTLIB)

ライブラリーの内容を保管されたのと同じライブラリーに復元するか、あるいは別のライブラリーに復元するかを指定します。

***SAVLIB**

ライブラリーの内容を保管されたのと同じライブラリー(1つまたは複数)に復元します。

名前 保管ライブラリーの内容が復元されるライブラリーの名前を指定してください。*NONSYS、*IBM、または*ALLUSRが保管されたライブラリー (SAVLIB)パラメーターに指定された場合には、このパラメーターにライブラリー名を指定することはできません。

注: 構造化照会言語(SQL)データベースを保管時にあったライブラリー以外のライブラリーに復元される場合には、ジャーナルは復元されません。

トップ

復元先ASP装置 (RSTASPDEV)

データが復元される補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

注: RSTASPDEVパラメーターかRSTASPパラメーターのいずれか一方を指定するか、両方とも指定しないことができます。

***SAVASPDEV**

データは、保管された時と同じASPに復元されます。

名前 使用するASP装置の名前を指定します。

トップ

復元先ASP番号 (RSTASP)

オブジェクトが、その保管元の補助記憶域プール(ASP)、システムASP (ASP番号1)、または基本ユーザーASP (ASP番号2から32)に復元されるかどうかを指定します。

一部のオブジェクトはユーザーASPには復元できません。ユーザーASPに復元できるオブジェクト・タイプの詳細は、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)にあります。ライブラリーがシステムASPに存在しているか、あるいはシステムASPに復元しようとしている場合には、ジャーナル、ジャーナル・レシーバー、および保管ファイルを基本ユーザーASPに復元することができます。その他のすべてのオブジェクト・タイプがライブラリーのASPに復元されます。

重要：システム・ライブラリーまたはプロダクト・ライブラリー(Qまたは#で始まるライブラリー) は、ユーザーASP内に作成されたり、ユーザーASPに復元されてはいけません。そうすると、予測できない結果の原因になる可能性があります。

*SAVASP

オブジェクトは保管前と同じASPに復元されます。

1から32

ASP番号を指定します。指定したASPが1の場合には、指定したオブジェクトはシステムASPに復元され、指定したASPが2から32の場合には、オブジェクトは指定された基本ユーザーASPに復元されます。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

オブジェクトの状況に関する情報を示すリストを作成して出力ファイルに入れるかどうかを指定します。このリストには、復元情報が表示され、復元されたすべてのオブジェクト、復元されなかったオブジェクト、および除外されたオブジェクトが表示されます。各オブジェクトの機密保護についての情報が復元オブジェクト用にリストされます。

*NONE

出力は作成されません。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注：OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、OUTFILEパラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、情報を指示するデータベース・ファイルを設定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。新規ファイルを作成する場合には、システムはモデルとして形式名 QSRSTでQSYS内のQASRRSTOを使用します。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンドからの出力が指示されるデータベース・ファイルの名前を指定してください。このファイルが存在していない場合には、指定したライブラリーに作成されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそのメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終りに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

[トップ](#)

出力情報のタイプ (INFTYPE)

印刷するか、データベース・ファイルに向ける情報のタイプを指定します。

***OBJ** リストには、復元するように要求された各オブジェクトの項目が入ります。

***MBR** リストには、復元するように要求された各オブジェクトの項目、データベース・ファイル・メンバー、およびスプール・ファイルが入ります。

トップ

除外するオブジェクト (OMITOBJ)

操作から除外するオブジェクトを指定します。最大300までのオブジェクトまたは総称オブジェクトの値を指定することができます。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

*NONE

操作から除外されるオブジェクトはありません。

***ALL** 指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトが操作から除外されます。

総称名 除外するオブジェクトの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***ALL** 指定されたオブジェクトは、操作の一部であるすべてのライブラリーから除外されます。

総称名 除外するオブジェクトが入っているライブラリーの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定します。

要素2: オブジェクト・タイプ

***ALL** オブジェクト名に指定された値に基づいて、すべてのオブジェクト・タイプが操作から除外されます。

文字値 操作から除外するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト) を押します。オブジ

エクト・タイプの記述については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

トップ

例

例1:新規オブジェクトの復元

```
RSTLIB SAVLIB(JOE) DEV(TAP01) OPTION(*NEW)
```

このコマンドは、ライブラリーJOEの保管バージョンをテープ装置TAP01から復元します。復元されるライブラリー内のオブジェクトは、新規オブジェクト（それらが保管された時にライブラリーの中にあり、その後削除されたオブジェクト）だけです。

例2:出力の印刷

```
RSTLIB SAVLIB(*NONSYS) DEV(TAP01) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、保管されているすべての非システム・ライブラリーをテープからシステムに復元します。ライブラリーの内容は、それらが保管された通りに正確に復元されます。新規オブジェクト（テープ上）がシステムに追加され、システムの旧オブジェクトはテープ上の旧オブジェクトのバージョンによってオーバーレイされます。OUTPUT(*PRINT)が指定されているので、各ライブラリーのすべてのオブジェクト（復元されたものと復元されないもの）の印刷出力がジョブのスプール出力を使用して印刷装置に送られます。最初のライブラリーの後の各ライブラリーは改ページで開始されます。各ライブラリーの後の完了メッセージに、いくつかのオブジェクトが復元され、いくつかのオブジェクトが復元されなかったかが示されます。リストの終わりの最終完了メッセージによって、いくつかのライブラリーが復元され、いくつかのライブラリーが復元されなかったかが示されます。

例3:復元操作を開始する場所の指定

```
RSTLIB SAVLIB(*NONSYS) DEV(TAP01) STRLIB(MIKESLIB)
```

このコマンドは、保管されている非システム・ライブラリーを、ライブラリーMIKESLIBから順にテープ装置TAP01から復元します。非システム保管の最初のテープがロードされていることが必要です。MIKESLIBが入っているテープをロードするよう、照会メッセージがユーザーに指示します。必要に応じて、MIKESLIBが入っているテープが見つかるまで同じメッセージが送られます。

例4:特定の日付および時刻からのバージョンの復元

```
RSTLIB SAVLIB(PAYROLL) DEV(TAP01) SAVDATE(060193)
SAVTIME(103214) RSTLIB(OLDPAY) VOL(PAY)
```

このコマンドは、PAYROLLライブラリーのバージョンを、ボリュームIDがPAYである装置TAP01から復元します。復元されるバージョンは、06/01/93の日付の10:32:14に保管されています。保管されているPAYROLLライブラリーのすべてのオブジェクトがライブラリーOLDPAYに復元されます。すべての新規ファイルが復元されます。旧ファイルは、テープ上のファイルのメンバー・リストがシステム上のファイルのメンバー・リストと一致した場合にのみ復元されます。

例5:複数のテープ・ボリュームからの復元

```
RSTLIB SAVLIB(QGPL) DEV(TAP01) VOL(QGPL QGPL)
```

このコマンドは、QGPLライブラリーをどちらもQGPLという名前の2つのテープから復元します。ボリュームIDは同じですが、この両方を指定しなければなりません。

例6:複数のテープ装置からの逐次復元

```
RSTLIB SAVLIB(USRLIB) DEV(TAP01 TAP02 TAP03)
VOL(USRA USRB USRC USRD) ENDOPT(*UNLOAD)
```

このコマンドは、ライブラリーUSRLIBを3つのテープ装置上の4つのボリュームから復元します。ボリュームUSRAはテープ装置TAP01に、ボリュームUSRBはTAP02に、ボリュームUSRCはTAP03に、およびボリュームUSRDはTAP01に入れます。操作員がボリュームUSRAをTAP01から除去すると、TAP01がボリュームUSRDに使用できるようになります。テープ・ボリュームが間違った順序で入っていた場合には、エラー・メッセージがシステム操作員メッセージ待ち行列に送られます。

例7:複数の装置からの並列復元

```
RSTLIB SAVLIB(USRLIB) DEV(*MEDDFN) MEDDFN(LIBA/MEDDFNA)
```

このコマンドは、ライブラリーLIBAのMEDDFNAという名前の媒体定義に指定された装置およびボリュームを使用して、ライブラリーUSRLIBを復元します。媒体定義の作成および使用については、INFORMATION CENTERの「バックアップ、回復、および可用性」トピックを参照してください。

例8:特定のバージョンの復元

```
RSTLIB SAVLIB(LIB1) DEV(TAP01) MBROPT(*ALL)
SAVDATE(082392) SAVTIME(123251)
RSTLIB(LIB2) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、ライブラリーLIB1のバージョンを装置TAP01から復元します。復元されるバージョンは、08/23/92の日付の12:32:51に保管されています。保管されているライブラリーLIB1のすべてのオブジェクトがライブラリーLIB2に復元されます。復元されたオブジェクトと復元されなかったオブジェクトのリストが示されます。すべてのファイルおよびファイル・メンバーが復元されます。

例9:保管ファイルからのライブラリーの復元

```
RSTLIB SAVLIB(LIB1) DEV(*SAVF) SAVF(SAVF1)
```

このコマンドは、ライブラリーLIB1を保管ファイルSAVF1から復元します。

例10 :基本ユーザーASPへの復元

```
RSTLIB SAVLIB(LIB1) DEV(*SAVF) SAVF(SAVF1) RSTASP(2)
```

このコマンドは、LIB1という名前のライブラリーをSAVF1という名前の保管ファイルから復元します。以下の場合を除き、LIB1の保管バージョンのライブラリーおよびすべてのオブジェクトが基本ユーザー補助記憶域プール(ASP) 2に復元されます:

- このライブラリーがすでに別のASPに存在している。
- ASP 2に、システムASPのライブラリーの一部であるジャーナル、ジャーナル・レシーバー、またはSAVFが含まれている。
- ASP 2がシステムに存在していない。
- ライブラリーの中にユーザーASPには復元できないオブジェクト・タイプある。これらのオブジェクトは復元されません。

例11 :独立ASPへの復元

```
RSTLIB SAVLIB(LIB1) DEV(*SAVF) SAVF(SAVF1)
RSTASPDEV(DIVISION1)
```

このコマンドは、LIB1という名前のライブラリーをSAVF1という名前の保管ファイルから復元します。以下の場合を除き、LIB1の保管バージョンのライブラリーおよびすべてのオブジェクトがDIVISION1という名前の独立ASPに復元されます:

- ライブラリーがDIVISION1と同じリンクされたASPグループのシステムASP, 基本ユーザーASP,または別の独立ASPにすでに存在している。
- ASP DIVISION1がシステムで使用できない。
- ライブラリーの中に独立ASPには復元できないオブジェクト・タイプがある。これらのオブジェクトは復元されません。

例12 :テープからの1つ以上のライブラリーの復元

```
RSTLIB SAVLIB(*ANY) DEV(TAP01) SEQNBR(75)
```

このコマンドは、各ライブラリーの最初の保管バージョンを、テープ・ファイル順序番号75から順にテープ装置TAP01から復元します。

例13 :光ディスクからの1つ以上のライブラリーの復元

```
RSTLIB SAVLIB(A* B*) DEV(OPT01) OPTFILE('/BACKUP/*')
```

このコマンドは、装置OPT01の光ディスク・ボリューム上のディレクトリーBACKUPで見つかった、名前がAまたはBで始まるすべてのライブラリーを復元します。

例14:スプール・ファイルの復元

```
RSTLIB SAVLIB(JOE) DEV(TAP01) SPLFDTA(*NEW)
```

このコマンドは、ライブラリーJOEの保管バージョンをテープ装置TAP01から復元します。現在システムに存在していないスプール・ファイル、およびこのライブラリーに出力待ち行列とともに保管されたスプール・ファイルが復元されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF370C

ALWOBJDIFパラメーターが認可されていない。

CPF3705

&3の&2 &1はジャーナル処理されなかった。

CPF3706

&2 &1はライブラリー&3に復元されなかった。

CPF3707

&2の保管ファイル&1にデータが入っていない。

CPF3709

テープ装置は同じ密度をサポートしていない。

CPF372C

ライブラリー&1はASP &2に復元されなかった。

CPF3727

装置名リストで重複する装置&1が指定された。

CPF3728

装置&1が他の装置と一緒に指定されている。

CPF373E

ライブラリー&1はASP &2に復元されなかった。

CPF3730

ライブラリー&3の&2 &1は認可されていない。

CPF3731

ライブラリー&3の&2 &1を使用することができない。

CPF3732

復元操作中の&2 &1の状況エラー。

CPF3733

&3の&2 &1で前に損傷が起こっている。

CPF3738

保管または復元に使用した装置&1に損傷がある。

CPF3739

&3のデータベース・ファイル&1のメンバーに損傷がある。

CPF3740

&3のオブジェクト&1タイプ&2が見つからない。

CPF3743

ファイルを復元、表示またはリストすることができない。

CPF3748

ライブラリー&1のオブジェクト情報に損傷がある。

CPF375F

ファイルが選択されていない。保管タイプからファイル&1を復元することはできません。

CPF3752

ライブラリー&1の保管操作の記録がない。

CPF3757

&2 &1は&3に復元されなかった。

CPF3758

&2 &1は&3に復元されなかった。

CPF376B

ファイル&1が見つからない。

CPF3767

装置&1が見つからない。

CPF3768

装置&1はコマンドに対して正しくない。

CPF3769

媒体上で見つかったファイルが保管／復元ファイルでない。

- CPF3770**
ライブラリー&1について保管または復元されたオブジェクトはない。
- CPF3773**
&1個のオブジェクトが復元された。&2個が&4に復元されませんでした。
- CPF3779**
&1のライブラリーが復元され、&4が部分的に復元され、&2は復元されなかった。
- CPF378B**
ライブラリー&1が作成されなかった。
- CPF3780**
ライブラリー&1に指定したファイルが見つからない。
- CPF3782**
&2のファイル&1は保管ファイルでない。
- CPF3783**
VOL(*SAVVOL)の位置を調べることができない。オブジェクトは復元されません。
- CPF3784**
DEVパラメーターに指定した復元装置はVOL(*SAVVOL)装置と一致していない。
- CPF3785**
終了していないサブシステムがある。
- CPF3791**
&3の&2 &1の処理中にファイル&4の終わりになった。
- CPF3793**
マシンまたはASPの記憶域限界に達しました。
- CPF3794**
保管または復元操作が正常に終了しなかった。
- CPF3796**
ユーザー・プロファイル&4の記憶域限界を超えた。
- CPF37A5**
RSTASP &1がオンラインではありません。
- CPF380E**
ユーザー・プロファイル&1は復元されなかった。UIDまたはGIDを作成することができません。
- CPF3805**
&2中の保管ファイル&1からのオブジェクトは復元されなかった。
- CPF3807**
&2の保管ファイル&1でデータ圧縮解除エラーが起こった。
- CPF3812**
&2の保管ファイル&1は使用中である。
- CPF3818**
開始ライブラリー&1が見つからない。
- CPF384F**
&2 &1はライブラリー&3に復元されなかった。

CPF3894

メッセージ&1に対して取り消し応答を受け取った。

CPF38A2

ASP装置&1は正しくありません。

CPF38A6

指定したパラメーターではライブラリーは1つしか使用できない。

CPF5729

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9829

補助記憶域プール&1が見つからない。

CPFB8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

OPT1498

装置&1でボリューム名リストが使い切られた。

OPT1502

マルチボリューム・セットの終わりを乗り越して処理しようとしてしました。

OPT1605

媒体または装置エラーが起きました。

STATUS メッセージ*CPF3770**

ライブラリー&1について保管または復元されたオブジェクトはない。

CPF3773

&1個のオブジェクトが復元された。&2個が&4に復元されませんでした。

トップ

ライセンス・プログラム復元 (RSTLICPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライセンス・プログラム復元(RSTLICPGM)コマンドは、初期導入のため、新しいリリースの導入のため、または回復のためにライセンス・プログラムをロードまたは復元します。

制約事項:

1. このコマンドは共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. このコマンドを使用するためには、ユーザーは*SECADMおよび*ALLOBJの権限が必要です。
3. このコマンドを使用してライセンス・プログラムのプログラムを復元する場合には、そのプログラムの復元中に、システム上に現在あるプログラムのコピーが実行中であってははいけません。この場合には、処理プログラムは異常終了されます。
4. ライセンス・プログラムのその他のオブジェクトが使用中の場合には、これらは復元されません。
5. OUTPUT(*PRINT)を印刷する復元操作の一時変更の例外によって、このコマンドは、このジョブで現在有効となっているすべてのファイルの一時変更を無視します。
6. ユーザーがシステム配布ディレクトリーに登録されている場合にかぎり、いくつかのライセンス・プログラムが復元されます。この制約の説明については、それぞれのライセンス・プログラムの資料を参照してください。
7. このコマンドは、基本オペレーティング・システムのコードおよび言語オブジェクトを復元しません。
8. このコマンドはユーザーASP（補助記憶域プール）の使用をサポートしません。ライセンス・プログラムから供給されるすべてのオブジェクトはシステムASPの中に残らなければなりません。
9. 指定できるのは、多くても、1台の光ディスク装置、1つの保管ファイル、1台の仮想テープ装置、または1台のテープ媒体ライブラリー装置です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LICPGM	プロダクト	文字値	必須, 定位置 1
DEV	装置	単一値: *SAVF その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2
OPTION	復元される任意選択部分	*BASE, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 01, 02, 03, 04, 05, 06, 07, 08, 09	オプション
RSTOBJ	復元するオブジェクトのタイプ	*ALL, *PGM, *LNG	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
LNG	ライセンス・プログラムの言語	文字値, <u>*PRIMARY</u> , *SAVVOL	オプション
OUTPUT	出力	<u>*NONE</u> , *PRINT	オプション
RLS	リリース	文字値, <u>*FIRST</u>	オプション
REPLACERLS	リリースの置き換え	文字値, <u>*ONLY</u> , *NO	オプション
VOL	ボリューム識別コード	単一値: <u>*MOUNTED</u> その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, <u>*SEARCH</u>	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	<u>*REWIND</u> , *LEAVE, *UNLOAD	オプション
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
LIB	ライブラリー	要素リスト	オプション
	要素 1: ライブラリー 1	名前, <u>*SAME</u>	
	要素 2: ライブラリー 2	名前, <u>*SAME</u>	
	要素 3: ライブラリー 3	名前, <u>*SAME</u>	
	要素 4: ライブラリー 4	名前, <u>*SAME</u>	
	要素 5: ライブラリー 5	名前, <u>*SAME</u>	
	要素 6: ライブラリー 6	名前, <u>*SAME</u>	
	要素 7: ライブラリー 7	名前, <u>*SAME</u>	
	要素 8: ライブラリー 8	名前, <u>*SAME</u>	
	要素 9: ライブラリー 9	名前, <u>*SAME</u>	
	要素 10: ライブラリー 1 0	名前, <u>*SAME</u>	
	要素 11: ライブラリー 1 1	名前, <u>*SAME</u>	
LNLIB	言語ライブラリー	名前, <u>*SAME</u>	オプション
FLR	フォルダー	名前, <u>*SAME</u>	オプション
CODHOMEDIR	コード・ホーム・ディレクトリー	単一値: *PROMPT その他の値 (最大 300 回の繰り返し): パス名, <u>*SAME</u>	オプション
LNGHOMEDIR	言語ホーム・ディレクトリー	単一値: *PROMPT その他の値 (最大 300 回の繰り返し): パス名, <u>*SAME</u>	オプション
FRCOBJCVN	強制オブジェクト変換	単一値: <u>*SYSVAL</u> , *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 復元中変換	<u>*YES</u>	
	要素 2: 変換するオブジェクト	<u>*RQD</u> , *ALL	

トップ

プロダクト (LICPGM)

復元されるライセンス・プログラムの7文字のIDを指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

装置 (DEV)

ライセンス・プログラムの復元に使用される装置名を指定します。この装置名は、装置記述により、システム上ですでに認識されているものでなければなりません。このシステムで使用可能な装置の名前を表示するためには、装置記述処理(WRKDEV D)コマンドを使用してください。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は次の通りです。

*SAVF

復元操作は、保管ファイル(SAVF)パラメーターで指定した保管ファイル名を使用して実行されます。

光ディスク装置名

復元操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

復元操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

ライセンス・プログラムの復元に使用する1つ以上のテープ装置の名前を指定します。仮想テープ装置を使用する場合は、それが指定される唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置を使用する場合には、それらは互換性のある媒体形式であり、それらの名前は、使用する順序に指定しなければなりません。複数のテープ装置を使用することによって、あるテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理している間に、別のテープ・ボリュームを巻き戻して取り外すことができます。

[トップ](#)

復元される任意選択部分 (OPTION)

プロダクトプロンプト(LICPGMパラメーター) に与えられたライセンス・プログラムの、復元したい任意選択部分を1つ指定します。

考えられる値は次の通りです。

*BASE

ライセンス・プログラムの基本部分だけが復元されます。

ライセンス・プログラム・オプションの番号

復元したいリストされたライセンス・プログラムの任意選択部分の番号を指定します。

[トップ](#)

復元するオブジェクトのタイプ(RSTOBJ)

復元したいライセンス・プログラム・オブジェクトのタイプを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** ライセンス・プログラムのすべてのオブジェクトが復元されます。これには、プログラム・オブジェクトと **ライセンス・プログラムの言語プロンプト** (LNGパラメーター) に指定された言語オブジェクトの両方が含まれます。

DEVパラメーターにテープ装置が指定された場合には、テープ媒体上で言語オブジェクトがプログラム・オブジェクトの直後にくるようにSAVLICPGMコマンドによってライセンス・プログラムの保管が行なわれている時には、RSTOBJ(*ALL)値が使用されます。言語オブジェクト(*LNG)とプログラミング・オブジェクト(*PGM)が配布テープ上で連続していない場合には、ほとんどの場合、*ALLを使用することはできません。その場合には、プログラム・オブジェクトと言語オブジェクトを個別に復元しなければなりません。テープ上におけるこれらのオブジェクトの順序は、DSPTAPコマンドを使って調べることができます。言語オブジェクトとプログラム・オブジェクトを個別に復元する方法の例が、このコマンドの終わりの「例」セクションにあります。

DEVパラメーターに*SAVFが指定された場合には、OBJTYPE(*ALL)を使ってSAVLICPGMコマンドによってライセンス・プログラムの保管が行なわれている時には、RSTOBJ(*ALL)値を使用することができます。

***PGM** ライセンス・プログラムのプログラム・オブジェクトだけが復元されます。プログラム・オブジェクトと選択された言語オブジェクトが同じ配布媒体上にないか、または連続していない配布媒体からプログラム・オブジェクトを復元する時には、*PGMを使用しなければなりません。

***LNG** ライセンス・プログラムの言語オブジェクトだけが復元されます。 **ライセンス・プログラムの言語プロンプト(LNGパラメーター)** は、そのオブジェクトがライセンス・プログラム・ライブラリーと関連しているか、あるいは多国語ライブラリーと関連しているかを判別します。

トップ

ライセンス・プログラムの言語 (LNG)

ライセンス・プログラムを復元するために使用される各国語バージョン(NLV)を指定します。保管媒体のライセンス・プログラムの言語機能がシステム言語機能と一致している場合には、言語オブジェクトはライセンス・プログラムのライブラリーに復元されます。言語機能が一致していない場合には、言語オブジェクトはその言語機能の多国語ライブラリーに復元されます。

考えられる値は次の通りです。

***PRIMARY**

指定されたライセンス・プログラムについてオペレーティング・システムの言語機能が復元されます。

注: オプション20でGO LICPGMを使用して、オペレーティング・システムの1次言語を表示します。

***SAVVOL**

装てんされたボリューム上の言語ファイルがライセンス・プログラム用に復元されます。このオプションは、DEV(*SAVF)の場合には無効です。

機能コード

ライセンス・プログラムの復元する言語ファイルのNLV IDを指定してください。機能識別の詳細と弊社提供の機能コードのリストは、INSTALL, UPGRADE, OR DELETE I5/OS AND RELATED SOFTWARE BOOK (SC41-5120)にあります。

トップ

出力 (OUTPUT)

オブジェクトの状況についての情報を示すリストを作成するかどうかを指定します。このリストは、指定されたパラメーター値およびすべてのオブジェクト（復元されたものおよび復元されなかったもの）を示します。各オブジェクトの機密保護についての情報が復元オブジェクト用にリストされます。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

出力は作成されません。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

トップ

リリース (RLS)

復元されるライセンス・プログラムのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*FIRST

配布媒体で見つかった最初のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルが復元されます。

リリース・レベル

VXRYMZの形式でリリース・レベルを指定してください。ここで、VXはバージョン番号、RYはリリース番号、そしてMZはモディフィケーション・レベルです。変数XおよびYは0から9の数字、変数Zは0から9の数字またはAからZの文字とすることができます。

トップ

リリースの置き換え (REPLACERLS)

置き換えられるライセンス・プログラムのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ONLY

現在導入されているライセンス・プログラムのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルだけが置き換えられます。

***NO** システムに現在導入されているライセンス・プログラムは置き換えられません。復元されるライセンス・プログラムは、現在導入されているライセンス・プログラムと異なったリリースでなければなりません。復元されるライセンス・プログラムが導入されているプログラムと同じライブラリーに存在している場合には、ライセンス・プログラムがどのライブラリーに復元されるかを示すために一時変更パラメーターを指定しなければなりません。

リリース・レベル

VXRYMZの形式でリリース・レベルを指定してください。ここで、VXはバージョン番号、RYはリ

リース番号, そしてMZはモディフィケーション・レベルです。変数XおよびYは0から9の数字, 変数Zは0から9の数字またはAからZの文字とすることができます。

トップ

ボリューム識別コード (VOL)

オブジェクト復元元である媒体のボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは, データが保管された時と同じ順序で入れなければなりません。復元されるファイルの先頭が入っているボリュームを装置に入れておく必要があります。

考えられる値は次の通りです。

***MOUNTED**

ライセンス・プログラムは, 現在装置プロンプト(DEV パラメーター) に指定された装置上にあるボリュームから復元されます。媒体ライブラリー装置の場合は, 使用されるボリュームは, テープ・カテゴリ設定(SETTAPCGY)コマンドによってマウントされたカテゴリの次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には, この値を指定することはできません。

ボリュームID

1つまたは複数のボリュームのIDを装置に入っていて, ライセンス・プログラムの復元に使用される順序で指定してください。最大75のボリュームID を指定することができます。

トップ

順序番号 (SEQNBR)

復元処理に使用する順序番号を指定します。このオプションが有効なのはテープ装置の場合だけです。

考えられる値は次の通りです。

***SEARCH**

装置に入っているボリュームから, 指定されたライセンス・プログラムまたはライセンス・プログラム・オプションのラベルと一致するIDをもつデータ・ファイルが検索されます。一致するものが見つかり, そのオブジェクトが復元されます。装置での最後の操作で最後の操作の終了位置にテープを位置付けることを指示する*LEAVEが媒体の終わりオプションプロンプト(ENDOPTパラメーター) に指定された場合には, ファイルの検索はテープの現在位置より先の最初のデータ・ファイルから開始されます。最後の操作の媒体の終わりオプションプロンプト(ENDOPTパラメーター) に*LEAVEが使用されていない場合, あるいは操作の後でテープが手操作で巻き戻された場合には, 検索はボリューム上の最初のデータ・ファイルから開始されます。

ファイル順序番号

復元処理に使用するファイルの順序番号を指定してください。有効な値の範囲は1から16777215です。

トップ

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

復元操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームにおいて自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されません。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合には、*UNLOADがサポートされるただ1つの特殊値であり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

[トップ](#)

保管ファイル (SAVF)

プロダクトが入っている保管ファイルの修飾名を指定します。

保管ファイルの名前は、次のライブラリー値のいずれかで修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

保管ファイル名

保管ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

ライセンス・プログラムを復元する先のライブラリーを指定します。この機能は、すべてのライセンス・プログラムでサポートされているとは限りません。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

ライセンス・プログラムは指定されたライブラリーに復元されます。

ライブラリー名

ライセンス・プログラムを復元する先のライブラリーの名前を指定してください。最大11のライブラリーを指定することができます。

[トップ](#)

言語ライブラリー (LNGLIB)

2次言語オブジェクトを復元する先の2次言語ライブラリーを指定します。この機能は、すべてのライセンス・プログラムでサポートされているとは限りません。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

ライセンス・プログラムは指定された2次言語ライブラリーに復元されます。

ライブラリー名

ライセンス・プログラムを復元する先の2次言語ライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

フォルダー (FLR)

ライセンス・プログラムを復元する先のルート・フォルダーの名前を指定します。この機能は、すべてのプロダクトでサポートされているとは限りません。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

指定されたルート・フォルダーを使用します。

フォルダー名

ルート・フォルダーの名前を指定してください。ルート・フォルダーは、他のすべてのフォルダーが入っているシステム上のフォルダーです。

[トップ](#)

コード・ホーム・ディレクトリー (CODHOMEDIR)

プロダクトのコード部分が復元されるディレクトリーを指定します。この機能は、すべてのプロダクトでサポートされているわけではありません。

注: このパラメーターは、FLRパラメーターと一緒に使用することはできません。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

プロダクトのコード部分は、パッケージ化または前に導入された時に指定されたディレクトリーに復元されます。*SAMEは、唯一のパラメーター値として、あるいはディレクトリーのリスト内に指

定することができます。リスト内で使用された場合には、*SAMEは、一定のディレクトリーが未変更のままですが、他のディレクトリーはプロダクトがパッケージ化または前に導入された時のものと異なることがあるということを指定します。

***PROMPT**

使用されるコード・ディレクトリーが表示されます。プロダクトが現在導入されていない場合には、ディレクトリー名を変更することができます。

パス名 プロダクトのコード部分が復元されるホーム・パス・ディレクトリー名を指定してください。最大300のディレクトリーを指定することができます。未変更のディレクトリー名項目の場合には、パス名に*SAMEを指定することができます。

[トップ](#)

言語ホーム・ディレクトリー (LNGHOMEDIR)

プロダクトの言語部分が復元されるディレクトリーを指定します。この機能は、すべてのプロダクトでサポートされているわけではありません。

注: このパラメーターは、FLRパラメーターと一緒に使用することはできません。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

プロダクトの言語部分は、パッケージ化または前に導入された時に指定されたディレクトリーに復元されます。*SAMEは、唯一のパラメーター値として、あるいはディレクトリーのリスト内に指定することができます。リスト内で使用された場合には、*SAMEは、一定のディレクトリーが未変更のままですが、他のディレクトリーはプロダクトがパッケージ化または前に導入された時のものと異なることがあるということを指定します。

***PROMPT**

使用される言語ディレクトリーが表示されます。プロダクトが現在導入されていない場合には、ディレクトリー名を変更することができます。

パス名 プロダクトの言語部分が復元されるホーム・パス・ディレクトリー名を指定してください。最大300のディレクトリーを指定することができます。未変更のディレクトリー名項目の場合には、パス名に*SAMEを指定することができます。

[トップ](#)

強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)

ユーザー・オブジェクトを、そのオブジェクトの復元時にオペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために必要な形式に変換するかどうかを指定します。

注:

1. このパラメーターが適用されるのは、*MODULE, *PGM, *SRVPGM,および*SQLPKG オブジェクト・タイプのユーザー・オブジェクトの場合だけです。
2. オブジェクトには変換する作成データ (識別可能または不能) が入っていない必要があります。

3. オブジェクトは（オペレーティング・システムの前のバージョン用に形式設定されているので）変換する必要がありますが、この復元操作中に変換されない場合には、そのオブジェクトは初めて使用されるときに自動的に変換されます。

単一値

*SYSVAL

オブジェクトはQFRCCVNRSTシステム値の値に基づいて変換されます。

***NO** オブジェクトは復元操作中に変換されません。

注: FRCOBJCVN(*NO)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値の値は"0"または"1"のいずれかでなければなりません。

要素1: 復元中変換

***YES** オブジェクトは復元操作中に変換されます。

注:

1. FRCOBJCVN(*YES *RQD)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値は値"0", "1", または"2"でなければなりません。FRCOBJCVN(*YES *RQD)はQFRCCVNRST値"0"または"1"を指定変更します。FRCOBJCVN(*YES *ALL)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTは任意の有効な値をもつことができ、FRCOBJCVN(*YES *ALL)はQFRCCVNRSTシステム値を指定変更します。
2. この値を指定すると、復元操作の時間は増加しますが、最初に使用するとき変換する必要性がなくなります。

要素2: 変換するオブジェクト

***RQD** オブジェクトが変換されるのは、現行オペレーティング・システムによって使用するために変換が必要な場合だけです。オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

***ALL** すでに現行形式になっているオブジェクトも含めて、すべてのオブジェクトが現行の形式に関係なく変換されます。ただし、オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

トップ

例

例1:省略時値を使用してプログラムを復元

```
RSTLICPGM LICPGM(5722WDS) DEV(TAP01)
```

このコマンドは、WEBSphere DEVELOPMENT STUDIO (5722WDS)ライセンス・プログラムをシステムに復元します。ライセンス・プログラム・オブジェクトが入っているテープをTAP01 テープ装置に入れなければなりません。他のパラメーターが指定されていないので、コマンドには省略時の値が使用されます。

例2:プロダクトの3番目のバージョンの復元

```
RSTLICPGM LICPGM(1MYPROD) OPTION(*BASE)
DEV(TAP01) RLS(V5R2M0)
REPLACERLS(*NO) LIB(A B C)
```

このコマンドは、V5R2M0 1MYPRODプロダクトの基本部分が現在システムに導入されていない場合にV5R2M0 1MYPRODプロダクトの基本部分をシステムに復元します。

例3:プロダクトの1つのバージョンを他のバージョンに重ねて復元

```
RSTLICPGM LICPGM(2MYPROD) OPTION(*BASE)
          DEV(TAP01) RLS(*FIRST)
          REPLACERLS(*ONLY)
```

このコマンドは、TAP01装置のテープで見つかった2MYPRODプロダクトの基本部分の最初のバージョン、リリース、モディフィケーション・レベルを復元します。テープ上のプロダクトの基本部分のバージョン、リリース、モディフィケーション・レベルがシステム上のプロダクトの基本部分のバージョン、リリース、モディフィケーション・レベルに一致するかどうかには関係ありません。

例4:保管ファイルからのプロダクトの復元

```
RSTLICPGM LICPGM(5722WDS) DEV(*SAVF) SAVF(MYLIB/MYSAVF)
```

このコマンドは、MYLIB中の保管ファイルMYSAVFからWEBSHERE DEVELOPMENT STUDIO (5722WDS) ライセンス・プログラムをシステムに復元します。他のパラメーターが指定されていないので、コマンドには省略時の値が使用されます。

例5:保管ファイルからのプロダクトの3番目のバージョンの復元

```
RSTLICPGM LICPGM(1MYPROD) OPTION(*BASE)
          DEV(*SAVF) RLS(V5R2M0)
          REPLACERLS(*NO) LIB(A B C) SAVF(MYLIB/MYSAVF)
```

このコマンドは、V5R2M0 1MYPRODプロダクトの基本部分が現在システムに導入されていない場合に、V5R2M0 1MYPRODプロダクトの基本部分をMYLIB中の保管ファイルMYSAVFからシステムに復元します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF3D94

プロダクトが保管ファイル中に見つからなかった。

CPF3D96

プロダクト&1オプション&2リリース&4のオブジェクトは復元されなかった。

CPF37A2

導入を実行できない。

CPF3728

装置&1が他の装置と一緒に指定されている。

CPF3733

&3の&2 &1で前に損傷が起こっている。

CPF3739

&3のデータベース・ファイル&1のメンバーに損傷がある。

CPF3820

&1オプション&2の&4オブジェクトが復元されなかった。

CPF3880

言語オブジェクトが存在していない。

CPF3884

ライセンス・プログラム&1オプション&2は処理されなかった。

CPI36C9

PTFの除去中にエラーが起こった。

[トップ](#)

オブジェクト復元 (RSTOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト復元(RSTOBJ)コマンドは、1つのコマンドを使用してテープまたは光ディスク・ボリューム上、あるいは保管ファイルに保管された1つのライブラリーにある1つのオブジェクトまたは1グループのオブジェクトをシステムに復元します。復元するオブジェクトは、オブジェクト保管(SAVOBJ)、変更済みオブジェクト保管(SAVCHGOBJ)、またはライブラリー保管(SAVLIB)コマンドによって保管されている場合があります。RSTOBJコマンドは、このコマンドに指定された各オブジェクトのオブジェクト記述および内容を復元します。

ジョブ待ち行列、ユーザー定義のメッセージ待ち行列、論理ファイル、およびユーザー待ち行列の場合には、オブジェクト記述だけが復元され、オブジェクトの内容は復元されません。しかし、論理ファイルのアクセス・パスは、保管コマンドでACCPH(*YES)を指定すると保管することができます。このように保管した場合は、アクセス・パスを復元することができます。アクセス・パス復元の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「データベース」情報を参照してください。出力待ち行列上のスプール・ファイルの内容は、これらが保管されている場合に、スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)パラメーターに*NEWを指定することによって復元することができます。

オブジェクトが保管された時にそのオブジェクトの記憶域が解放されていたり、あるいはオブジェクトが保管された後に削除されていた場合であっても、このコマンドを使用して、オブジェクトを復元することができます。記憶域が保管操作の一部として解放されていない場合には、各オブジェクトはそれが前に占めていた記憶域の同一域に復元されます。復元中のオブジェクトのバージョンがシステム内のバージョンより大きい（たとえば、ファイルの保管済みバージョンにまだ存在している、システムから削除されたデータ・レコードなど）場合は、そのオブジェクトに必要な追加記憶域が獲得されます。オブジェクトの保管済みバージョンが小さい（たとえば、システムに追加されるデータ・レコードなど）場合は、そのオブジェクト用に獲得されたスペースはそのオブジェクトに割り当てられたまま残り、そのオブジェクトによって使用可能です。

論理ファイルのアクセス・パスが保管された（オブジェクトの保管時にACCPH(*YES)が指定された）場合に、アクセス・パスは次の場合に復元されます。(1) 基礎になる物理ファイルもすべて同一復元コマンドで復元されている、(2)論理ファイルもすべて同一復元コマンドで復元されているか、あるいは論理ファイルがすでにシステム上に存在している（再作成バージョンではなく同一ファイルが存在している）、および(3)論理ファイルがまだシステム上に存在している場合にその論理ファイルに対してMAINT(*IMMEDまたは*DLY)が有効になっている。

記憶域が解放された場合、システムは、ファイル、モジュール、プログラム、サービス・プログラム、ジャーナル・レシーバー、および構造化照会言語(SQL)パッケージのそれぞれの内容（データ部分のみ）を記憶するために必要な記憶スペースを検出します。オブジェクトが削除されたか、あるいは復元を別のシステムに行っているために、システム上に存在しない場合、システムは不明のオブジェクトごとにすべて（記述およびデータ部分）を記憶する記憶域を検出しなければなりません。

システム省略時所有者のユーザー・プロファイル(QDFTOWN)は、所有者がシステムに認識されないままシステムに復元したオブジェクトの省略時の所有者になります。

システム上の既存のオブジェクトの上に重ねてオブジェクトを復元する場合には、既存のオブジェクトの監査値が保持されます。オブジェクトをシステムに対して新規オブジェクトとして復元する場合は、オブジェクト監査値は媒体から復元されます。

注意:ライブラリーQSYSへのライセンス・プログラムの復元には、このコマンドは使用しないでください。予測できない結果が起こることがあります。

制約事項:

- このコマンドは、共通認可(*EXCLUDE)なしで出荷されます。
- 現在システムに存在していない保管ファイルの復元時には、保管ファイル作成(CRTSAVF)コマンドに対する使用(*USE)権限が必要です。
- OUTFILEパラメーターを使用して既存のデータベース・ファイルへの保管または復元を行う場合には、出力データベース・ファイルが入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。
- OUTFILEパラメーターに指定された復元リスト・ファイルおよびデータベース・ファイルの一時変更を除いて、このコマンドは、現在ジョブで効力を持っているすべてのファイル一時変更を無視します。
- システム保管(SAVSYS)特殊権限または以下のすべてのオブジェクト権限が必要です。
 - 指定したライブラリーおよび保管ファイル・ライブラリーに対する追加(*ADD)および実行(*EXECUTE)権限。
 - オブジェクトがすでにシステム上のライブラリーに存在している場合には、指定した各オブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限、あるいはその所有者であること。メッセージ待ち行列オブジェクトには*OBJEXISTおよび使用(*USE)権限が必要です。オブジェクトがまだシステム上のライブラリーに存在していない場合には、復元中の各オブジェクトを所有しているユーザー・プロフィールに対する*ADD権限が必要です。スプール・ファイル・データの場合、復元される出力待ち行列に対して*OBJEXIST権限が必要です。
 - VOL(*SAVVOL)が指定された場合には、保管元ライブラリーに対する*USE権限。
- RSTOBJコマンドはライブラリーのデータ・ディクショナリーまたはその関連するデータベース・ファイルを復元しません。これを行うためには、RSTLIBコマンドを使用しなければなりません。
- 保管ファイルから復元するには、保管ファイルに対する*USE権限が必要です。さらに、テープまたは光ディスク装置から復元する場合には、装置記述に対する*USE権限が必要です。
- 媒体定義を使用する場合には、その媒体定義に対する*USE権限および媒体定義ライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
- このコマンドを使用してOPMプログラムを復元する場合は、プログラムの復元中は、現在システム内に存在しているそのプログラムのコピーが実行中であってはけません。これが発生した場合には、実行中のプログラムは失敗して、予測できない動作を行なう場合があります。
- また、別個のコマンドで保管されたオブジェクトは別個のコマンドで復元しなければなりません。コマンドを1つしか使用しない場合は、オブジェクトの一部が復元されません。
- ユーザー・ドメイン・オブジェクトのユーザー空間(*USRSPC),ユーザー索引(*USRIDX),またはユーザー待ち行列(*USRQ)がシステム値QALWUSRDMN (ライブラリー内でユーザー・ドメイン・オブジェクトが使用可能)で許可されていないライブラリーに復元された場合には、そのオブジェクトはシステム・ドメイン・オブジェクトに変換されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 1
SAVLIB	保管されたライブラリー	単一値: *ANY その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 2
DEV	装置	単一値: *SAVE, *MEDDFN その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 3
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 74 回の繰り返し): *ALRTBL, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *DTAARA, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *NODGRP, *NODL, *NWSCFG, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQRV, *QRYDFN, *RCT, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *S36, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	オプション, 定位置 4
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED, *SAVVOL その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション, 定位置 5
SEQNBR	順序番号	1-16777215, <u>*SEARCH</u>	オプション, 定位置 6
LABEL	ラベル	文字値, <u>*SAVLIB</u>	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OPTION	オプション	*ALL, *NEW, *OLD, *FREE	オプション
FILEMBR	ファイル・メンバー	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ファイル	名前, <u>*ALL</u>	
	要素 2: メンバー	単一値: *ALL, *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 総称名, 名前	
MBROPT	データベース・メンバー・オプション	*MATCH, *ALL, *NEW, *OLD	オプション
SPLFDTA	スプール・ファイル・データ	*NEW, *NONE	オプション
SAVDATE	保管日	日付	オプション
SAVTIME	保管時刻	時刻	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	単一値: *NONE, *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *AUTL, *FILELVL, *OWNER, *PGP	オプション
FRCOBJCVN	強制オブジェクト変換	単一値: *SYSVAL, *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 復元中変換	<u>*YES</u>	
	要素 2: 変換するオブジェクト	*RQD, *ALL	

キーワード	記述	選択項目	注
RSTLIB	復元先ライブラリー	名前, <u>*SAVLIB</u>	オプション
OUTPUT	出力	<u>*NONE</u> , *PRINT, *OUTFILE	オプション
MEDDFN	媒体定義	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 媒体定義	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, *	オプション
RSTASPDEV	復元先ASP装置	名前, <u>*SAVASPDEV</u>	オプション
RSTASP	復元先ASP番号	1-32, <u>*SAVASP</u>	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	
INFTYPE	出力情報のタイプ	<u>*OBJ</u> , *MBR	オプション
OMITLIB	除外するライブラリー	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
OMITOBJ	除外するオブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, <u>*NONE</u> , *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	文字値, <u>*ALL</u>	

トップ

オブジェクト (OBJ)

復元する1つまたは複数のオブジェクトの名前を指定します。指定したオブジェクトは、検索値を満たし、指定したオブジェクトのどれかを含む最初のファイルから復元されます。同じライブラリーの複数のファイルがテープに入っている場合には、正しいオブジェクトがすべて確実に復元されるように、テープ・ファイル順序番号の指定が必要な場合もあります。

指定したオブジェクトのうちファイルに入っていないものがあつた場合には、その見つからなかったファイルについて診断メッセージが出されます。完了メッセージには、復元されたオブジェクトと復元されなかったオブジェクトの総数が示されます。

コマンドの実行時に**オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)**パラメーターが指定されていない場合には、そのパラメーターの記述にリストされているすべてのオブジェクト・タイプが媒体上の指定されたライブラリーまたは保管ファイルにあり、しかも指定された名前を持っていれば、それらがすべて復元されます。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)およびオプション (OPTION)パラメーターに指定された値に基づき、指定されたライブラリーから保管されたすべてのオブジェクトが復元されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 指定したライブラリー中の復元するオブジェクトのグループの1つまたは複数の総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前にアスタリスクが指定されていない場合には、システムはその名前が完全なオブジェクト名であるとみなします。

名前 復元する特定のオブジェクトの1つまたは複数の名前を指定してください。総称名と特定名の両方を同じコマンドに指定することができます。

トップ

保管されたライブラリー (SAVLIB)

保管されたオブジェクトが含まれていたライブラリーを指定します。復元先ライブラリー (RSTLIB)パラメーターの*SAVLIBが指定されているか、あるいはその省略時の値の場合には、これがオブジェクトの復元先のライブラリーの名前にもなります。

注:

- 複数のライブラリー、単一値、または総称ライブラリー値を指定した場合には、以下のことが必要です。
 - 装置 (DEV)パラメーターに*SAVFを指定してはなりません。
 - 復元先ライブラリー (RSTLIB)パラメーターに*SAVLIBを指定しなければなりません。
 - ラベル (LABEL)パラメーターに*SAVLIBを指定しなければなりません。
 - 光ディスク・ファイル (OPTFILE)パラメーターに*を指定するか、あるいはそれが*で終わっていないなければなりません。
- 復元に選択するテープまたは光ディスク・ファイルには、このパラメーターに指定する値と一致しないライブラリーが含まれている場合があります。このパラメーターは、テープ・ファイルの省力時のLABEL値および光ディスク・ファイルの省力時のOPTFILE値を判別するのに使用されますが、復元操作ではこのパラメーターが保管ライブラリーと一致することは検証されません。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ANY** 順序番号 (SEQNBR)パラメーターに指定された順序番号で始まるテープにあるすべての保管ライブラリーの最初のバージョンからオブジェクトが復元されるか、あるいはOPTFILEパラメーターに指定されたディレクトリー内の光ディスク媒体にあるすべての保管ライブラリーからオブジェクトが復元されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 復元するライブラリーの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 復元するライブラリーの名前を指定してください。復元されるライブラリーの名前は、ライブラリーが保管された時に使用された名前と同じでなければなりません。

トップ

装置 (DEV)

復元操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、装置記述によってシステム上ですでに認識されていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

単一値

*SAVF

復元操作は、**保管ファイル (SAVF)**パラメーターに指定された保管ファイルを使用して実行されます。

*MEDDFN

復元操作は、**媒体定義 (MEDDFN)**パラメーターに指定された媒体定義で識別された装置および媒体を使用して実行されます。

その他の値

光ディスク装置名

復元操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

復元操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

復元操作に使用される1つ以上のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を使用する場合には、指定する唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置（最大4つまで）を使用する場合には、使用する順序で装置の名前を指定してください。複数のテープ・ボリュームを復元するときに複数のテープ装置を使用すると、テープ・ボリュームを巻き戻しながら、別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理できます。複数の装置を並列に使用するには、媒体定義が指定されていなければなりません。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

復元されるシステム・オブジェクトのタイプを指定します。

単一値

*ALL

すべてのオブジェクト・タイプの、（指定したライブラリーから保管された）指定したオブジェクトが復元されます。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターにも*ALLが指定されている場合には、そのライブラリーについて保管されたすべてのオブジェクトが復元されます。

その他の値

オブジェクト・タイプ

コマンド(*CMD)、ファイル(*FILE)、またはプログラム(*PGM)など、復元するオブジェクトの各タイプの値を指定してください。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4（プロンプト）を押します。オブジェクト・タイプの記述については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

注: *CFGLオブジェクト・タイプは、V2R2M0より前のリリースで保管されているオブジェクトからだけオブジェクト復元(RSTOBJ)コマンドを使用して復元することができます。V2R2M0以降のリリースで保管された*CFGLオブジェクト・タイプは、構成復元(RSTCFG)コマンドを使用して復元されます。

トップ

ボリューム識別コード (VOL)

オブジェクト復元元である媒体のボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、データが保管された時と同じ順序で入れなければなりません。復元されるファイルの先頭が入っているボリュームを装置に入れておく必要があります。

注: 復元されるオブジェクトのバージョンは、特定のバージョンが保管日 (SAVDATE)および保管時刻 (SAVTIME)パラメーターで識別されない限り、指定されたロケーションで最初に見つかったバージョンです。

単一値

***MOUNTED**

オブジェクトは、装置 (DEV)パラメーターに指定された装置に入っているボリュームから復元されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリー設定 (SETTAPCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリー中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

***SAVVOL**

システムは、保管または復元ヒストリー情報を使用して、オブジェクトの最新保管バージョンが入っているボリュームを判別します。

注: これが光ディスク装置からの復元である場合には、ボリューム名の最初の6文字のみが使用可能です。光ディスク媒体のボリューム名が6文字を超えている場合には、そのボリュームが見つからない場合があります。光ディスク媒体の名前が6文字を超えている場合は、VOL(*SAVVOL)を使用する代わりに、完全なボリューム名またはファイル名を指定する必要があります。

*SAVVOLを指定した場合は、次の操作可能特性および制約事項が適用されます。

- DEVパラメーターに指定された装置の特性が、ライブラリーの最後に保管されたバージョンの装置およびロケーションと一致しない場合には、エラー・メッセージがユーザーに送られ、機能は終了します。
- コマンドによって指定されたロケーションにある装置に間違ったボリュームが入れられた場合には、オブジェクトを復元する前に、装置に入れなければならない最初のボリュームを識別するメッセージがシステム操作員に送られます。

- OBJ(*ALL)およびOBJTYPE(*ALL)を指定した場合には、オブジェクトがライブラリー表示 (DSPLIB)コマンドによって作成される表示画面に表示される順序になっているものと見なされず。RSTOBJコマンドで指定されたオブジェクト名およびタイプを使用して、復元操作で使用する保管済みオブジェクトのファイルを判別します。それぞれのSAVLIBコマンドまたはSAVOBJコマンドの実行ごとにファイルが1つ作成されます。選択されるファイルは、最後に保管されたものとみなされた最初のファイルです。処理のために選択されたファイルに保管されていないオブジェクト、またはさらに後から保管されたオブジェクトは復元されません。それぞれの未復元オブジェクトごとにエラー・メッセージがユーザーに送られます。
- *SAVVOLを指定した場合は、SAVDATEパラメーターおよびSAVTIMEパラメーターを指定することはできません。
- *SAVVOLを指定し、RSTLIB値がSAVLIB値と等しい場合には、OPTION(*NEW)を指定することはできません。
- *SAVVOLを指定する場合には、SEQNBR(*SEARCH)およびLABEL(*SAVLIB)を指定しなければなりません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの復元に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

トップ

順序番号 (SEQNBR)

テープが使用された時に、復元操作に使用される順序番号を指定します。

*SEARCH

装置のボリュームから、FROMLABELパラメーター値と一致するIDをもつデータ・ファイルが検索されます。一致するものが見つかり、そのオブジェクトが復元されます。テープ装置に対する最後の操作で**テープ終了オプション (ENDOPT)**パラメーターに、最後の操作が終了した位置にテープが位置づけられることを指示する*LEAVEが指定されていた場合には、現在のテープ位置を越えたところにある最初のデータ・ファイルからファイル検索が開始されます。最後の操作の**テープ終了オプション (ENDOPT)**パラメーターに*LEAVEが使用されなかった場合、あるいは操作の後でテープが手操作で巻き戻された場合には、検索はボリューム上の最初のデータ・ファイルから開始されます。

1から16777215

復元操作に使用するファイルの順序番号を指定してください。

トップ

ラベル (LABEL)

復元操作に使用されるデータ・ファイルを識別する名前を指定します。このラベルは保管コマンドで指定されたものでなければなりません。

*SAVLIB

ファイル・ラベルは**保管されたライブラリー (SAVLIB)**パラメーターに指定された名前です。

文字値 復元操作に使用されるデータ・ファイルのデータ・ファイルIDを指定してください。最大17文字を使用することができます。このオプションは単一ライブラリーの復元の場合にのみ有効です。

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

復元操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームにおいて自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されません。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合には、*UNLOADがサポートされるただ1つの特殊値であり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

保管ファイル (SAVF)

データを復元するために使用される保管ファイルを指定します。

注: 装置 (DEV)パラメーターに*SAVFが指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

修飾子1: 保管ファイル

名前 使用する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

オプション (OPTION)

各オブジェクトの復元の処理方法を指定します。

- *ALL** 保管済みライブラリー内のすべてのオブジェクトはそのライブラリーに復元されます。保管済みライブラリー内のオブジェクトは、システム・ライブラリー内の現行バージョンを置き換えます。現行バージョンがないオブジェクトはシステム・ライブラリーに追加されます。現在ライブラリー内にあるが、媒体上にないオブジェクトはライブラリー内に残ります。
- *NEW** 保管済みライブラリー内の、システム・ライブラリーの現行バージョンに存在していないオブジェクトだけがライブラリーに追加されます。システム・ライブラリーに認識されていないオブジェクトだけが復元されて、認識されているオブジェクトは復元されません。このオプションは、保管後に削除されたオブジェクトまたはこのライブラリーに対して新規のオブジェクトを復元します。システム・ライブラリーにすでに入っているバージョンが保管済みオブジェクトにある場合には、それらは復元されず、それぞれに関する通知メッセージが送信されますが、復元操作は続行されません。
- *OLD** 保管済みバージョンがあるライブラリー内のオブジェクトだけが復元されます。すなわち、現在ライブラリーに入っている各オブジェクトのバージョンが保管済みバージョンで置き換えられます。ライブラリーに対して認識されているオブジェクトだけが復元されます。すべての保管済みオブジェクトがもはやライブラリーのオンライン・バージョンの一部でない場合には、それぞれに関する通知メッセージが送信されますが、復元操作は続行されます。
- *FREE**
保管済みオブジェクトが復元されるのは、システム・ライブラリー内に存在していて、その空きスペースが解放されている場合だけです。各オブジェクトの保管済みバージョンはシステム上で以前に解放されたスペースに復元されます。このオプションは、保管時にスペースが解放されたオブジェクトを復元します。保管済みオブジェクトがすでにライブラリーの現行バージョンの一部でない場合、あるいはオブジェクト用のスペースが解放されていない場合には、そのオブジェクトは復元されず、それぞれに関する通知メッセージが送信されます。復元操作は続行されて、すべての解放済みオブジェクトが復元されます。

トップ

ファイル・メンバー (FILEMBR)

復元するデータベース・ファイル・メンバーを指定します。このパラメーターは、ファイル名およびメンバー名の2つの部分からなります。データベース・メンバー・オプション (MBROPT)パラメーターに *MATCHを指定した場合には、このパラメーターを指定することはできません。

ここで指定した各データベース・ファイルは、特定の名前、総称名、または*ALLのいずれかによってオブジェクト (OBJ)パラメーターにも指定しなければなりません。オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)パラメーターは、*ALLであるか*FILEを含んでいるかのいずれかでなければなりません。総称名は、データベース・ファイル名としては正しくありませんが、メンバー名としては使用することができます。重複ファイル名は使用することができません。

このパラメーターには、ファイル/メンバー要素リストの最大50の組み合わせを指定することができます。

要素1: ファイル

- *ALL** この値に続くメンバー名の値のリストは、OBJパラメーターで指示されたすべてのファイルに適用されます。

名前 復元するためにリストしたメンバーが入っているデータベース・ファイルの名前を指定してください。

要素2: メンバー

単一値

***ALL** すべてのメンバーが、指定されたファイルから復元されます。

***NONE**

指定されたファイルからメンバーは復元されません。ファイル記述だけが復元されます。

その他の値 (最大50個指定可能)

総称名 指定したファイルから復元するメンバーの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前にアスタリスクが指定されていない場合には、システムはその名前が完全なメンバー名であるとみなします。

名前 指定されたファイルから復元するメンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

データベース・メンバー・オプション (MBROPT)

システム上に存在しているデータベース・ファイルに対しては、復元するメンバーを指定します。

***MATCH**が使用されている場合には、保管されたファイルのメンバー・リストがシステム上の現行バージョンとメンバーごとに一致していなければなりません。ファイルを復元する場合には、存在していないファイルのすべてのメンバーが復元されます。

***MATCH**

保管されたメンバーは、それらの存在しているメンバーのリストが現行システム・バージョンのリストとメンバーごとに一致している場合に復元されます。**オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)**パラメーターで***ALL**が指定されている場合には、**MBROPT(*MATCH)**は無効です。

***ALL** 保管されたファイルにあるすべてのメンバーが復元されます。

***NEW** 新しいメンバー (システムに認識されていないメンバー) のみが復元されます。

***OLD** システムにとって既知のメンバーのみが復元されます。

[トップ](#)

スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)

スプール・ファイル・データおよび属性を復元するかどうかを指定します。

***NEW** 出力待ち行列とともに保管されたスプール・ファイル・データがシステムにすでにない場合には、復元される出力待ち行列ごとにこれが復元されます。

***NONE**

スプール・ファイル・データは復元されません。

[トップ](#)

保管日 (SAVDATE)

オブジェクトが保管された日付を指定します。最新の保管バージョンが復元されない場合、あるいは複数の保管バージョンが媒体ボリュームに存在する場合には、どのバージョンのオブジェクトを復元するかを示す日付を指定してください。ボリュームIDまたは*MOUNTEDをボリューム識別コード (VOL)パラメーターに指定したが、SAVDATEを指定しなかった場合には、復元されるオブジェクトのバージョンはそのボリュームで見つかった最初のバージョンです。このパラメーターが有効なのは、ボリュームIDまたは値*MOUNTEDがVOLパラメーターに指定されているか、あるいは保管ファイルが保管ファイル (SAVF)パラメーターに指定されている場合だけです。順序番号 (SEQNBR)パラメーターを指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

日付 復元するライブラリーが保管された日付を指定します。この日付はジョブ日付の形式で入力しなければなりません。

トップ

保管時刻 (SAVTIME)

オブジェクトが保管された時刻を指定します。

ボリュームIDまたは*MOUNTEDをボリューム識別コード (VOL)パラメーターに指定したが、このパラメーターを指定しなかった場合には、復元されるオブジェクトのバージョンはそのボリュームで見つかった最初のバージョンです。このパラメーターが有効なのは、保管日 (SAVDATE)パラメーターも指定されている場合だけです。

順序番号 (SEQNBR)パラメーターに番号を指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

時刻 復元するライブラリーが保管された時刻を指定します。時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ジョブで指定した時刻区切り記号を時、分、および秒の区切りに使用して、5桁または8桁のストリングを指定します。このコマンドをコマンド行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

トップ

オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)

保管したオブジェクトと復元されたオブジェクトとの間の相違が許されるかどうかを指定します。

注:

1. このパラメーターに*NONE以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。
2. 相違が検出された場合には、復元操作に関する最終メッセージは正常完了メッセージではなくエスケープ・メッセージになります。

相違のタイプには以下のものがあります。

- 権限リスト：保管されたオブジェクトには権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたないか、あるいはオブジェクトが存在せず保管システムと異なるシステムに復元されているかのどちらかです。

注：保管されるオブジェクトに権限リストがなかった場合には、このパラメーターは影響しません。オブジェクトが存在している場合には、既存のオブジェクトの権限リストとともにこれが復元されます。存在しない場合には、これは権限リストなしで復元されます。

- ファイル・レベルID：システム上のデータベース・ファイルの作成日時が、保管されたファイルの作成日時と一致しません。
- メンバー・レベルID：システム上のデータベース・ファイル・メンバーの作成日時が、保管されたメンバーの作成日時と一致しません。
- 所有権：システム上のオブジェクトの所有者が、保管操作からのオブジェクトの所有者と異なっている。
- 1次グループ：システム上のオブジェクトの1次グループが保管操作の時のオブジェクトの1次グループと異なっている。

単一値

*NONE

前述の相違のどれも復元操作では許可されていません。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

- *ALL 前述の相違のすべてが復元操作で許可されています。ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は、*FILELVL値と異なる取り扱いになります。ファイル・レベルの相違があって、データベース・メンバー・オプション (MBROPT)パラメーターに*ALLが指定された場合には、ファイルの既存のバージョンは名前変更され、ファイルの保管バージョンが復元されます。メンバー・レベルの相違があった場合には、メンバーの既存のバージョンは名前変更され、メンバーの保管バージョンが復元されます。この値では、保管されたデータは復元されますが、結果は正しくない可能性があります。復元されたデータと名前変更されたデータのどちらが正しいかを選択する必要があります。また、データベースに対して必要な訂正を行うことが必要になります。その他の相違の場合には、個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

その他の値 (最大4個指定可能)

*AUTL

権限リストの相違は許可されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは既存のオブジェクトの権限リストとともに復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元され、権限リストにリンクされます。権限リストが存在していない場合には、共通認可は*EXCLUDEに設定されます。

この値が指定されない場合には、権限リストの相違は許可されません。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元されますが、権限リストにはリンクされず共通認可が*EXCLUDEに設定されます。

*FILELVL

ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は許可されます。保管媒体上の物理ファイルがシステム上の物理ファイルとは異なるファイル・レベルIDまたはメンバー・レベルIDを持っている

ても、既存の物理ファイルの復元は試行されます。保管媒体上の形式レベルIDがシステム上の対応する物理ファイルの形式レベルIDと一致する物理ファイルの物理ファイル・データだけが復元されます。

この値が指定されない場合には、ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なるファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

***OWNER**

所有権の相違は許可されます。オブジェクトが保管したオブジェクトと異なる所有者でシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの所有者で復元されます。

この値が指定されない場合には、所有権の相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる所有者をもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

***PGP** 1次グループの相違は許可されます。保管したオブジェクトと異なる1次グループがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの1次グループとともに復元されます。

この値が指定されない場合には、1次グループの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる1次グループをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

トップ

強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)

ユーザー・オブジェクトを、そのオブジェクトの復元時にオペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために必要な形式に変換するかどうかを指定します。

注：

1. このパラメーターが適用されるのは、*MODULE, *PGM, *SRVPGM, および*SQLPKG オブジェクト・タイプのユーザー・オブジェクトの場合だけです。
2. オブジェクトには変換する作成データ（識別可能または不能）が入っていないなければなりません。
3. オブジェクトは（オペレーティング・システムの前のバージョン用に形式設定されているので）変換する必要がありますが、この復元操作中に変換されない場合には、そのオブジェクトは初めて使用されるときに自動的に変換されます。

単一値

***SYSVAL**

オブジェクトはQFRCCVNRSTシステム値の値に基づいて変換されます。

***NO** オブジェクトは復元操作中に変換されません。

注: FRCOBJCVN(*NO)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値の値は"0"または"1"のいずれかでなければなりません。

要素1: 復元中変換

***YES** オブジェクトは復元操作中に変換されます。

注：

1. FRCOBJCVN(*YES *RQD)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値は値"0"、"1"、または"2"でなければなりません。FRCOBJCVN(*YES *RQD)はQFRCCVNRST値"0"または"1"を指定変更します。FRCOBJCVN(*YES *ALL)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTは任意の有効な値をもつことができ、FRCOBJCVN(*YES *ALL)はQFRCCVNRSTシステム値を指定変更します。
2. この値を指定すると、復元操作の時間は増加しますが、最初に使用するときに変換する必要性がなくなります。

要素2: 変換するオブジェクト

***RQD** オブジェクトが変換されるのは、現行オペレーティング・システムによって使用するために変換が必要な場合だけです。オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

***ALL** すでに現行形式になっているオブジェクトも含めて、すべてのオブジェクトが現行の形式に関係なく変換されます。ただし、オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

トップ

復元先ライブラリー (RSTLIB)

オブジェクトを保管されたのと同じライブラリーに復元するか、あるいは別のライブラリーに復元するかを指定します。

***SAVLIB**

オブジェクトは、保管時と同じライブラリーに復元されます。

名前 保管オブジェクトが復元されるライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

オブジェクトの状況に関する情報を示すリストを作成して出力ファイルに入れるかどうかを指定します。このリストには、復元情報が表示され、復元されたすべてのオブジェクト、復元されなかったオブジェクト、および除外されたオブジェクトが表示されます。各オブジェクトの機密保護についての情報が復元オブジェクト用にリストされます。

***NONE**

出力は作成されません。

***PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

***OUTFILE**

出力は、出力を受け取るファイル (**OUTFILE**)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、OUTFILEパラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

媒体定義 (MEDDFN)

データを復元するために使用される装置および媒体を識別する媒体定義(*MEDDFN)オブジェクトを指定します。媒体定義の作成および使用の詳細については、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)、ならびにISERIES INFORMATION CENTERのサイト[HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter)で、API解説(英文)の媒体定義作成API (CREATE MEDIA DEFINITION API)を参照してください。

媒体定義を指定した場合には、VOL, SEQNBR, SAVF,およびOPTFILEパラメーターは指定することができません。ボリュームIDおよび順序番号は、媒体定義に指定します。

修飾子1: 媒体定義

名前 使用する媒体定義の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

復元操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

***** システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

'光ディスクのパス名/*'

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

'光ディスク・ファイル・パス名'

光ディスク・ファイルのパス名を指定してください。

トップ

復元先ASP装置 (RSTASPDEV)

データが復元される補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

注: RSTASPDEVパラメーターかRSTASPパラメーターのいずれか一方を指定するか、両方とも指定しないことができます。

*SAVASPDEV

データは、保管された時と同じASPに復元されます。

名前 使用するASP装置の名前を指定します。

[トップ](#)

復元先ASP番号 (RSTASP)

オブジェクトが、その保管元の補助記憶域プール(ASP)、システムASP (ASP番号1)、または基本ユーザーASP (ASP番号2から32)に復元されるかどうかを指定します。

一部のオブジェクトはユーザーASPには復元できません。ユーザーASPに復元できるオブジェクト・タイプの詳細は、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)にあります。ライブラリーがシステムASPに存在しているか、あるいはシステムASPに復元しようとしている場合には、ジャーナル、ジャーナル・レシーバー、および保管ファイルを基本ユーザーASPに復元することができます。その他のすべてのオブジェクト・タイプがライブラリーのASPに復元されます。

重要: システム・ライブラリーまたはプロダクト・ライブラリー(Qまたは#で始まるライブラリー) は、ユーザーASP内に作成されたり、ユーザーASPに復元されてはいけません。そうすると、予測できない結果の原因になる可能性があります。

*SAVASP

オブジェクトは保管前と同じASPに復元されます。

1から32

ASP番号を指定します。指定したASPが1の場合には、指定したオブジェクトはシステムASPに復元され、指定したASPが2から32の場合には、オブジェクトは指定された基本ユーザーASPに復元されます。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、情報を指示するデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。新規ファイルを作成する場合には、システムはモデルとして形式名QSRRSTでQSYS内のQASRRSTOを使用します。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンドからの出力が指示されるデータベース・ファイルの名前を指定してください。このファイルが存在していない場合には、指定したライブラリーに作成されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそのメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終りに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

トップ

出力情報のタイプ (INFTYPE)

印刷するか、データベース・ファイルに向ける情報のタイプを指定します。

***OBJ** リストには、復元するように要求された各オブジェクトの項目が入ります。

***MBR** リストには、復元するように要求された各オブジェクトの項目、データベース・ファイル・メンバー、およびスプール・ファイルが入ります。

トップ

除外するライブラリー (OMITLIB)

復元操作から除外するライブラリーのリストを指定します。

単一値

*NONE

復元操作から除外するライブラリーはありません。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 除外するライブラリーの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

ライブラリー名

復元操作から除外するライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

除外するオブジェクト (OMITOBJ)

操作から除外するオブジェクトを指定します。最大300までのオブジェクトまたは総称オブジェクトの値を指定することができます。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

*NONE

操作から除外されるオブジェクトはありません。

***ALL** 指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトが操作から除外されます。

総称名 除外するオブジェクトの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***ALL** 指定されたオブジェクトは、操作の一部であるすべてのライブラリーから除外されます。

総称名 除外するオブジェクトが入っているライブラリーの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定します。

要素2: オブジェクト・タイプ

***ALL** オブジェクト名に指定された値に基づいて、すべてのオブジェクト・タイプが操作から除外されます。

文字値 操作から除外するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4（プロンプト）を押します。オブジェクト・タイプの記述については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

トップ

例

例1:最新の保管バージョンの復元

```
RSTOBJ OBJ(PAYROLL) SAVLIB(LIBX) DEV(TAP01)
        OBJTYPE(*PGM) VOL(*SAVVOL)
```

このコマンドは、LIBXから保管されたPAYROLLという名前のプログラムをLIBXに復元します。プログラムの最新の保管バージョンを復元するために、TAP01という名前のテープ装置が使用されます。

例2:保管日付および時刻の指定

```
RSTOBJ OBJ(PAY*) SAVLIB(LIBX) DEV(OPT01) VOL(ABCD)
        OPTION(*OLD) SAVDATE(102202)
        SAVTIME(143000) RSTLIB(LIBY)
```

名前がPAYで始まり、10/22/02の日付の14:30:00に光ディスク・ボリュームABCDのLIBXという名前のライブラリーから保管されたすべてのオブジェクトがLIBYに復元されます。ボリュームABCDはOPT01という名前の光ディスク装置に入れていることが必要です。OPTION(*OLD)が指定されているので、復元されるのは、システム上のLIBYと光ディスク・ボリューム上のLIBXの両方で同じオブジェクト名およびタイプをもつオブジェクトだけです。

例3: QGPLライブラリーへの新規プログラムの追加

```
RSTOBJ OBJ(NEWPROG) SAVLIB(QGPL) DEV(OPT01) OBJTYPE(*PGM)
        VOL(PGMS) OPTION(*NEW) ALWOBJDIF(*AUTL)
```

NEWPROGという名前の新規プログラムが汎用ライブラリーQGPLに追加されます。これは、OPT01という名前の光ディスク装置に挿入されたPGMSというラベルのボリュームから復元されます。オブジェクトが別のシステムで保管され、権限リストにリンクされていた場合には、それがこのシステムでも同じ名前と権限リストにリンクされます。

例4:出力リストの印刷

```
RSTOBJ OBJ(*ALL) SAVLIB(LIB) DEV(TAP01) OBJTYPE(*PGM)
        VOL(SVOL) SEQNBR(2) SAVDATE(082392)
        SAVTIME(143000) OUTPUT(*PRINT)
```

SVOLという名前のテープ・ボリューム上の保管バージョンに存在するLIBという名前のライブラリーから保管され、順序番号2で08/23/92の日付の14:30:00に保管されたすべてのプログラムが、LIBという名前のライブラリーに復元されます。復元されたすべてのオブジェクトだけでなく、復元されなかったオブジェクトも含む出力リストが提供されます。

例5:ジャーナル・レシーバーの復元

```
RSTOBJ OBJ(*ALL) SAVLIB(BACKUP) DEV(*SAVF)
        OBJTYPE(*JRNRCV) SAVF(SAVEJ) RSTASP(3)
```

BACKUPという名前のライブラリーからSAVEJという名前の保管ファイルに保管されたすべてのジャーナル・レシーバーが、BACKUPという名前のライブラリーに復元されます。ジャーナル・レシーバーは、基本ユーザーASP 3に復元されます（ただし、それがBACKUPという名前のライブラリーおよび別のASPにすでに存在していないか、あるいはASP 3にライブラリーが含まれていない場合に限りです）。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF370C

ALWOBJDIFパラメーターが認可されていない。

CPF3705

&3の&2 &1はジャーナル処理されなかった。

CPF3706

&2 &1はライブラリー&3に復元されなかった。

CPF3707

&2の保管ファイル&1にデータが入っていない。

CPF3709

テープ装置は同じ密度をサポートしていない。

CPF3727

装置名リストで重複する装置&1が指定された。

CPF3728

装置&1が他の装置と一緒に指定されている。

CPF3730

ライブラリー&3の&2 &1は認可されていない。

CPF3731

ライブラリー&3の&2 &1を使用することができない。

CPF3733

&3の&2 &1で前に損傷が起こっている。

CPF3738

保管または復元に使用した装置&1に損傷がある。

CPF3739

&3のデータベース・ファイル&1のメンバーに損傷がある。

CPF374C

オブジェクトはASP &2に復元されない。

CPF3743

ファイルを復元、表示またはリストすることができない。

CPF3748

ライブラリー&1のオブジェクト情報に損傷がある。

CPF3767

装置&1が見つからない。

CPF3768

装置&1はコマンドに対して正しくない。

CPF3769

媒体上で見つかったファイルが保管／復元ファイルでない。

CPF3770

ライブラリー&1について保管または復元されたオブジェクトはない。

CPF3773

&1個のオブジェクトが復元された。&2個が&4に復元されませんでした。

CPF3780

ライブラリー&1に指定したファイルが見つからない。

CPF3781

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3782

&2のファイル&1は保管ファイルでない。

CPF3783

VOL(*SAVVOL)の位置を調べることができない。オブジェクトは復元されません。

CPF3784

DEVパラメーターに指定した復元装置はVOL(*SAVVOL)装置と一致していない。

CPF3791

&3の&2 &1の処理中にファイル&4の終わりになった。

CPF3793

マシンまたはASPの記憶域限界に達しました。

CPF3794

保管または復元操作が正常に終了しなかった。

CPF3796

ユーザー・プロファイル&4の記憶域限界を超えた。

CPF37A5

RSTASP &1がオンラインではありません。

CPF3805

&2中の保管ファイル&1からのオブジェクトは復元されなかった。

CPF3807

&2の保管ファイル&1でデータ圧縮解除エラーが起こった。

- CPF3812**
&2の保管ファイル&1は使用中である。
- CPF384F**
&2 &1はライブラリー&3に復元されなかった。
- CPF3867**
FILEMBRパラメーターの内容が正しくない。
- CPF3868**
FILEMBRを指定しているが、OBJTYPEは*ALLまたは*FILEでなければならない。
- CPF3871**
保管または復元されたオブジェクトはない。 &3個のオブジェクトが含まれなかった。
- CPF3872**
&1個のオブジェクトが復元された。 &2個が&4に復元されませんでした。
- CPF38A2**
ASP装置&1は正しくありません。
- CPF38A6**
指定したパラメーターではライブラリーは1つしか使用できない。
- CPF5729**
オブジェクト&1を割り振ることができない。
- CPF9809**
ライブラリー&1をアクセスすることができない。
- CPF9812**
ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。
- CPF9814**
装置&1が見つかりません。
- CPF9820**
ライブラリー&1の使用は認可されていない。
- CPF9822**
ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。
- CPF9825**
装置&1は認可されていない。
- CPF9829**
補助記憶域プール&1が見つからない。
- CPFB8ED**
装置記述&1はこの操作には正しくありません。
- OPT1498**
装置&1でボリューム名リストが使い切られた。
- OPT1502**
マルチボリューム・セットの終わりを乗り越して処理しようとしてしました。
- OPT1605**
媒体または装置エラーが起きました。

[トップ](#)

S/36ファイル復元 (RSTS36F)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム/36ファイル復元(RSTS36F)コマンドは、すべての保管セットから1つのファイルまたは1グループのファイルをシステムに復元します。データベース物理ファイル、ディスク・ファイル、またはテープ・ファイルから1つのファイルを復元することができます。グループのファイルは、ディスクまたはテープのすべての保管セットから復元することができます。

復元操作は、ファイルの記述をデータベース物理ファイル、ディスク、またはテープから読み取り、データベース物理または論理ファイルを作成し、データベース物理ファイル、ディスク・ファイル、またはテープ・ファイルからデータを新しいデータベース・ファイルにコピーします。データベース物理ファイルは、システム/36ファイル保管(SAVS36F)コマンドによって作成しておかなければなりません。ディスク・ファイルまたはテープ・ファイルは、SAVEシステム操作員制御言語(OCL) プロシーチャー（または¥COPY SSPユーティリティーの同等のOCL使用）を使用するか、あるいはシステム/36ファイル保管(SAVS36F)コマンドを使用して、システム/36で作成されていることがあります。システム/36ファイル復元(RSTS36F)コマンドは、¥COPYユーティリティーを使用してシステム/34またはシステム/32で作成されたディスク・ファイルまたはテープ・ファイルを受け入れます。

RSTS36Fコマンドは圧縮ファイルとして作成されたディスク・ファイルを受け入れます。

復元するファイルが、TOLIBパラメーターに指定されたライブラリーに存在していない場合には、そのファイルが作成されます。物理ファイル・メンバーは、'MYMMDD' という名前の構文を使用して追加されます。これは、元のファイルの作成日を識別します。この命名規則は、日付区分ファイルをサポートするためにシステム/36環境で必要とされるものです。

ファイル名をTOFILEパラメーターに指定する場合には、その名前はAS/400システム命名基準を満たしている必要があります。AS/400システムの命名規則の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの第2章の「制御言語構文」を参照してください。

TOFILE(*SET)を指定すると、復元されるファイルは、AS/400単純オブジェクト名では使用できない文字を含む名前をもつことができます。この場合には、ファイル名はAS/400システム拡張名に変更され、ファイルが復元されます。

名前にブランク、単一引用符、二重引用符、アスタリスク、疑問符、または装置制御文字(16進数00から3Fまたは16進数FF)が含まれていると、無効文字は下線で置き換えられます。次に、このファイルは、その結果の単純名または拡張名（たとえば、A_?は"A_"になります）を使用して復元されます。この新しい名前をもつファイルがすでに存在している場合には、他の名前と同様に取り扱われます(MBROPTパラメーターを参照してください)。

無効文字のためにファイル名が変更された場合には、通知メッセージ(CPF 2C1F)が、このコマンドを実行しているプログラム上の再帰レベルに送信されます。名前が単純名から拡張名に変更されても、メッセージは送信されません。

復元機能がファイルを作成し、そのファイルが以前に保護されていなかった場合には、新しいファイルは RSTS36F コマンドを発行しているユーザーによって所有され、このファイルは省略時の権限 *ALL（すなわち、AUT(*ALL)と同じ）によって作成されます。

属性がゼロの拡張値であるか、あるいは値が指定されないような S/36 からファイルが保管された場合には、レコード長によって除算される 32,767 の省略時の値が割り当てられます。ゼロの拡張値が必要な場合には、（復元が完了した後に）物理ファイル変更(CHGPF)コマンドを使用して、SIZE(*EXTEND)をゼロに設定してください。ファイルが AS/400 システムから保管されている場合には、そのファイルが復元され、拡張値は変更されません。

注：この機能は、システム/36 との間でのファイルの交換だけを目的としたものです。

制約事項:

1. このコマンドは共通 *EXCLUDE 権限で出荷されます。
2. 資源保護を使用してシステムで実行する時には、次の権限が必要です。
 - このコマンドの *USE, *SECADM, および *ALLOBJ 権限
 - TOLIB パラメーターに指定されたライブラリーに対する *USE 権限
 - システムにまだ存在しないファイルの復元時に TOLIB パラメーターに指定されたライブラリーに対する *CHANGE 権限
 - 日付区分物理ファイル、および同じ名前であるが、異なった作成日のファイルを復元する時に、既存ファイル（新しいメンバーの追加が必要）に対する *CHANGE および *OBJMGMNT 権限
 - 同じ作成日をもつ既存の物理ファイルへの復元時に、MBROPT(*REPLACE)が指定されたファイルに対する *ALL 権限
 - 復元しているファイルがシステム/36 の代替索引ファイル（すなわち、論理ファイル）である場合に、基礎になっている物理ファイル（この物理ファイルはシステム/36 で親ファイルとして示されている）に対する *CHANGE 権限
 - ディスケットからの復元時には、そのディスク装置記述オブジェクトに対する *USE 権限、およびライブラリー QSYS の装置ファイル QSYSDKT に対する *USE 権限
 - テープからの復元時には、そのテープ装置記述オブジェクトに対する *USE 権限、およびライブラリー QSYS の装置ファイル QSYSTAP に対する *USE 権限
 - データベース物理ファイルからの復元の場合には、そのファイルに対する *USE 権限、およびそのファイル (PHYFILE パラメーター) が入っているライブラリーに対する *USE 権限
 - このファイルがシステム上に存在しないが、同じ名前のファイル権限ホルダー・オブジェクトが存在する場合には、その権限ホルダー・オブジェクトに対する *ALL 権限または所有権
3. システム/36 の代替索引ファイル（論理ファイル）を復元時にサポートされる置き換え機能はありません。代替索引ファイルを復元する場合には、同じ名前のファイル・オブジェクトが指定したライブラリーにすでに存在することはありません。
4. 論理ファイルを復元する場合には、TOLIB パラメーターに指定されたライブラリーに、基礎になっている物理ファイルがすでに存在していなければなりません。
5. システム/36 の日付区分ファイルと同じ AS/400 システムのファイルは、複数メンバーの物理ファイルです。日付区分の代替索引ファイルはサポートされていません。物理ファイルのデータは、構文 'MYMMDD' を使用して命名されたメンバーに記憶されます。この 'YMMDD' はそのファイルの元の作成日（年/月/日の形式）を表わします。

物理ファイルのすべてのメンバーが同じファイル属性（たとえば、レコード長およびキー情報）を共有するために、同じライブラリーに復元される同じ名前の日付区分ファイルは、同じファイル属性をもっていなければなりません。属性の不一致があると、そのファイルは復元されません。

6. 読み取り操作を含む、オブジェクト・レベルおよびレコード・レベルの機能は、RSTS36Fコマンドによって復元しているファイルに対して使用しないでください。そのファイルで同時に別の操作（たとえば、ファイルの移動、またはレコードの読み取りまたは追加）を実行している場合に、そのファイルを割り振ることができなければ、復元操作は停止されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TOFILE	TOファイル	名前, *SET	必須, 定位置 1
TOLIB	TOライブラリー	名前	必須, 定位置 2
DEV	装置	単一値: *PHYFILE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 3
SET	セット識別コード	文字値, #SAVE	オプション
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	*NO, *YES	オプション
FROMLABEL	ファイル・ラベル	文字値	オプション
CRTDATE	作成日	日付, *NONE	オプション
SEQNBR	順序番号	1-9999, *SEARCH	オプション
VOL	ボリューム識別コード	値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値, *MOUNTED	オプション
ENDOPT	テープ終了オプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
PHYFILE	物理ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 物理ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBROPT	データベース・メンバー・オプション	*NOREPLACE, *REPLACE	オプション
DATDIFF	日付区分ファイル	*NO, *YES	オプション

トップ

TOファイル (TOFILE)

システムに復元するすべての保管セットから、システムまたはグループのファイルに1つのファイルを復元する時には、そのファイルに指定された名前を指定します。1つのファイルを復元する場合には、このパラメーターによってシステムに復元する時点でファイルの名前を変更することができます。

これは必須パラメーターです。

***SET** ディスケットまたはテープのすべての保管セットからファイルのグループをシステムに保管することを指定します。

ファイル名

ファイルをシステムに復元する時に1つのファイルに指定したファイル名を指定します。

トップ

TOライブラリー (TOLIB)

復元したファイルをどのライブラリーに入れるかを指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

装置 (DEV)

ディスク装置の名前、1つまたは複数のテープ装置の名前、あるいは復元するファイルがデータベース物理ファイル中にあるという指示を指定します。最大4つのテープ装置名を指定することができます。複数のテープ装置を使用する場合には、使用する順序で装置の名前を入力してください。各装置名は、装置記述によってすでにシステムに知られていなければなりません。

*PHYFILE

復元されるファイルは、データベース物理ファイルにあります。このデータベース物理ファイルの名前は、物理ファイルプロンプト(PHYFILEパラメーター)によって指定されます。

装置名 復元操作に使用するディスク装置の名前、あるいは1つまたは複数のテープ装置の名前を指定してください。複数のテープ装置を使用する場合には、使用する順序で装置の名前を入力してください。最大4つのテープ装置名を指定することができます。

[トップ](#)

セット識別コード (SET)

システム/36,システム/34,またはシステム/32のSAVEプロシージャーまたは¥COPYユーティリティーによって、ディスクまたはテープに保管されるすべての保管セット・ファイルの識別に使用される名前を指定します。

#SAVE

ファイルは、#SAVEのセットIDによってすべての保管セットから復元されます。

セットID

すべての保管セットのセットIDを指定します。セットIDは、1から8桁の長さとすることができます。最初の文字は英字 (AからZ, #, ¥,または@)でなければなりません。その他の文字は、コンマ、アポストロフィ、およびブランクを除く任意の文字の組み合わせ (数字, 英字, および特殊な文字) とすることができます。

[トップ](#)

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

ファイルに2バイト文字セット(DBCS)データが入っているかどうかを指定します。

注: ファイルが **TOファイル**プロンプト(TOFILEパラメーター) に指定された名前ですでに存在している場合には、既存のファイルの2バイト文字セット(DBCS)機能は、復元操作では変更されません。

***NO** 復元中のファイルにDBCSデータが入っていないことがあります。復元中のファイルと同じ名前で指定したライブラリーにファイルがすでに存在していて、そのファイルがDBCSデータを使用でき

る場合には、通知メッセージが送信されて、復元操作が続行します。結果のファイルでは、DBCSデータを使用することができます（ファイルのIGC属性は復元操作によって変更されません。）

- *YES** 復元中のファイルにはDBCSデータが入っていることがあります。復元中のファイルと同じ名前のファイルが指定したライブラリーにすでに存在していて、そのファイルでDBCSデータを使用できない場合には、通知メッセージが送信されて、復元操作が続行されます。その結果のファイルではDBCSデータを使用することはできません（ファイルのIGC属性は復元操作によって変更されません）。

トップ

ファイル・ラベル (FROMLABEL)

1つのファイルの復元操作では、このパラメーターを使用して、システムに復元されるファイルが入っているディスクまたはテープ・ファイルのラベルを指定することができます。値を指定しない場合には、**TO**ファイルプロンプト(TOFILEパラメーター)に指定されたファイル名がディスクまたはテープのファイル・ラベルとして使用されます。

グループの復元操作では、このパラメーターを使用して、復元操作を開始するすべての保管セット内のディスクまたはテープ・ファイルのラベルを指定することができます。値を指定しない場合には、復元操作はセット内の最初のファイルから開始します。

ラベルが指定される場合には、最大8桁の長さでなければなりません。

トップ

作成日 (CRTDATE)

復元操作で使用されるディスク・ファイルまたはテープ・ファイルの作成日を指定します。指定された日付は、テープの場合には年間通算日形式(CYYDDD)、ディスクの場合には国際形式(Yymmdd)に変更されます。

トップ

順序番号 (SEQNBR)

テープが使用された時に、復元操作に使用される順序番号を指定します。

***SEARCH**

装置のボリュームから、FROMLABELパラメーター値と一致するIDをもつデータ・ファイルが検索されます。一致するものが見つかり、そのオブジェクトが復元されます。テープ装置に対する最後の操作で**テープ終了オプション (ENDOPT)**パラメーターに、最後の操作が終了した位置にテープが位置づけられることを指示する***LEAVE**が指定されていた場合には、現在のテープ位置を越えたところにある最初のデータ・ファイルからファイル検索が開始されます。最後の操作の**テープ終了オプション (ENDOPT)**パラメーターに***LEAVE**が使用されなかった場合、あるいは操作の後でテープが手操作で巻き戻された場合には、検索はボリューム上の最初のデータ・ファイルから開始されます。

1から16777215

復元操作に使用するファイルの順序番号を指定してください。

ボリューム識別コード (VOL)

ファイルの復元に使用するテープまたはディスクットのボリュームIDを指定します。

***MOUNTED**

装置に現在入っているボリュームが使用されます。

ボリュームID

ファイルの復元に使用するテープまたはディスクットのボリュームIDを指定してください。ボリュームIDは50個まで指定することができます。

トップ

テープ終了オプション (ENDOPT)

テープを使用する場合に限り、復元操作の終了後に、テープに対してどのような自動位置付けを行うかを指定してください。このパラメーターは、最後に使用されたリールだけに適用されます。

***REWIND**

テープは巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは巻き戻されません。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。

トップ

物理ファイル (PHYFILE)

復元処理用の入力ファイルとして使用されるデータベース物理ファイルの名前を指定します。指定されたファイルが存在していないか、または物理ファイルでないか、あるいはファイルにメンバーが含まれていない場合には、メッセージが送られます。ファイルに複数のメンバーが入っている場合には、ファイルの最初のメンバーが使用されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルのあるライブラリーを指定します。

トップ

データベース・メンバー・オプション (MBROPT)

既存の物理ファイル・メンバーのデータを置き換えるかどうかを指定します。

***NOREPLACE**

同じ名前をもつ既存の物理ファイル・メンバーの中のデータは置き換えられません。そして、ユーザーにエラー・メッセージが送られます。

***REPLACE**

同じ名前をもつ既存の物理ファイル・メンバーのデータは置き換えられます。

[トップ](#)

日付区分ファイル (DATDIFF)

復元操作で、同じ名前であるが、異なったファイル作成日の複数ファイルを使用できるかどうかを指定します。

***NO** 同じ名前で作成日の異なる複数のファイルが生じてはならない。

復元操作が***NO**の指定によって実行され、ファイルが同じ名前で指定したライブラリーにすでに存在している場合には、次の処置が取られます。

- メンバーの置き換え(***REPLACE**)が必要と**MBROPT**パラメーターが指定した場合には、メンバー内のデータは、保管ファイルからのデータと置き換えられます。
- **MBROPT**パラメーターでメンバーを置き換えないと指定している場合には、メッセージが送られて、ファイルは復元されません。
- 指定したライブラリーの**TOFILE**パラメーターに指定された名前のファイルが存在していない場合には、ファイルは正常に復元されます。

***YES** 同じ名前で作成日の異なるファイルが生じてもよい。

復元操作が***YES**の指定で実行され、ファイルが指定したライブラリーにすでに同じ名前で存在している場合には、次の処置が取られます。

- メンバーが**YYMMDD**の名前で存在していない場合には(**YYMMDD**は保管ファイルの作成日です)、新しいメンバーがファイルに追加され、保管ファイルからのデータがそこにコピーされます。
- メンバーが**YYMMDD**の名前で存在していて(**YYMMDD**は保管ファイルの作成日です)、メンバーの置き換える必要(***REPLACE**)を**MBROPT**パラメーターが指定した場合には、メンバーのデータは保管ファイルからのデータで置き換えられます。
- メンバーが**YYMMDD**の名前で存在していて(**YYMMDD**は保管ファイルの作成日です)、メンバーの置き換える不要(***NOREPLACE**)を**MBROPT**パラメーターが指定した場合には、メッセージが送られて、ファイルは復元されません。

指定したライブラリーに同じ名前でファイルがまだ存在していない場合には、新しいファイルが作成され、メンバーがファイルに追加され、保管ファイルからのデータは新しいメンバーにコピーされます。

[トップ](#)

例

例1: ディスケットからの復元

```
RSTS36F  TOFILE(ACCTRCV)  TOLIB(QS36F)  DEV(I1)
          CRTDATE('01/22/85')  VOL(SAVE1)
```

このコマンドはファイルACCTRCVをライブラリーQS36Fに復元します。I1がディスク出入力装置記述オブジェクトの名前であるとする、ファイルはそのディスク装置に入っているディスクから復元されます。このディスクにはボリューム名のSAVE1が必要です。復元に使用されるディスク・ファイルにはファイル・ラベルのACCTRCVおよび作成日1985年1月22日（ジョブ日付形式が*MDYで、日付分離文字が/と想定する）が必要です。

例2: テープからの復元

```
RSTS36F  TOFILE(PAY.VIEW)  TOLIB(PAYLIB)  DEV(T1)  FROMLABEL('P*V')
          ENDOPT(*LEAVE)
```

ファイルP*Vが装置T1からPAY.VIEWという名前でライブラリーPAYLIB内に復元されます。T1が磁気テープ装置であるとする、装置T1上にあるファイルが1つ以上のテープからコピーされます。テープ・ボリューム名の検査は行われません。復元操作が終了すると、そのテープは磁気テープ・ファイルP*Vの終わりに位置付けられたままです。

例3: 物理ファイルからの復元

```
RSTS36F  TOFILE(ACCTPAY)  TOLIB(QS36F)  DEV(*PHYFILE)
          PHYFILE(NETLIB/SENDFILE)
```

このコマンドは、ライブラリーNETLIB内の物理ファイルSENDFILEからライブラリーQS36F内にファイルACCTPAYを復元します。

例4: シーケンス番号の指定

```
RSTS36F  TOFILE(*SET)  TOLIB(QS36F)  DEV(T1 T2)
          SET(PAYFILES)  FROMLABEL(FILE10)
          MBROPT(*REPLACE)  DATDIFF(*YES)
          SEQNBR(*SEARCH)  VOL(*MOUNTED)  ENDOPT(*REWIND)
```

このコマンドは、PAYFILESと呼ばれるすべてのセットの保管のファイルのサブセットをテープからライブラリーQS36Fに復元します。復元操作はラベルがFILE 10であるテープ・ファイルで始められます。作成日が保管済みファイルと同じ、復元しようとするファイルのいずれかがライブラリーQS36Fにすでに存在している場合は、そのファイルが置き換えられます。別の作成日をもつファイルがライブラリーQS36Fにすでに存在している場合は、新規日付識別番号がファイルに追加されます。復元操作では、磁気テープ装置T1およびT2に入っているテープ・ボリュームが使用されます。復元操作が完了した後で、最後のテープ・ボリュームがテープの先頭まで巻き戻されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2C4A

このコマンドに対して装置&1が正しくない。

CPF2C4B

装置名リストに重複する装置&1が指定された。

CPF2C4C

ディスク装置&1が複数の装置仕様に含まれている。

CPF2C4D

すべてのファイルが復元されたわけではない。

CPF2C4E

すべてのファイルを復元する前に復元操作が終了した。

CPF2C45

入力ファイル&1をRSTS36Fで処理することはできない。

CPF2C47

ライブラリー&2の既存のファイル&1またはメンバー&3が置き換えられなかった。

CPF2C48

このコマンドに対して、&2の入力ファイル&1が正しくない。

CPF2C49

このコマンドに対して、&2の出力ファイル&1が正しくない。

CPF2C5A

ライブラリー&2の代替索引ファイル&1は置き換えられなかった。

CPF2C5E

このコマンドに対して、&2の入力ファイル&1が正しくない。

CPF2C50

ファイル&1のファイル記述が使用可能でない。

CPF2C52

ライブラリー&2にファイル&1を作成しようとした時にエラーが起こった。

CPF2C53

メンバー&3はエラーのためにライブラリー&2のファイル&1に追加されなかった。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9826

ファイル&2を割り振ることができない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9831

装置&1を割り当てることができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9848

ライブラリー&2のファイル&1メンバー&3をオープンすることができない。

CPF9849

ライブラリー&2メンバー&3のファイル&1の処理中にエラー。

STATUS メッセージ*CPI2C11**

ライブラリー&2のファイル&1メンバー&3にレコードをコピー中。

トップ

S/36 ライブラリー・メンバー復元 (RSTS36LIBM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム/36ライブラリー・メンバー復元(RSTS36LIBM)コマンドは、ライブラリー・メンバーが入っているファイルを読み取り、データベース・ソースまたはデータ・ファイル・メンバーをこのシステム上に作成し、ファイルからのメンバー・データを復元される各メンバーにコピーします。

入力ファイルは、ディスクット・ファイル、テープ・ファイル、またはこのシステム上のデータベース物理ファイルとすることができます。

このファイルは、システム/36,システム/34,またはシステム/32で、システム操作員制御言語(OCL)プロシージャFROMLIBRかSAVELIBR (または¥MAINT の同等の使用) を使用するか、あるいはシステム/36ライブラリー・メンバー保管(SAVS36LIBM)コマンドを使用して、作成することができます。

BACKUPプロシージャまたは¥BACKユーティリティーを使用してシステム/34上に作成されたディスクット・ファイルは、このコマンドでは受け入れられません。圧縮されたSAVELIBRディスクット・ファイル (リリース5.0以降のシステム/36にシステム・ライブラリーを配布するためにIBMで使用される) は、このコマンドでは受け入れられません。

システム/36の項では、入力ファイルの形式はSAVELIBRディスクット・ファイルまたはテープ・ファイル、レコード・モードLIBRFILEディスクット・ファイル、テープ・ファイル、または物理ファイル、またはセクター・モードLIBRFILEディスクット・ファイル、テープ・ファイル、または物理ファイルとすることができます。言い換えると、入力ファイルはシステム/36 ¥MAINT SSPユーティリティーによって作成された任意のディスクット・ファイル、テープ・ファイル、または物理ファイルとすることができます。

TOライブラリープロンプト(TOLIBパラメーター) に指定した値によって識別されるライブラリーが存在しない場合には、そのライブラリーが作成されます。また復元先ライブラリー中にソース・ファイルQS36SRCおよびQS36PRCが存在しない場合には、それらのファイルも作成されます。復元操作でライブラリーが作成されると、新しいライブラリーは、RSTS36LIBMコマンドを実行しているユーザーによって所有され、このライブラリーは省略時の権限*ALL (すなわち、AUT(*ALL)と同じ) によって作成されます。

システム/36に作成されたセクター方式FROMLIBRファイルまたはSAVELIBRを復元する場合には、復元済みロード・メンバーおよびサブルーチン・メンバーを保持するために、データ・ファイルQS36LODおよびQS36SBRも作成されることがあります。復元済みロード・メンバーおよびサブルーチン・メンバーは現行システムでは変換されません。

制約事項:

- 資源保護を使用してシステムで実行する時には、次の権限が必要です。
 1. *SECADM権限および*ALLOBJ権限
 2. このコマンドの*USE権限およびライブラリー作成(CRTLIB)コマンド*USE権限 (ライブラリーを作成する必要がある場合)
 3. CRTSRCPFコマンドの*USE権限(QS36SRCまたはQS36PRCを作成する必要がある場合)
 4. CRTPFコマンドの*USE権限(QS36LODまたはQS36SBRを作成する必要がある場合)

5. TOLIBパラメーターに指定されたライブラリーの*CHANGE権限
 6. 指定したライブラリー中のファイルQS36SRCの*CHANGE権限および*OBJMGMT権限（ソース・ライブラリー・メンバーを復元する場合）
 7. 指定したライブラリー中のファイルQS36PRCの*CHANGE権限および*OBJMGMT権限（プロシージャー・ライブラリー・メンバーを復元する場合）
 8. 指定したライブラリー中のファイルQS36LODの*CHANGE権限および*OBJMGMT権限（ロード・ライブラリー・メンバーを復元する場合）
 9. 指定したライブラリー中のファイルQS36SBRの*CHANGE権限および*OBJMGMT権限（サブルーチン・ライブラリー・メンバーを復元する場合）
 10. ライブラリーQSYS中のディスク装置記述オブジェクトの*USE権限，装置ファイルQSYSDKTの*USE権限（ディスクから復元する場合）
 11. ライブラリーQSYS中のテープ装置記述オブジェクトの*USE権限，装置ファイルQSYSTAPの*USE権限（テープから復元する場合）
 12. データベース物理ファイルからの復元の場合には，そのファイルに対する*USE権限，およびそのファイル(PHYFILEパラメーター)が入っているライブラリーに対する*USE権限
- RSTS36LIBMによってメンバーを復元するときは，ファイルQS36SRC, QS36PRC, QS36SBR,およびQS36LODのオブジェクト・レベル操作またはレコード・レベル操作が活動状態になっている必要があります。必要ファイルを排他的に割り振ることができない場合には，メンバーは復元されません。
 - 指定されたメンバー名または総称メンバー名(TOMBRパラメーター)は，AS/400 システム命名基準に従っている必要があります。

総称メンバー名または*ALLを指定すると，AS/400システム単純オブジェクト名では使用できない文字を含む名前をもつメンバーを復元のために選択することができます。この場合には，メンバー名はAS/400システム拡張名の構文（たとえば，A!Bは"A!B"になる）を使用して復元されます。

名前にブランク，単一引用符('),二重引用符("),アスタリスク(*),疑問符(?),または装置制御文字(16進数'00'から'3F'または'FF')が含まれていると，これらの文字は下線によって置き換えられ，メンバーは置き換えた後の単純名または拡張名（たとえば，A*?はA_/_となり，A?はA_になる）を使用して復元されます。

有効な名前にするために無効文字を置き換えるたびに，通知メッセージが送信されます。置き換えた後の名前が変更されると，メンバーが置き換えられ，追加の通知メッセージが送信されます。メンバーが，無効文字を置き換えずに拡張名を使用して復元されると，メッセージは送信されません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TOMBR	TOメンバー	総称名, 名前, *ALL	必須, 定位置 1
TOLIB	TOライブラリー	名前	必須, 定位置 2
DEV	装置	単一値: *PHYFILE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 3
SRCMBRS	S/36ソース・メンバー	*ALL, *SRC, *PRC, *NONE	オプション
MBROPT	データベース・メンバー・オプション	*NEW, *OLD, *ALL	オプション
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	*NO, *YES	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
FROMLABEL	ファイル・ラベル	文字値	オプション
CRDATE	作成日	日付, *NONE	オプション
SEQNBR	順序番号	1-9999, *SEARCH	オプション
VOL	ボリューム識別コード	値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値, *MOUNTED	オプション
ENDOPT	テープ終了オプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
PHYFILE	物理ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 物理ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OBJMBRS	S/36オブジェクト・メンバー	*NONE, *SBR, *LOD, *ALL	オプション

トップ

TOメンバー (TOMBR)

復元するメンバーの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** 指定したメンバー・タイプのすべてのメンバーが復元されます。

メンバー名

指定したメンバー名をもつメンバーが復元されます。

総称*メンバー名

指定された総称メンバー名をもつすべてのメンバーが復元されます。

トップ

TOライブラリー (TOLIB)

入力ファイルから復元するメンバーを入れるライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

装置 (DEV)

復元操作に使用する装置の名前を指定します。最大4つの装置名を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

***PHYFILE**

入力ファイルは、物理ファイルプロンプト(PHYFILEパラメーター)によって指定されたデータベース物理ファイルです。

装置名 復元操作に使用するディスク装置の名前、あるいは1つまたは複数のテープ装置の名前を指定してください。複数のテープ装置を使用する場合には、使用する順序で装置名を指定してください。最大4つのテープ装置名を指定することができます。

S/36ソース・メンバー (SRCMBRS)

システム/36のどのソース・メンバー・タイプ（ソース・メンバーまたはプロシージャ・メンバー）を復元するかを指定します。

- *ALL** 入力ファイル中のソース・メンバーおよびプロシージャ・メンバーのうち、**TO**メンバープロンプト(TOMBRパラメーター)に指定したメンバー名に該当するすべてのメンバーが復元されます。
- *SRC** **TO**メンバープロンプト(TOMBRパラメーター)に指定したメンバー名と一致するシステム/36ソース・メンバーだけが復元されます（受け入れファイルはQS36SRC）。
- *PRC** **TO**メンバープロンプト(TOMBRパラメーター)に指定したメンバー名と一致するシステム/36 OCLプロシージャ・メンバーだけが復元されます（受け入れファイルはQS36PRC）。
- *NONE**
システム/36のどのソース・ライブラリー・メンバーもプロシージャ・ライブラリー・メンバーも復元されません。

トップ

データベース・メンバー・オプション (MBROPT)

システム上に現在データベース・ファイルがある場合には、ファイル・メンバーを復元するかどうかを指定します。

- *NEW** 新しいメンバー（該当するファイルにまだ存在していないメンバー）だけが復元されます。
- *OLD** 古いメンバー（該当するファイルにすでに存在しているメンバー）だけが復元されます。既存のメンバーは、ファイルから復元されたメンバーのコピーによって置き換えられます。
- *ALL** すべてのメンバーが復元されます。存在していないメンバーは作成され、すでに存在しているメンバーは置き換えられます。

トップ

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

復元するソースおよびプロシージャ・メンバーに2バイト文字セット(DBCS)データを入れることができるかどうかを指定します。この属性は、復元されたライブラリー・メンバーを収めるために、復元操作でソース・ファイルQS36SRCおよびQS36PRCを作成する必要がある場合に使用されます。

注: **TO**ライブラリープロンプト(TOLIBパラメーター)に指定したライブラリーの中に、QS36SRCまたはQS36PRCソース・ファイルがすでに存在していて、そのファイルのDBCS機能がこのパラメーターと一致していない場合には、エラー・メッセージが送られ、メンバーは復元されません。

- *NO** 復元するソース・メンバーまたはプロシージャ・メンバーは2バイト文字セット・データを含むことはできません。
- *YES** 復元されているソース・メンバーまたはプロシージャ・メンバーは2バイト文字セット・データを含むことができます。

ファイル・ラベル (FROMLABEL)

復元するメンバーの入っているディスク・ファイルまたはテープ・ファイルのラベル値（最大8文字）を指定します。装置プロンプト(DEV パラメーター)に*PHYFILEを指定しなかった場合には、ここで値を指定しなければなりません。

トップ

作成日 (CRTDATE)

復元操作で使用されるディスク・ファイルまたはテープ・ファイルの作成日を指定します。指定された日付は、テープの場合には年間通算日形式(CYYDDD)、ディスクの場合には国際形式(YYMMDD)に変更されます。

トップ

順序番号 (SEQNBR)

テープが使用された時に、復元操作に使用される順序番号を指定します。

*SEARCH

装置のボリュームから、FROMLABELパラメーター値と一致するIDをもつデータ・ファイルが検索されます。一致するものが見つかる、そのオブジェクトが復元されます。テープ装置に対する最後の操作でテープ終了オプション (ENDOPT)パラメーターに、最後の操作が終了した位置にテープが位置づけられることを指示する*LEAVEが指定されていた場合には、現在のテープ位置を越えたところにある最初のデータ・ファイルからファイル検索が開始されます。最後の操作のテープ終了オプション (ENDOPT)パラメーターに*LEAVEが使用されなかった場合、あるいは操作の後でテープが手操作で巻き戻された場合には、検索はボリューム上の最初のデータ・ファイルから開始されます。

1から16777215

復元操作に使用するファイルの順序番号を指定してください。

トップ

ボリューム識別コード (VOL)

ファイルの復元に使用するテープまたはディスクのボリュームIDを指定します。

*MOUNTED

装置に現在入っているボリュームが使用されます。

ボリュームID

ファイルの復元に使用するテープまたはディスクのボリュームIDを指定してください。ボリュームIDは50個まで指定することができます。

トップ

テープ終了オプション (ENDOPT)

テープを使用する場合に限り、復元操作の終了後に、テープに対してどのような自動位置付けを行うかを指定してください。このパラメーターは、最後に使用されたりールだけに適用されます。

*REWIND

テープは巻き戻されますが、アンロードされません。

*LEAVE

テープは巻き戻されません。

*UNLOAD

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。

[トップ](#)

物理ファイル (PHYFILE)

復元操作の入力ファイルとして使用されるデータベース物理ファイルの名前を指定します。指定されたファイルが存在していないか、あるいは物理ファイルでない場合には、ライブラリー・メンバーは復元されません。ファイルに複数のメンバーが入っている場合には、ファイルの最初のメンバーが使用されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルのあるライブラリーを指定します。

[トップ](#)

S/36オブジェクト・メンバー (OBJMBRS)

システム/36のどのオブジェクト・メンバー・タイプ（ロード・メンバーおよびサブルーチン・メンバー）を復元するかを指定します。システム/36とAS/400システムのオブジェクトは互換性がないので、復元されたメンバーは復元操作の後ただちに使用可能にはなりません。そのオブジェクト・メンバーを使用可能なAS/400システム・オブジェクトに変換するためには、IBM提供コマンドまたはユーザー作成操作を実行しなければなりません。

*NONE

システム/36ロードまたはサブルーチン・ライブラリー・メンバーは復元されません。

***SBR** **TO**メンバープロンプト(TOMBRパラメーター)に指定されたメンバー名に一致するシステム/36サブルーチン・メンバー（受け入れファイルQS36SBR）だけが復元されます。

***LOD** **TO**メンバープロンプト(TOMBRパラメーター)に指定されたメンバー名に一致するシステム/36ロード・メンバー（受け入れファイルQS36LOD）だけが復元されます。

***ALL** **TO**メンバープロンプト(TOMBRパラメーター)に指定されたメンバー名に一致する入力ファイル中のすべてのロードおよびサブルーチン・メンバーが復元されます。

例

例1:メンバーのすべての復元

```
RSTS36LIBM TOMBR(XYZ1) TOLIB(JOHNSON) DEV(I1)
SRCMBRS(*PRC) MBROPT(*ALL) FROMLABEL('XYZ1')
```

このコマンドは、単一のOCLプロシージャ・メンバーXYZ1をライブラリーJOHNSON内のソース・ファイルQS36PRCのメンバーとして復元します。I1がディスク装置を指しているとする、入力ディスク・ファイルにはラベルXYZ1が必要です。

例2:ファイルからのメンバーの復元

```
RSTS36LIBM TOMBR(X*) TOLIB(ORDER) DEV(*PHYFILE)
PHYFILE(NETLIB/S36SRC)
```

このコマンドは、すべてのソースおよびプロシージャ・メンバーを、ライブラリーORDER内のQS36SRCおよびQS36PRCのメンバーとしてまだ存在していない、文字'X'で始まっている名前を復元します。メンバーはライブラリーNETLIB内のファイルS36SRCから復元されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2C4A

このコマンドに対して装置&1が正しくない。

CPF2C4B

装置名リストに重複する装置&1が指定された。

CPF2C4C

ディスク装置&1が複数の装置仕様に含まれている。

CPF2C41

&2個のメンバーが復元され、&3個のメンバーが復元されず、&4個のメンバーが除外された。

CPF2C42

ライブラリー&1に復元されたメンバーはない。&4個のメンバーが除外されました。

CPF2C46

入力ファイル&1をRSTS36LIBMで処理することはできない。

CPF2C48

このコマンドに対して、&2の入力ファイル&1が正しくない。

CPF2C49

このコマンドに対して、&2の出力ファイル&1が正しくない。

CPF2C5E

このコマンドに対して、&2の入力ファイル&1が正しくない。

CPF2C50

ファイル&1のファイル記述が使用可能でない。

CPF2C52

ライブラリー&2にファイル&1を作成しようとした時にエラーが起こった。

CPF2C53

メンバー&3はエラーのためにライブラリー&2のファイル&1に追加されなかった。

CPF2C57

DBCS属性が&2の既存のファイル&1と同じでない。

CPF2C70

入力ファイル&1に正しくない制御ステートメント・レコードが入っている。

CPF2C71

COPYステートメントのNAMEキーワードがないか、あるいは正しくない。

CPF2C72

COPYステートメントのLIBRARYキーワードがないか、あるいは正しくない。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9824

ライブラリー&2のコマンド&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9826

ファイル&2を割り振ることができない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9849

ライブラリー&2メンバー&3のファイル&1の処理中にエラー。

***STATUS メッセージ**

CPI2C12

ライブラリー&2のファイル&1ラベル&3を作業ファイルにコピー中。

[トップ](#)

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとしします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department 49XA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

(C) (御社名) (年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。

(C) Copyright IBM Corp. 1998, 2006. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Advanced Function Printing

AFP

AS/400

CICS

COBOL/400

C/400

DataPropagator

DB2

IBM

Infoprint

InfoWindow

iSeries
LPDA
OfficeVision
i5/OS
Print Services Facility
RPG/400
SystemView
System/36
TCS
WebSphere

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。



Printed in Japan